

平成24年度 老人保健事業推進費等補助金
(老人保健健康増進等事業)

**要支援者・要介護者のIADL等に関する状態像と
サービス利用内容に関する調査研究事業
報告書**

平成25年3月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

『目 次』

第1章 本調査研究事業の概要	1
1 目的	1
2 調査内容と方法	1
(1) 医療系予防等サービス利用実態調査	1
(2) 要支援者及び軽度要介護者の状態像に関する検証	2
第2章 回答事業所の概要	3
1 所在地等	3
(1) 地域	3
(2) 自治体の種類	4
(3) 事業所の指定	4
2 職員体制	5
(1) 訪問看護事業所	5
(2) 訪問リハビリテーション	9
(3) 通所リハビリテーション	14
3 利用者数（実人数）	20
(1) 利用者総数	20
4 新規利用者	23
(1) 利用者数	23
(2) 新規利用者率	25
5 終了者	26
(1) 終了者数	26
(2) 終了者率	28
(3) 終了の理由	29
6 特別集計（リハビリ専門職数別の訪問看護事業所）	32
(1) リハビリ専門職の有無	32
(2) リハビリ専門職数別の利用者	32
(3) リハビリ専門職数別の新規利用者	33
(4) リハビリ専門職数別の終了者	35
第3章 訪問看護サービス利用者調査 基本集計結果	37
1 利用者の基本情報	37
(1) 性別	37
(2) 年齢	37
(3) 世帯構成	38
(4) 要介護度	38
(5) 障害高齢者の日常生活自立度	39
(6) 認知症高齢者の日常生活自立度	39
(7) 要支援・要介護状態の直接の原因	40

(8) 受診状況	42
(9) ケアプランに位置付けられているサービス	43
2 サービスの概況	45
(1) 訪問看護の利用期間	45
(2) 病状	46
(3) 過去1年間の入院等の有無	48
(4) 1か月間の利用回数	49
(5) 訪問看護を継続している理由	50
3 看護サービスの提供状況	52
(1) 看護職員による医療行為	52
(2) 医療行為の内容	53
4 リハビリテーションの実施状況	57
(1) リハビリテーションが必要な心身の状態	57
(2) 専門職によるリハビリテーションの実施状況	58
(3) 職種別のリハビリテーションの内容	59
5 IADLの状況	64
6 特別集計結果	69
(1) 外出の状況別 訪問看護を継続している理由	69
(2) リハビリが必要な心身の状態別 リハビリテーションを行っている職種	70
(3) リハビリが必要な心身の状態別 専門職によるリハビリテーションの内容	71
第4章 訪問リハビリテーションサービス利用者調査 基本集計結果	75
1 利用者の基本情報	75
(1) 性別	75
(2) 年齢	75
(3) 世帯構成	76
(4) 要介護度	76
(5) 障害高齢者の日常生活自立度	77
(6) 認知症高齢者の日常生活自立度	77
(7) 要支援・要介護状態の直接の原因	78
(8) 受診状況	80
(9) ケアプランに位置付けられているサービス	81
2 サービスの概況	83
(1) 訪問リハの利用期間	83
(2) 過去1年間の入院等の有無	83
(3) 1か月間の利用回数	84
(4) 加算の有無	85
(5) 訪問リハを継続している理由	86
3 リハビリテーションの実施状況	88
(1) リハビリテーションが必要な心身の状態	88
(2) 専門職によるリハビリテーションの実施状況	89

(3) 職種別のリハビリテーションの内容	90
4 IADLの状況	94
5 特別集計結果	101
(1) 外出頻度別 訪問リハを継続している理由	101
(2) IADLの状況別 訪問リハを継続している理由	102
(3) リハビリが必要な心身の状態別 リハビリテーションを行っている職種	103
(4) リハビリが必要な心身の状態別 専門職によるリハビリテーションの内容	104
第5章 通所リハビリテーションサービス利用者調査 基本集計結果	107
1 利用者の基本情報	107
(1) 性別	107
(2) 年齢	107
(3) 世帯構成	108
(4) 要介護度	108
(5) 障害高齢者の日常生活自立度	109
(6) 認知症高齢者の日常生活自立度	109
(7) 要支援・要介護状態の直接の原因	110
(8) 受診状況	112
(9) ケアプランに位置付けられているサービス	112
2 サービスの概況	115
(1) 通所リハの利用期間	115
(2) 過去1年間の入院等の有無	115
(3) 1か月間の利用回数	116
(4) サービス提供時間	117
(5) 加算の有無	118
(6) 通所リハを継続している理由	120
3 リハビリテーションの実施状況	122
(1) リハビリテーションが必要な心身の状態	122
(2) 専門職によるリハビリテーションの実施状況	123
(3) 職種別のリハビリテーションの内容	124
(4) 個別リハビリテーションの提供時間	128
4 IADLの状況	129
5 特別集計結果	134
(1) IADLの状況別 通所リハを継続している理由	134
(2) リハビリが必要な心身の状態別 リハビリテーションを行っている職種	135
(3) リハビリが必要な心身の状態別 専門職によるリハビリテーションの内容	136
(4) リハビリテーションの実施職種別 個別リハビリテーションの提供時間	139
(5) 専門職によるリハビリテーションの内容別 個別リハビリテーションの提供時間	140

第6章 要支援者及び軽度要介護者の状態像に関する検証	142
1 属性	142
(1) 一次判定結果.....	142
(2) 年齢	143
(3) 性別	144
(4) 障害高齢者自立度	145
(5) 認知症高齢者自立度	146
(6) 前回要介護度.....	147
(7) 申請区分	150
(8) 現在のサービス利用状況	151
2 基本調査項目	156
(1) 第1群 身体機能・起居動作	156
(2) 第2群 生活機能	158
(3) 第3群 認知機能	159
(4) 第4群 精神・行動障害	160
(5) 第5群 社会生活への適応.....	160
(6) 特別な医療	161
3 主治医意見書（診断名）	163
(1) 主訴	163
(2) 発症年月日	170
(3) 診断名（全て）	172
4 主治医意見書（その他の項目）	183
(1) 症状としての安定性.....	183
(2) 特別な医療	186
(3) 認知症の中核症状	192
(4) 身体の状態	194
(5) 現在あるかまたは今後発生の可能性の高い状態.....	196
(6) 特記すべき事項	202
第7章 総括	203
1 医療系サービス事業者の状況	203
(1) 職員体制	203
(2) 利用者総数	204
(3) 新規利用者・終了者	204
2 医療系サービスの利用者の特徴	205
(1) サービス利用者の属性	205
(2) サービスの利用状況.....	208
(3) IADLの状況	213
3 要支援者及び軽度要介護の状態に関する検証	215

第1章 本調査研究事業の概要

1 目的

平成 24 年度より、生活援助の面では日常生活支援総合事業が導入され、身体介護を中心とした在宅介護においては、定期巡回・随時対応訪問介護看護が創設されたことなどから、地域包括ケアは、いよいよ本格的な構築段階を迎えることになる。

他方、現在の公的介護保険の給付における生活援助のあり方については、合理化や効率化の必要性が指摘されており、生活援助を地域包括ケアの基盤として位置づけつつも、限られたサービス資源をいかに多くの利用者に効率的に利用してもらうかは、今後の大きな課題である。

しかし、要支援者等の予防サービス利用者の中にはこうした効率化や合理化が必ずしも適しているとはいえない特殊なニーズを有する利用者が存在する可能性もある。とりわけ、特定の疾患などにより、要介護状態としては比較的軽度に位置づけられるものの、医療的な理由などにより、予防サービスの利用が必要な層が存在することについては、その実態について把握しておくことが重要である。

本調査研究事業では、在宅の要支援者の状態像を把握し、特に疾患由来の特定のサービス利用ニーズの存在がないかについて、生活援助の必要性にも配慮しつつ、分析を行うとともに、現在の要介護認定データ及び主治医意見書のデータを活用し、そうしたニーズを有する層をいかにして判別すべきかについて、検証を実施することを目的とする。

2 調査内容と方法

(1) 医療系予防等サービス利用実態調査

(介護予防)訪問看護、(介護予防)訪問リハビリテーション、(介護予防)通所リハビリテーションの3種のサービス(本調査では、医療系サービスとする)を提供する計3,000事業所にアンケート調査を実施し、その利用者の状態像(IADLや疾患状況)を把握するとともに、提供されているサービスの具体的な内容について把握する。

調査対象	医療系サービス 3,000 事業所 【内訳】 <ul style="list-style-type: none">・(介護予防)訪問看護 1,000 事業所・(介護予防)訪問リハビリテーション 1,000 事業所・(介護予防)通所リハビリテーション 1,000 事業所
抽出方法	厚生労働省 介護サービス情報公表システムにおいて、医療系の介護予防サービスの利用がみられる事業所(訪問看護・訪問リハは2人以上、通所リハ10人以上)から無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・事業所の概要(所在地、事業所の種別、利用者数、職員体制、終了者数など)・利用者の基本情報(性別、年齢、世帯、要介護度、疾病名など)・サービスの提供状況(回数、継続理由、内容など)・リハビリテーションについて(専門職による実施状況、心身の状態)

	・日常生活の状況（日常品の買い物、食事の用意、預貯金の出し入れなど）
調査期間	平成 25 年 1 月 17 日～2 月 14 日
回収結果	有効回収票 1,028 事業所（サービス利用者数 4,875 人） 有効回収率 34.3% 【内訳】 ・（介護予防）訪問看護 347 事業所（1,622 人） ・（介護予防）訪問リハビリテーション 380 事業所（1,792 人） ・（介護予防）通所リハビリテーション 301 事業所（1,461 人）

（2） 要支援者及び軽度要介護者の状態像に関する検証

厚生労働省から提供を受けた、平成 22～23 年度の匿名化された要介護認定情報（認定調査の基本調査及び主治医意見書）をもとに、要支援者及び軽度要介護者（要介護 1・2）の心身の状態像を把握するとともに、「医療系サービス利用者」に見られる状態像を現行の要介護者に関する現場レベルでのデータによって判別することができるかどうかについて検証を行った。

以下、次の通り表記する。

（介護予防）訪問看護 ⇒ 訪問看護

（介護予防）訪問リハビリテーション ⇒ 訪問リハ

（介護予防）通所リハビリテーション ⇒ 通所リハ

表については、上段：実数、下段：%を基本としている。この基準に則さない場合は、表中に単位を入れる、もしくは、表下に注釈を入れている。

第2章 回答事業所の概要

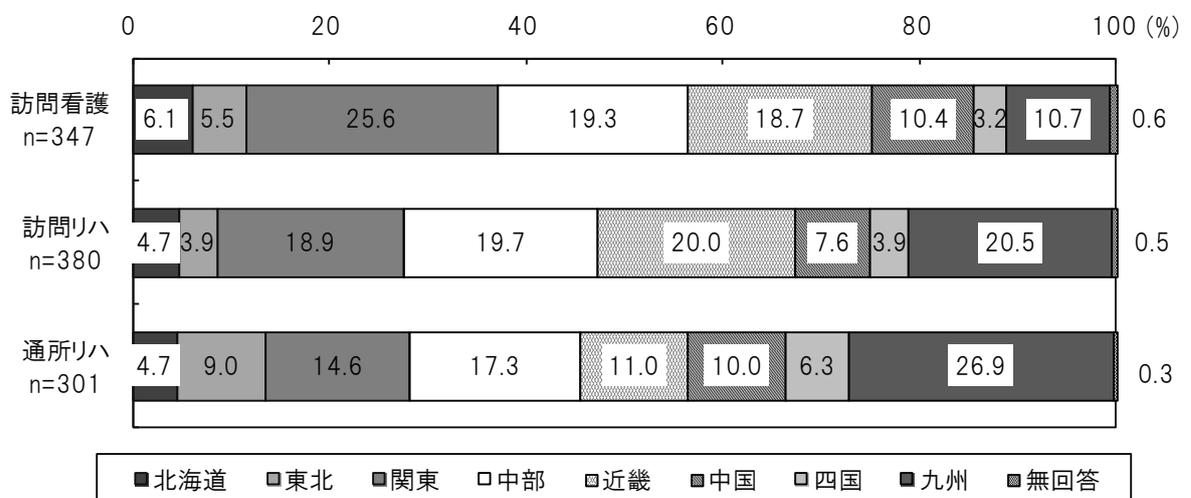
1 所在地等

(1) 地域

第1章でもみた通り、訪問看護は347事業所、訪問リハは380事業所、通所リハは301事業所から回答が得られた。

事業所の所在地について、訪問看護は「関東地域」(25.6%)、訪問リハと通所リハは「九州地域」(20.5%、26.9%)の割合が最も高い。

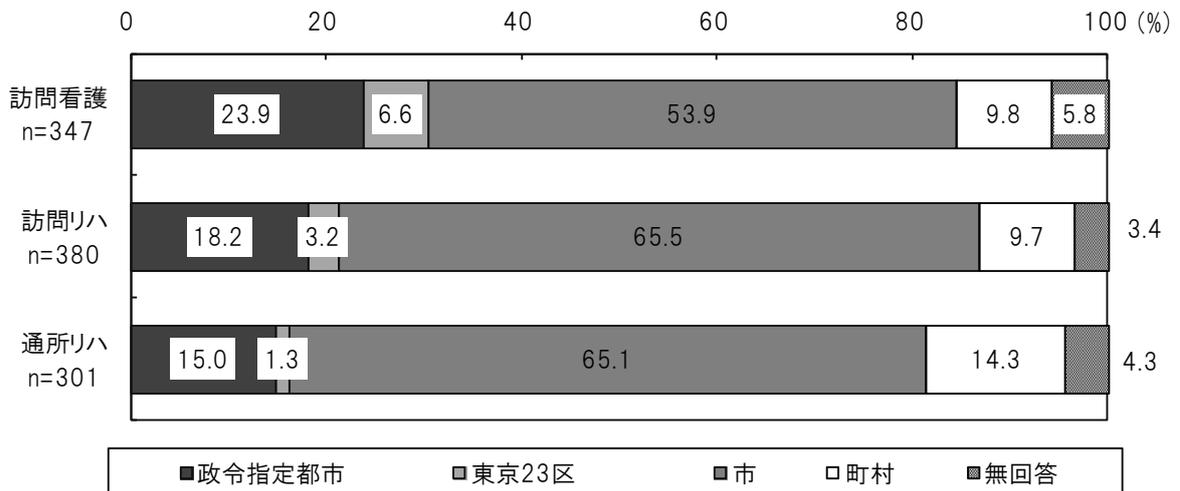
図表 2-1 事業所が立地する地域



(2) 自治体の種類

訪問看護（53.9%）、訪問リハ（65.5%）、通所リハ（65.1%）ともに、「市」の割合が最も高い。なお、訪問看護で「政令指定都市」が23.9%と他と比べて割合が高い。

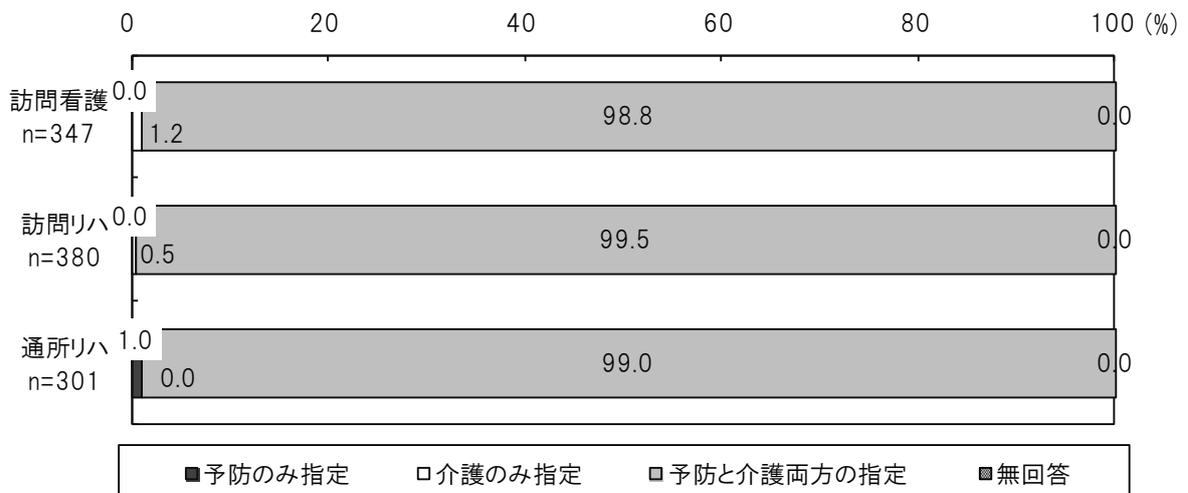
図表 2-2 自治体の種類



(3) 事業所の指定

訪問看護、訪問リハ、通所リハともに、「予防と介護両方の指定」が大半を占めている。訪問看護、訪問リハは「予防のみ指定」と回答する事業所がみられなかった。

図表 2-3 事業所の指定



2 職員体制

(1) 訪問看護事業所

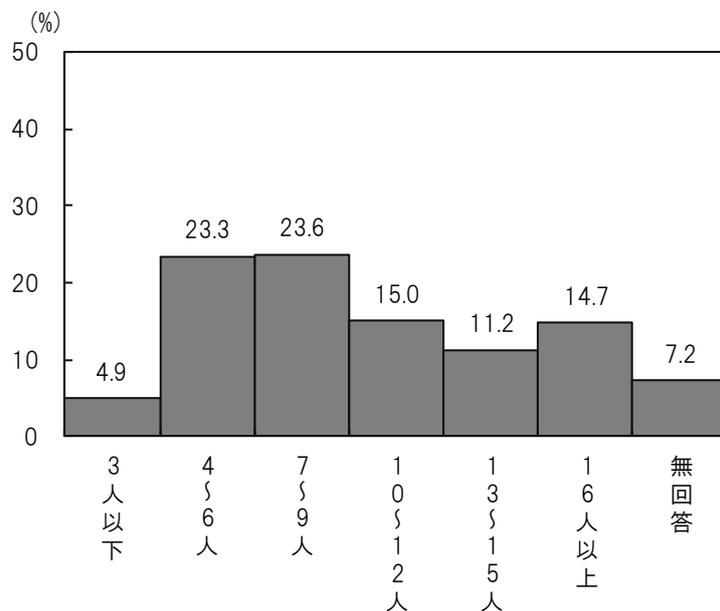
1事業所あたりの職員数の実人員をみると、「4～6人」から「16人以上」まで分散している。

専門職数（実人員）は「4～6人」の割合が26.5%と最も高く、「7～9人」が23.9%と次いでいる。専門職数（常勤換算）については、「4人以上7人未満」（36.0%）の割合が最も高く、「4人未満」（19.3%）、「7人以上10人未満」（17.0%）が次いで高い。

平均値でみると、職員数（実人員）は10.7人、専門職数（実人員）は10.0人、専門職数（常勤換算）は7.0人である。中央値でみると、職員数（実人員）は8人、専門職数（実人員）は8人、専門職数（常勤換算）は5.8人である。

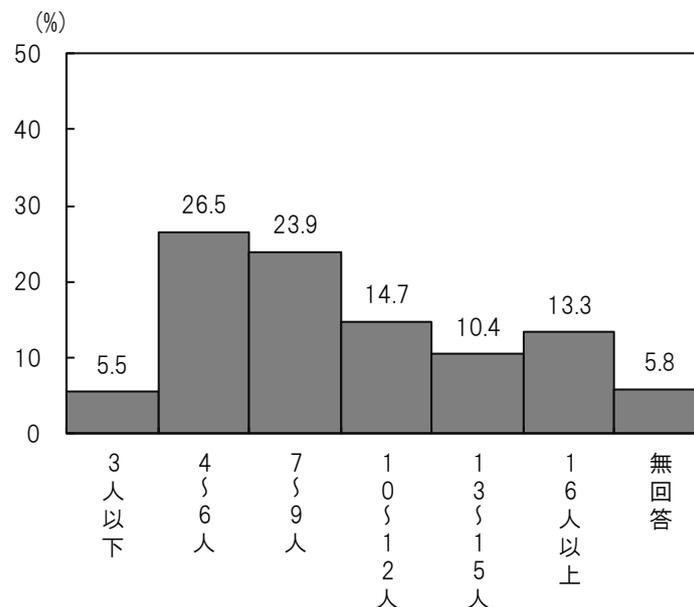
図表 2-4 職員数（実人員）

【訪問看護 n=347】



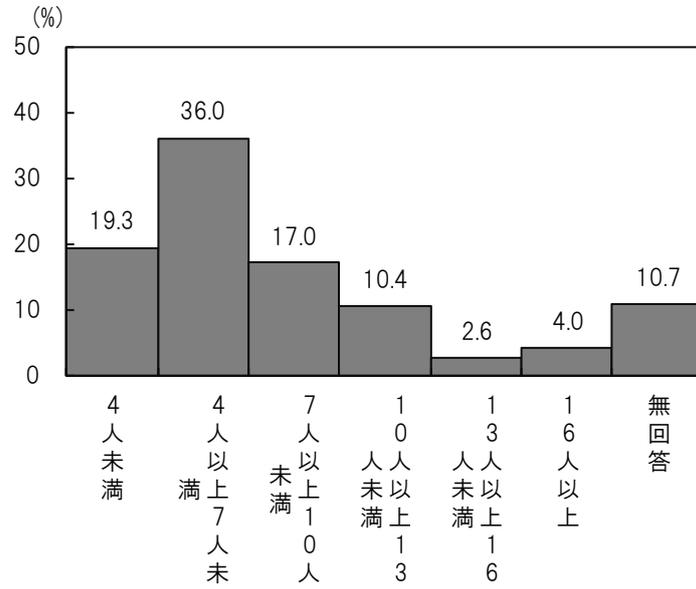
図表 2-5 専門職数（実人員）

【訪問看護 n=347】



図表 2-6 専門職数（常勤換算）

【訪問看護 n=347】

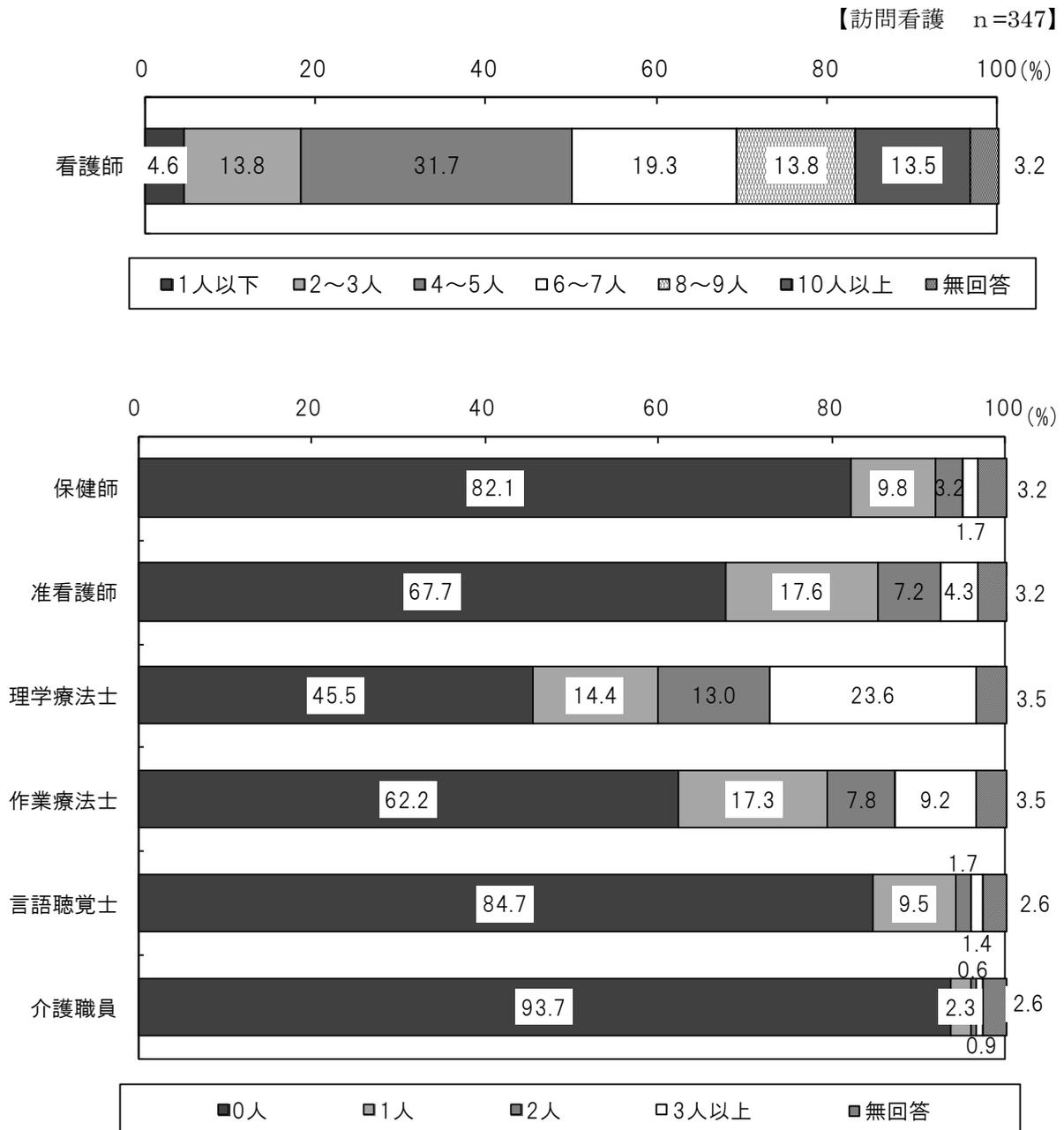


図表 2-7 職員数の平均値・中央値

	職員数 (実人員)	専門職数 (実人員)	専門職数 (常勤換算)
平均値	10.7人	10.0人	7.0人
中央値	8人	8人	5.8人

訪問看護事業所の専門職数（実人数）について専門職別にみると、看護師は「4～5人」が31.7%と最も多い。この他、理学療法士は「3人以上」が23.6%と他の職種と比べて多い。一方、保健師、言語聴覚士、介護職員は「0人」が8割を超えている。

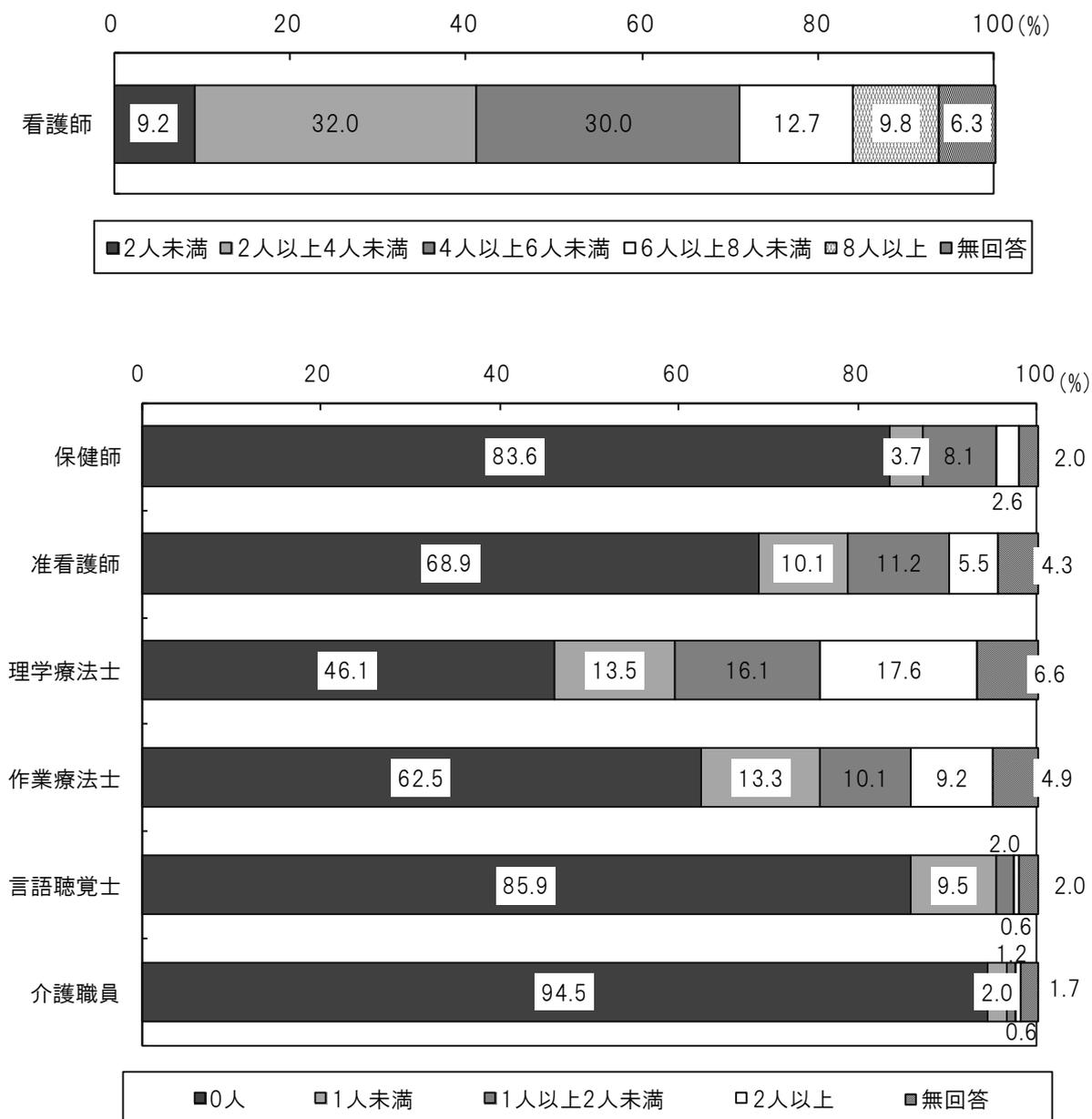
図表 2-8 専門職数（実人数）



訪問看護事業所の専門職数（常勤換算）について専門職別にみると、看護師は「2人以上4人未満」（32.0%）と「4人以上6人未満」（30.0%）が多い。この他、「2人以上」の割合をみると、理学療法士で17.6%、作業療法士で9.2%、准看護師で5.5%となっている。

図表 2-9 専門職数（常勤換算）

【訪問看護 n=347】

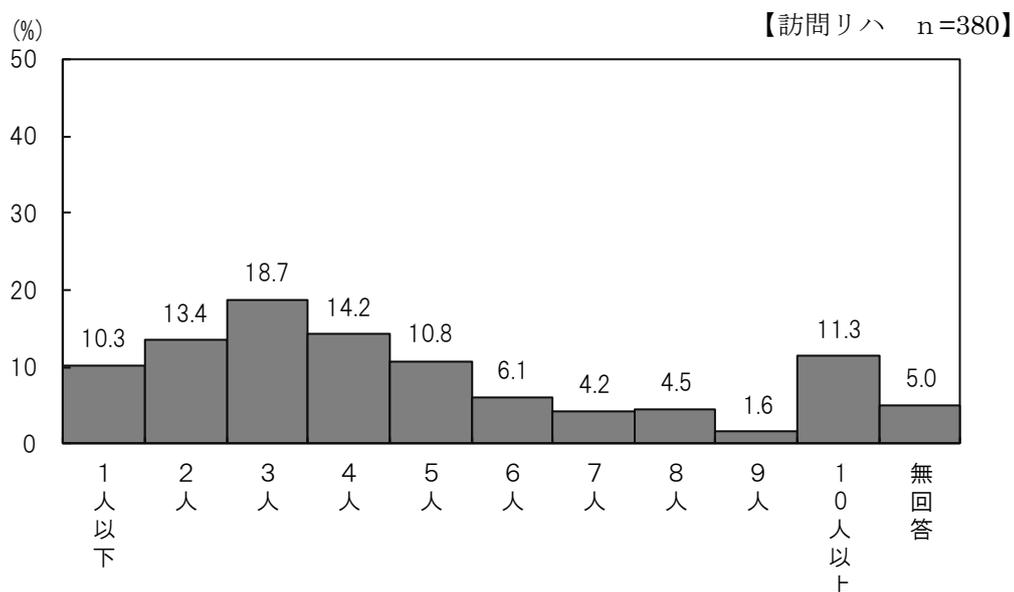


(2) 訪問リハビリテーション

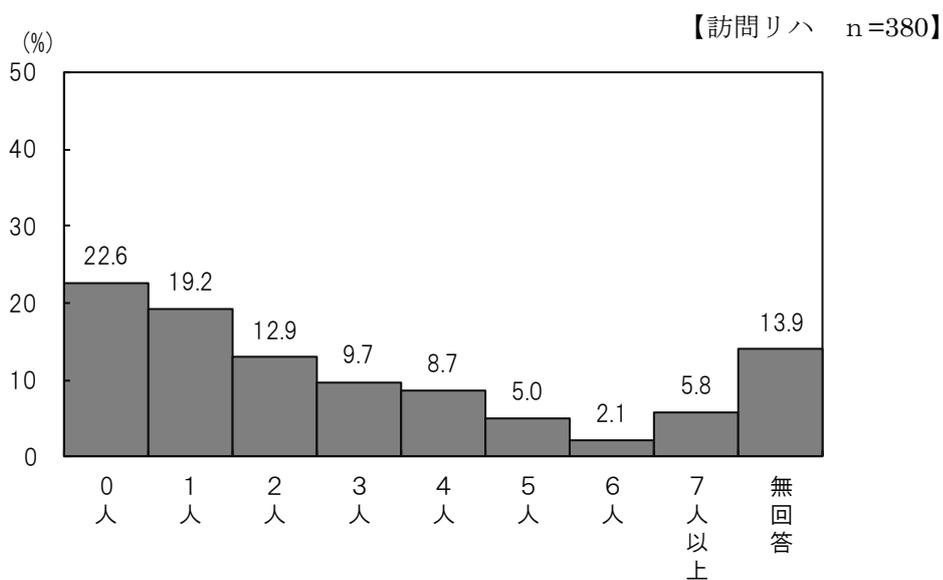
1事業所あたりの専門職の常勤職員の実人員数をみると、「3人」が18.7%と最も多いが、「10人以上」との回答も11.3%となっている。専従職員数については、「0人」(22.6%)の割合が最も高く、次いで「1人」(19.2%)、「2人」(12.9%)の順である。常勤換算の専門職数については、「1人以上2人未満」が22.9%と割合が最も高い。

平均値をみると、実人員は5.7人、専従職員数は2.6人、常勤換算は3.0人となっている。中央値でみると、職員数(常勤職員の実人員数)は4人、専門職数(常勤職員の専従職員数)は2人、専門職数(常勤職員の常勤換算)は2.0人である。

図表 2-10 専門職数(常勤職員の実人員数)

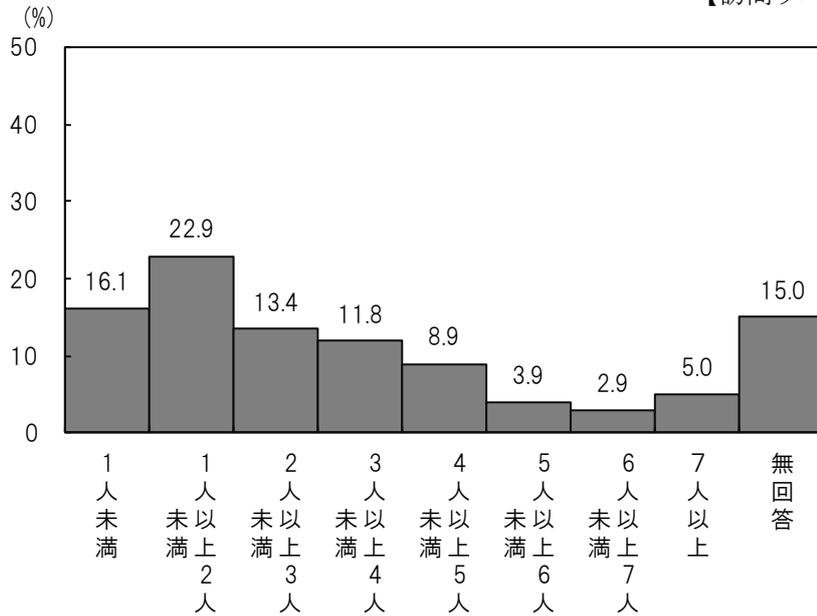


図表 2-11 専門職数(常勤職員の専従職員数)



図表 2-1 2 専門職数（常勤職員の常勤換算）

【訪問リハ n=380】



図表 2-1 3 専門職数の平均値・中央値

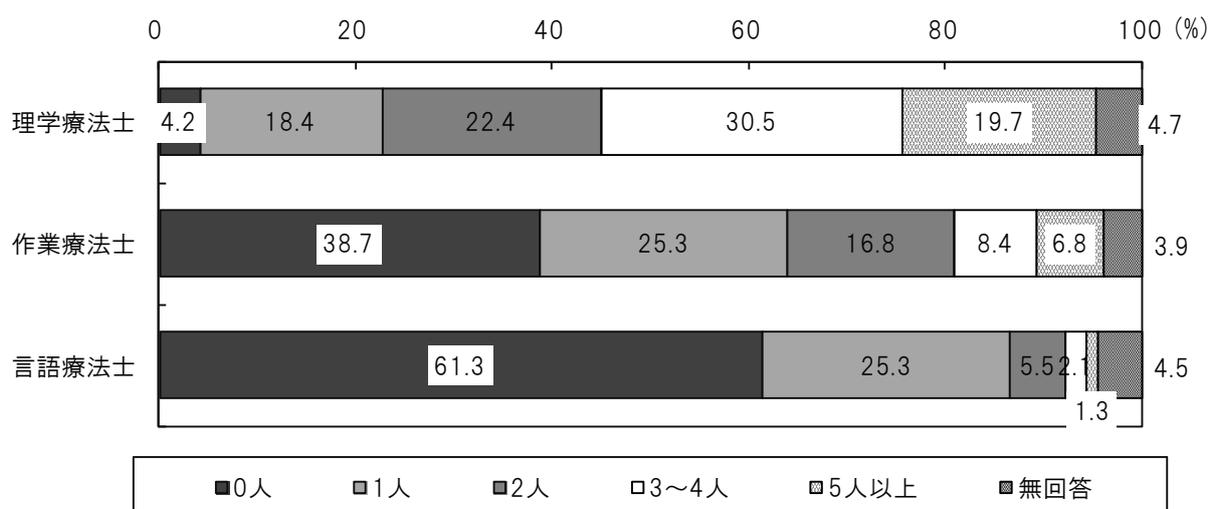
	実人員	専従職員数	常勤換算
平均値	5.7人	2.6人	3.0人
中央値	4人	2人	2.0人

専門職数（常勤職員の実人員数）の内訳をみると、理学療法士は「3～4人」が30.5%の割合が最も高く、「0人」は4.2%である。一方、作業療法士は「3～4人」が8.4%にとどまり、「0人」は38.7%である。言語療法士は「0人」が61.3%となっている。

常勤職員の専従職員数をみると、専従職員がいる事業所の割合は、理学療法士で62.4%、作業療法士で33.1%、言語療法士で7.9%である。

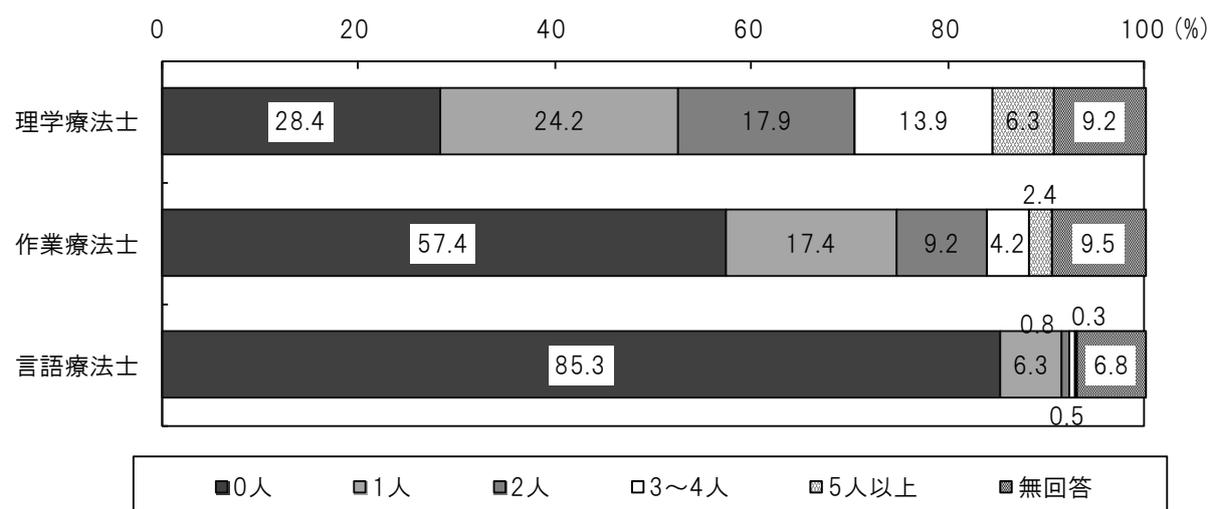
図表 2-14 専門職数（常勤職員の実人員数）

【訪問リハ n=380】



図表 2-15 専門職数（常勤職員の専従職員数）

【訪問リハ n=380】

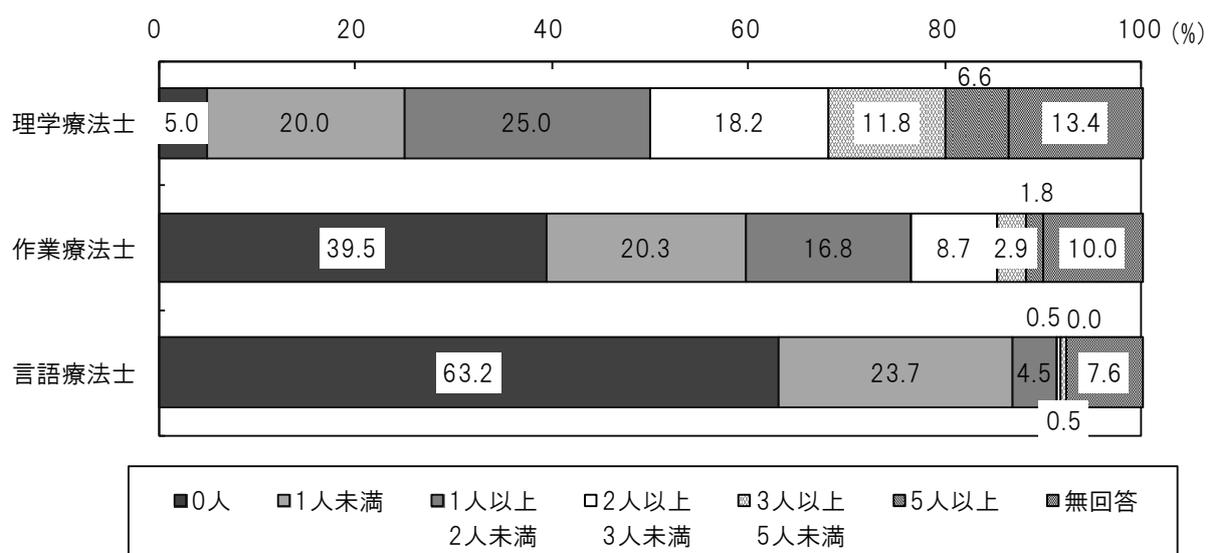


常勤職員の常勤換算をみると、理学療法士は「1人未満」から「3人以上5人未満」まで分散している。一方、作業療法士では「0人」が39.5%、言語療法士では「0人」が63.2%となっている。

非常勤職員の実人員数をみると、理学療法士、作業療法士、言語療法士ともに「0人」の割合が高い。

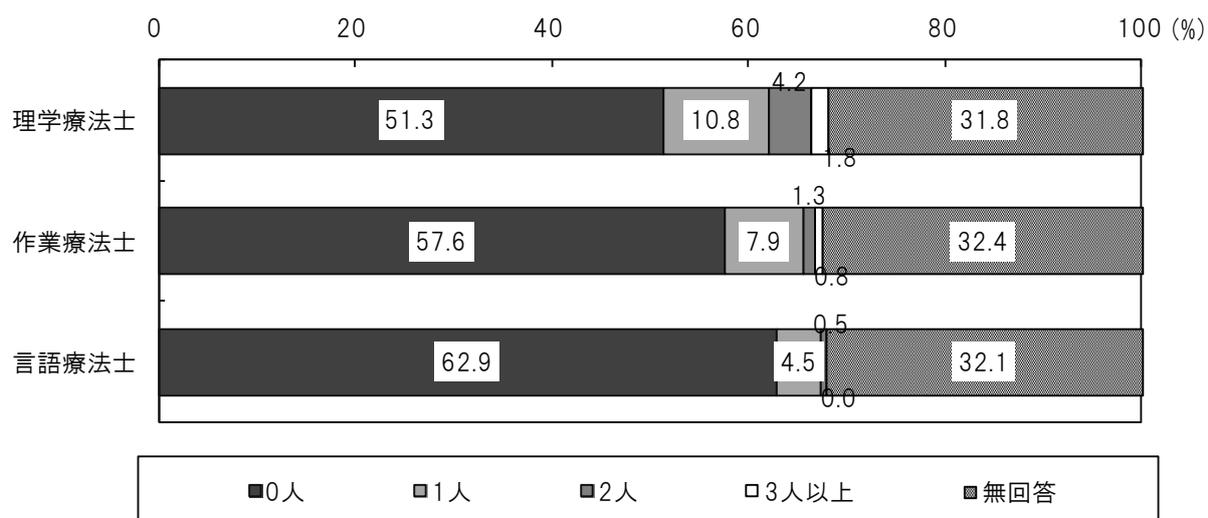
図表 2-16 専門職数（常勤職員の常勤換算）

【訪問リハ n=380】



図表 2-17 専門職数（非常勤職員の実人員数）

【訪問リハ n=380】



図表 2-18 専門職数（非常勤職員の専従職員数）

	0人	1人	2人	3人以上	無回答
理学療法士	57.1%	5.0%	3.2%	0.8%	33.9%
作業療法士	60.8%	4.5%	0.5%	0.8%	33.4%
言語療法士	65.0%	1.3%	0.3%	0.0%	33.4%

図表 2-19 専門職数（非常勤職員の常勤換算）

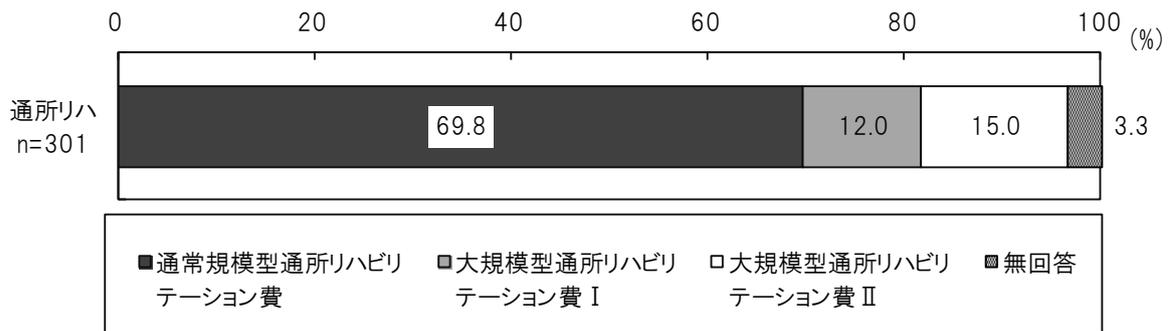
	0人	1人未満	1人以上 2人未満	2人以上	無回答
理学療法士	51.6%	11.6%	2.6%	1.3%	32.9%
作業療法士	58.4%	7.1%	1.3%	0.3%	32.9%
言語療法士	63.2%	4.2%	0.5%	0.0%	32.1%

(3) 通所リハビリテーション

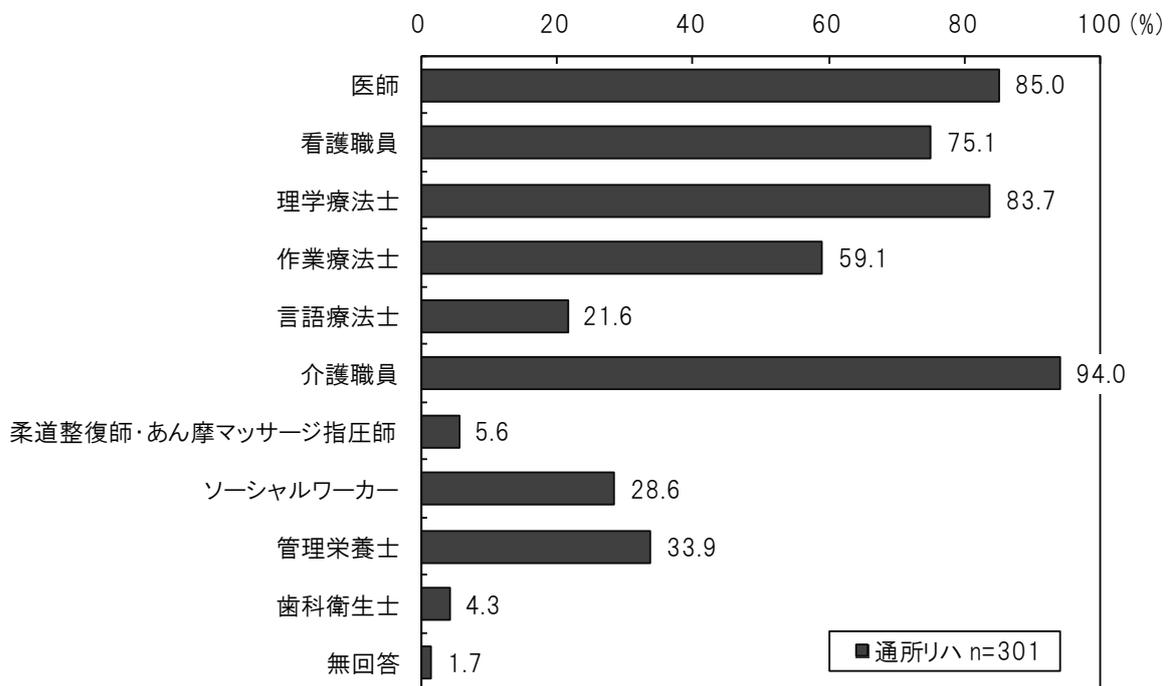
事業所の規模をみると、「通常規模型通所リハビリテーション費」が 69.8%と最も割合が高い。また、「大規模型通所リハビリテーション費Ⅰ」が 12.0%、「大規模型通所リハビリテーション費Ⅱ」が 15.0%となっている。

専門職の配置については、「医師」「看護職員」「理学療法士」「介護職員」は多くの事業所で配置されている。

図表 2-20 事業所の規模



図表 2-21 専門職の配置の有無（複数回答）

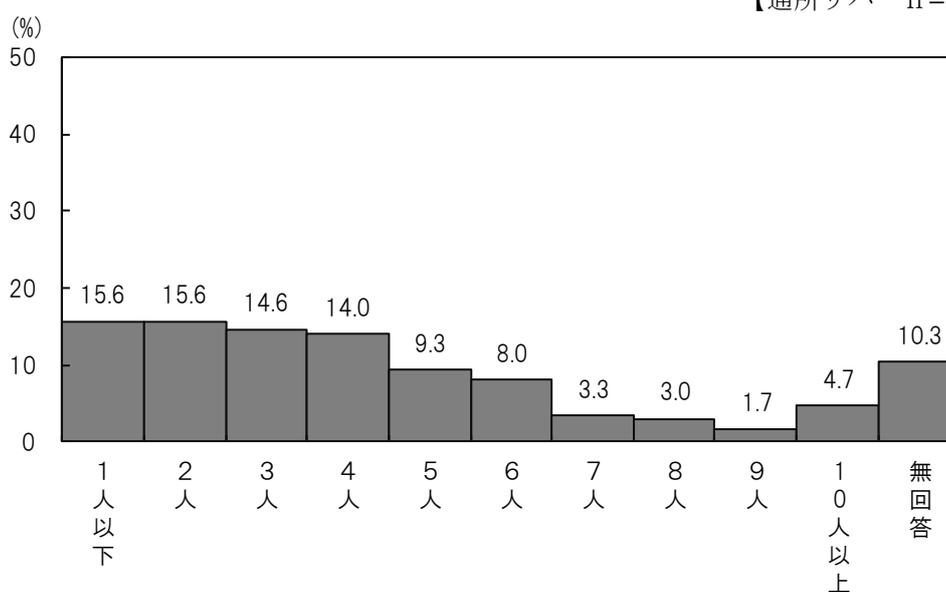


専門職の常勤職員の実人員数をみると、「1人以下」が15.6%、「2人」が15.6%、「3人」が14.6%、「4人」が14.0%となっている。常勤職員の専従職員数については、「0人」が22.6%と最も多く、「1人」が18.3%、「2人」が11.6%と次いでいる。常勤換算については、「1人以上2人未満」の割合が25.9%と最も高い。

平均値をみると、実人員は4.2人、専従職員数は1.8人、常勤換算は2.2人となっている。中央値について、実人員は3人、専従職員数は1人、常勤換算は1.9人となっている。

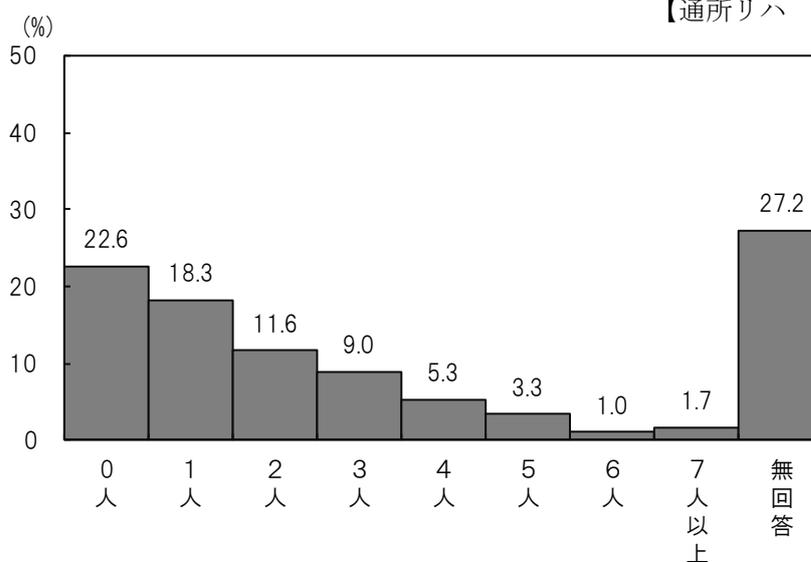
図表 2-22 職員数（専門職の常勤職員の实人員数）

【通所リハ n=301】



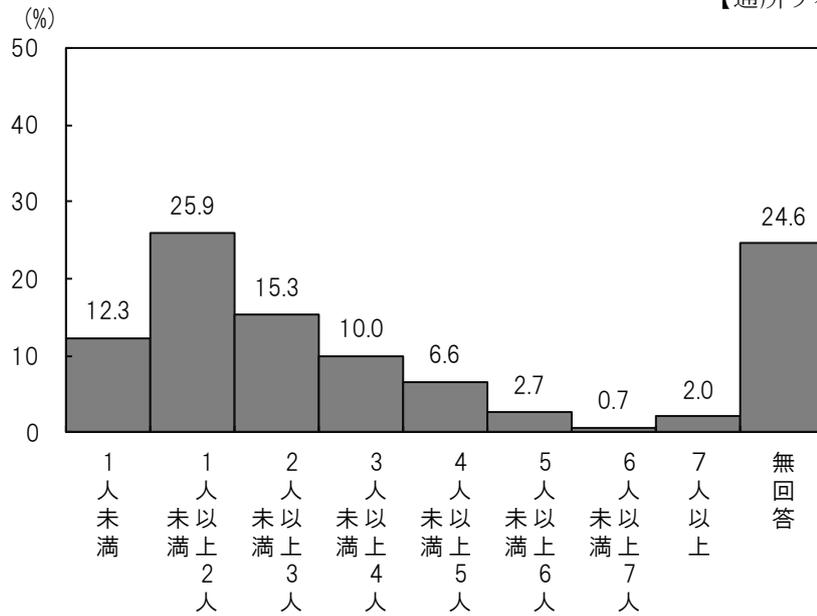
図表 2-23 専門職数（常勤職員の専従職員数）

【通所リハ n=301】



図表 2-24 専門職数（常勤職員の常勤換算）

【通所リハ n=301】



図表 2-25 専門職数の平均値・中央値

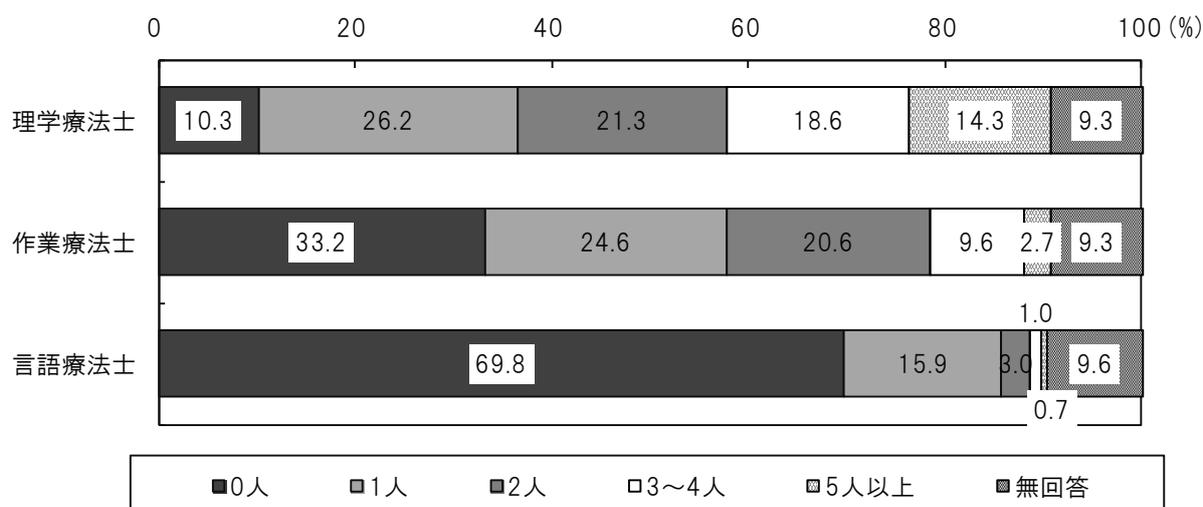
	実人員	専従職員数	常勤換算
平均値	4.2人	1.8人	2.2人
中央値	3人	1人	1.9人

専門職数（常勤職員の実人員数）の内訳をみると、理学療法士は「1人」（26.2%）、「2人」（21.3%）、「3～4人」（18.6%）の順に割合が高い。作業療法士は、「0人」が33.2%と最も割合が高く、次いで「1人」（24.6%）、「2人」（20.6%）の順に多い。言語療法士は「0人」が69.8%となっている。

専従職員数をみると、専従職員がいる事業所の割合は、理学療法士で46.8%、作業療法士で28.2%、言語療法士で6.6%である。

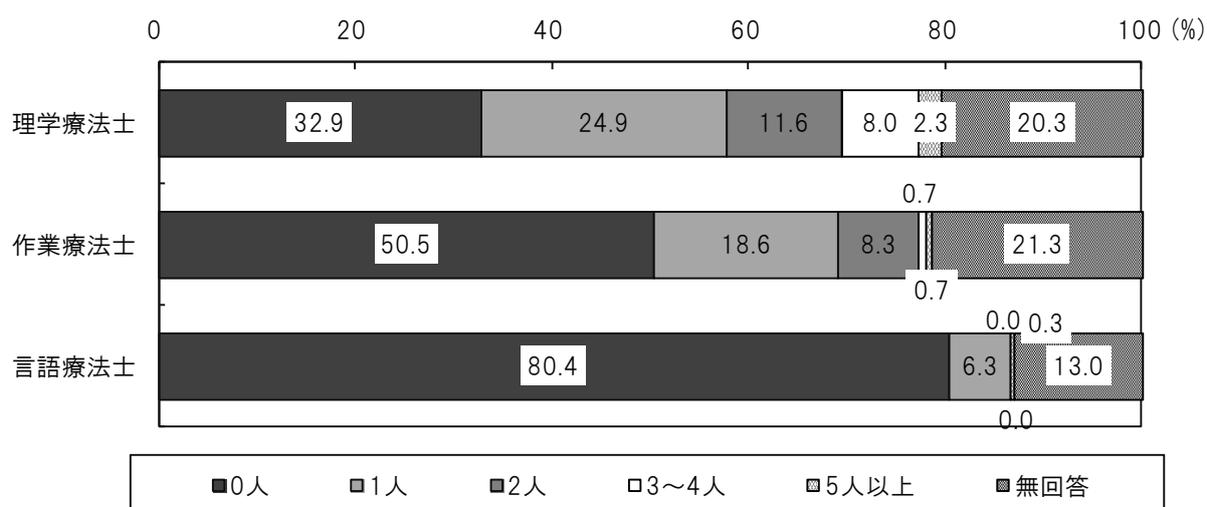
図表 2-26 職員数（専門職の常勤職員の実人員数）

【通所リハ n=301】



図表 2-27 専門職数（常勤職員の専従職員数）

【通所リハ n=301】

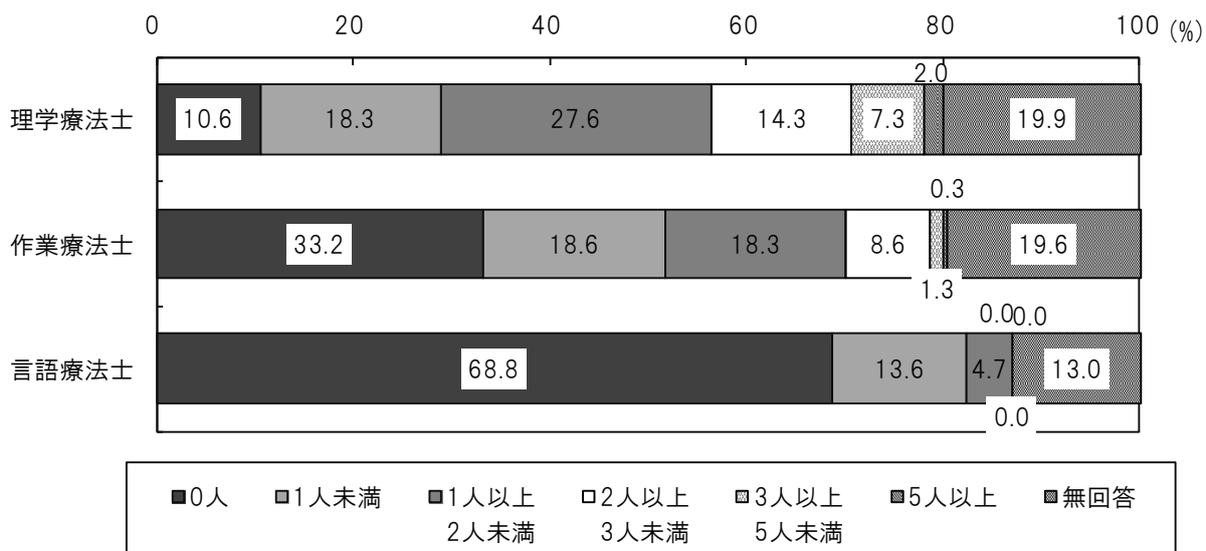


常勤職員の常勤換算で「1人以上2人未満」をみると、理学療法士で27.6%、作業療法士で18.3%、言語療法士で4.7%である。

非常勤職員の実人員数をみると、理学療法士、作業療法士、言語療法士ともに「0人」の割合が高い。

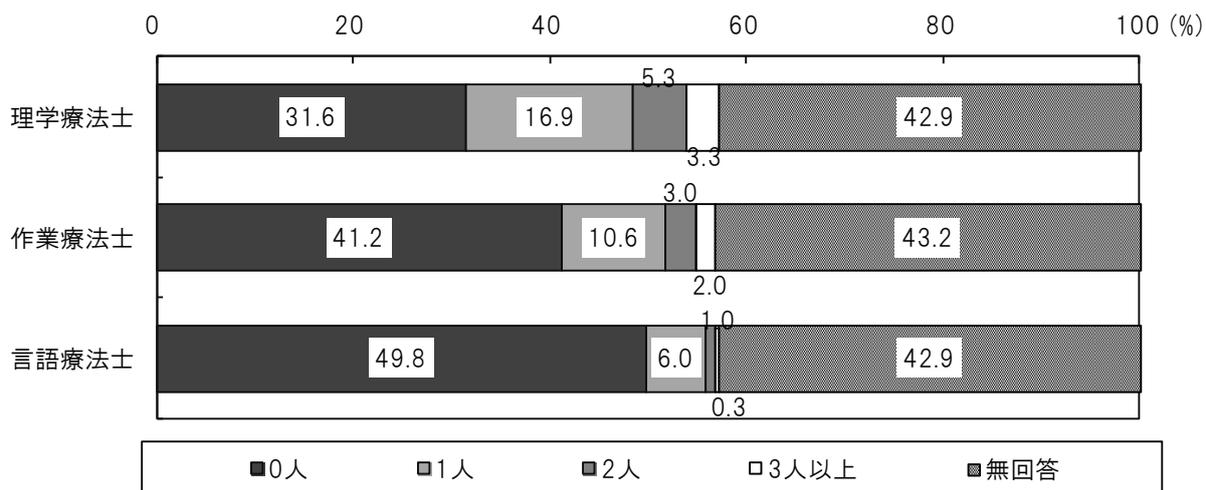
図表 2-28 専門職数（常勤職員の常勤換算）

【通所リハ n=301】



図表 2-29 専門職数（非常勤職員の実人員数）

【通所リハ n=301】



図表 2-30 専門職数（非常勤職員の専従職員数）

	0人	1人	2人	3人以上	無回答
理学療法士	38.9%	9.3%	3.0%	2.0%	46.8%
作業療法士	43.9%	8.6%	1.0%	0.3%	46.2%
言語療法士	52.2%	2.0%	0.3%	0.0%	45.5%

図表 2-31 専門職数（非常勤職員の常勤換算）

	0人	1人未満	1人以上 2人未満	2人以上	無回答
理学療法士	31.6%	21.3%	2.0%	0.3%	44.9%
作業療法士	41.2%	13.3%	1.0%	0.7%	43.9%
言語療法士	49.8%	6.6%	0.3%	0.0%	43.2%

3 利用者数（実人数）

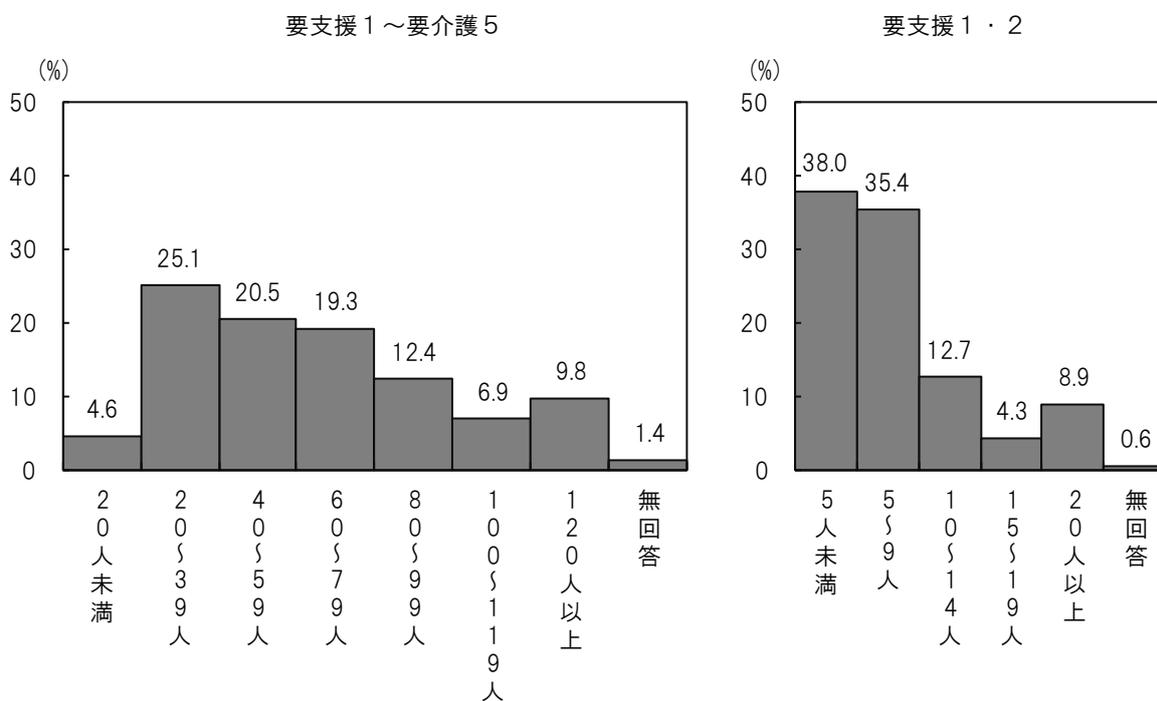
(1) 利用者総数

平成 24 年 11 月の利用者の実人数について、訪問看護は「20～39 人」（25.1%）、訪問リハは「20～39 人」（28.2%）、通所リハは「80～99 人」（18.3%）の割合が最も高い。

そのうち要支援 1・2 の実人数をみると、訪問看護（38.0%）、訪問リハ（42.6%）ともに「5 人未満」の割合が最も高い。一方、通所リハは「10～19 人」（31.6%）、「20～29 人」（26.6%）の割合が高い。

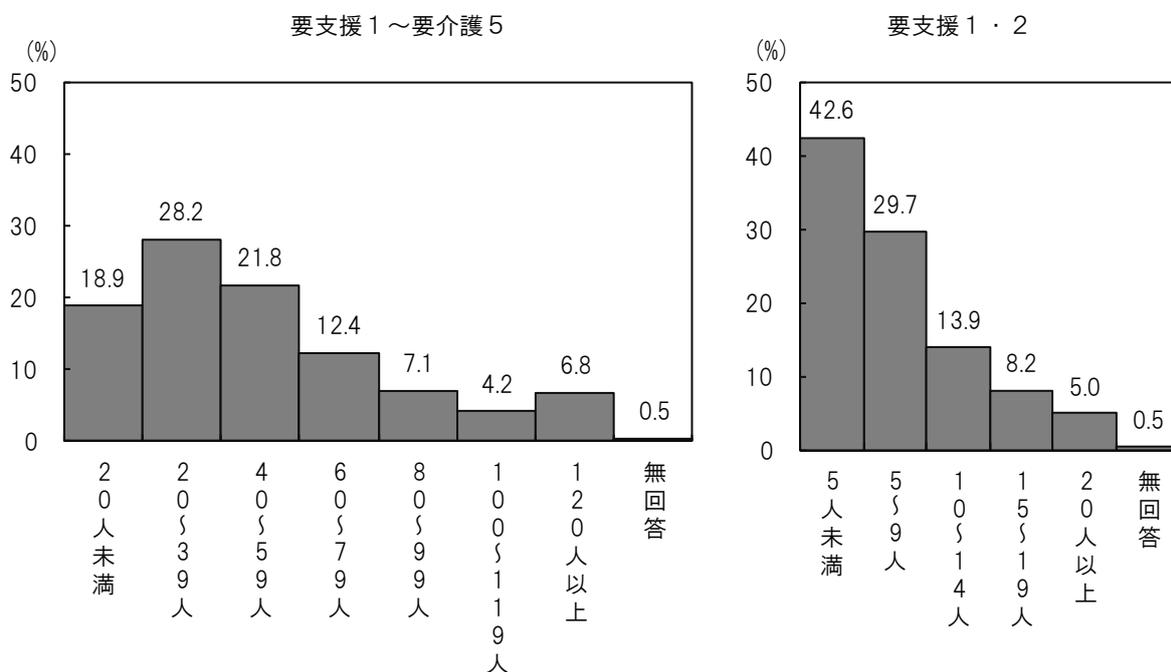
図表 2-3 2 利用者総数（訪問看護）

【訪問看護 n=347】



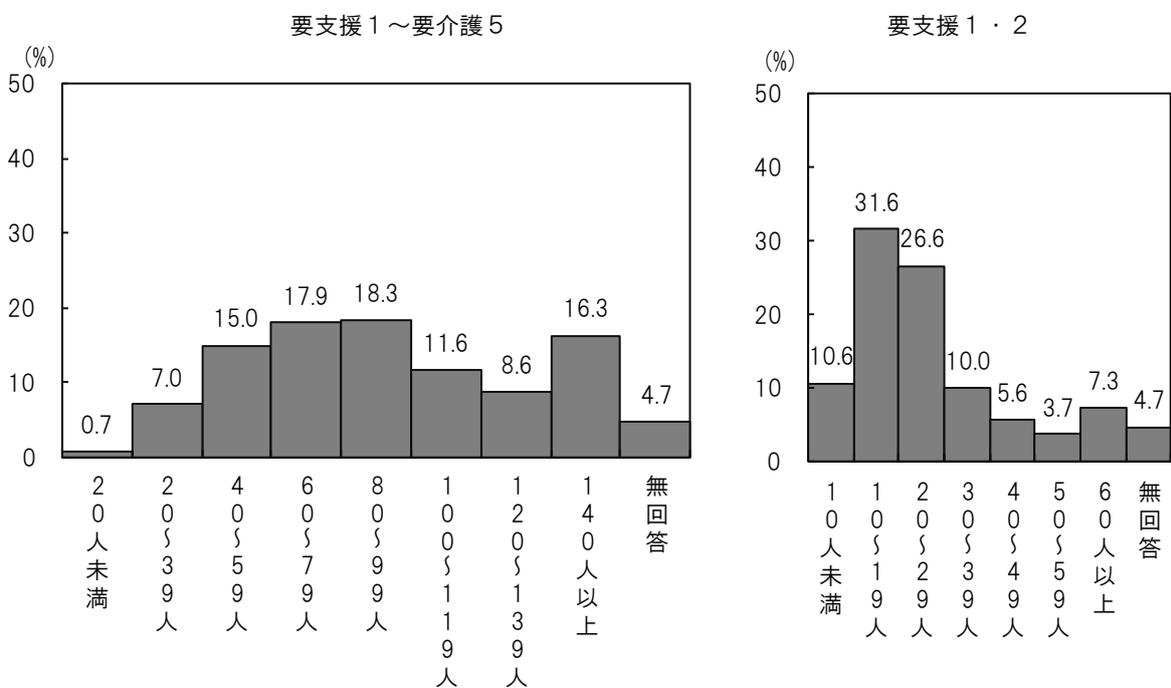
図表 2-33 利用者総数（訪問リハ）

【訪問リハ n=380】



図表 2-34 利用者総数（通所リハ）

【通所リハ n=301】



要介護度別の利用者数について、1事業所あたりの平均利用者数（要支援1～要介護5）は、訪問看護で68.5人、訪問リハで53.4人、通所リハで97.5人である。中央値は、訪問看護で59人、訪問リハで42人、通所リハで87人である。

要介護度別にみると、訪問看護、訪問リハ、通所リハともに、「要介護2」が最も多い。2番目に多いのは、訪問看護では「要介護5」、訪問リハでは「要介護3」、通所リハでは「要介護1」である。

図表 2-35 利用者総数の平均値・中央値

	訪問看護		訪問リハ		通所リハ	
	要支援1 ～要介護5	要支援1・2	要支援1 ～要介護5	要支援1・2	要支援1 ～要介護5	要支援1・2
平均値	68.5人	8.2人	53.4人	7.5人	97.5人	26.6人
中央値	59人	5人	42人	5人	87人	21人

図表 2-36 要介護度別 利用者数

		利用者 合計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
サ ー ビ ス	訪問看護	23,425	846	1,972	3,769	4,806	3,779	3,772	4,545
		68.5	2.5	5.7	11.0	14.0	11.0	11.0	13.2
	訪問リハ	20,186	775	2,068	2,972	4,559	3,738	3,182	2,903
		53.4	2.1	5.5	7.8	12.0	9.9	8.4	7.7
	通所リハ	27,989	2,844	4,792	6,365	6,774	3,839	2,316	1,059
		97.5	9.9	16.7	22.2	23.6	13.4	8.1	3.7

上段は利用者数（人）、下段は1事業所あたりの平均利用者数（人）

要介護度別で一部の要介護度について利用者数が無回答の事業所については、各要介護度の回答部分の人数は計上しているが、利用者合計においては無回答として計上していない。このため、利用者合計は、各要介護度の合計を下回る場合がある。以下、新規利用者、終了者も同様である。

4 新規利用者

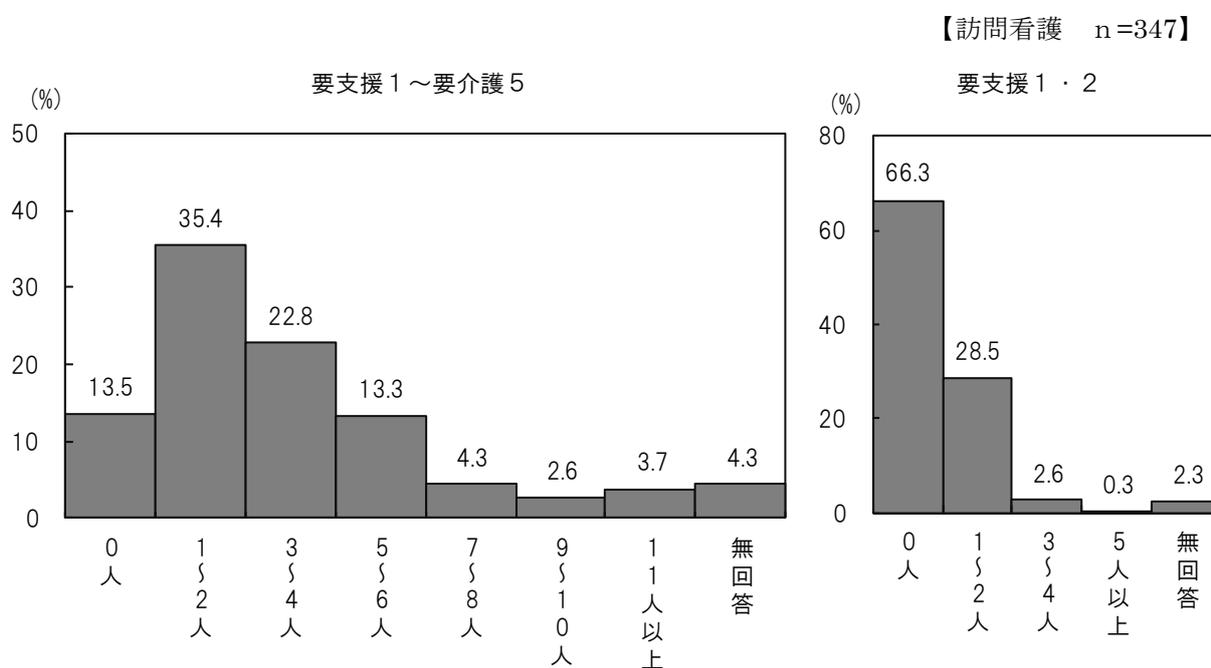
(1) 利用者数

平成24年11月の新規利用者数について、訪問看護（35.4%）、訪問リハ（33.9%）、通所リハ（38.5%）ともに「1～2人」の割合が最も高い。なお、訪問リハでは「0人」が25.3%となっている。

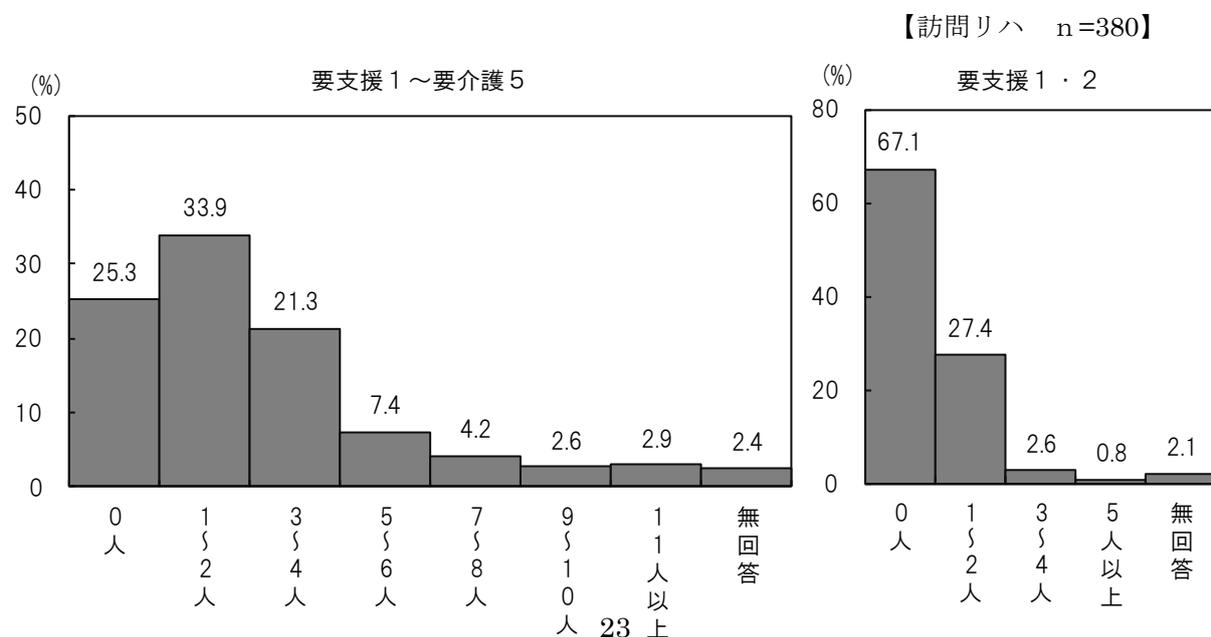
そのうち要支援1・2の新規利用者については、「0人」の事業所が、訪問看護（66.3%）、訪問リハ（67.1%）、通所リハ（51.5%）ともに過半数を占めている。

平均新規利用者数（要支援1～要介護5）は、訪問看護で3.2人、訪問リハで2.7人、通所リハで2.9人である。中央値は、訪問看護・訪問リハ・通所リハともに2人である。

図表 2-37 新規利用者数（訪問看護）

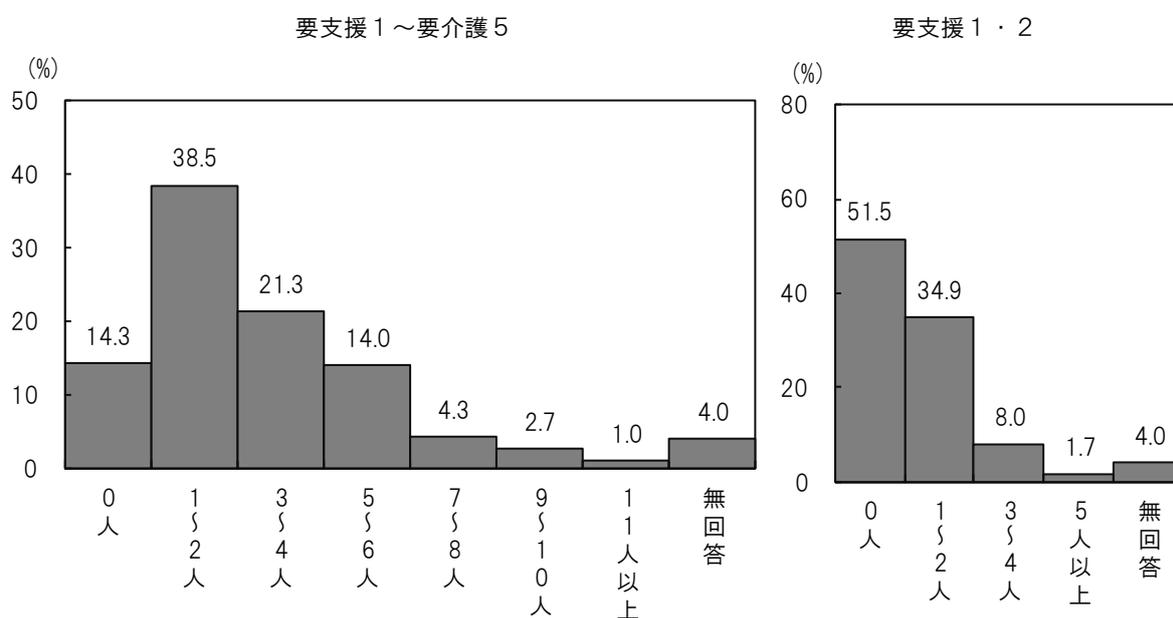


図表 2-38 新規利用者数（訪問リハ）



図表 2-39 新規利用者数（通所リハ）

【通所リハ n=301】



図表 2-40 新規利用者数の平均値・中央値

	訪問看護		訪問リハ		通所リハ	
	要支援1 ～要介護5	要支援1・2	要支援1 ～要介護5	要支援1・2	要支援1 ～要介護5	要支援1・2
平均値	3.2人	0.5人	2.7人	0.5人	2.9人	0.9人
中央値	2人	0人	2人	0人	2人	0人

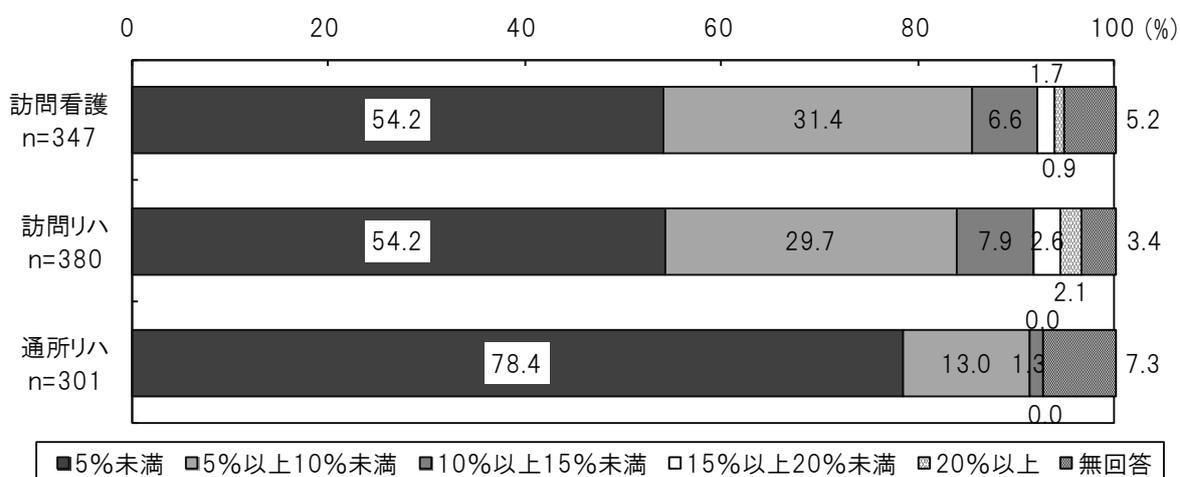
(2) 新規利用者率

平成 24 年 11 月の利用者数に占める新規利用者の割合をみると、訪問看護、訪問リハ、通所リハともに「5%未満」が過半数を占めており、特に通所リハは 78.4%と多い。

1 事業所あたりの新規利用率は、訪問看護で 4.5%、訪問リハで 5.0%、通所リハで 3.0%となっている。

要介護度別に新規利用者数をみると、訪問看護は「要介護 1」、訪問リハは「要介護 2」、通所リハは「要介護 1」で最も多い。新規利用率については、訪問看護で「要支援 1」、訪問リハで「要支援 2」、通所リハで「要支援 1」で最も割合が高くなっている。

図表 2-4 1 新規利用者率（新規利用者数÷利用者総数）



図表 2-4 2 要介護度別：新規利用者率

		新規合計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
サービス	訪問看護	1,061	58	104	210	203	185	168	168
		3.2	0.2	0.3	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5
		4.5%	6.9%	5.3%	5.6%	4.2%	4.9%	4.5%	3.7%
	訪問リハ	1,013	48	133	165	217	189	133	130
		2.7	0.1	0.4	0.4	0.6	0.5	0.4	0.4
		5.0%	6.2%	6.4%	5.6%	4.8%	5.1%	4.2%	4.5%
通所リハ	837	111	143	211	156	104	84	28	
	2.9	0.4	0.5	0.7	0.5	0.4	0.3	0.1	
	3.0%	3.9%	3.0%	3.3%	2.3%	2.7%	3.6%	2.6%	

上段は新規利用者数（人）、中段は 1 事業所あたりの平均新規利用者数（人）、下段は新規利用率

5 終了者

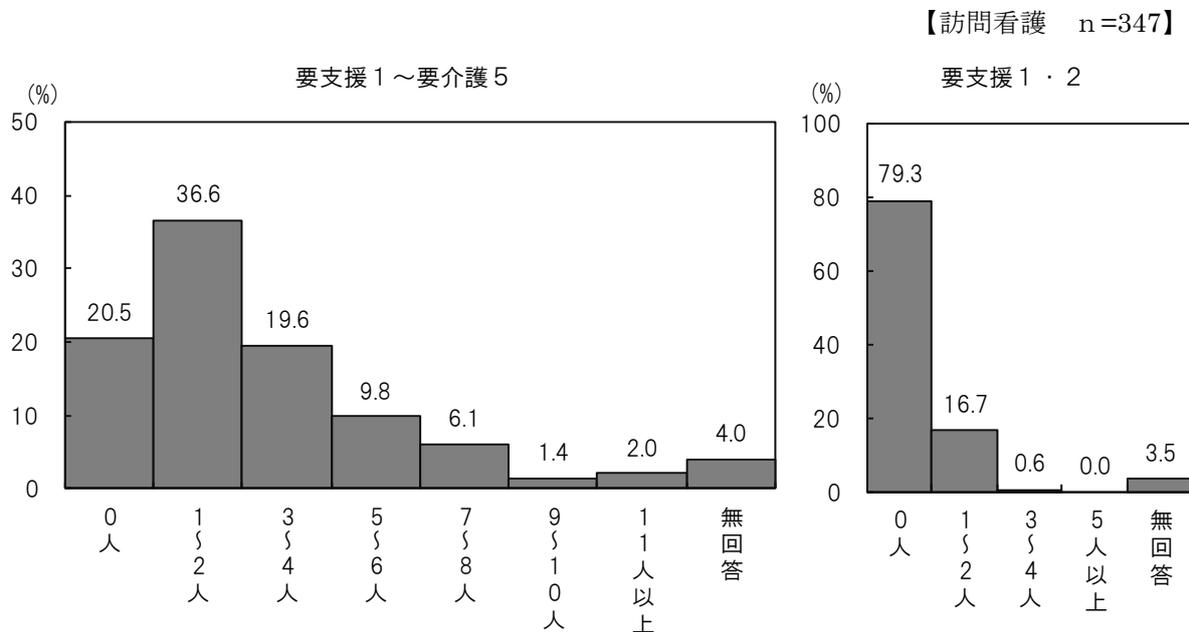
(1) 終了者数

平成24年11月の利用者のうち、サービス利用を終了した人の数をみると、新規利用者と同様に「1～2人」が訪問看護（36.6%）、訪問リハ（39.5%）、通所リハ（33.2%）の割合が最も高い。

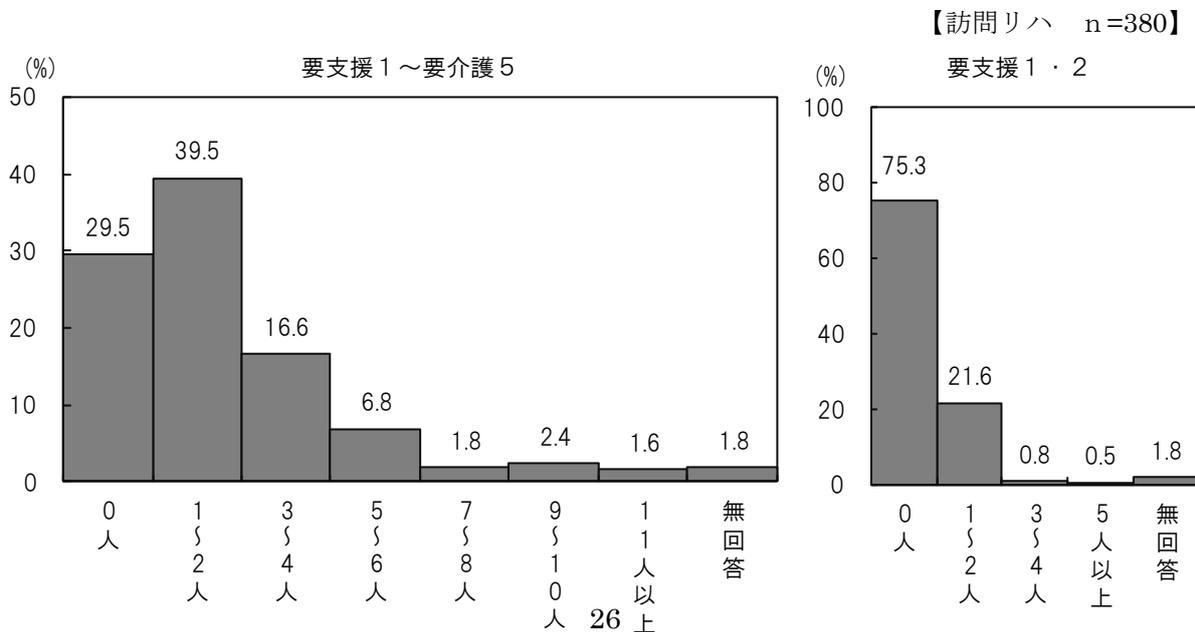
要支援1・2の終了者数をみると、訪問看護、訪問リハ、通所リハともに「0人」が7割を超えている。

1事業所あたりの平均終了者数（要支援1～要介護5）は、訪問看護で2.6人、訪問リハで2.2人、通所リハで2.1人である。中央値は、訪問看護で2人、訪問リハで1人、通所リハで2人である。

図表 2-4 3 終了者数（訪問看護）

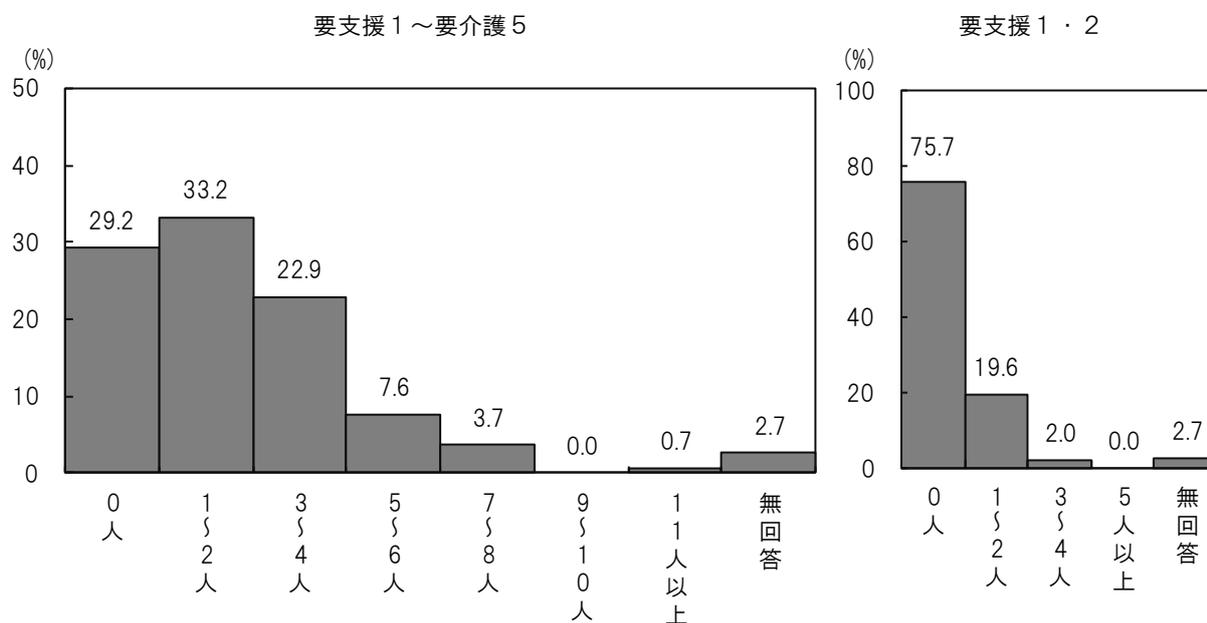


図表 2-4 4 終了者数（訪問リハ）



図表 2-4 5 終了者数（通所リハ）

【通所リハ n=301】



図表 2-4 6 終了者数の平均値・中央値

	訪問看護		訪問リハ		通所リハ	
	要支援1～要介護5	要支援1・2	要支援1～要介護5	要支援1・2	要支援1～要介護5	要支援1・2
平均値	2.6人	0.2人	2.2人	0.3人	2.1人	0.3人
中央値	2人	0人	1人	0人	2人	0人

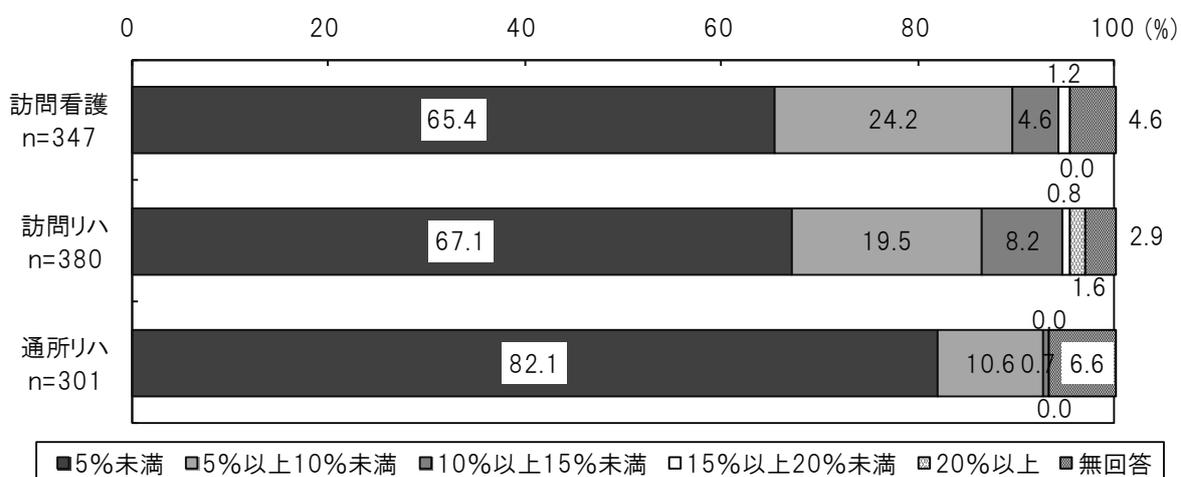
(2) 終了者率

平成 24 年 11 月の利用者数に占める終了者の割合をみると、訪問看護、訪問リハ、通所リハともに「5%未満」が6割以上を占め、特に通所リハで82.1%と高い。

1事業所あたりの終了者率は、訪問看護で3.8%、訪問リハで4.0%、通所リハで2.2%となっている。

要介護度別に終了者数をみると、訪問看護は「要介護5」、訪問リハと通所リハは「要介護2」で最も多い。終了率については、訪問看護で「要介護5」、訪問リハで「要支援1」、通所リハで「要介護4」で他の介護度と比べて割合がやや高い。

図表 2-4 7 終了者率（終了者数÷利用者総数）



図表 2-4 8 要介護度別：終了者率

		終了者合計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
サービス	訪問看護	881	28	43	102	160	150	170	239
		2.6	0.1	0.1	0.3	0.5	0.4	0.5	0.7
		3.8%	3.3%	2.2%	2.7%	3.3%	4.0%	4.5%	5.3%
	訪問リハ	803	38	82	120	174	141	135	113
		2.2	0.1	0.2	0.3	0.5	0.4	0.4	0.3
		4.0%	4.9%	4.0%	4.0%	3.8%	3.8%	4.2%	3.9%
	通所リハ	615	33	59	136	174	107	76	34
		2.1	0.1	0.2	0.5	0.6	0.4	0.3	0.1
		2.2%	1.2%	1.2%	2.1%	2.6%	2.8%	3.3%	3.2%

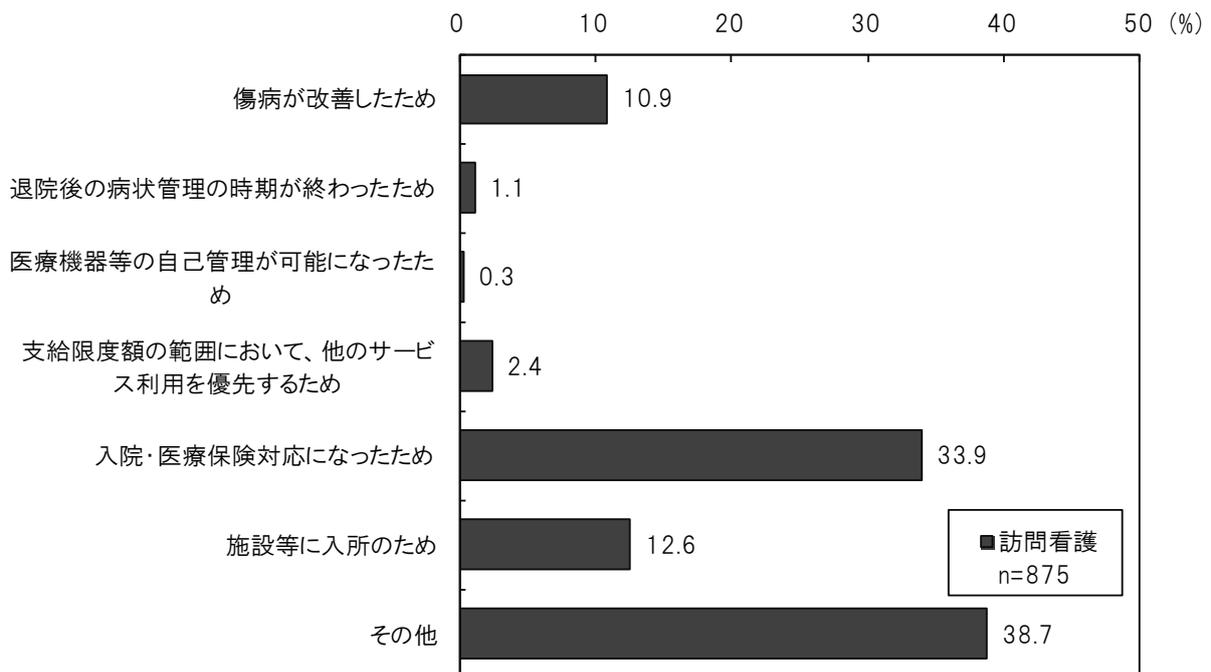
上段は終了者数（人）、中段は1事業所あたりの平均終了者数（人）、下段は終了者率

(3) 終了の理由

終了の理由について、訪問看護では「入院・医療保険対応になったため」が33.9%と最も割合が高い。次いで「施設等に入所のため」(12.6%)、「傷病が改善したため」(10.9%)の順に多い。

要介護度別にみると、「傷病が改善したため」は要支援1で42.3%、要支援2で29.3%となっている。

図表 2-49 終了の理由（訪問看護）



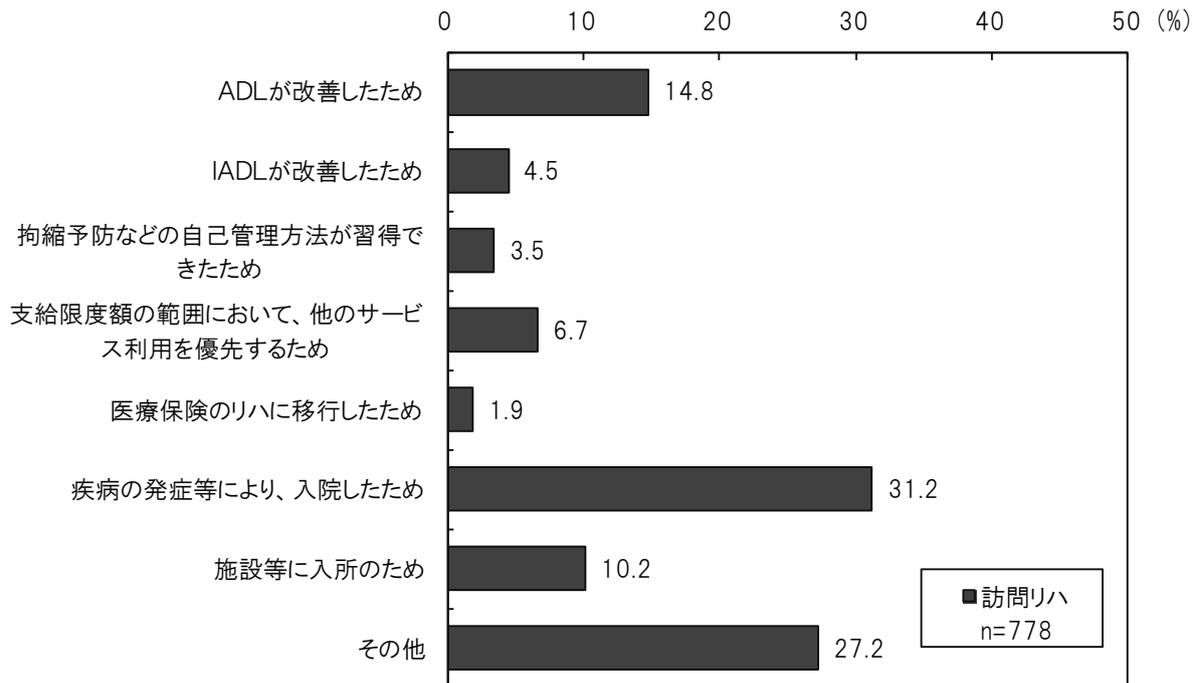
図表 2-50 要介護度別 終了の理由（訪問看護）

	合計	傷病が改善したため	退院後の病状管理の時期が終わったため	医療機器等の自己管理が可能になったため	支給限度額の範囲において、他のサービス利用を優先するため	入院・医療保険対応になったため	施設等に入所のため	その他
		割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
全体	875	95	10	3	21	297	110	339
	100.0	10.9	1.1	0.3	2.4	33.9	12.6	38.7
要介護度	要支援1	26	11	0	0	3	4	7
		100.0	42.3	0.0	0.0	11.5	15.4	26.9
	要支援2	41	12	0	0	2	15	8
		100.0	29.3	0.0	0.0	4.9	36.6	19.5
	要介護1	103	12	2	0	6	39	28
		100.0	11.7	1.9	0.0	5.8	37.9	27.2
	要介護2	161	24	3	1	2	51	54
	100.0	14.9	1.9	0.6	1.2	31.7	33.5	
要介護3	143	16	1	0	3	59	46	
	100.0	11.2	0.7	0.0	2.1	41.3	32.2	
要介護4	168	13	3	2	3	64	65	
	100.0	7.7	1.8	1.2	1.8	38.1	38.7	
要介護5	233	7	1	0	2	65	131	
	100.0	3.0	0.4	0.0	0.9	27.9	56.2	

終了の理由について、訪問リハでは「疾病の発症等により、入院したため」が31.2%と最も割合が高い。次いで「ADLが改善したため」(14.8%)、「施設等に入所のため」(10.2%)の順に多い。

要介護度別にみると、軽度者で「ADLが改善したため」「IADLが改善したため」の割合が他の要介護度と比べて高い。

図表 2-5 1 終了の理由 (訪問リハ)



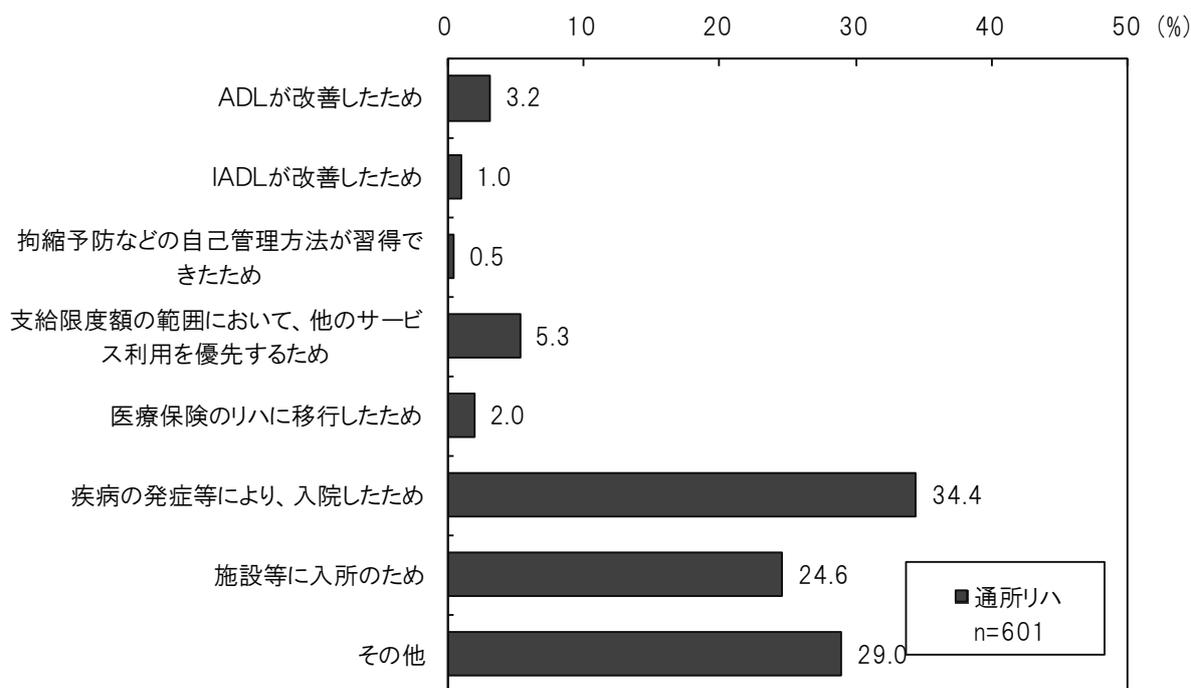
図表 2-5 2 要介護度別 終了の理由 (訪問リハ)

	合計	た A め D L が 改 善 し た	た I た A め D L が 改 善 し	で己拘 き管縮 た理予 た方防 め法な がど 習の 得自	先サに支 すしお給 るびい限 たステ度 め利、額 用他の をの範 優囲	移医 行療 し保 た険 たの めリ ハに	り疾 、病 入の 院発 し症 た等 たに めよ	め施 設等 に入 所の た	そ の 他	
全体	778 100.0	115 14.8	35 4.5	27 3.5	52 6.7	15 1.9	243 31.2	79 10.2	212 27.2	
要 介 護 度	要支援1	41 100.0	9 22.0	8 19.5	2 4.9	3 7.3	5 12.2	7 17.1	2 4.9	5 12.2
	要支援2	76 100.0	21 27.6	7 9.2	4 5.3	6 7.9	0 0.0	14 18.4	5 6.6	19 25.0
	要介護1	117 100.0	23 19.7	6 5.1	5 4.3	7 6.0	2 1.7	32 27.4	4 3.4	38 32.5
	要介護2	157 100.0	24 15.3	8 5.1	10 6.4	9 5.7	2 1.3	50 31.8	17 10.8	37 23.6
	要介護3	137 100.0	19 13.9	4 2.9	4 2.9	10 7.3	3 2.2	51 37.2	16 11.7	30 21.9
	要介護4	137 100.0	17 12.4	1 0.7	0 0.0	11 8.0	1 0.7	50 36.5	18 13.1	39 28.5
	要介護5	113 100.0	2 1.8	1 0.9	2 1.8	6 5.3	2 1.8	39 34.5	17 15.0	44 38.9

終了の理由について、訪問看護では「疾病の発症等により、入院したため」が34.4%と最も割合が高い。次いで「施設等に入所のため」が24.6%と割合が高い。

要介護度別にみると、軽度者でも「ADLが改善したため」「IADLが改善したため」の割合は低い。

図表 2-53 終了の理由（通所リハ）



図表 2-54 要介護度別 終了の理由（通所リハ）

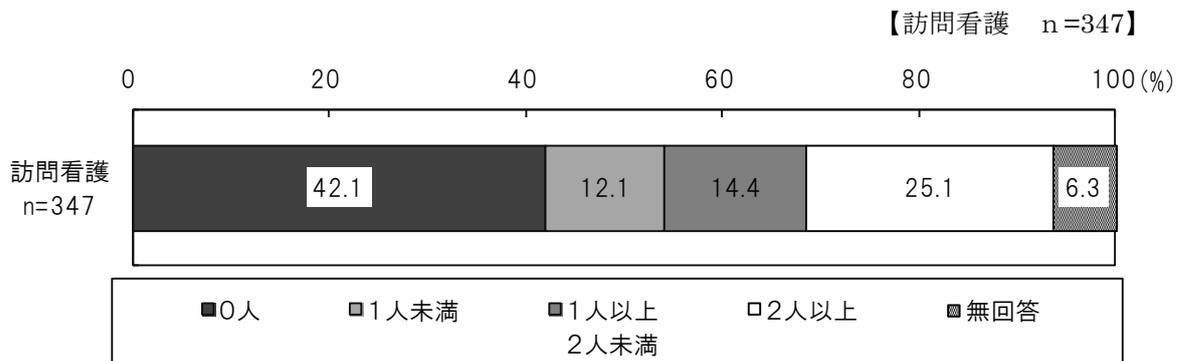
	合計	た A	た I	で己拘	先サに支	移医	り疾	め施	そ	
		め D L が 改善 した	た A め D L が 改善 し	き管縮 た理予 た方防 め法が 習の得 自	すしお給 るびい限 たステ度 め利、額 用他の をの範 優 围	行療し保 した険た ためリハ に	り疾 入の院 発症し 等たに よ	め施 設等 に入 所の た	そ 他	
全体	601 100.0	19 3.2	6 1.0	3 0.5	32 5.3	12 2.0	207 34.4	148 24.6	174 29.0	
要介護度	要支援1	33 100.0	1 3.0	2 6.1	0 0.0	3 9.1	1 3.0	9 27.3	5 15.2	12 36.4
	要支援2	58 100.0	7 12.1	1 1.7	2 3.4	4 6.9	1 1.7	15 25.9	6 10.3	22 37.9
	要介護1	132 100.0	5 3.8	2 1.5	0 0.0	9 6.8	3 2.3	50 37.9	25 18.9	38 28.8
	要介護2	167 100.0	6 3.6	1 0.6	1 0.6	8 4.8	5 3.0	48 28.7	51 30.5	47 28.1
	要介護3	103 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	1 1.0	38 36.9	31 30.1	32 31.1
	要介護4	74 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 9.5	1 1.4	33 44.6	19 25.7	14 18.9
	要介護5	34 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14 41.2	11 32.4	9 26.5

6 特別集計（リハビリ専門職数別の訪問看護事業所）

（1）リハビリ専門職の有無

リハビリ専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の配置状況を常勤換算人数でみると、「0人」が42.1%と最も割合が高く、「2人以上」が25.1%と次いでいる。

図表 2-55 常勤換算のリハビリ専門職数



（2）リハビリ専門職数別の利用者

リハビリ専門職の常勤換算人数別に、事業所の利用者総数（要支援1～要介護5）をみると、2人以上で「120人以上」「100人以上120人未満」の割合が高いなど、利用者総数の多い事業所でリハ3職の人数が多い傾向がみられる。要支援1・2に限定しても、同様の傾向がみられる。

図表 2-56 リハビリ専門職数別の利用者総数

【訪問看護 n=347】

要支援1～要介護5

		合計	20人未満	20人以上 40人未満	40人以上 60人未満	60人以上 80人未満	80人以上 100人未満	100人以上 120人未満	120人以上	無回答
全体		347 100.0	16 4.6	87 25.1	71 20.5	67 19.3	43 12.4	24 6.9	34 9.8	5 1.4
リハ3 職の 常勤 換算	0人	146 100.0	15 10.3	55 37.7	36 24.7	22 15.1	13 8.9	1 0.7	3 2.1	1 0.7
	1人未満	42 100.0	0 0.0	10 23.8	16 38.1	8 19.0	4 9.5	2 4.8	0 0.0	2 4.8
	1人以上 2人未満	50 100.0	1 2.0	11 22.0	12 24.0	14 28.0	8 16.0	1 2.0	2 4.0	1 2.0
	2人以上	87 100.0	0 0.0	5 5.7	4 4.6	17 19.5	15 17.2	19 21.8	26 29.9	1 1.1

要支援 1・2

		合計	5人未満	5人以上 10人未満	10人以上 15人未満	15人以上 20人未満	20人以上	無回答
全体		347 100.0	132 38.0	123 35.4	44 12.7	15 4.3	31 8.9	2 0.6
リハ3職の常勤換算	0人	146 100.0	86 58.9	52 35.6	6 4.1	1 0.7	0 0.0	1 0.7
	1人未満	42 100.0	14 33.3	19 45.2	6 14.3	2 4.8	1 2.4	0 0.0
	1人以上 2人未満	50 100.0	14 28.0	22 44.0	10 20.0	4 8.0	0 0.0	0 0.0
	2人以上	87 100.0	11 12.6	22 25.3	16 18.4	8 9.2	29 33.3	1 1.1

(3) リハビリ専門職数別の新規利用者

リハビリ専門職数が多い事業所の利用者総数が多い傾向があることから、2人以上の事業所で、新規利用者数が「11人以上」の割合が他と比べて高い。

新規利用者率（要支援1～要介護5）について、人数にかかわらず「5%未満」「5%以上10%未満」が多数を占めている。要支援1・2でみると、0人で「20%以上」、2人以上で「5%以上10%未満」の割合が他と比べてやや高くなっている。

図表 2-57 リハビリ専門職数別の新規利用者数

【訪問看護 n=347】

要支援1～要介護5

		合計	0人	1~2人	3~4人	5~6人	7~8人	9~10人	11人以上	無回答
全体		347 100.0	47 13.5	123 35.4	79 22.8	46 13.3	15 4.3	9 2.6	13 3.7	15 4.3
リハ3職の常勤換算	0人	146 100.0	26 17.8	62 42.5	31 21.2	14 9.6	4 2.7	2 1.4	3 2.1	4 2.7
	1人未満	42 100.0	6 14.3	14 33.3	12 28.6	6 14.3	2 4.8	0 0.0	0 0.0	2 4.8
	1人以上 2人未満	50 100.0	4 8.0	18 36.0	10 20.0	11 22.0	3 6.0	2 4.0	0 0.0	2 4.0
	2人以上	87 100.0	8 9.2	20 23.0	22 25.3	12 13.8	5 5.7	4 4.6	10 11.5	6 6.9

要支援 1・2

		合計	0人	1~2人	3~4人	5人以上	無回答
全体		347 100.0	230 66.3	99 28.5	9 2.6	1 0.3	8 2.3
リハ3職の常勤換算	0人	146 100.0	110 75.3	30 20.5	3 2.1	0 0.0	3 2.1
	1人未満	42 100.0	31 73.8	11 26.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	1人以上 2人未満	50 100.0	31 62.0	15 30.0	3 6.0	0 0.0	1 2.0
	2人以上	87 100.0	44 50.6	36 41.4	3 3.4	1 1.1	3 3.4

図表 2-58 リハビリ専門職数別の新規利用者率

【訪問看護 n=347】

要支援1～要介護5

		合計	5%未満	5%以上 10%未満	10%以上 15%未満	15%以上 20%未満	20%以上	無回答
全体		347 100.0	188 54.2	109 31.4	23 6.6	6 1.7	3 0.9	18 5.2
リハ 3 職 の 常 勤 換 算	0人	146 100.0	70 47.9	56 38.4	9 6.2	5 3.4	1 0.7	5 3.4
	1人未満	42 100.0	25 59.5	10 23.8	5 11.9	0 0.0	0 0.0	2 4.8
	1人以上 2人未満	50 100.0	25 50.0	16 32.0	5 10.0	1 2.0	0 0.0	3 6.0
	2人以上	87 100.0	52 59.8	24 27.6	3 3.4	0 0.0	1 1.1	7 8.0

要支援1・2

		合計	5%未満	5%以上 10%未満	10%以上 15%未満	15%以上 20%未満	20%以上	無回答
全体		347 100.0	229 66.0	27 7.8	23 6.6	14 4.0	38 11.0	16 4.6
リハ 3 職 の 常 勤 換 算	0人	146 100.0	105 71.9	1 0.7	4 2.7	6 4.1	22 15.1	8 5.5
	1人未満	42 100.0	32 76.2	2 4.8	2 4.8	2 4.8	4 9.5	0 0.0
	1人以上 2人未満	50 100.0	30 60.0	2 4.0	5 10.0	5 10.0	6 12.0	2 4.0
	2人以上	87 100.0	49 56.3	18 20.7	10 11.5	1 1.1	5 5.7	4 4.6

(4) リハビリ専門職数別の終了者

リハビリ専門職0人の事業所では、利用者総数が少ない事業所が多いこともあり、要支援1～要介護5で「0人」「1～2人」の割合が特に高い。

終了者率（要支援1～要介護5）について、人数にかかわらず「5%未満」「5%以上 10%未満」の割合が高い。要支援1・2でみると、人数にかかわらず「5%未満」が8割前後を占めている。

図表 2-59 リハビリ専門職数別の終了者数

【訪問看護 n=347】

要支援1～要介護5

		合計	0人	1～2人	3～4人	5～6人	7～8人	9～10人	11人以上	無回答
全体		347	71	127	68	34	21	5	7	14
		100.0	20.5	36.6	19.6	9.8	6.1	1.4	2.0	4.0
リハ 3 職 の 常 勤 換 算	0人	146	36	67	28	5	4	1	1	4
		100.0	24.7	45.9	19.2	3.4	2.7	0.7	0.7	2.7
	1人未満	42	11	16	6	6	0	0	0	3
		100.0	26.2	38.1	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	7.1
	1人以上 2人未満	50	7	15	9	9	6	0	1	3
	100.0	14.0	30.0	18.0	18.0	12.0	0.0	2.0	6.0	
2人以上	87	14	21	22	12	8	3	4	3	
	100.0	16.1	24.1	25.3	13.8	9.2	3.4	4.6	3.4	

要支援1・2

		合計	0人	1～2人	3～4人	無回答
全体		347	275	58	2	12
		100.0	79.3	16.7	0.6	3.5
リハ 3 職 の 常 勤 換 算	0人	146	123	19	0	4
		100.0	84.2	13.0	0.0	2.7
	1人未満	42	32	9	0	1
		100.0	76.2	21.4	0.0	2.4
	1人以上 2人未満	50	39	7	1	3
	100.0	78.0	14.0	2.0	6.0	
2人以上	87	65	18	1	3	
	100.0	74.7	20.7	1.1	3.4	

図表 2-60 リハビリ専門職数別の終了者率

【訪問看護 n=347】

要支援1～要介護5

		合計	5%未満	5%以上 10%未満	10%以上 15%未満	15%以上 20%未満	20%以上	無回答
全体		347 100.0	227 65.4	84 24.2	16 4.6	4 1.2	16 4.6	0 0.0
リハ 3 職 の 常 勤 換 算	0人	146 100.0	98 67.1	30 20.5	9 6.2	4 2.7	5 3.4	0 0.0
	1人未満	42 100.0	31 73.8	8 19.0	0 0.0	0 0.0	3 7.1	0 0.0
	1人以上 2人未満	50 100.0	26 52.0	15 30.0	6 12.0	0 0.0	3 6.0	0 0.0
	2人以上	87 100.0	62 71.3	20 23.0	1 1.1	0 0.0	4 4.6	0 0.0

要支援1・2

		合計	5%未満	5%以上 10%未満	10%以上 15%未満	15%以上 20%未満	20%以上	無回答
全体		347 100.0	274 79.0	15 4.3	15 4.3	8 2.3	15 4.3	20 5.8
リハ 3 職 の 常 勤 換 算	0人	146 100.0	119 81.5	1 0.7	4 2.7	2 1.4	11 7.5	9 6.2
	1人未満	42 100.0	32 76.2	3 7.1	4 9.5	1 2.4	1 2.4	1 2.4
	1人以上 2人未満	50 100.0	38 76.0	0 0.0	4 8.0	2 4.0	2 4.0	4 8.0
	2人以上	87 100.0	70 80.5	8 9.2	3 3.4	1 1.1	1 1.1	4 4.6

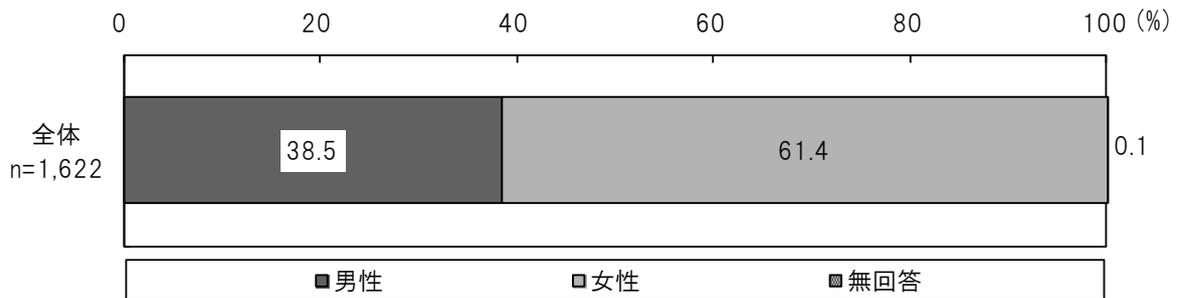
第3章 訪問看護サービス利用者調査 基本集計結果

1 利用者の基本情報

(1) 性別

「男性」が38.5%、「女性」が61.4%となっている。

図表 3-1 性別

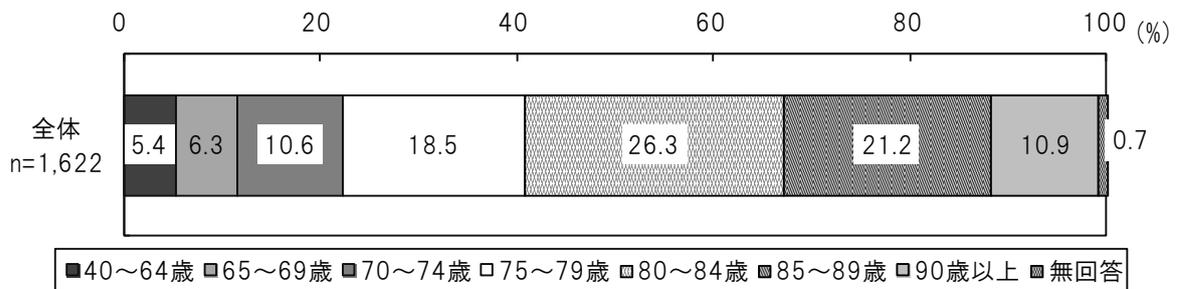


(2) 年齢

「80～84歳」(26.3%)、「85～89歳」(21.2%)、「75～79歳」(18.5%)の割合が比較的高く、75歳以上が8割弱を占めている。一方で、「40～64歳」は、5.4%となっている。

要介護度別でみると、要介護1は、他と比べて80歳以上の割合が高くなっている。

図表 3-2 年齢



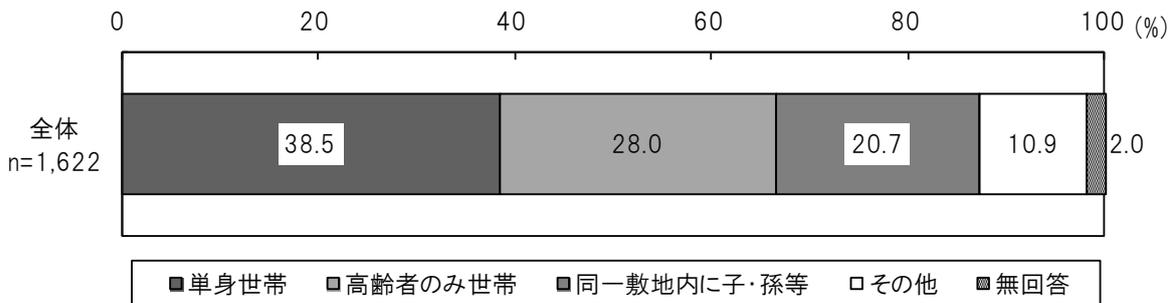
図表 3-3 要介護度別 年齢

		合計	40～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	無回答
全体		1,622	88	102	172	300	427	344	177	12
		100.0	5.4	6.3	10.6	18.5	26.3	21.2	10.9	0.7
要介護度	要支援1	482	26	33	54	99	129	101	36	4
		100.0	5.4	6.8	11.2	20.5	26.8	21.0	7.5	0.8
	要支援2	784	46	46	83	140	204	169	91	5
		100.0	5.9	5.9	10.6	17.9	26.0	21.6	11.6	0.6
要介護度	要介護1	250	7	18	21	41	71	56	34	2
		100.0	2.8	7.2	8.4	16.4	28.4	22.4	13.6	0.8
要介護度	要介護2	106	9	5	14	20	23	18	16	1
		100.0	8.5	4.7	13.2	18.9	21.7	17.0	15.1	0.9

(3) 世帯構成

「単身世帯」の割合が最も高く 38.5%、次いで「高齢者のみ世帯」が 28.0%となっている。
要介護度別でみると、要介護 2 は、要介護 1 以下と比べて、「単身世帯」の割合が低く、「同一敷地内に子・孫等」の割合が高くなっている。

図表 3-4 世帯構成



図表 3-5 要介護度別 世帯構成

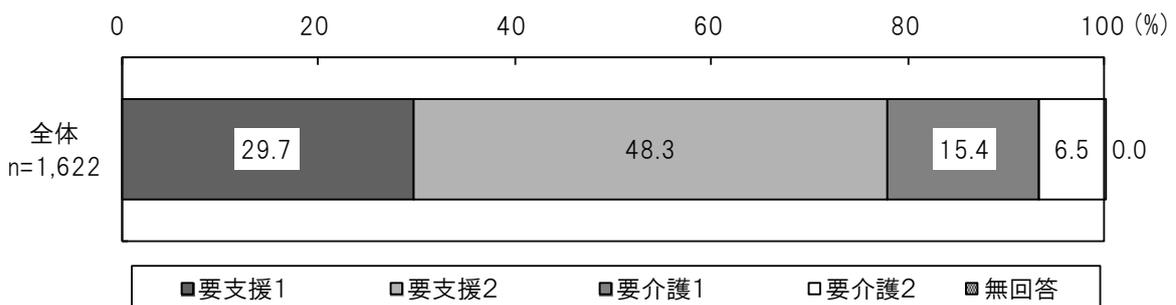
	合計	単身世帯	高齢者のみ世帯	同一敷地内に子・孫等	その他	無回答	
全体	1,622 100.0	625 38.5	454 28.0	335 20.7	176 10.9	32 2.0	
要介護度	要支援1	482 100.0	197 40.9	151 31.3	84 17.4	43 8.9	7 1.5
	要支援2	784 100.0	307 39.2	203 25.9	166 21.2	87 11.1	21 2.7
	要介護1	250 100.0	95 38.0	69 27.6	54 21.6	28 11.2	4 1.6
	要介護2	106 100.0	26 24.5	31 29.2	31 29.2	18 17.0	0 0.0

※「その他」のうち、同一敷地内に子・孫等が居住している旨の記載があった回答については、「同一敷地内に子・孫等」として集計している。

(4) 要介護度

「要支援 2」の割合が最も高く 48.3%、次いで「要支援 1」(29.7%)、「要介護 1」(15.4%)となっている。

図表 3-6 要介護度

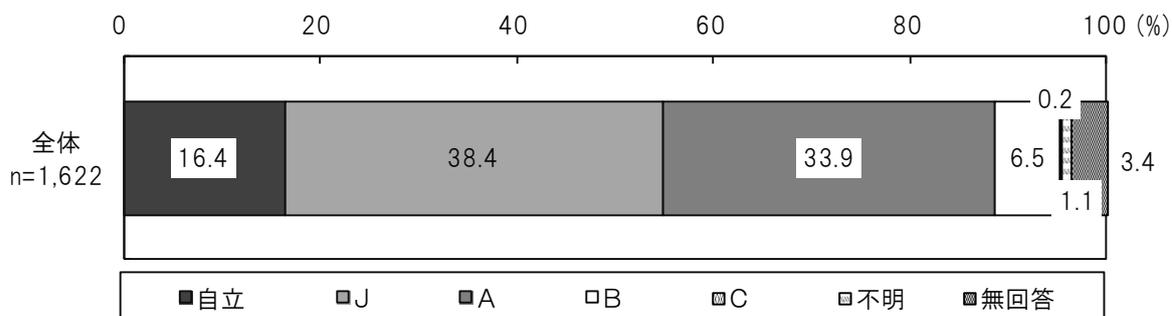


(5) 障害高齢者の日常生活自立度

「J」(38.4%)、「A」(33.9%)が多く、A以下が88.7%となっている。

要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「自立」「J」の割合は低くなり、「A」「B」の割合は高くなっている。

図表 3-7 障害高齢者の日常生活自立度



図表 3-8 要介護度別 障害高齢者の日常生活自立度

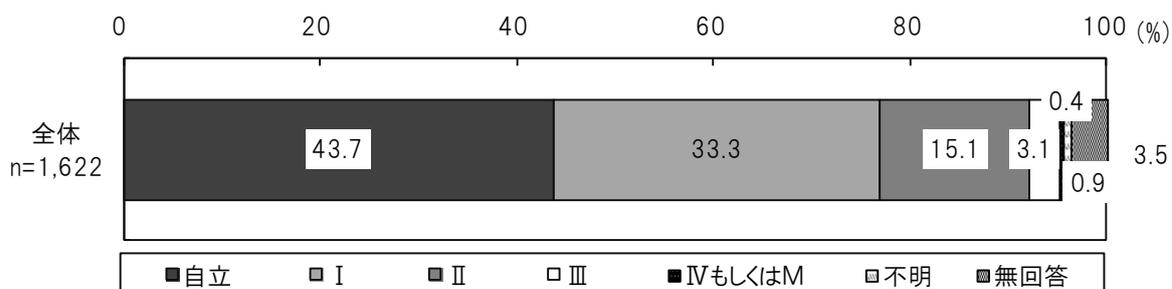
	合計	自立	J	A	B	C	不明	無回答	
全体	1,622	266	623	550	106	4	18	55	
	100.0	16.4	38.4	33.9	6.5	0.2	1.1	3.4	
要介護度	要支援1	482	118	224	108	12	0	3	17
		100.0	24.5	46.5	22.4	2.5	0.0	0.6	3.5
	要支援2	784	106	293	289	47	2	11	36
		100.0	13.5	37.4	36.9	6.0	0.3	1.4	4.6
	要介護1	250	36	81	100	28	1	3	1
	100.0	14.4	32.4	40.0	11.2	0.4	1.2	0.4	
要介護2	106	6	25	53	19	1	1	1	
	100.0	5.7	23.6	50.0	17.9	0.9	0.9	0.9	

(6) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」(43.7%)、「I」(33.3%)が多く、あわせて77.0%となっている。

要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「自立」の割合が低く、「II」「III」の割合が高くなっているが、要支援1でも11.4%が「II」、要支援2でも12.0%が「II」となっている。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



図表 3-10 要介護度別 認知症高齢者の日常生活自立度

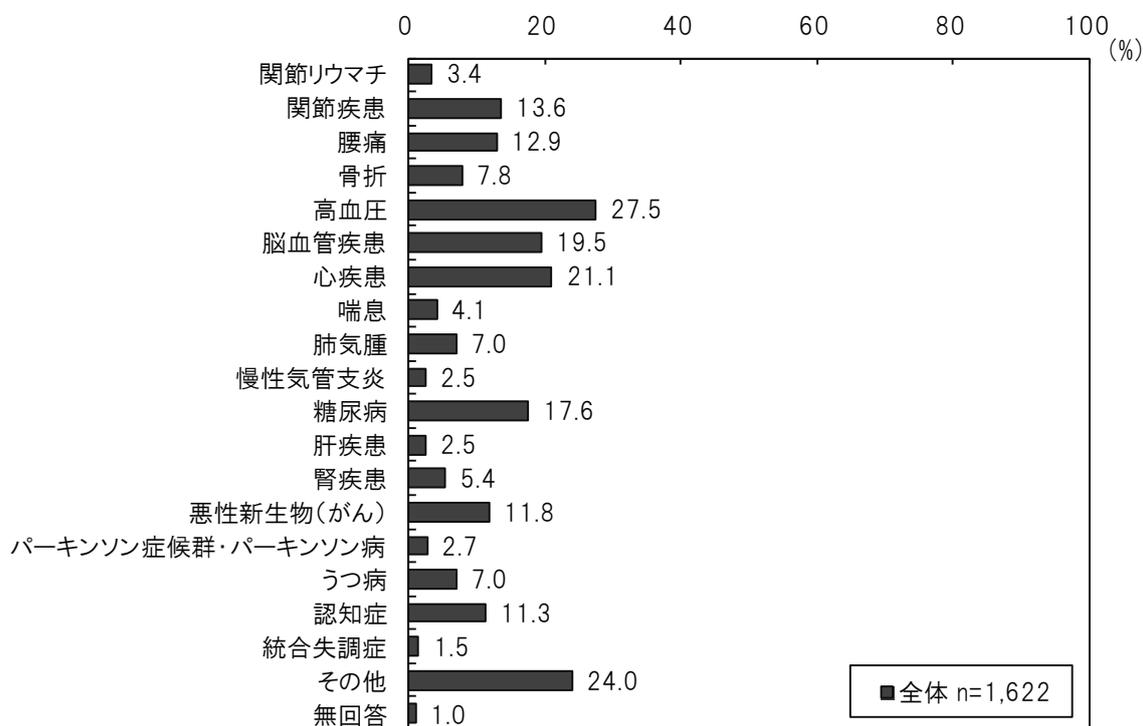
	合計	自立	I	II	III	IVもしくはM	不明	無回答
全体	1,622	709	540	245	50	7	15	56
	100.0	43.7	33.3	15.1	3.1	0.4	0.9	3.5
要介護度	要支援1	482	247	153	55	7	1	17
		100.0	51.2	31.7	11.4	1.5	0.2	3.5
	要支援2	784	364	271	94	11	0	33
		100.0	46.4	34.6	12.0	1.4	0.0	4.2
	要介護1	250	63	80	74	24	4	4
	100.0	25.2	32.0	29.6	9.6	1.6	1.6	
要介護2	106	35	36	22	8	2	1	2
	100.0	33.0	34.0	20.8	7.5	1.9	0.9	1.9

(7) 要支援・要介護状態の直接の原因

「高血圧」(27.5%)、「心疾患」(21.1%)、「脳血管疾患」(19.5%)が比較的高い割合となっている。「その他」としては、様々な原因があげられる中、骨粗鬆症等の「筋骨格系および結合組織の疾患」、間質性肺炎等の「呼吸器系の疾患」等が、比較的多くみられた。

要介護度別でみると、「高血圧」「脳血管疾患」「心疾患」をはじめ、総じて大きな違いはみられないが、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「認知症」の割合が高くなっている。

図表 3-11 要支援・要介護状態の直接の原因(複数回答)



図表 3-1 2 要支援・要介護状態の直接の原因 その他回答

回答内容	件数
筋骨格系および結合組織の疾患	76
呼吸器系の疾患	43
消化器系の疾患	38
循環器系の疾患	35
精神および行動の障害	34
内分泌,栄養および代謝疾患	31
尿路性器系の疾患	28
神経系の疾患	20
眼および付属器の疾患	16
皮膚および皮下組織の疾患	14
損傷,中毒およびその他の外因の影響	12
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	11
感染症および寄生虫症	10
新生物	10
耳および乳様突起の疾患	8
先天奇形,変形および染色体異常	2
その他	31

図表 3-1 3 要介護度別 要支援・要介護状態の直接の原因 (複数回答)

	合計	関節リウマチ	関節疾患	腰痛	骨折	高血圧	脳血管疾患	心疾患	喘息	肺気腫	慢性気管支炎	
全体	1,622 100.0	55 3.4	220 13.6	209 12.9	126 7.8	446 27.5	316 19.5	343 21.1	66 4.1	113 7.0	40 2.5	
要介護度	要支援1	482 100.0	12 2.5	54 11.2	53 11.0	30 6.2	125 25.9	94 19.5	97 20.1	18 3.7	29 6.0	10 2.1
	要支援2	784 100.0	32 4.1	133 17.0	116 14.8	68 8.7	223 28.4	145 18.5	168 21.4	31 4.0	62 7.9	20 2.6
	要介護1	250 100.0	9 3.6	25 10.0	31 12.4	22 8.8	71 28.4	50 20.0	57 22.8	13 5.2	14 5.6	7 2.8
	要介護2	106 100.0	2 1.9	8 7.5	9 8.5	6 5.7	27 25.5	27 25.5	21 19.8	4 3.8	8 7.5	3 2.8
	合計	糖尿病	肝疾患	腎疾患	悪性新生物(がん)	パーキンソン症候群・パーキンソン病	うつ病	認知症	統合失調症	その他	無回答	
全体	1,622 100.0	286 17.6	41 2.5	87 5.4	191 11.8	43 2.7	114 7.0	183 11.3	24 1.5	390 24.0	16 1.0	
要介護度	要支援1	482 100.0	73 15.1	15 3.1	19 3.9	49 10.2	10 2.1	46 9.5	42 8.7	9 1.9	104 21.6	9 1.9
	要支援2	784 100.0	144 18.4	22 2.8	43 5.5	106 13.5	22 2.8	39 5.0	48 6.1	4 0.5	213 27.2	7 0.9
	要介護1	250 100.0	49 19.6	4 1.6	15 6.0	25 10.0	6 2.4	22 8.8	70 28.0	9 3.6	49 19.6	0 0.0
	要介護2	106 100.0	20 18.9	0 0.0	10 9.4	11 10.4	5 4.7	7 6.6	23 21.7	2 1.9	24 22.6	0 0.0

図表 3-1 4 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の有無別 要支援・要介護状態の直接の原因（複数回答）

		合計	関節リウマチ	関節疾患	腰痛	骨折	高血圧	脳血管疾患	心疾患	喘息	肺気腫	慢性気管支炎
全体		1,622 100.0	55 3.4	220 13.6	209 12.9	126 7.8	446 27.5	316 19.5	343 21.1	66 4.1	113 7.0	40 2.5
有 無 の 区 別	いずれも いない	676 100.0	19 2.8	77 11.4	71 10.5	35 5.2	193 28.6	112 16.6	170 25.1	29 4.3	63 9.3	17 2.5
	いずれか がある	888 100.0	34 3.8	134 15.1	124 14.0	84 9.5	240 27.0	197 22.2	165 18.6	35 3.9	42 4.7	21 2.4

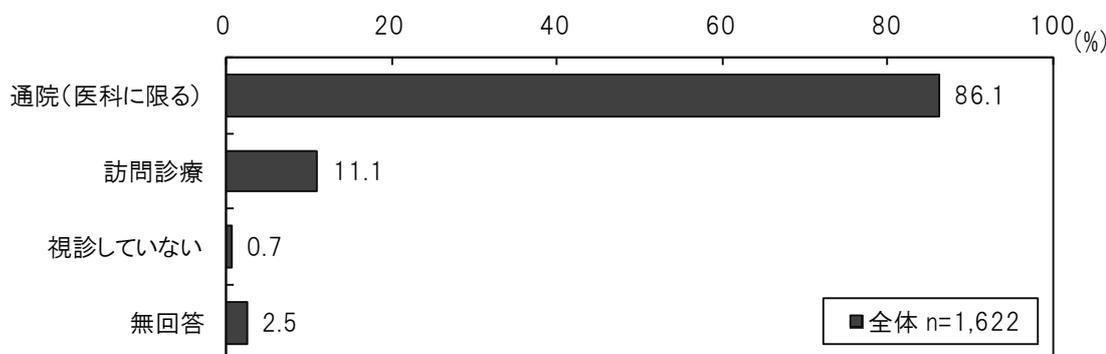
		合計	糖尿病	肝疾患	腎疾患	悪性新生物(がん)	パーキンソン症候群・パーキンソン病	うつ病	認知症	統合失調症	その他	無回答
全体		1,622 100.0	286 17.6	41 2.5	87 5.4	191 11.8	43 2.7	114 7.0	183 11.3	24 1.5	390 24.0	16 1.0
有 無 の 区 別	いずれも いない	676 100.0	119 17.6	21 3.1	38 5.6	88 13.0	15 2.2	51 7.5	86 12.7	14 2.1	170 25.1	7 1.0
	いずれか がある	888 100.0	158 17.8	20 2.3	45 5.1	97 10.9	26 2.9	57 6.4	90 10.1	9 1.0	206 23.2	9 1.0

(8) 受診状況

「通院（医科に限る）」の割合が最も高く 86.1%、「訪問診療」は 11.1%となっている。

要介護別でみると、要介護 2 は、要介護 1 以下と比べて「訪問診療」の割合が高くなっている。

図表 3-1 5 受診状況（複数回答）



図表 3-1 6 要介護度別 受診状況（複数回答）

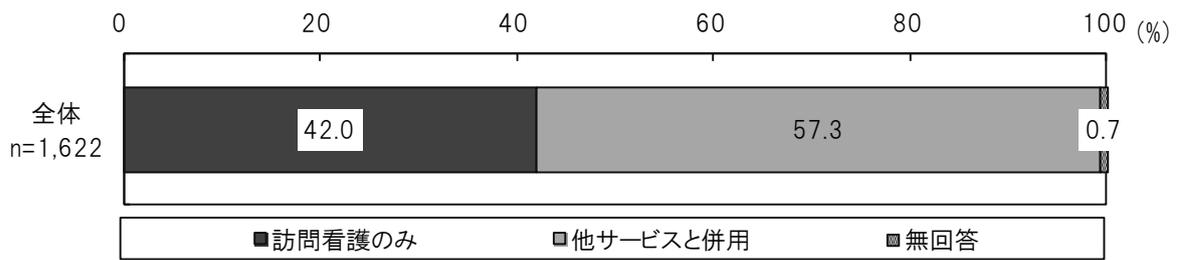
		合計	通院(医科に限る)	訪問診療	視診していない	無回答
全体		1622 100.0	1396 86.1	180 11.1	11 0.7	41 2.5
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	425 88.2	40 8.3	5 1.0	13 2.7
	要支援2	784 100.0	679 86.6	82 10.5	5 0.6	20 2.6
	要介護1	250 100.0	208 83.2	36 14.4	1 0.4	8 3.2
	要介護2	106 100.0	84 79.2	22 20.8	0 0.0	0 0.0

(9) ケアプランに位置付けられているサービス

併用サービスの有無については、「訪問看護のみ」が42.0%、「他サービスと併用」が57.3%となっている。併用サービスの有無を要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「他サービスと併用」の割合が高くなっている。

併用サービスとしては、「訪問介護」の割合が最も高く32.9%、次いで、「通所介護」が17.9%となっている。併用サービスを要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「(介護予防)通所介護」「(介護予防)通所リハビリテーション」の割合が高くなっている。

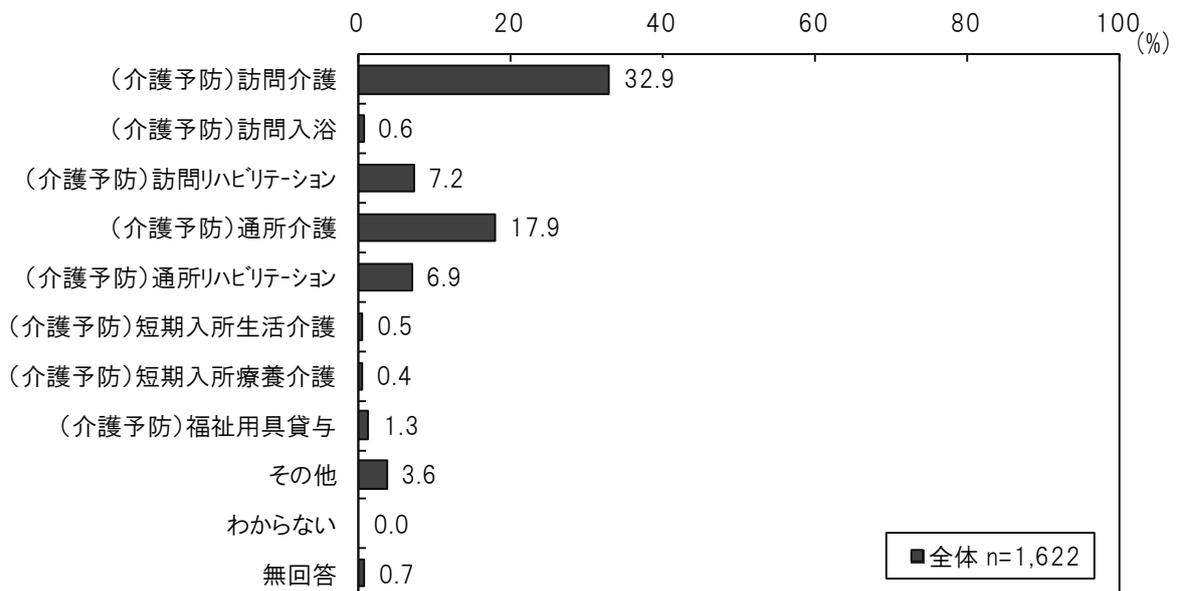
図表 3-17 併用サービスの有無



図表 3-18 要介護度別 併用サービスの有無

		合計	訪問看護のみ	他サービスと併用	無回答
全体		1,622	682	929	11
		100.0	42.0	57.3	0.7
要介護度	要支援1	482	251	227	4
		100.0	52.1	47.1	0.8
	要支援2	784	316	462	6
		100.0	40.3	58.9	0.8
	要介護1	250	80	170	0
	100.0	32.0	68.0	0.0	
	要介護2	106	35	70	1
		100.0	33.0	66.0	0.9

図表 3-19 併用サービス (複数回答)



図表 3-20 要介護度別 併用サービス（複数回答）

	合計	訪問（介護予防） （介護予防）	訪問（介護予防） （介護予防）	訪問（介護予防） （介護予防）	通所（介護予防） （介護予防）	通所（介護予防） （介護予防）	介護短期（介護予防） （介護予防）	介護短期（介護予防） （介護予防）	福祉（介護用具貸与） （介護用具貸与）	
全体	1,622 100.0	534 32.9	10 0.6	116 7.2	290 17.9	112 6.9	8 0.5	7 0.4	21 1.3	
要介護度	要支援1	482 100.0	130 27.0	1 0.2	34 7.1	53 11.0	20 4.1	0 0.0	0 0.0	7 1.5
	要支援2	784 100.0	261 33.3	7 0.9	58 7.4	141 18.0	53 6.8	2 0.3	1 0.1	11 1.4
	要介護1	250 100.0	104 41.6	0 0.0	12 4.8	69 27.6	26 10.4	3 1.2	6 2.4	2 0.8
	要介護2	106 100.0	39 36.8	2 1.9	12 11.3	27 25.5	13 12.3	3 2.8	0 0.0	1 0.9

	合計	その他	わからない	無回答	
全体	1,622 100.0	59 3.6	0 0.0	11 0.7	
要介護度	要支援1	482 100.0	12 2.5	0 0.0	4 0.8
	要支援2	784 100.0	34 4.3	0 0.0	6 0.8
	要介護1	250 100.0	9 3.6	0 0.0	0 0.0
	要介護2	106 100.0	4 3.8	0 0.0	1 0.9

※「その他」のうち、（介護予防）福祉用具貸与と記載があった回答については、「（介護予防）福祉用具貸与」として集計している。

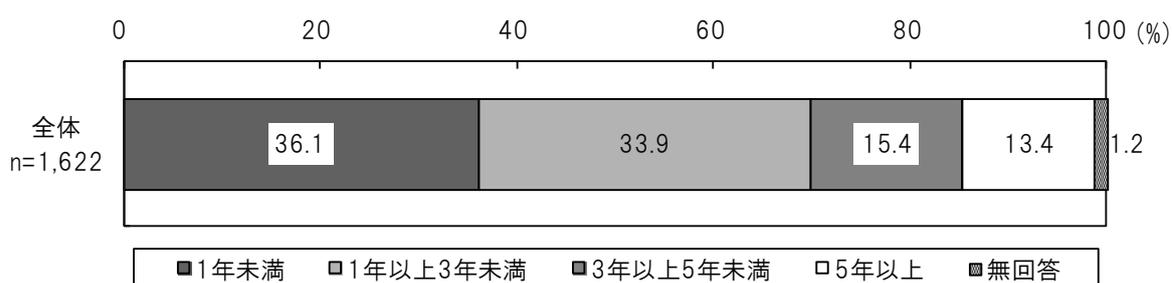
2 サービスの概況

(1) 訪問看護の利用期間

「1年未満」(36.1%)、「1年以上3年未満」(33.9%)が多く、あわせて70.0%となっている。一方で、「5年以上」の割合は13.4%となっている。

要介護度別で見ると、要支援1は、要支援2以上と比べて「1年未満」の割合が高く、要介護2は、要介護1以下と比べて「1年以上3年未満」の割合が高くなっている。3年以上の割合については、要介護度別に大きな違いはみられない。

図表 3-2 1 利用期間



図表 3-2 2 要介護度別 利用期間

		合計	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	無回答
全体		1,622 100.0	586 36.1	550 33.9	249 15.4	217 13.4	20 1.2
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	202 41.9	145 30.1	68 14.1	59 12.2	8 1.7
	要支援2	784 100.0	268 34.2	270 34.4	129 16.5	108 13.8	9 1.1
	要介護1	250 100.0	83 33.2	90 36.0	40 16.0	36 14.4	1 0.4
	要介護2	106 100.0	33 31.1	45 42.5	12 11.3	14 13.2	2 1.9

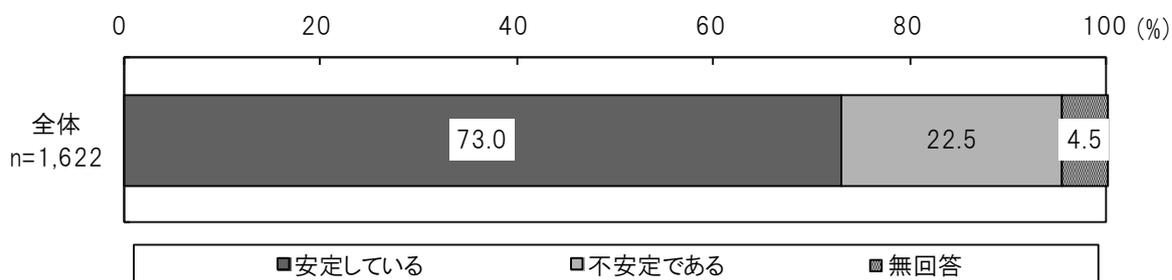
(2) 病状

「安定している」の割合が73.0%を占めており、「不安定である」は22.5%となっている。

要介護度別で見ると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて、「安定している」の割合が低く、「不安定である」の割合が高くなっている。

病状が「不安定である」と回答した人に、その具体的な内容をきいたところ、「病状不安定・悪化」、「精神状態が不安定」「下肢の痛み、転倒しやすい」といった回答がみられた。また、要介護度別では、「呼吸困難、喘息発作あり」(18件)のうち14件、「心疾患の悪化」(13件)(心不全を起こしやすい、狭心発作がある等)のうち7件、「癌の進行」(10件)のうち7件は、要支援者となっている。

図表 3-23 病状



図表 3-24 要介護度別 病状

		合計	安定して いる	不安定で ある	無回答
全体		1,622 100.0	1,184 73.0	365 22.5	73 4.5
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	369 76.6	90 18.7	23 4.8
	要支援2	784 100.0	583 74.4	164 20.9	37 4.7
	要介護1	250 100.0	161 64.4	79 31.6	10 4.0
	要介護2	106 100.0	71 67.0	32 30.2	3 2.8

図表 3-25 病状不安定の具体的な内容

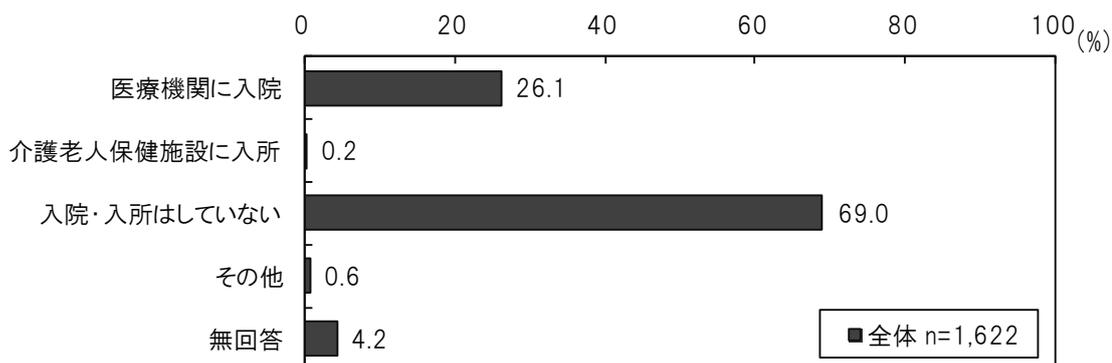
回答内容	件数
病状不安定・悪化	49
精神状態が不安定	28
下肢の痛み、転倒しやすい	27
血圧が不安定	24
血糖値が不安定	24
呼吸困難、喘息発作あり	18
認知症症状の進行	17
皮膚状態の悪化	14
心疾患の悪化	13
術後、退院直後、入退院の繰り返し	11
癌の進行	10
めまい	9
医療機器	7
食欲不振、栄養不良	7
腹痛・便秘・下痢	6
疼痛	4
意欲低下	3
その他	17

(3) 過去1年間の入院等の有無

「入院・入所はしていない」の割合が最も高く69.0%、次いで「医療機関に入院」が26.1%となっている。

要介護度別で見ると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「入院・入所はしていない」の割合が低く、「医療機関に入院」の割合が高くなっている。

図表 3-26 過去1年間の入院等の有無（複数回答）



図表 3-27 要介護度別 過去1年間の入院等の有無（複数回答）

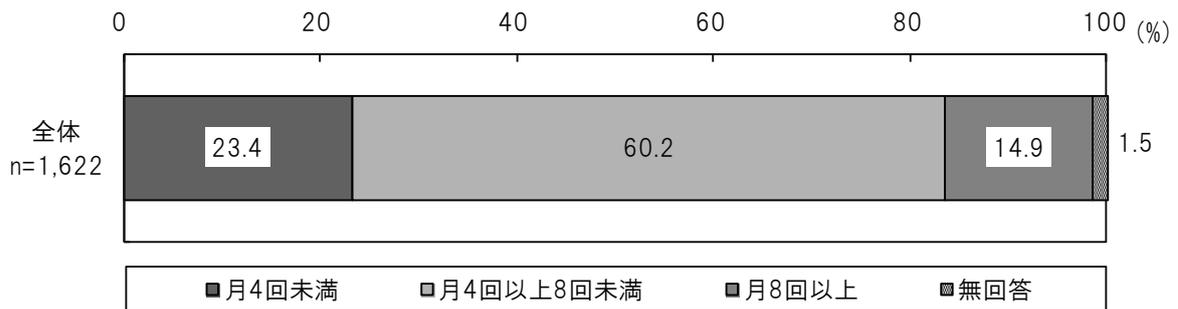
	合計	医療機関 に入院	介護老人 保健施設 に入所	入院・入 所はして いない	その他	無回答	
全体	1,622 100.0	423 26.1	3 0.2	1,119 69.0	10 0.6	68 4.2	
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	103 21.4	0 0.0	358 74.3	3 0.6	18 3.7
	要支援2	784 100.0	204 26.0	1 0.1	535 68.2	6 0.8	38 4.8
	要介護1	250 100.0	81 32.4	1 0.4	159 63.6	1 0.4	8 3.2
	要介護2	106 100.0	35 33.0	1 0.9	67 63.2	0 0.0	4 3.8

(4) 1か月間の利用回数

「月4回以上8回未満」(週平均1回以上2回未満)の割合が最も高く60.2%、次いで、「月4回未満」(週平均1回未満)の割合が23.4%となっている。「月8回以上」(週平均2回以上)の割合は14.9%となっている。

要介護度別でみると、要支援1・2は、要介護1・2と比べて「月4回未満」の割合が高くなっている。また、要介護度が上がるにつれて、「月8回以上」の割合が高くなる。

図表 3-28 1か月間の利用回数



図表 3-29 要介護度別 1か月間の利用回数

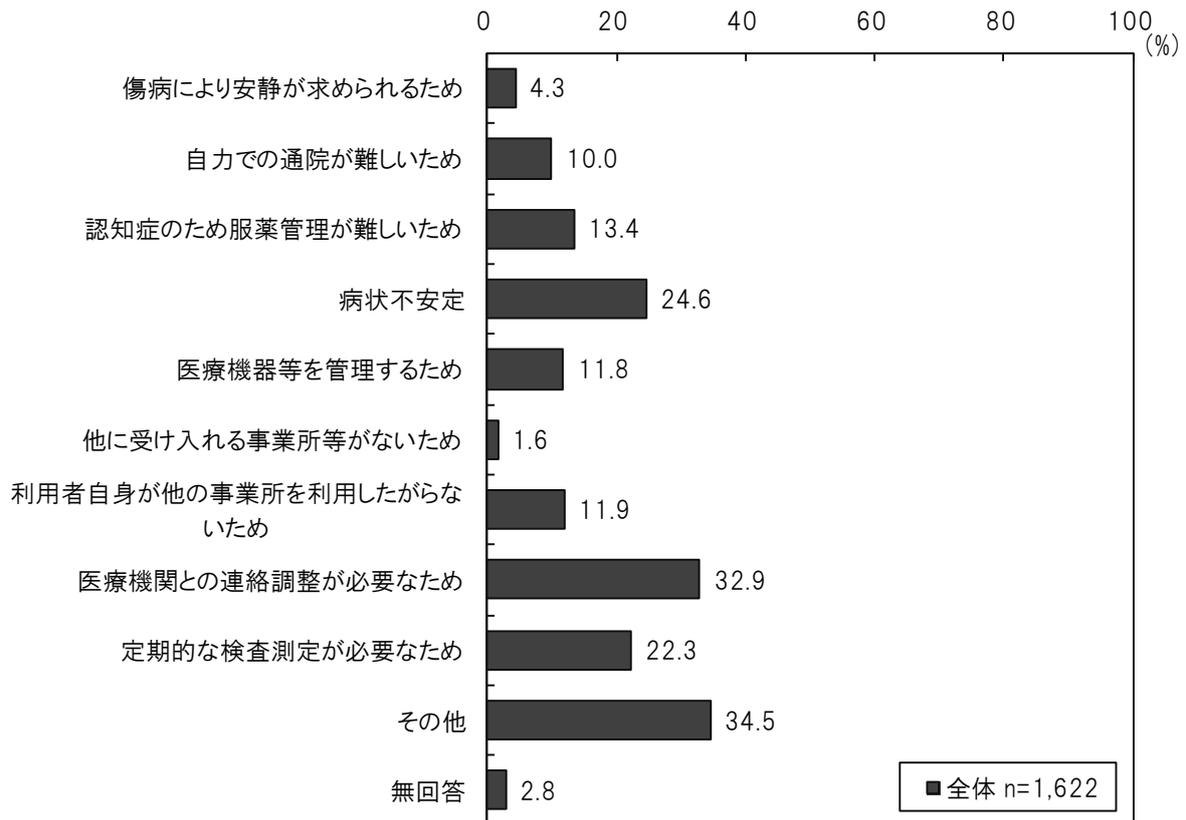
		合計	月4回未満	月4回以上8回未満	月8回以上	無回答
全体		1,622 100.0	379 23.4	977 60.2	242 14.9	24 1.5
要介護度	要支援1	482 100.0	154 32.0	296 61.4	20 4.1	12 2.5
	要支援2	784 100.0	189 24.1	459 58.5	126 16.1	10 1.3
	要介護1	250 100.0	22 8.8	174 69.6	54 21.6	0 0.0
	要介護2	106 100.0	14 13.2	48 45.3	42 39.6	2 1.9

(5) 訪問看護を継続している理由

「その他」を除くと、最も割合が高いのは、「医療機関との連絡調整が必要なため」で 32.9%、次いで、「病状不安定」が 24.6%となっている。「その他」としては、「リハビリが必要」、「医療行為が必要」「精神支援」といった回答が比較的多くみられた。

要介護度別で見ると、要介護 1・2 は、要支援 1・2 と比べて「認知症のため服薬管理が難しいため」「医療機関との連絡調整が必要なため」の割合が高くなっている。

図表 3-30 訪問看護を継続している理由（複数回答）



図表 3-31 訪問看護を継続している理由 その他回答

回答内容	件数
リハビリが必要	131
医療行為が必要	86
精神支援	78
状態観察・管理、悪化予防	51
認知症ではないが服薬管理が必要	36
ADLの維持・低下予防	35
その他	29
独居、日中独居	24
入浴	23
生活指導・相談	20
家族の希望	19
体力維持、運動機会の提供	7
認知機能の低下予防	6
転倒予防	5
疼痛等の緩和・予防	3

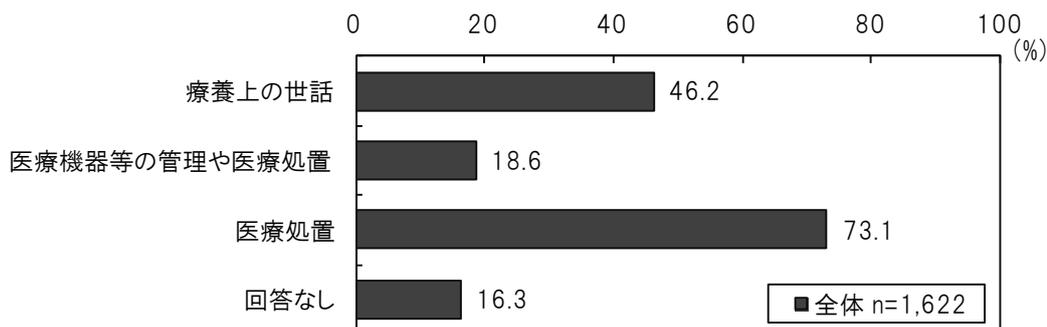
3 看護サービスの提供状況

(1) 看護職員による医療行為

看護職員による医療行為としては、「療養上の世話」が46.2%、「医療機器等の管理や医療処置」が10.9%、「医療処置」が73.1%となっている。

要介護度別で見ると、要介護度が上がるにつれて「療養上の世話」の割合が高くなっている。また、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「医療処置」の割合が高くなっている。

図表 3-3 3 看護職員による医療行為（複数回答）



図表 3-3 4 要介護度別 看護職員による医療行為（複数回答）

	合計	療養上の世話	医療機器等の管理や医療処置	医療処置	無回答	
全体	1,622 100.0	749 46.2	302 18.6	1,186 73.1	264 16.3	
要介護度	要支援1	482 100.0	201 41.7	76 15.8	341 70.7	95 19.7
	要支援2	784 100.0	351 44.8	162 20.7	558 71.2	141 18.0
	要介護1	250 100.0	127 50.8	38 15.2	204 81.6	18 7.2
	要介護2	106 100.0	70 66.0	26 24.5	83 78.3	10 9.4

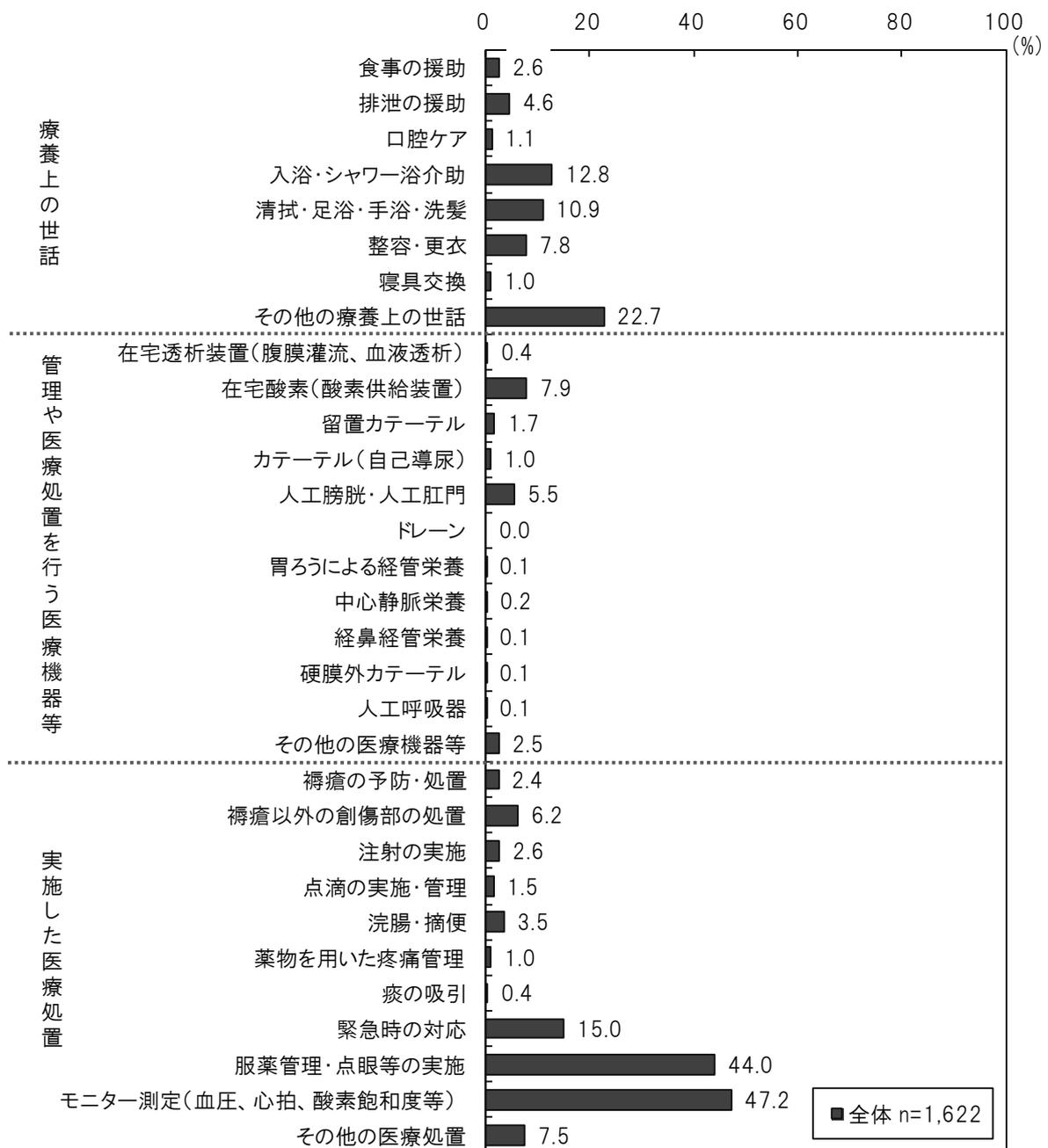
(2) 医療行為の内容

療養上の世話については、「入浴・シャワー浴介助」(12.8%)、「清拭・足浴・手浴・洗髪」(10.9%)等となっている。「その他の療養上の世話」としては、療養・生活の相談・指導、病状観察・体調管理・バイタルチェックといった回答がみられた。

管理や医療処置を行う医療機器等については、「在宅酸素(酸素供給装置)」が7.9%、「人工膀胱・人工肛門」が5.5%となっている。

実施した医療処置で割合が高いのは、「モニター測定(血圧、心拍、酸素飽和度等)」が47.2%、「服薬管理・点眼等の実施」が44.0%となっている。

図表 3-35 医療行為の内容(複数回答)



図表 3-36 療養上の世話 その他回答

回答内容	件数
療養・生活の相談・指導	100
状態観察・管理	98
精神支援	45
つめ切り	39
その他	37

療養上の世話について要介護度別でみると、「その他」を除き、いずれの選択肢も要介護度が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。要介護2は、要介護1以下と比べて、特に「入浴・シャワー浴介助」「清拭・足浴・手浴・洗髪」「整容・更衣」の割合が高くなっている。

図表 3-37 要介護度別 療養上の世話（複数回答）

	合計	食事の援助	排泄の援助	口腔ケア	入浴・シャワー浴介助	清拭・足浴・手浴・洗髪	整容・更衣	寝具交換	その他の療養上の世話	
全体	1,622 100.0	42 2.6	74 4.6	18 1.1	207 12.8	176 10.9	127 7.8	17 1.0	368 22.7	
要介護度	要支援1	482 100.0	11 2.3	12 2.5	2 0.4	25 5.2	34 7.1	17 3.5	3 0.6	137 28.4
	要支援2	784 100.0	13 1.7	29 3.7	7 0.9	107 13.6	74 9.4	55 7.0	8 1.0	164 20.9
	要介護1	250 100.0	11 4.4	18 7.2	4 1.6	46 18.4	41 16.4	24 9.6	2 0.8	48 19.2
	要介護2	106 100.0	7 6.6	15 14.2	5 4.7	29 27.4	27 25.5	31 29.2	4 3.8	19 17.9

管理や医療処置を行う医療機器等について要介護度別でも、大きな違いはみられない。

図表 3-38 要介護度別 管理や医療処置を行う医療機器等（複数回答）

	合計	在宅透析装置（腹膜灌流、血液透析）	在宅酸素（酸素供給装置）	留置カテーテル	カテーテル（自己導尿）	人工膀胱・人工肛門	ドレーン	胃ろうによる経管栄養	中心静脈栄養	
全体	1,622 100.0	6 0.4	128 7.9	27 1.7	16 1.0	90 5.5	0 0.0	2 0.1	4 0.2	
要介護度	要支援1	482 100.0	0 0.0	35 7.3	2 0.4	5 1.0	19 3.9	0 0.0	2 0.4	0 0.0
	要支援2	784 100.0	4 0.5	68 8.7	16 2.0	8 1.0	53 6.8	0 0.0	0 0.0	3 0.4
	要介護1	250 100.0	0 0.0	16 6.4	4 1.6	0 0.0	12 4.8	0 0.0	0 0.0	1 0.4
	要介護2	106 100.0	2 1.9	9 8.5	5 4.7	3 2.8	6 5.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0

	合計	経鼻経管栄養	硬膜外カテーテル	人工呼吸器	その他の医療機器等
全体	1,622 100.0	2 0.1	2 0.1	2 0.1	40 2.5
要介護度	要支援1	482 100.0	1 0.2	1 0.2	12 2.5
	要支援2	784 100.0	1 0.1	1 0.1	19 2.4
	要介護1	250 100.0	0 0.0	0 0.0	6 2.4
	要介護2	106 100.0	0 0.0	0 0.0	3 2.8

実施した医療処置について要介護度別で見ると、要介護2は、要介護1以下と比べて「褥瘡の予防・処置」「褥瘡以外の創傷部の処置」「浣腸・摘便」の割合が高くなっている。また、全体で割合の高い「服薬管理・点眼等の実施」の割合は、要介護1に占める割合が他と比べて高く、「モニター測定（血圧、心拍、酸素飽和度）」は、要介護度に大きな違いはみられない。

図表 3-39 要介護度別 実施した医療処置（複数回答）

	合計	置褥瘡の予防・処	部褥瘡処以外の創傷	注射の実施	理点滴の実施・管	浣腸・摘便	痛薬物を用いた疼	痰の吸引	緊急時の対応	
全体	1,622 100.0	39 2.4	100 6.2	42 2.6	24 1.5	56 3.5	17 1.0	7 0.4	244 15.0	
要介護度	要支援1	482 100.0	6 1.2	21 4.4	10 2.1	5 1.0	12 2.5	7 1.5	3 0.6	76 15.8
	要支援2	784 100.0	14 1.8	48 6.1	18 2.3	10 1.3	25 3.2	4 0.5	3 0.4	109 13.9
	要介護1	250 100.0	9 3.6	17 6.8	11 4.4	5 2.0	7 2.8	4 1.6	1 0.4	40 16.0
	要介護2	106 100.0	10 9.4	14 13.2	3 2.8	4 3.8	12 11.3	2 1.9	0 0.0	19 17.9
	合計	1,622 100.0	714 44.0	766 47.2	121 7.5					
要介護度	要支援1	482 100.0	209 43.4	234 48.5	32 6.6					
	要支援2	784 100.0	305 38.9	375 47.8	55 7.0					
	要介護1	250 100.0	151 60.4	109 43.6	25 10.0					
	要介護2	106 100.0	49 46.2	48 45.3	9 8.5					
	合計	1,622 100.0	714 44.0	766 47.2	121 7.5					

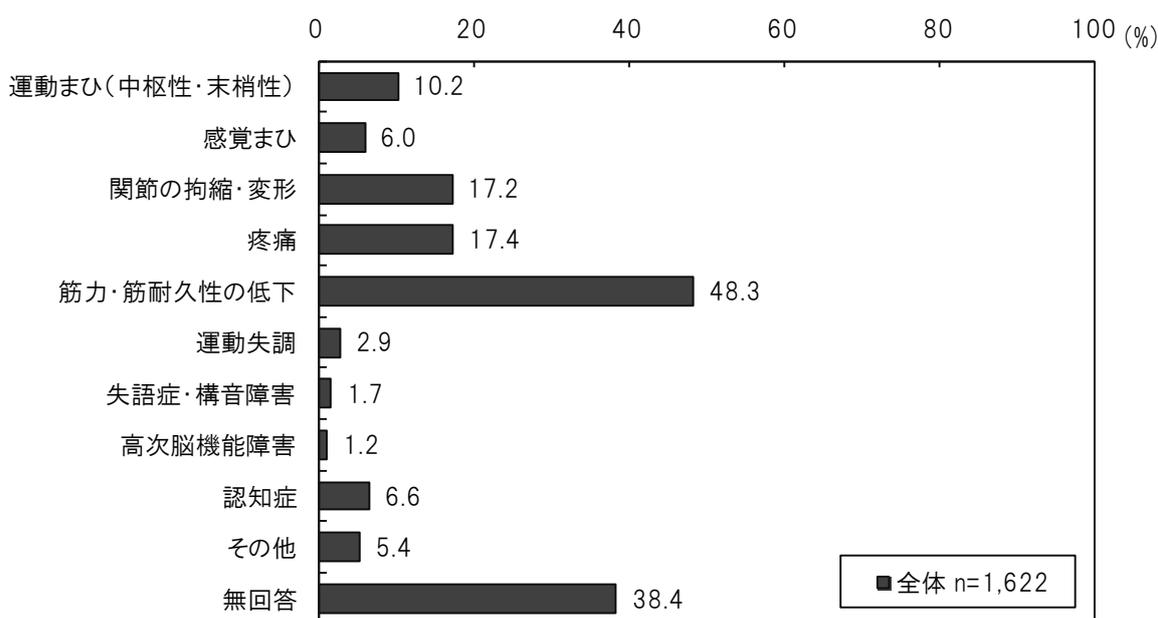
4 リハビリテーションの実施状況

(1) リハビリテーションが必要な心身の状態

「筋力・筋耐久性の低下」の割合が最も高く48.3%、次いで、「疼痛」(17.4%)、「関節の拘縮・変形」(17.2%)となっている。

要介護度別でみると、要介護2は、要介護1以下と比べて「運動まひ(中枢性・末梢性)」「感覚まひ」の割合が高くなっている。また、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「認知症」の割合が高くなっている。

図表 3-40 リハビリテーションが必要な心身の状態（複数回答）



図表 3-41 要介護度別 リハビリテーションが必要な心身の状態（複数回答）

	合計	運動まひ (中枢性・ 末梢性)	感覚まひ	関節の拘 縮・変形	疼痛	筋力・筋 耐久性の 低下	運動失調	失語症・ 構音障害	高次脳機 能障害	
		割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	
全体	1,622	166	97	279	282	784	47	28	20	
	100.0	10.2	6.0	17.2	17.4	48.3	2.9	1.7	1.2	
要 介 護 度	要支援1	482	31	22	65	73	210	11	11	6
		100.0	6.4	4.6	13.5	15.1	43.6	2.3	2.3	1.2
	要支援2	784	93	46	156	161	406	23	9	10
		100.0	11.9	5.9	19.9	20.5	51.8	2.9	1.1	1.3
要介護1	250	22	16	35	33	113	8	5	3	
	100.0	8.8	6.4	14.0	13.2	45.2	3.2	2.0	1.2	
要介護2	106	20	13	23	15	55	5	3	1	
	100.0	18.9	12.3	21.7	14.2	51.9	4.7	2.8	0.9	

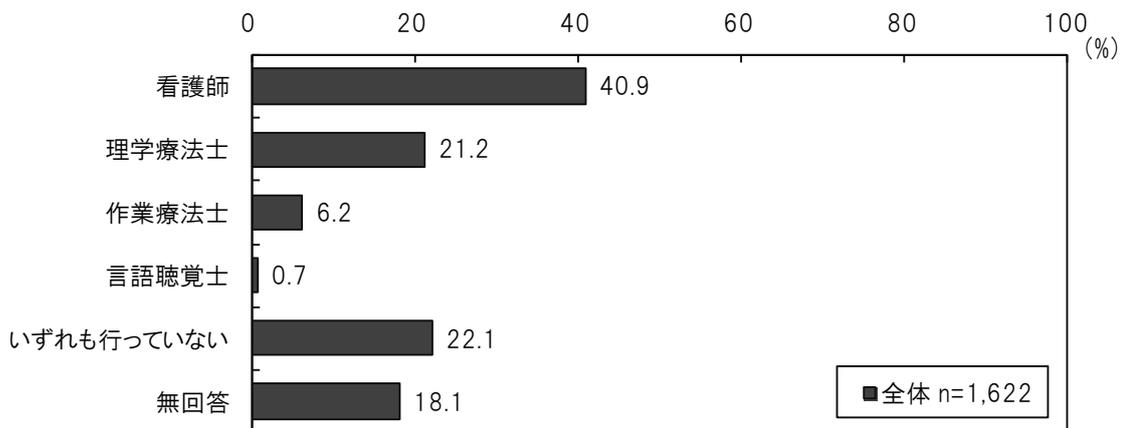
		合計	認知症	その他	無回答
全体		1,622	107	88	623
		100.0	6.6	5.4	38.4
要介護度	要支援1	482	27	31	199
		100.0	5.6	6.4	41.3
	要支援2	784	27	42	279
		100.0	3.4	5.4	35.6
	要介護1	250	41	8	110
	100.0	16.4	3.2	44.0	
	要介護2	106	12	7	35
		100.0	11.3	6.6	33.0

(2) 専門職によるリハビリテーションの実施状況

「看護師」が40.9%と最も割合が高く、次いで「理学療法士」が21.2%となっている。また、「いずれも行っていない」は22.1%となっている。

要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて、「看護師」の割合が高くなっている。また、要介護2は、要介護1以下と比べて「いずれも行っていない」の割合が低くなっている。

図表 3-4 2 専門職によるリハビリテーションの実施状況（複数回答）



図表 3-4 3 要介護度別 専門職によるリハビリテーションの実施状況（複数回答）

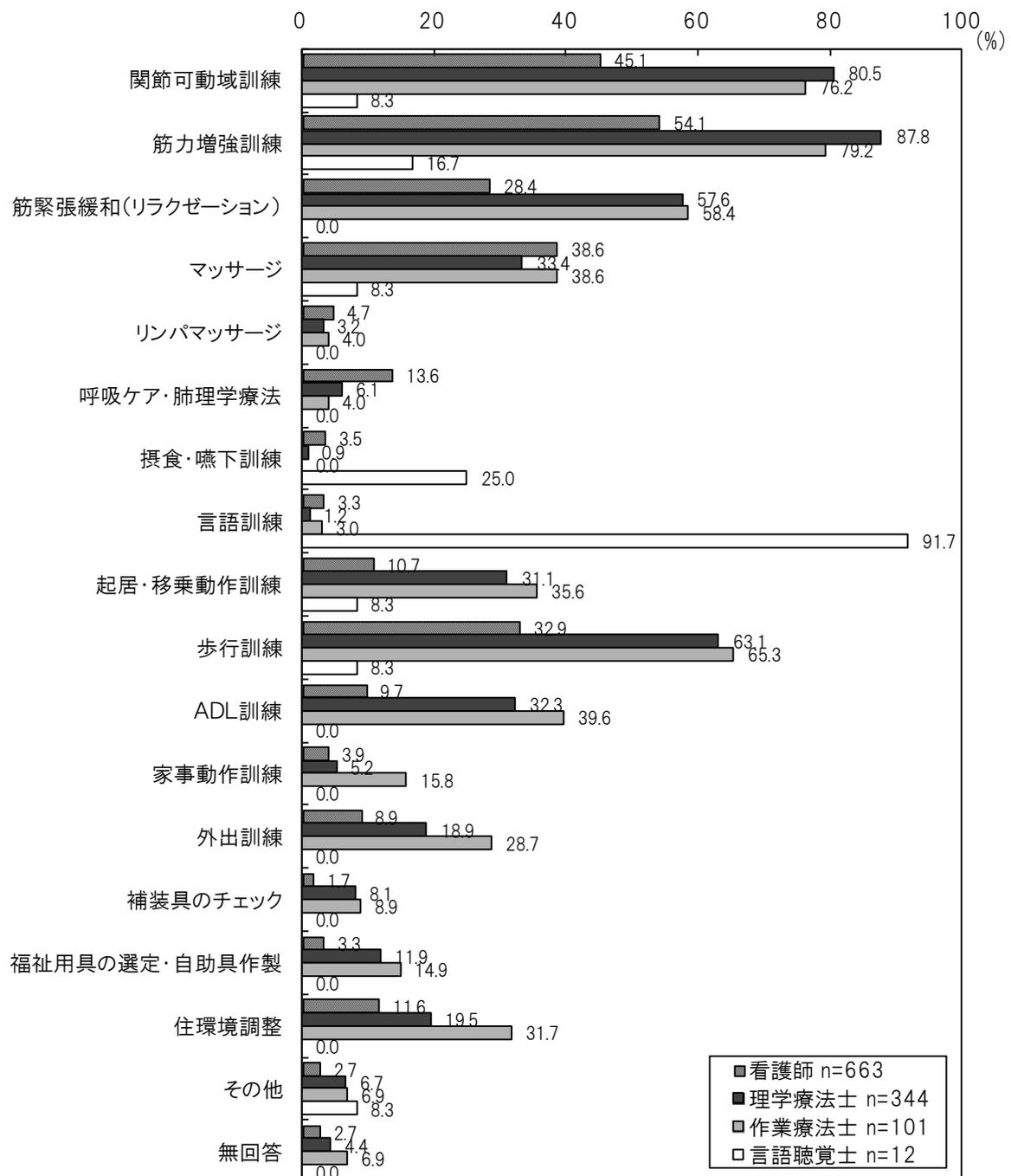
		合計	看護師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	いずれも行っていない	無回答
全体		1,622	663	344	101	12	359	294
		100.0	40.9	21.2	6.2	0.7	22.1	18.1
要介護度	要支援1	482	161	96	36	7	114	97
		100.0	33.4	19.9	7.5	1.5	23.7	20.1
	要支援2	784	325	194	53	4	166	126
		100.0	41.5	24.7	6.8	0.5	21.2	16.1
	要介護1	250	116	35	7	1	65	49
	100.0	46.4	14.0	2.8	0.4	26.0	19.6	
	要介護2	106	61	19	5	0	14	22
		100.0	57.5	17.9	4.7	0.0	13.2	20.8

(3) 職種別のリハビリテーションの内容

看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がリハビリを実施していると回答した人に、各専門職が実施しているリハビリテーションの内容をきいた。看護師・理学療法士・作業療法士いずれも、「関節可動域訓練」「筋力増強訓練」の割合が高くなっている。一方、言語聴覚士は、「言語訓練」の割合が最も高く 91.7%となっている。

看護師のリハビリテーションの内容を要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「関節可動域訓練」の割合が高くなっている。理学療法士のリハビリテーションの内容を要介護度別でみると、要介護2はサンプル数が少ないものの「関節可動域訓練」「筋力増強訓練」が100.0%となっている。

図表 3-4 4 職種別のリハビリテーションの内容（複数回答）



図表 3-4 5 要介護度別 リハビリテーションの内容（看護師）（複数回答）

	合計	関節可動域訓練	筋力増強訓練	シ（筋緊張緩和） ョリ（クゼ） ンクゼ	マッサージ	サリンジパマツ	理学療法 呼吸ケア・肺	練習・嚥下訓練	言語訓練	起居訓練・移乗動作	
全体	663 100.0	299 45.1	359 54.1	188 28.4	256 38.6	31 4.7	90 13.6	23 3.5	22 3.3	71 10.7	
要介護度	要支援1	161 100.0	55 34.2	81 50.3	47 29.2	50 31.1	9 5.6	24 14.9	4 2.5	5 3.1	13 8.1
	要支援2	325 100.0	153 47.1	174 53.5	89 27.4	140 43.1	17 5.2	46 14.2	10 3.1	6 1.8	42 12.9
	要介護1	116 100.0	54 46.6	69 59.5	33 28.4	38 32.8	3 2.6	13 11.2	6 5.2	7 6.0	7 6.0
	要介護2	61 100.0	37 60.7	35 57.4	19 31.1	28 45.9	2 3.3	7 11.5	3 4.9	4 6.6	9 14.8

	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	外出訓練	チ補 ェ装 ツ具 クの	製定福 ・社 自 助 具 の 作 選	住 環 境 調 整	そ の 他	無 回 答	
全体	663 100.0	218 32.9	64 9.7	26 3.9	59 8.9	11 1.7	22 3.3	77 11.6	18 2.7	18 2.7	
要介護度	要支援1	161 100.0	43 26.7	12 7.5	10 6.2	23 14.3	4 2.5	3 1.9	19 11.8	7 4.3	7 4.3
	要支援2	325 100.0	108 33.2	34 10.5	10 3.1	19 5.8	2 0.6	13 4.0	31 9.5	8 2.5	7 2.2
	要介護1	116 100.0	44 37.9	10 8.6	3 2.6	13 11.2	2 1.7	4 3.4	15 12.9	1 0.9	4 3.4
	要介護2	61 100.0	23 37.7	8 13.1	3 4.9	4 6.6	3 4.9	2 3.3	12 19.7	2 3.3	0 0.0

図表 3-4 6 要介護度別 リハビリテーションの内容（理学療法士）（複数回答）

	合計	関節可動域訓練	筋力増強訓練	シ（筋緊張緩和） ョ（ラケゼ） ン（クゼ） （ー）	マッサージ	サリンジパマツ	理学療法・呼吸ケア・肺	練習・食事・嚥下訓練	言語訓練	起居訓練・移動
全体	344 100.0	277 80.5	302 87.8	198 57.6	115 33.4	11 3.2	21 6.1	3 0.9	4 1.2	107 31.1
要介護度	要支援1	96 100.0	82 85.4	88 91.7	52 54.2	34 35.4	3 3.1	3 3.1	0 0.0	1 29.2
	要支援2	194 100.0	154 79.4	167 86.1	116 59.8	63 32.5	5 2.6	15 7.7	3 1.5	1 0.5
	要介護1	35 100.0	22 62.9	28 80.0	16 45.7	8 22.9	2 5.7	1 2.9	0 0.0	1 17.1
	要介護2	19 100.0	19 100.0	19 100.0	14 73.7	10 52.6	1 5.3	2 10.5	0 0.0	1 5.3

	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	外出訓練	補装具の チエツク	福祉用具の 製・社 定・自 用・具 の選	住環境調整	その他	無回答
全体	344 100.0	217 63.1	111 32.3	18 5.2	65 18.9	28 8.1	41 11.9	67 19.5	23 6.7	15 4.4
要介護度	要支援1	96 100.0	64 66.7	31 32.3	6 6.3	21 21.9	6 6.3	11 11.5	10 10.4	7 7.3
	要支援2	194 100.0	117 60.3	59 30.4	7 3.6	36 18.6	15 7.7	24 12.4	43 22.2	14 7.2
	要介護1	35 100.0	21 60.0	14 40.0	2 5.7	5 14.3	5 14.3	4 11.4	9 25.7	1 2.9
	要介護2	19 100.0	15 78.9	7 36.8	3 15.8	3 15.8	2 10.5	2 10.5	5 26.3	1 5.3

図表 3-47 要介護度別 リハビリテーションの内容（作業療法士）（複数回答）

	合計	関節可動域訓練	筋力増強訓練	シ（筋緊張緩和） ョ（ラケゼ） ン（クゼ） （ー）	マッサージ	サリンジパマツ	理学療法・呼吸ケア・肺	練習・食事・嚥下訓練	言語訓練	起居訓練・移動	
全体	101 100.0	77 76.2	80 79.2	59 58.4	39 38.6	4 4.0	4 4.0	0 0.0	3 3.0	36 35.6	
要介護度	要支援1	36 100.0	28 77.8	30 83.3	25 69.4	12 33.3	2 5.6	0 0.0	0 0.0	11 30.6	
	要支援2	53 100.0	40 75.5	40 75.5	28 52.8	20 37.7	2 3.8	4 7.5	0 0.0	3 5.7	20 37.7
	要介護1	7 100.0	5 71.4	6 85.7	3 42.9	4 57.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 28.6	2 28.6
	要介護2	5 100.0	4 80.0	4 80.0	3 60.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0

	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	外出訓練	チ補 ェ装 ツ具 クの	製定福 ・社 自 助 具 の 作 選	住 環 境 調 整	そ の 他	無 回 答	
全体	101 100.0	66 65.3	40 39.6	16 15.8	29 28.7	9 8.9	15 14.9	32 31.7	7 6.9	7 6.9	
要介護度	要支援1	36 100.0	24 66.7	18 50.0	5 13.9	14 38.9	3 8.3	8 22.2	10 27.8	2 5.6	1 2.8
	要支援2	53 100.0	35 66.0	16 30.2	8 15.1	14 26.4	5 9.4	6 11.3	17 32.1	5 9.4	4 7.5
	要介護1	7 100.0	5 71.4	4 57.1	1 14.3	0 0.0	1 14.3	0 0.0	2 28.6	0 0.0	1 14.3
	要介護2	5 100.0	2 40.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	3 60.0	0 0.0	1 20.0

図表 3-48 要介護度別 リハビリテーションの内容（言語聴覚士）（複数回答）

	合計	関節可動域訓練	筋力増強訓練	筋緊張緩和（リラクゼーション）	マッサージ	リンパマッサージ	呼吸ケア・理学療法	摂食・嚥下訓練	言語訓練	起居・移乗動作訓練
全体	12 100.0	1 8.3	2 16.7	0 0.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	3 25.0	11 91.7	1 8.3
要介護度	要支援1	7 100.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	7 100.0	0 0.0
	要支援2	4 100.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	3 75.0	1 25.0
	要介護1	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	要介護2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

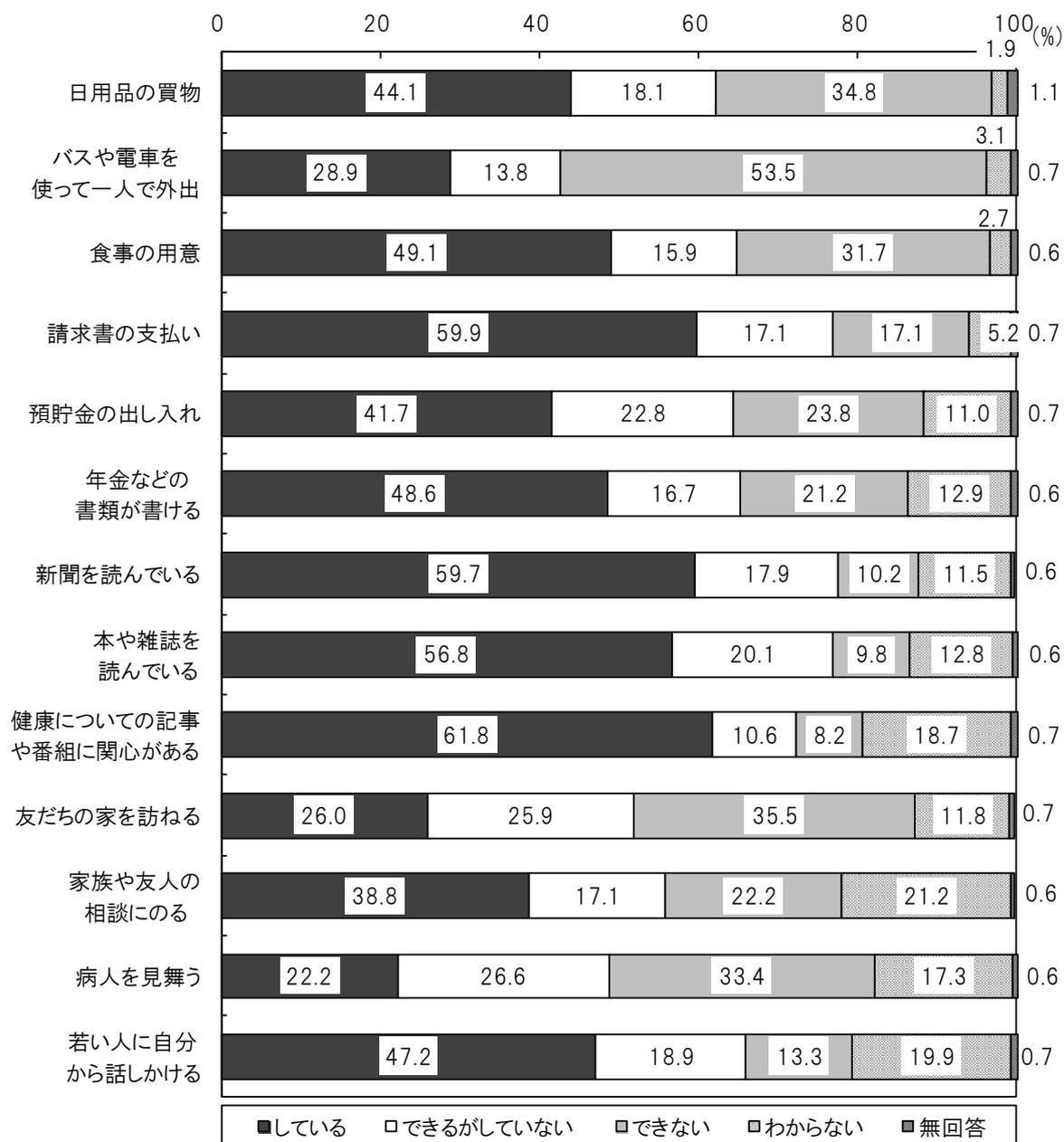
	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	外出訓練	補装具のチェック	福祉用具の選定・製作	住環境調整	その他	無回答
全体	12 100.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0
要介護度	要支援1	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0
	要支援2	4 100.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	要介護1	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	要介護2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

5 IADLの状況

「している」の割合が高いのは、『請求書の支払い』(59.9%)、『新聞を読んでいる』(59.7%)、『本や雑誌を読んでいる』(56.8%)、『健康についての記事や番組に関心がある』(61.8%)となっている。一方、「できない」の割合が最も高いのは、『バスや電車で使って一人で外出』で53.5%、次いで『友だちの家を訪ねる』(35.5%)、『日用品の買い物』(34.8%)、『病人を見舞う』(33.4%)、『食事の用意』(31.7%)となっている。

図表 3-4 9 IADL の状況

全体 n=1,622



IADL の状況を要介護度別で見ると、いずれも要介護度が上がるにつれて、「できない」の割合が高くなっている。要支援1から要介護2にかけて特に割合が高くなるものとしては、『日用品の買い物』『バスや電車を使って一人で外出』『食事の用意』『預貯金の出し入れ』があげられる。

図表 3-50 要介護度別 日用品の買い物

		合計	している	できるが していない	できない	わから ない	無回答
全体		1,622 100.0	715 44.1	294 18.1	564 34.8	31 1.9	18 1.1
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	274 56.8	78 16.2	109 22.6	13 2.7	8 1.7
	要支援2	784 100.0	334 42.6	156 19.9	272 34.7	14 1.8	8 1.0
	要介護1	250 100.0	85 34.0	43 17.2	119 47.6	1 0.4	2 0.8
	要介護2	106 100.0	22 20.8	17 16.0	64 60.4	3 2.8	0 0.0

図表 3-51 要介護度別 バスや電車を使って一人で外出

		合計	している	できるがし ていない	できない	わから ない	無回答
全体		1,622 100.0	469 28.9	224 13.8	867 53.5	50 3.1	12 0.7
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	194 40.2	74 15.4	187 38.8	22 4.6	5 1.0
	要支援2	784 100.0	221 28.2	116 14.8	423 54.0	19 2.4	5 0.6
	要介護1	250 100.0	45 18.0	26 10.4	173 69.2	4 1.6	2 0.8
	要介護2	106 100.0	9 8.5	8 7.5	84 79.2	5 4.7	0 0.0

図表 3-52 要介護度別 食事の用意

		合計	している	できるがし ていない	できない	わから ない	無回答
全体		1,622 100.0	797 49.1	258 15.9	514 31.7	44 2.7	9 0.6
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	287 59.5	71 14.7	98 20.3	22 4.6	4 0.8
	要支援2	784 100.0	394 50.3	134 17.1	236 30.1	18 2.3	2 0.3
	要介護1	250 100.0	95 38.0	35 14.0	116 46.4	1 0.4	3 1.2
	要介護2	106 100.0	21 19.8	18 17.0	64 60.4	3 2.8	0 0.0

図表 3-5 3 要介護度別 請求書の支払い

		合計	している	できるが していない	できない	わからな い	無回答
全体		1,622 100.0	972 59.9	277 17.1	277 17.1	85 5.2	11 0.7
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	332 68.9	65 13.5	50 10.4	31 6.4	4 0.8
	要支援2	784 100.0	504 64.3	144 18.4	98 12.5	33 4.2	5 0.6
	要介護1	250 100.0	108 43.2	47 18.8	86 34.4	7 2.8	2 0.8
	要介護2	106 100.0	28 26.4	21 19.8	43 40.6	14 13.2	0 0.0

図表 3-5 4 要介護度別 預貯金の出し入れ

		合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答
全体		1,622 100.0	677 41.7	370 22.8	386 23.8	178 11.0	11 0.7
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	259 53.7	85 17.6	76 15.8	58 12.0	4 0.8
	要支援2	784 100.0	350 44.6	193 24.6	148 18.9	88 11.2	5 0.6
	要介護1	250 100.0	55 22.0	71 28.4	107 42.8	15 6.0	2 0.8
	要介護2	106 100.0	13 12.3	21 19.8	55 51.9	17 16.0	0 0.0

図表 3-5 5 要介護度別 年金などの書類が書ける

		合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答
全体		1,622 100.0	788 48.6	271 16.7	344 21.2	210 12.9	9 0.6
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	275 57.1	67 13.9	62 12.9	73 15.1	5 1.0
	要支援2	784 100.0	417 53.2	134 17.1	135 17.2	96 12.2	2 0.3
	要介護1	250 100.0	72 28.8	54 21.6	102 40.8	20 8.0	2 0.8
	要介護2	106 100.0	24 22.6	16 15.1	45 42.5	21 19.8	0 0.0

図表 3-5 6 要介護度別 新聞を読んでいる

		合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答
全体		1,622 100.0	969 59.7	291 17.9	166 10.2	186 11.5	10 0.6
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	306 63.5	86 17.8	28 5.8	57 11.8	5 1.0
	要支援2	784 100.0	504 64.3	131 16.7	57 7.3	89 11.4	3 0.4
	要介護1	250 100.0	116 46.4	54 21.6	55 22.0	23 9.2	2 0.8
	要介護2	106 100.0	43 40.6	20 18.9	26 24.5	17 16.0	0 0.0

図表 3-57 要介護度別 本や雑誌を読んでいる

		合計	している	できるが していない	できない	わからな い	無回答
全体		1,622 100.0	921 56.8	326 20.1	159 9.8	207 12.8	9 0.6
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	297 61.6	85 17.6	30 6.2	66 13.7	4 0.8
	要支援2	784 100.0	475 60.6	161 20.5	51 6.5	94 12.0	3 0.4
	要介護1	250 100.0	111 44.4	56 22.4	56 22.4	25 10.0	2 0.8
	要介護2	106 100.0	38 35.8	24 22.6	22 20.8	22 20.8	0 0.0

図表 3-58 要介護度別 健康についての記事や番組に関心がある

		合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答
全体		1,622 100.0	1,002 61.8	172 10.6	133 8.2	304 18.7	11 0.7
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	317 65.8	48 10.0	22 4.6	88 18.3	7 1.5
	要支援2	784 100.0	518 66.1	88 11.2	38 4.8	138 17.6	2 0.3
	要介護1	250 100.0	119 47.6	23 9.2	54 21.6	52 20.8	2 0.8
	要介護2	106 100.0	48 45.3	13 12.3	19 17.9	26 24.5	0 0.0

図表 3-59 要介護度別 友だちの家を訪ねる

		合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答
全体		1,622 100.0	422 26.0	420 25.9	576 35.5	192 11.8	12 0.7
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	166 34.4	131 27.2	125 25.9	55 11.4	5 1.0
	要支援2	784 100.0	202 25.8	215 27.4	272 34.7	91 11.6	4 0.5
	要介護1	250 100.0	45 18.0	53 21.2	125 50.0	25 10.0	2 0.8
	要介護2	106 100.0	9 8.5	21 19.8	54 50.9	21 19.8	1 0.9

図表 3-60 要介護度別 家族や友人の相談にのる

		合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答
全体		1,622 100.0	630 38.8	278 17.1	360 22.2	344 21.2	10 0.6
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	210 43.6	72 14.9	89 18.5	105 21.8	6 1.2
	要支援2	784 100.0	326 41.6	149 19.0	139 17.7	168 21.4	2 0.3
	要介護1	250 100.0	65 26.0	42 16.8	98 39.2	43 17.2	2 0.8
	要介護2	106 100.0	29 27.4	15 14.2	34 32.1	28 26.4	0 0.0

図表 3-6 1 要介護度別 病人を見舞う

		合計	している	できるが していない	できない	わからな い	無回答
全体		1,622 100.0	360 22.2	431 26.6	541 33.4	281 17.3	9 0.6
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	140 29.0	125 25.9	105 21.8	107 22.2	5 1.0
	要支援2	784 100.0	183 23.3	227 29.0	258 32.9	114 14.5	2 0.3
	要介護1	250 100.0	29 11.6	64 25.6	123 49.2	32 12.8	2 0.8
	要介護2	106 100.0	8 7.5	15 14.2	55 51.9	28 26.4	0 0.0

図表 3-6 2 要介護度別 若い人に自分から話しかける

		合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答
全体		1,622 100.0	765 47.2	307 18.9	216 13.3	322 19.9	12 0.7
要 介 護 度	要支援1	482 100.0	229 47.5	90 18.7	50 10.4	107 22.2	6 1.2
	要支援2	784 100.0	391 49.9	152 19.4	91 11.6	147 18.8	3 0.4
	要介護1	250 100.0	108 43.2	51 20.4	49 19.6	40 16.0	2 0.8
	要介護2	106 100.0	37 34.9	14 13.2	26 24.5	28 26.4	1 0.9

6 特別集計結果

(1) 外出の状況別 訪問看護を継続している理由

訪問看護を継続している理由について、外出の状況別でみた。バスや電車を使って一人で外出が『できない』という人は、『している』『できるがしていない』人と比べて、「自力での通院が難しいため」の割合が高くなっている。一方で、バスや電車を使って一人で外出を『している』『できるがしていない』人でも、3.6%、6.3%は、「自力での通院が難しいため」と回答している。

図表 3-6 3 外出の状況別 訪問看護を継続している理由（複数回答）

		合計	め ら 病 に よ り 安 静 が 求 め ら れ る た め	自 力 で の 通 院 が 難 し い	認 知 症 の た め 服 薬 管 理 が 難 し い	病 状 不 安 定	医 療 機 器 等 を 管 理 す る た め	他 に 受 け い れ る 事 業 所 等	業 務 利 用 を し た た め	利 用 者 自 身 が 他 の 事 業 所 に 入 る た め	医 療 機 関 と の 連 絡 調 整 が 必 要 な た め	定 期的 な 検 査 測 定 が 必 要 な た め	そ の 他	無 回 答
全体		1,622 100.0	69 4.3	162 10.0	218 13.4	399 24.6	192 11.8	26 1.6	193 11.9	534 32.9	362 22.3	560 34.5	46 2.8	
使 っ た バ ス や 電 車 で 外 出	している	469 100.0	16 3.4	17 3.6	61 13.0	110 23.5	49 10.4	9 1.9	49 10.4	135 28.8	102 21.7	181 38.6	8 1.7	
	できるがして いない	224 100.0	12 5.4	14 6.3	27 12.1	54 24.1	30 13.4	3 1.3	18 8.0	78 34.8	39 17.4	83 37.1	7 3.1	
	できない	867 100.0	36 4.2	129 14.9	121 14.0	223 25.7	105 12.1	13 1.5	118 13.6	302 34.8	209 24.1	280 32.3	29 3.3	
	わからない	50 100.0	5 10.0	2 4.0	7 14.0	8 16.0	5 10.0	1 2.0	8 16.0	13 26.0	10 20.0	13 26.0	1 2.0	

(2) リハビリが必要な心身の状態別 リハビリテーションを行っている職種

リハビリテーションを行っている職種について、リハビリが必要な心身の状態別でみた。『筋力・筋耐久性の低下』『運動失調』『失語症・構音障害』『認知症』は、他と比べて「看護師」の割合が高くなっている。『運動まひ(中枢性・末梢性)』『感覚まひ』『関節の拘縮・変形』『疼痛』『高次脳機能障害』は、他と比べて「理学療法士」の割合が高くなっている。『運動失調』『高次脳機能障害』は、他と比べて「作業療法士」の割合が高くなっている。『失語症・構音障害』『高次脳機能障害』は、他と比べて「言語聴覚士」の割合が高くなっている。

また、リハビリが必要な心身の状態について何らかの回答があったものの、「いずれも行っていない」とした回答は、『感覚まひ』『失語症・構音障害』『認知症』で約1割みられた。

図表 3-6 4 リハビリが必要な心身の状態別 リハビリテーションを行っている職種(複数回答)

		合計	看護師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	いずれも行っていない	無回答
全体		1,622	663	344	101	12	359	294
		100.0	40.9	21.2	6.2	0.7	22.1	18.1
リハビリが必要な心身の状態	運動まひ(中枢性・末梢性)	166	87	83	32	1	7	1
		100.0	52.4	50.0	19.3	0.6	4.2	0.6
	感覚まひ	97	55	47	16	0	10	1
		100.0	56.7	48.5	16.5	0.0	10.3	1.0
	関節の拘縮・変形	279	153	129	39	2	16	2
		100.0	54.8	46.2	14.0	0.7	5.7	0.7
	疼痛	282	134	137	43	1	17	1
		100.0	47.5	48.6	15.2	0.4	6.0	0.4
	筋力・筋耐久性の低下	784	481	281	82	4	54	5
		100.0	61.4	35.8	10.5	0.5	6.9	0.6
運動失調	47	31	18	12	0	0	0	
	100.0	66.0	38.3	25.5	0.0	0.0	0.0	
失語症・構音障害	28	20	5	4	7	3	0	
	100.0	71.4	17.9	14.3	25.0	10.7	0.0	
高次脳機能障害	20	10	10	6	4	0	1	
	100.0	50.0	50.0	30.0	20.0	0.0	5.0	
認知症	107	80	14	6	0	11	2	
	100.0	74.8	13.1	5.6	0.0	10.3	1.9	
その他	88	58	22	7	1	8	2	
	100.0	65.9	25.0	8.0	1.1	9.1	2.3	

(3) リハビリが必要な心身の状態別 専門職によるリハビリテーションの内容

専門職によるリハビリテーションの内容について、リハビリが必要な心身の状態別でみた。

看護師によるリハビリテーションの内容をみると、『感覚まひ』『関節の拘縮・変形』『高次脳機能障害』は「関節可動域訓練」、『運動まひ（中枢性・末梢性）』『感覚まひ』『運動失調』は「筋力増強訓練」、『感覚まひ』『疼痛』『運動失調』は「筋緊張緩和（リラクゼーション）」、『感覚まひ』『疼痛』は「マッサージ」、『運動まひ（中枢性・末梢性）』『感覚まひ』『関節の拘縮・変形』『運動失調』は「歩行訓練」の割合が、他と比べて高い傾向がみられる。

理学療法士によるリハビリテーションの内容をみると、『運動まひ（中枢性・末梢性）』は「歩行訓練」「外出訓練」、『感覚まひ』は「起居・移乗動作訓練」「舗装具のチェック」の割合が、他と比べて高い傾向がみられる。

作業療法士によるリハビリテーションの内容をみると、『運動まひ（中枢性・末梢性）』は、他と比べて「家事動作訓練」「舗装具のチェック」の割合が高くなっている。

図表 3-65 リハビリが必要な心身の状態別 看護師によるリハビリの内容（複数回答）

	合計	練習関節可動域訓練	筋力増強訓練	シ（筋緊張緩和）ン（ラックゼー）ン	マッサージ	サリンジパマツ	理学療法・呼吸ケア・肺	練習摂食・嚥下訓練	言語訓練	起居訓練・移乗動作	
全体	663 100.0	299 45.1	359 54.1	188 28.4	256 38.6	31 4.7	90 13.6	23 3.5	22 3.3	71 10.7	
リハビリが必要な心身の状態	運動まひ(中枢性・末梢性)	87 100.0	57 65.5	60 69.0	35 40.2	34 39.1	5 5.7	4 4.6	7 8.0	10 11.5	17 19.5
	感覚まひ	55 100.0	37 67.3	40 72.7	27 49.1	31 56.4	4 7.3	1 1.8	5 9.1	6 10.9	11 20.0
	関節の拘縮・変形	153 100.0	106 69.3	92 60.1	58 37.9	73 47.7	12 7.8	14 9.2	7 4.6	8 5.2	28 18.3
	疼痛	134 100.0	79 59.0	78 58.2	65 48.5	82 61.2	11 8.2	9 6.7	5 3.7	5 3.7	26 19.4
	筋力・筋耐久性の低下	481 100.0	253 52.6	311 64.7	147 30.6	186 38.7	19 4.0	58 12.1	17 3.5	15 3.1	59 12.3
	運動失調	31 100.0	18 58.1	23 74.2	16 51.6	12 38.7	1 3.2	6 19.4	3 9.7	5 16.1	7 22.6
	失語症・構音障害	20 100.0	12 60.0	11 55.0	4 20.0	4 20.0	0 0.0	1 5.0	4 20.0	11 55.0	0 0.0
	高次脳機能障害	10 100.0	7 70.0	4 40.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	4 40.0	3 30.0
	認知症	80 100.0	38 47.5	45 56.3	19 23.8	25 31.3	3 3.8	7 8.8	6 7.5	3 3.8	9 11.3
	その他	58 100.0	10 17.2	20 34.5	11 19.0	13 22.4	4 6.9	27 46.6	3 5.2	0 0.0	1 1.7

	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	外出訓練	補装具のチエツク	製定福祉用具の自作	住環境調整	その他	無回答	
全体	663 100.0	218 32.9	64 9.7	26 3.9	59 8.9	11 1.7	22 3.3	77 11.6	18 2.7	18 2.7	
リハビリが必要な心身の状態	運動まひ(中枢性・末梢性)	87 100.0	47 54.0	13 14.9	5 5.7	9 10.3	3 3.4	0 0.0	10 11.5	1 1.1	4 4.6
	感覚まひ	55 100.0	28 50.9	9 16.4	4 7.3	3 5.5	1 1.8	1 1.8	6 10.9	1 1.8	1 1.8
	関節の拘縮・変形	153 100.0	73 47.7	21 13.7	7 4.6	11 7.2	6 3.9	7 4.6	15 9.8	5 3.3	5 3.3
	疼痛	134 100.0	47 35.1	11 8.2	6 4.5	10 7.5	3 2.2	8 6.0	23 17.2	6 4.5	2 1.5
	筋力・筋耐久性の低下	481 100.0	182 37.8	54 11.2	18 3.7	43 8.9	6 1.2	19 4.0	52 10.8	8 1.7	12 2.5
	運動失調	31 100.0	15 48.4	6 19.4	3 9.7	4 12.9	2 6.5	4 12.9	8 25.8	1 3.2	0 0.0
	失語症・構音障害	20 100.0	5 25.0	2 10.0	0 0.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0
	高次脳機能障害	10 100.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	認知症	80 100.0	22 27.5	6 7.5	7 8.8	11 13.8	2 2.5	3 3.8	18 22.5	7 8.8	3 3.8
	その他	58 100.0	8 13.8	1 1.7	0 0.0	5 8.6	0 0.0	2 3.4	7 12.1	4 6.9	1 1.7

図表 3-6 6 リハビリが必要な心身の状態別 理学療法士によるリハビリの内容（複数回答）

	合計	練習 関節 可動域 訓練	筋力 増強 訓練	シ（筋 ョ（緊 ンラ張 ）ク緩 ）ゼ和 ー	マ ッ サ ー ジ	サ リ ン ジ パ マ ッ	理呼 学吸 療ケ 法ア ・肺	練摂 食 ・嚥 下訓	言語 訓練	作起 訓居 練・移 乗動	
全体	344 100.0	277 80.5	302 87.8	198 57.6	115 33.4	11 3.2	21 6.1	3 0.9	4 1.2	107 31.1	
リ ハ ビ リ が 必 要 な 心 身 の 状 態	運動まひ(中枢 性・末梢性)	83 100.0	73 88.0	70 84.3	60 72.3	25 30.1	1 1.2	1 1.2	2 2.4	31 37.3	
	感覚まひ	47 100.0	39 83.0	38 80.9	36 76.6	17 36.2	0 0.0	2 4.3	0 0.0	22 46.8	
	関節の拘縮・変 形	129 100.0	114 88.4	116 89.9	91 70.5	51 39.5	7 5.4	7 5.4	0 0.0	1 0.8	45 34.9
	疼痛	137 100.0	113 82.5	124 90.5	101 73.7	52 38.0	6 4.4	7 5.1	2 1.5	1 0.7	46 33.6
	筋力・筋耐久性 の低下	281 100.0	231 82.2	258 91.8	169 60.1	101 35.9	8 2.8	16 5.7	1 0.4	3 1.1	89 31.7
	運動失調	18 100.0	17 94.4	17 94.4	12 66.7	8 44.4	0 0.0	3 16.7	0 0.0	0 0.0	7 38.9
	失語症・構音障 害	5 100.0	5 100.0	5 100.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	3 60.0
	高次脳機能障害	10 100.0	9 90.0	9 90.0	6 60.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	7 70.0
	認知症	14 100.0	8 57.1	11 78.6	4 28.6	2 14.3	2 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 28.6
	その他	22 100.0	17 77.3	16 72.7	7 31.8	7 31.8	1 4.5	5 22.7	2 9.1	0 0.0	8 36.4
	合計	歩 行 訓 練	A D L 訓 練	家 事 動 作 訓 練	外 出 訓 練	チ 補 装 具 の ク	製 定 福 ・社 自 用 具 の 作 選	住 環 境 調 整	そ の 他	無 回 答	
全体	344 100.0	217 63.1	111 32.3	18 5.2	65 18.9	28 8.1	41 11.9	67 19.5	23 6.7	15 4.4	
リ ハ ビ リ が 必 要 な 心 身 の 状 態	運動まひ(中枢 性・末梢性)	83 100.0	61 73.5	32 38.6	7 8.4	26 31.3	17 20.5	12 14.5	19 22.9	7 8.4	4 4.8
	感覚まひ	47 100.0	31 66.0	19 40.4	4 8.5	11 23.4	12 25.5	10 21.3	12 25.5	4 8.5	4 8.5
	関節の拘縮・変 形	129 100.0	87 67.4	50 38.8	7 5.4	27 20.9	22 17.1	22 17.1	30 23.3	5 3.9	6 4.7
	疼痛	137 100.0	91 66.4	60 43.8	10 7.3	29 21.2	15 10.9	24 17.5	36 26.3	10 7.3	8 5.8
	筋力・筋耐久性 の低下	281 100.0	182 64.8	96 34.2	12 4.3	58 20.6	23 8.2	33 11.7	55 19.6	17 6.0	12 4.3
	運動失調	18 100.0	13 72.2	11 61.1	2 11.1	8 44.4	2 11.1	4 22.2	1 5.6	1 5.6	0 0.0
	失語症・構音障 害	5 100.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高次脳機能障害	10 100.0	6 60.0	3 30.0	2 20.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0
	認知症	14 100.0	4 28.6	3 21.4	0 0.0	1 7.1	0 0.0	1 7.1	2 14.3	1 7.1	2 14.3
	その他	22 100.0	11 50.0	7 31.8	2 9.1	6 27.3	1 4.5	2 9.1	3 13.6	2 9.1	0 0.0

図表 3-67 リハビリが必要な心身の状態別 作業療法士によるリハビリの内容（複数回答）

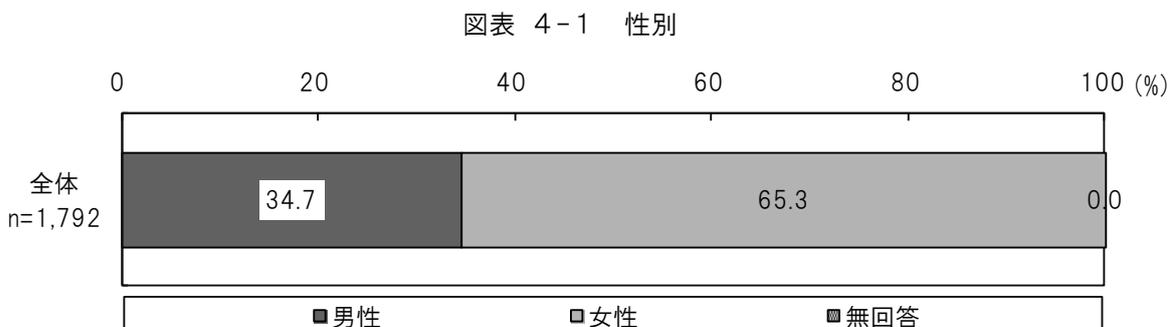
	合計	練習 関節 可動域 訓練	筋力 増強 訓練	シ（筋 ョリ緊 ンラ張 ク緩 ゼ和 ー	マ ッ サ ー ジ	サ リ ン ジ パ マ ッ	理呼 学吸 療ケ 法ア ・肺	練習 摂食 ・嚥 下訓	言語 訓練	作起 訓居 練・ 移乗 動	
全体	101 100.0	77 76.2	80 79.2	59 58.4	39 38.6	4 4.0	4 4.0	0 0.0	3 3.0	36 35.6	
リ ハ ビ リ が 必 要 な 心 身 の 状 態	運動まひ(中枢 性・末梢性)	32 100.0	24 75.0	23 71.9	18 56.3	8 25.0	2 6.3	1 3.1	0 0.0	2 6.3	8 25.0
	感覚まひ	16 100.0	12 75.0	11 68.8	11 68.8	3 18.8	1 6.3	1 6.3	0 0.0	1 6.3	6 37.5
	関節の拘縮・変 形	39 100.0	32 82.1	33 84.6	23 59.0	14 35.9	3 7.7	3 7.7	0 0.0	1 2.6	13 33.3
	疼痛	43 100.0	33 76.7	34 79.1	27 62.8	19 44.2	4 9.3	1 2.3	0 0.0	0 0.0	13 30.2
	筋力・筋耐久性 の低下	82 100.0	67 81.7	68 82.9	49 59.8	33 40.2	3 3.7	4 4.9	0 0.0	3 3.7	33 40.2
	運動失調	12 100.0	10 83.3	9 75.0	7 58.3	4 33.3	0 0.0	1 8.3	0 0.0	1 8.3	6 50.0
	失語症・構音障 害	4 100.0	3 75.0	2 50.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0
	高次脳機能障害	6 100.0	6 100.0	4 66.7	6 100.0	2 33.3	1 16.7	1 16.7	0 0.0	2 33.3	3 50.0
	認知症	6 100.0	5 83.3	5 83.3	3 50.0	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3
	その他	7 100.0	6 85.7	5 71.4	4 57.1	1 14.3	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1
		合計	歩 行 訓 練	A D L 訓 練	家 事 動 作 訓 練	外 出 訓 練	チ 補 装 具 の ク	製 定 福 ・社 自 用 具 の 作 選	住 環 境 調 整	そ の 他	無 回 答
全体	101 100.0	66 65.3	40 39.6	16 15.8	29 28.7	9 8.9	15 14.9	32 31.7	7 6.9	7 6.9	
リ ハ ビ リ が 必 要 な 心 身 の 状 態	運動まひ(中枢 性・末梢性)	32 100.0	21 65.6	11 34.4	8 25.0	7 21.9	6 18.8	5 15.6	10 31.3	5 15.6	3 9.4
	感覚まひ	16 100.0	11 68.8	7 43.8	7 43.8	3 18.8	4 25.0	3 18.8	7 43.8	1 6.3	1 6.3
	関節の拘縮・変 形	39 100.0	26 66.7	16 41.0	8 20.5	10 25.6	4 10.3	7 17.9	15 38.5	3 7.7	3 7.7
	疼痛	43 100.0	27 62.8	17 39.5	9 20.9	12 27.9	5 11.6	7 16.3	15 34.9	3 7.0	3 7.0
	筋力・筋耐久性 の低下	82 100.0	57 69.5	36 43.9	11 13.4	24 29.3	5 6.1	14 17.1	29 35.4	3 3.7	6 7.3
	運動失調	12 100.0	9 75.0	5 41.7	2 16.7	4 33.3	0 0.0	4 33.3	5 41.7	0 0.0	2 16.7
	失語症・構音障 害	4 100.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0
	高次脳機能障害	6 100.0	5 83.3	4 66.7	2 33.3	2 33.3	1 16.7	2 33.3	3 50.0	1 16.7	0 0.0
	認知症	6 100.0	5 83.3	4 66.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7
	その他	7 100.0	5 71.4	4 57.1	1 14.3	3 42.9	0 0.0	1 14.3	3 42.9	0 0.0	0 0.0

第4章 訪問リハビリテーションサービス利用者調査 基本集計結果

1 利用者の基本情報

(1) 性別

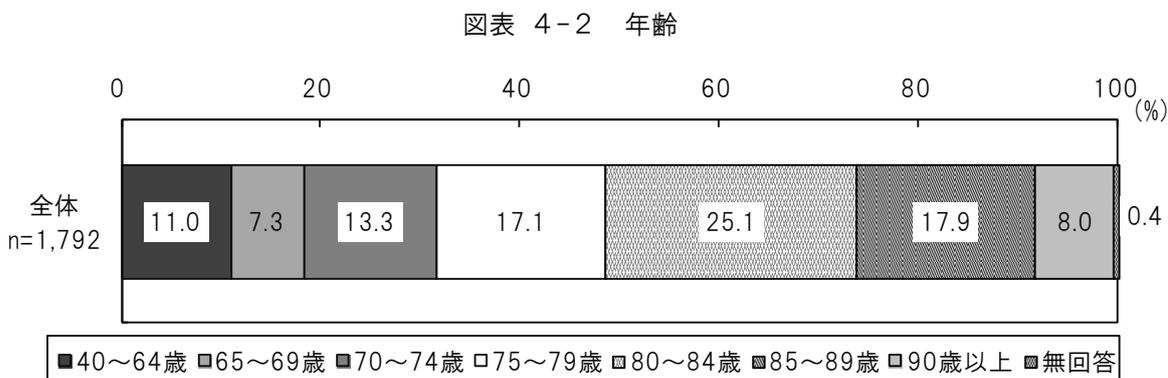
「男性」が34.7%、「女性」が65.3%となっている。



(2) 年齢

割合の高い順に、「80～84歳」(25.1%)、「85～89歳」(17.9%)、「75～79歳」(17.1%)となっており、75歳以上が約70%を占めている。一方で、「40～64歳」は、11.0%となっている。

要介護度別で見ると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「90歳以上」の割合が高くなっている。



図表 4-3 要介護度別 年齢

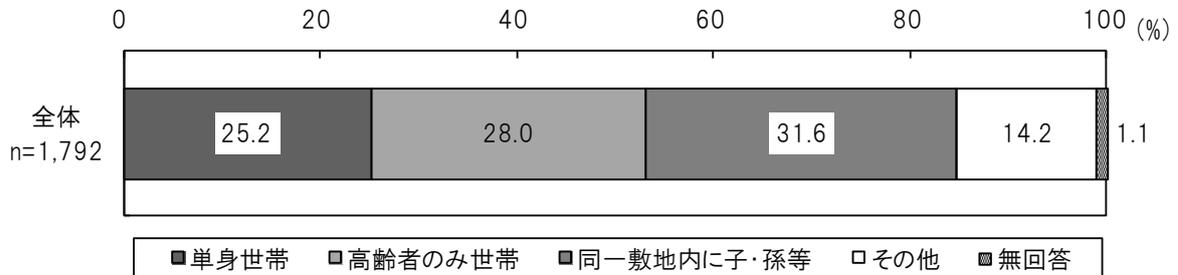
		合計	40～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	無回答
全体		1,792	197	131	238	307	449	320	143	7
		100.0	11.0	7.3	13.3	17.1	25.1	17.9	8.0	0.4
要介護度	要支援1	473	35	34	68	98	116	85	35	2
		100.0	7.4	7.2	14.4	20.7	24.5	18.0	7.4	0.4
	要支援2	907	113	69	125	150	233	159	58	0
		100.0	12.5	7.6	13.8	16.5	25.7	17.5	6.4	0.0
	要介護1	282	32	19	32	42	66	54	34	3
	100.0	11.3	6.7	11.3	14.9	23.4	19.1	12.1	1.1	
	要介護2	130	17	9	13	17	34	22	16	2
	100.0	13.1	6.9	10.0	13.1	26.2	16.9	12.3	1.5	

(3) 世帯構成

「同一敷地内に子・孫等」の割合が最も高く 31.6%、次いで「高齢者のみ世帯」(28.0%)、「単身世帯」(25.2%)となっている。

要介護度別でも、大きな違いはみられない。

図表 4-4 世帯構成



図表 4-5 要介護度別 世帯構成

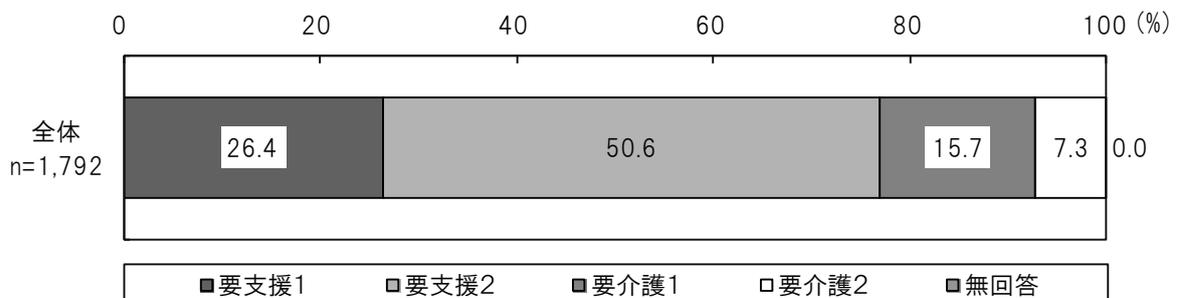
	合計	単身世帯	高齢者のみ世帯	同一敷地内に子・孫等	その他	無回答	
全体	1,792 100.0	451 25.2	502 28.0	566 31.6	254 14.2	19 1.1	
要介護度	要支援1	473 100.0	123 26.0	138 29.2	152 32.1	58 12.3	2 0.4
	要支援2	907 100.0	235 25.9	240 26.5	293 32.3	128 14.1	11 1.2
	要介護1	282 100.0	66 23.4	86 30.5	74 26.2	51 18.1	5 1.8
	要介護2	130 100.0	27 20.8	38 29.2	47 36.2	17 13.1	1 0.8

※「その他」のうち、同一敷地内に子・孫等が居住している旨の記載があった回答については、「同一敷地内に子・孫等」として集計している。

(4) 要介護度

「要支援2」の割合が最も高く 50.6%、次いで「要支援1」(26.4%)、「要介護1」(15.7%)となっている。

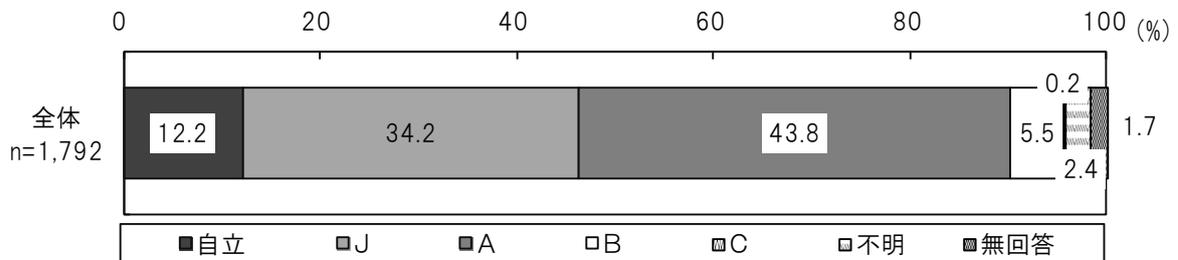
図表 4-6 要介護度



(5) 障害高齢者の日常生活自立度

多い順に「A」(43.8%)、「J」(34.2%)となっており、A以下が約90%を占めている。
要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「自立」「J」の割合は低くなり、「A」「B」の割合は高くなっている。

図表 4-7 障害高齢者の日常生活自立度



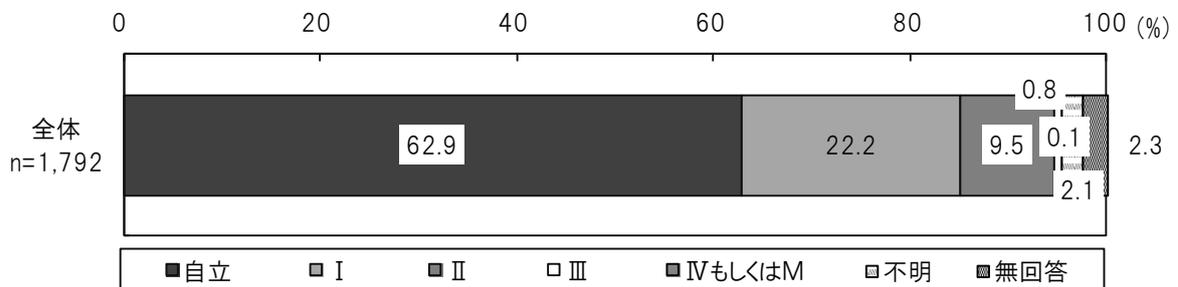
図表 4-8 要介護度別 障害高齢者の日常生活自立度

	合計	自立	J	A	B	C	不明	無回答	
全体	1,792	219	612	785	99	3	43	31	
	100.0	12.2	34.2	43.8	5.5	0.2	2.4	1.7	
要介護度	要支援1	473	85	222	146	9	0	9	2
		100.0	18.0	46.9	30.9	1.9	0.0	1.9	0.4
	要支援2	907	102	319	411	39	1	18	17
		100.0	11.2	35.2	45.3	4.3	0.1	2.0	1.9
	要介護1	282	29	56	150	25	1	10	11
	100.0	10.3	19.9	53.2	8.9	0.4	3.5	3.9	
要介護2	130	3	15	78	26	1	6	1	
	100.0	2.3	11.5	60.0	20.0	0.8	4.6	0.8	

(6) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」の割合が最も高く62.9%、次いで「I」が22.2%となっている。
要介護度別でみると、要支援1・2は、要介護1・2と比べて「自立」の割合が高く、「II」の割合が低くなっている。

図表 4-9 認知症高齢者の日常生活自立度



図表 4-10 要介護度別 認知症高齢者の日常生活自立度

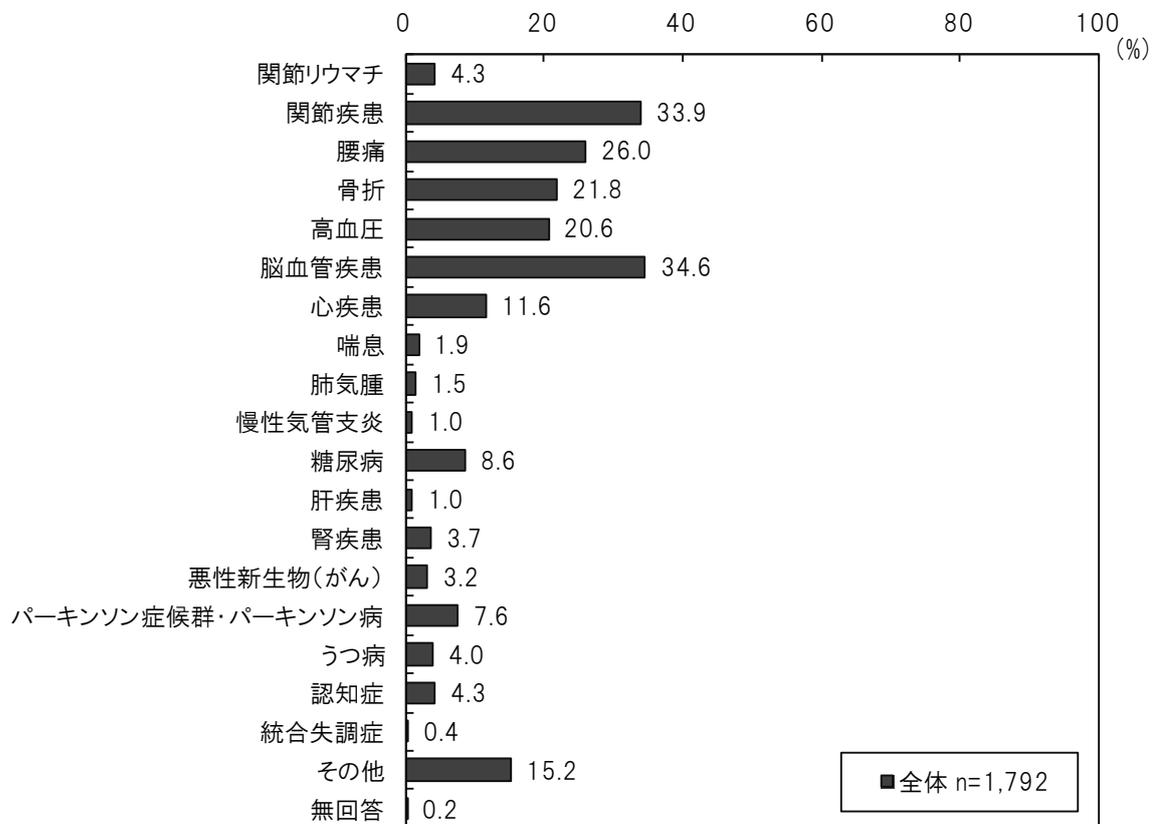
	合計	自立	I	II	III	IVもしくはM	不明	無回答
全体	1,792	1,128	397	170	15	2	38	42
	100.0	62.9	22.2	9.5	0.8	0.1	2.1	2.3
要介護度	要支援1	473	324	99	32	2	0	6
		100.0	68.5	20.9	6.8	0.4	0.0	1.3
	要支援2	907	608	200	59	2	0	22
		100.0	67.0	22.1	6.5	0.2	0.0	2.4
	要介護1	282	139	64	50	9	0	12
	100.0	49.3	22.7	17.7	3.2	0.0	4.3	
要介護2	130	57	34	29	2	2	4	2
	100.0	43.8	26.2	22.3	1.5	1.5	3.1	1.5

(7) 要支援・要介護状態の直接の原因

「脳血管疾患」(34.6%)、「関節疾患」(33.9%)の割合が高い。「その他」としては、脊柱管狭窄症・骨粗鬆症等の「筋骨格系および結合組織の疾患」、脊髄小脳変性症等の「神経系の疾患」が比較的多くみられた。

要介護度別でみると、要介護2は、要介護1以下と比べて「骨折」の割合が高くなっている。要介護1・2は、要支援1・2と比べて「認知症」の割合が高くなっている。また、要介護度が上がるにつれて、「脳血管疾患」の割合が高くなっている。

図表 4-11 要支援・要介護状態の直接の原因（複数回答）



図表 4-1 2 要支援・要介護状態の直接の原因 その他回答

回答内容	件数
筋骨格系および結合組織の疾患	92
神経系の疾患	63
呼吸器系の疾患	19
眼および付属器の疾患	17
循環器系の疾患	15
損傷,中毒およびその他の外因の影響	13
感染症および寄生虫症	9
新生物	8
精神および行動の障害	8
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	5
消化器系の疾患	5
内分泌,栄養および代謝疾患	3
耳および乳様突起の疾患	2
尿路性器系の疾患	2
先天奇形,変形および染色体異常	2
皮膚および皮下組織の疾患	1
その他	13

図表 4-1 3 要介護度別 要支援・要介護状態の直接の原因（複数回答）

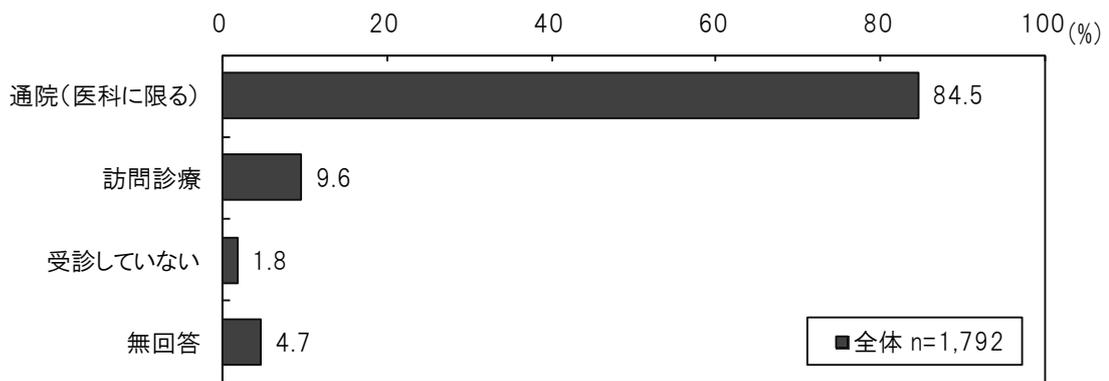
	合計	関節リウマチ	関節疾患	腰痛	骨折	高血圧	脳血管疾患	心疾患	喘息	肺気腫	慢性気管支炎	
全体	1,792 100.0	77 4.3	608 33.9	466 26.0	391 21.8	370 20.6	620 34.6	208 11.6	34 1.9	27 1.5	18 1.0	
要介護度	要支援1	473 100.0	15 3.2	174 36.8	125 26.4	104 22.0	98 20.7	143 30.2	54 11.4	12 2.5	8 1.7	4 0.8
	要支援2	907 100.0	40 4.4	322 35.5	240 26.5	191 21.1	189 20.8	310 34.2	105 11.6	15 1.7	10 1.1	4 0.4
	要介護1	282 100.0	14 5.0	68 24.1	60 21.3	60 21.3	50 17.7	112 39.7	35 12.4	1 0.4	6 2.1	6 2.1
	要介護2	130 100.0	8 6.2	44 33.8	41 31.5	36 27.7	33 25.4	55 42.3	14 10.8	6 4.6	3 2.3	4 3.1
	合計	糖尿病	肝疾患	腎疾患	悪性新生物(がん)	パーキンソン症候群・パーキンソン病	うつ病	認知症	統合失調症	その他	無回答	
全体	1,792 100.0	154 8.6	18 1.0	66 3.7	57 3.2	136 7.6	71 4.0	77 4.3	8 0.4	273 15.2	3 0.2	
要介護度	要支援1	473 100.0	36 7.6	8 1.7	13 2.7	16 3.4	28 5.9	20 4.2	16 3.4	0 0.0	64 13.5	0 0.0
	要支援2	907 100.0	80 8.8	8 0.9	34 3.7	23 2.5	76 8.4	28 3.1	22 2.4	6 0.7	155 17.1	0 0.0
	要介護1	282 100.0	23 8.2	2 0.7	13 4.6	14 5.0	19 6.7	14 5.0	24 8.5	1 0.4	44 15.6	3 1.1
	要介護2	130 100.0	15 11.5	0 0.0	6 4.6	4 3.1	13 10.0	9 6.9	15 11.5	1 0.8	10 7.7	0 0.0

(8) 受診状況

「通院(医科に限る)」の割合が最も高く 84.5%、次いで「訪問診療」が 9.6%となっている。

要介護別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「通院(医科に限る)」の割合が低く、「訪問診療」の割合が高くなっている。

図表 4-14 受診状況(複数回答)



図表 4-15 要介護度別 受診状況(複数回答)

		合計	通院(医科に限る)	訪問診療	受診していない	無回答
全体		1,792	1,515	172	33	84
		100.0	84.5	9.6	1.8	4.7
要介護度	要支援1	473	421	37	7	13
		100.0	89.0	7.8	1.5	2.7
	要支援2	907	783	68	19	39
		100.0	86.3	7.5	2.1	4.3
	要介護1	282	215	42	3	25
	100.0	76.2	14.9	1.1	8.9	
	要介護2	130	96	25	4	7
		100.0	73.8	19.2	3.1	5.4

(9) ケアプランに位置付けられているサービス

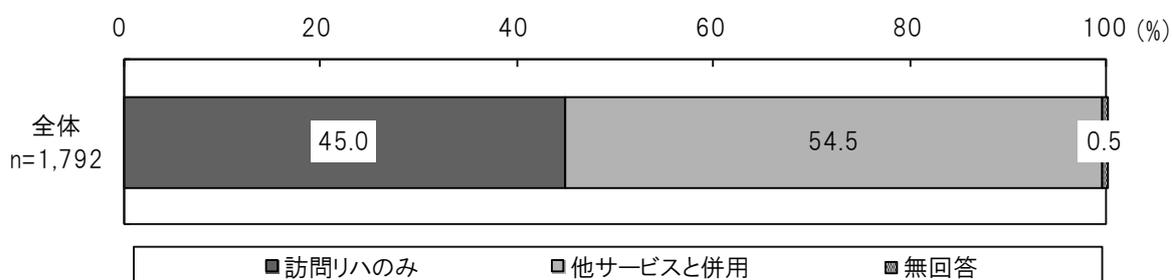
併用サービスの有無については、「訪問リハのみ」が45.0%、「他サービスと併用」が54.5%となっている。

併用サービスを要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「他サービスとの併用」の割合が高くなっている。

併用サービスとしては、「(介護予防)訪問介護」が最も高く26.6%、次いで、「(介護予防)通所介護」(16.5%)、「(介護予防)通所リハビリテーション」(10.4%)となっている。

併用サービスを要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「(介護予防)通所介護」の割合は高くなる。要介護1・2は、要支援1・2と比べて「(介護予防)通所リハビリテーション」の割合が高くなっている。また、要支援2以上は、要支援1と比べて「(介護予防)訪問介護」の割合が高くなっている。

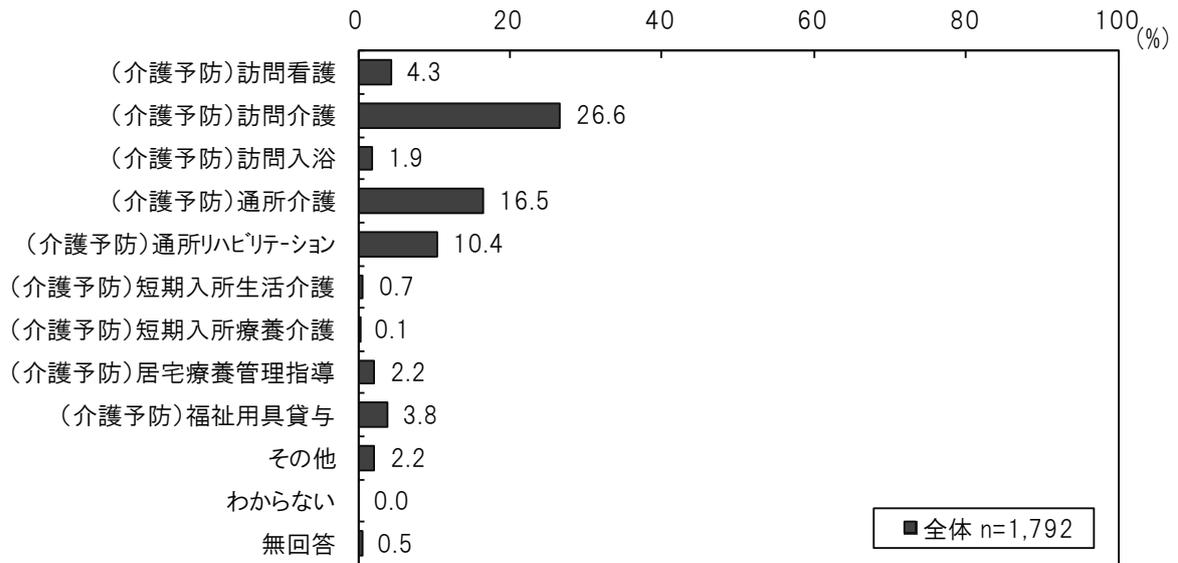
図表 4-16 併用サービスの有無



図表 4-17 要介護度別 併用サービスの有無

	合計	訪問リハのみ	他サービスと併用	無回答	
全体	1792	807	976	9	
	100.0	45.0	54.5	0.5	
要介護度	要支援1	473	280	191	2
		100.0	59.2	40.4	0.4
	要支援2	907	418	486	3
		100.0	46.1	53.6	0.3
要介護1	要介護1	282	75	203	4
		100.0	26.6	72.0	1.4
要介護2	要介護2	130	34	96	0
		100.0	26.2	73.8	0.0

図表 4-18 併用サービス（複数回答）



図表 4-19 要介護度別 併用サービス（複数回答）

	合計	(介護予防)訪問看護	(介護予防)訪問介護	(介護予防)訪問入浴	(介護予防)通所介護	(介護予防)通所リハビリテーション	(介護予防)短期入所生活介護	(介護予防)短期入所療養介護	(介護予防)居宅療養管理指導	
		割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	
全体	1,792 100.0	77 4.3	476 26.6	34 1.9	295 16.5	187 10.4	12 0.7	2 0.1	40 2.2	
要介護度	要支援1	473 100.0	12 2.5	87 18.4	1 0.2	52 11.0	32 6.8	0 0.0	0 0.0	4 0.8
	要支援2	907 100.0	27 3.0	260 28.7	11 1.2	138 15.2	78 8.6	3 0.3	1 0.1	22 2.4
	要介護1	282 100.0	26 9.2	91 32.3	12 4.3	64 22.7	55 19.5	4 1.4	0 0.0	8 2.8
	要介護2	130 100.0	12 9.2	38 29.2	10 7.7	41 31.5	22 16.9	5 3.8	1 0.8	6 4.6

	合計	(介護予防)福祉用具貸与	その他	わからない	無回答	
		割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	
全体	1,792 100.0	68 3.8	39 2.2	0 0.0	9 0.5	
要介護度	要支援1	473 100.0	17 3.6	12 2.5	0 0.0	2 0.4
	要支援2	907 100.0	37 4.1	20 2.2	0 0.0	3 0.3
	要介護1	282 100.0	5 1.8	3 1.1	0 0.0	4 1.4
	要介護2	130 100.0	9 6.9	4 3.1	0 0.0	0 0.0

※「その他」のうち、(介護予防)福祉用具貸与と記載があった回答については、「(介護予防)福祉用具貸与」として集計している。

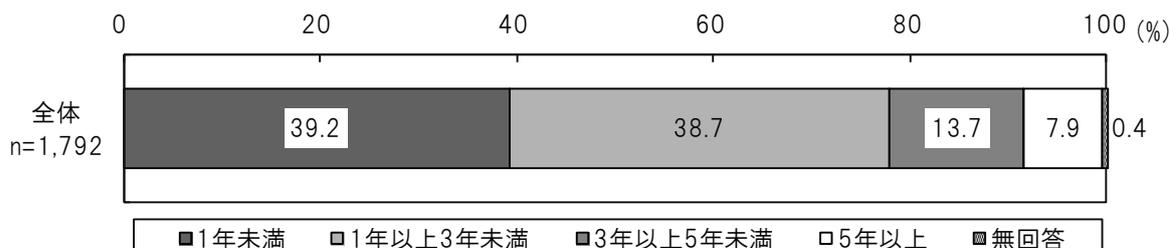
2 サービスの概況

(1) 訪問リハの利用期間

「1年未満」(39.2%)、「1年以上3年未満」(38.7%)の順に多く、あわせて77.9%となっている。一方で、「5年以上」は7.9%となっている。

要介護度別でも、大きな違いはみられない。

図表 4-20 利用期間



図表 4-21 要介護度別 利用期間

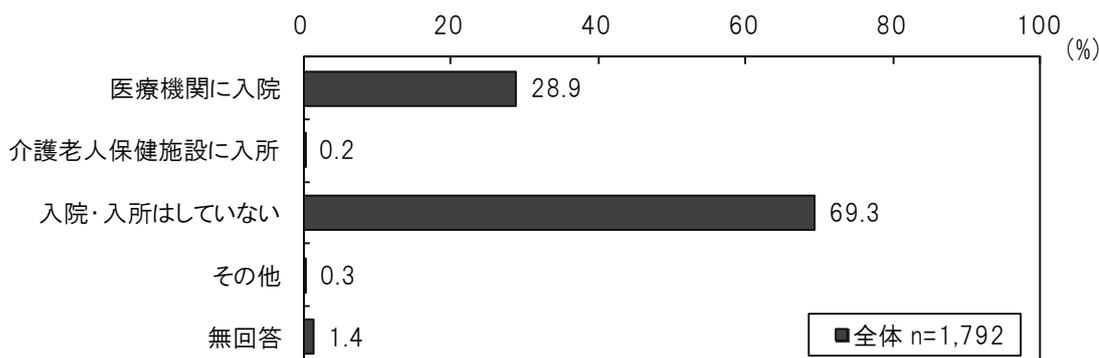
		合計	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体		1,792	703	694	245	142	8
		100.0	39.2	38.7	13.7	7.9	0.4
要介護度	要支援1	473	193	193	57	29	1
		100.0	40.8	40.8	12.1	6.1	0.2
	要支援2	907	342	355	132	73	5
		100.0	37.7	39.1	14.6	8.0	0.6
	要介護1	282	118	98	39	26	1
	100.0	41.8	34.8	13.8	9.2	0.4	
要介護2	130	50	48	17	14	1	
	100.0	38.5	36.9	13.1	10.8	0.8	

(2) 過去1年間の入院等の有無

「入院・入所はしていない」の割合が最も高く69.3%、次いで「医療機関に入院」が28.9%となっている。

要介護度別で見ると、要支援1・2は、要介護1・2と比べて「入院・入所はしていない」の割合が高くなっている。

図表 4-22 過去1年間の入院等の有無（複数回答）



図表 4-2 3 要介護度別 過去1年間の入院等の有無（複数回答）

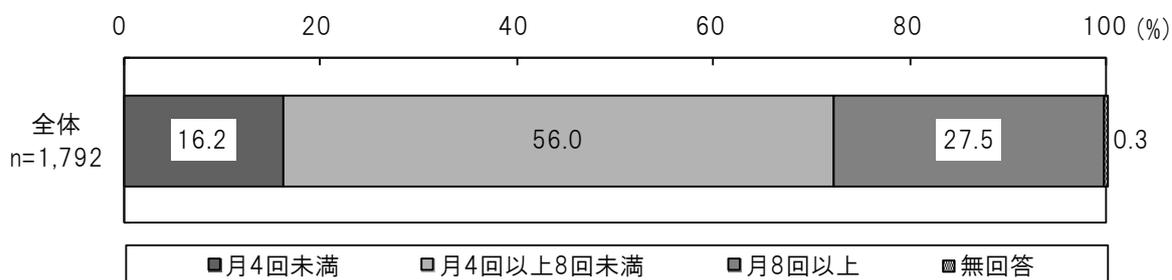
		合計	医療機関 に入院	介護老人 保健施設 に入所	入院・入 所はして いない	その他	無回答
全体		1,792 100.0	518 28.9	4 0.2	1,242 69.3	5 0.3	25 1.4
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	129 27.3	1 0.2	337 71.2	1 0.2	5 1.1
	要支援2	907 100.0	255 28.1	1 0.1	639 70.5	4 0.4	10 1.1
	要介護1	282 100.0	93 33.0	2 0.7	180 63.8	0 0.0	7 2.5
	要介護2	130 100.0	41 31.5	0 0.0	86 66.2	0 0.0	3 2.3

(3) 1か月間の利用回数

「月4回以上8回未満」（週平均1回以上2回未満）の割合が最も高く56.0%、次いで、「月8回以上」（週平均2回以上）の割合が27.5%となっている。

要介護度別でみると、要支援2以上は、要支援1と比べて「月8回以上」の割合が高くなっている。

図表 4-2 4 1か月間の利用回数



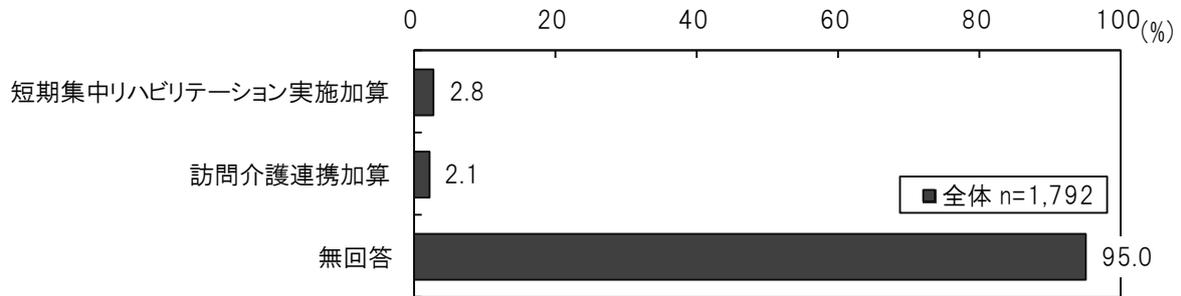
図表 4-2 5 要介護度別 1か月間の利用回数

		合計	月4回未 満	月4回以 上8回未 満	月8回以 上	無回答
全体		1,792 100.0	290 16.2	1,004 56.0	493 27.5	5 0.3
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	98 20.7	312 66.0	63 13.3	0 0.0
	要支援2	907 100.0	140 15.4	484 53.4	279 30.8	4 0.4
	要介護1	282 100.0	35 12.4	147 52.1	99 35.1	1 0.4
	要介護2	130 100.0	17 13.1	61 46.9	52 40.0	0 0.0

(4) 加算の有無

「短期集中リハビリテーション実施加算」が2.8%、「訪問介護連携加算」が2.1%となっている。要介護度別でも、大きな違いはみられない。

図表 4-26 加算の有無（複数回答）



図表 4-27 要介護度別 加算の有無（複数回答）

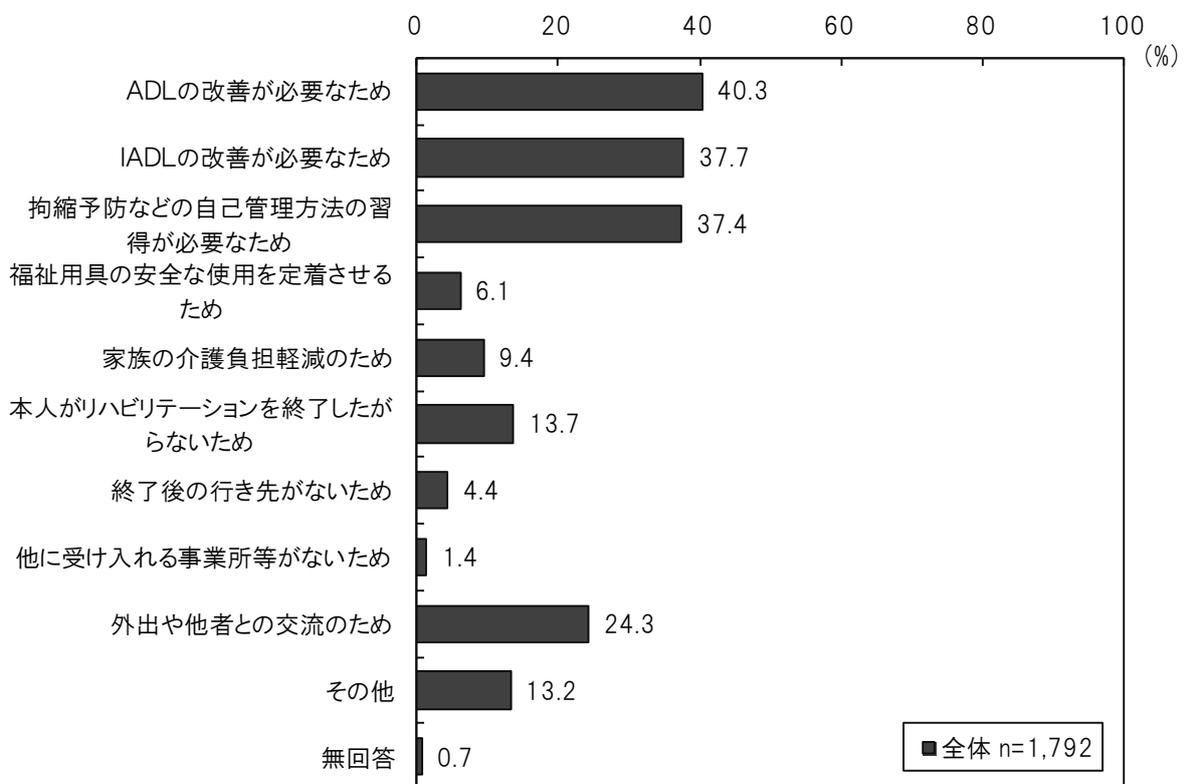
		合計	短期集中 リハビリ テーション 実施加算	訪問介護 連携加算	無回答
全体		1792 100.0	51 2.8	38 2.1	1703 95.0
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	9 1.9	12 2.5	452 95.6
	要支援2	907 100.0	27 3.0	17 1.9	863 95.1
	要介護1	282 100.0	9 3.2	7 2.5	266 94.3
	要介護2	130 100.0	6 4.6	2 1.5	122 93.8

(5) 訪問リハを継続している理由

「ADLの改善が必要なため」(40.3%)、「IADLの改善が必要なため」(37.7%)、「拘縮予防などの自己管理方法の習得が必要なため」(37.4%)の割合が高くなっている。「その他」としては、「ADLの維持・低下予防」が比較的多くみられた。

要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「ADLの改善が必要なため」の割合が高くなる。要支援1・2は、要介護1・2と比べて「IADLの改善が必要なため」「拘縮予防などの自己管理方法の習得が必要なため」の割合がやや高く、「家族の介護負担軽減のため」の割合が低くなっている。また、要介護2は、要介護1以下と比べて「福祉用具の安全な使用を定着させるため」の割合が高くなっている。

図表 4-28 訪問リハを継続している理由（複数回答）



図表 4-29 訪問リハを継続している理由 その他回答

回答内容	件数
ADLの維持・低下予防	83
疼痛等の緩和・予防	27
状態観察・管理、悪化予防	21
通所リハに移行できないため	20
体力維持、運動機会の提供	16
精神支援	10
言語機能の改善	7
復職、趣味活動の再開	7
本人・家族の希望	6
コミュニケーション能力の改善	5
通所リハへ移行するため	5
認知機能の低下予防	3
転倒予防	3
独居、日中独居	3
リハビリが必要	2
その他	16

図表 4-30 要介護度別 訪問リハを継続している理由（複数回答）

	合計	要 A な D た L の 改 善 が 必	必 I 要 A な D た L の 改 善 が	が己拘 必管縮 要理予 な方防 た法な めのだ 習の 得自	た使福 め用社 を用具 定着の さ安全 せるな	減家 の族 たの め介 護負 担軽	しテ本 たし人 がしが らヨリ ないハ いたを たビリ 了終 め了	な終 いた た後 の 行 き 先 が	業他 所等 が な 入 れ る め 事	
全体	1,792 100.0	723 40.3	675 37.7	671 37.4	109 6.1	168 9.4	245 13.7	79 4.4	25 1.4	
要介護度	要支援1	473 100.0	145 30.7	182 38.5	176 37.2	21 4.4	27 5.7	72 15.2	21 4.4	8 1.7
	要支援2	907 100.0	354 39.0	368 40.6	357 39.4	52 5.7	69 7.6	133 14.7	43 4.7	10 1.1
	要介護1	282 100.0	145 51.4	80 28.4	94 33.3	16 5.7	43 15.2	24 8.5	12 4.3	5 1.8
	要介護2	130 100.0	79 60.8	45 34.6	44 33.8	20 15.4	29 22.3	16 12.3	3 2.3	2 1.5

	合計	たと外 めの出 交や 流他 の者	そ の 他	無 回 答	
全体	1,792 100.0	436 24.3	237 13.2	12 0.7	
要介護度	要支援1	473 100.0	130 27.5	70 14.8	6 1.3
	要支援2	907 100.0	196 21.6	121 13.3	3 0.3
	要介護1	282 100.0	94 33.3	35 12.4	2 0.7
	要介護2	130 100.0	16 12.3	11 8.5	1 0.8

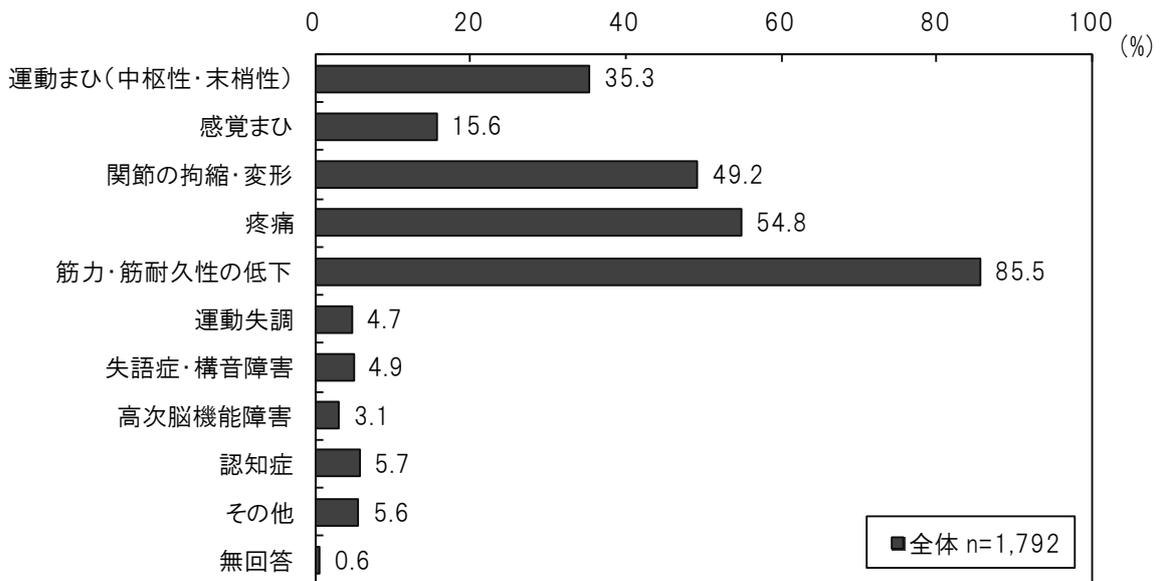
3 リハビリテーションの実施状況

(1) リハビリテーションが必要な心身の状態

「筋力・筋耐久性の低下」の割合が最も高く 85.5%、次いで、「疼痛」(54.8%)、「関節の拘縮・変形」(49.2%)となっている。

要介護度別で見ると、要介護度が上がるにつれて「運動まひ(中枢性・末梢性)」の割合が高くなる傾向がみられる。また、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「認知症」の割合が高くなっている。

図表 4-3 1 リハビリテーションが必要な心身の状態(複数回答)



図表 4-3 2 要介護度別 リハビリテーションが必要な心身の状態(複数回答)

		合計	運動まひ (中枢性・ 末梢性)	感覚まひ	関節の拘 縮・変形	疼痛	筋力・筋 耐久性の 低下	運動失調	失語症・ 構音障害	高次脳機 能障害
全体		1,792 100.0	633 35.3	280 15.6	881 49.2	982 54.8	1,532 85.5	85 4.7	87 4.9	55 3.1
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	122 25.8	51 10.8	211 44.6	263 55.6	405 85.6	19 4.0	26 5.5	8 1.7
	要支援2	907 100.0	350 38.6	170 18.7	470 51.8	509 56.1	779 85.9	47 5.2	30 3.3	27 3.0
	要介護1	282 100.0	103 36.5	32 11.3	140 49.6	147 52.1	235 83.3	9 3.2	19 6.7	14 5.0
	要介護2	130 100.0	58 44.6	27 20.8	60 46.2	63 48.5	113 86.9	10 7.7	12 9.2	6 4.6

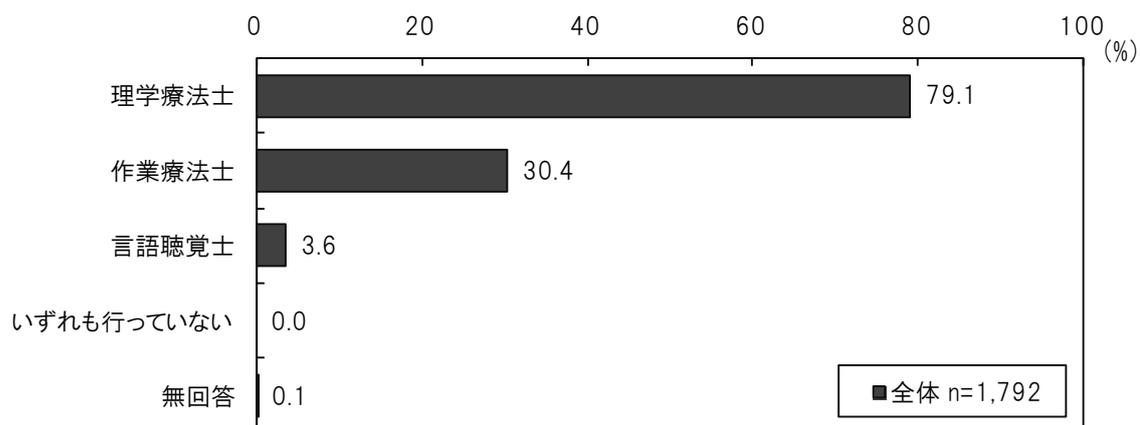
		合計	認知症	その他	無回答
全体		1,792	103	100	10
		100.0	5.7	5.6	0.6
要介護度	要支援1	473	17	30	3
		100.0	3.6	6.3	0.6
	要支援2	907	34	40	5
		100.0	3.7	4.4	0.6
	要介護1	282	35	19	2
	100.0	12.4	6.7	0.7	
	要介護2	130	17	11	0
		100.0	13.1	8.5	0.0

(2) 専門職によるリハビリテーションの実施状況

最も高いのは「理学療法士」で79.1%、次いで、「作業療法士」が30.4%となっている。

要介護度別でみると、要介護2は、要介護1以下と比べて「理学療法士」の割合が高くなっている。また、要支援1・2は、要介護1・2と比べて「作業療法士」の割合が高くなっている。

図表 4-33 専門職によるリハビリテーションの実施状況（複数回答）



図表 4-34 要介護度別 専門職によるリハビリテーションの実施状況（複数回答）

		合計	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	いずれも行っていない	無回答
全体		1,792	1,417	545	64	0	1
		100.0	79.1	30.4	3.6	0.0	0.1
要介護度	要支援1	473	356	142	27	0	0
		100.0	75.3	30.0	5.7	0.0	0.0
	要支援2	907	725	303	20	0	0
		100.0	79.9	33.4	2.2	0.0	0.0
	要介護1	282	224	72	10	0	1
	100.0	79.4	25.5	3.5	0.0	0.4	
	要介護2	130	112	28	7	0	0
		100.0	86.2	21.5	5.4	0.0	0.0

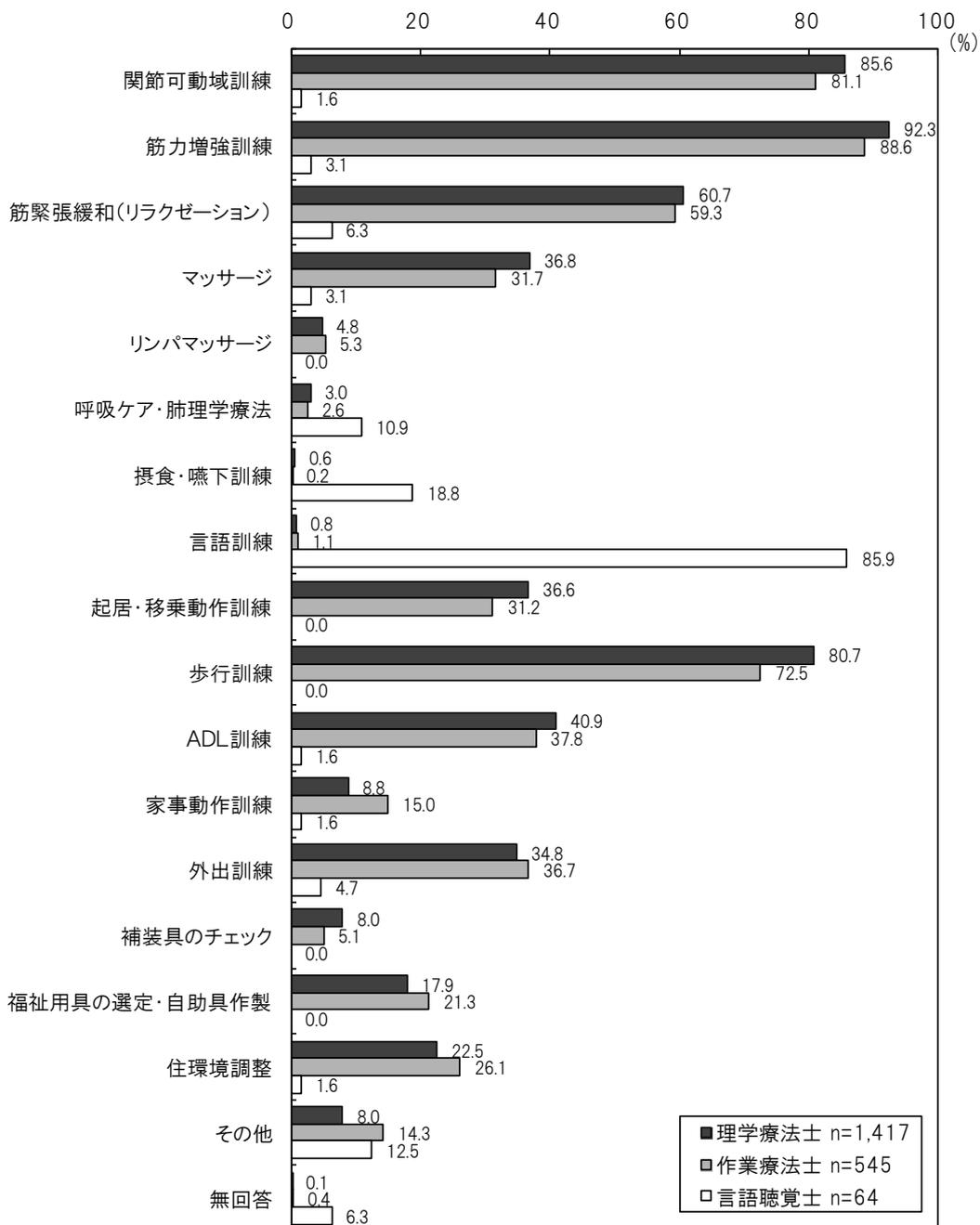
(3) 職種別のリハビリテーションの内容

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がリハビリを実施していると回答した人に、各専門職が実施しているリハビリテーションの内容をきいた。理学療法士・作業療法士いずれも、「関節可動域訓練」「筋力増強訓練」「歩行訓練」の割合が高くなっている。一方、言語聴覚士は、「言語訓練」の割合が最も高く 85.9%となっている。

理学療法士によるリハビリテーションの内容を要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「起居・移乗動作訓練」「歩行訓練」「ADL 訓練」「住環境調整」の割合が高くなっている。

作業療法士によるリハビリテーションの内容を要介護度別でみると、要支援1・2は、要介護1・2と比べて「筋緊張緩和（リラクゼーション）」の割合が高く、「起居・移乗動作訓練」「ADL 訓練」の割合が低くなっている。

図表 4-35 職種別のリハビリテーションの内容（複数回答）



図表 4-36 要介護度別 リハビリテーションの内容（理学療法士）（複数回答）

	合計	関節可動域訓練	筋力増強訓練	シ（筋緊張緩和） ョ（リラクゼーション）	マッサージ	サリンジパマツ	理学療法 呼吸ケア・肺	摂食・嚥下訓練	言語訓練	起居訓練・移乗動
全体	1,417 100.0	1,213 85.6	1,308 92.3	860 60.7	521 36.8	68 4.8	43 3.0	8 0.6	11 0.8	519 36.6
要介護度	要支援1	356 100.0	301 84.6	338 94.9	217 61.0	138 38.8	11 3.1	10 2.8	2 0.6	103 28.9
	要支援2	725 100.0	621 85.7	665 91.7	454 62.6	260 35.9	30 4.1	17 2.3	4 0.6	244 33.7
	要介護1	224 100.0	197 87.9	205 91.5	124 55.4	79 35.3	14 6.3	12 5.4	2 0.9	104 46.4
	要介護2	112 100.0	94 83.9	100 89.3	65 58.0	44 39.3	13 11.6	4 3.6	0 0.0	2 1.8

	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	外出訓練	補装具の チエツク	福祉用具の 制定・社 自具の 作選	住環境調整	その他	無回答	
全体	1,417 100.0	1,143 80.7	580 40.9	125 8.8	493 34.8	113 8.0	253 17.9	319 22.5	114 8.0	1 0.1	
要介護度	要支援1	356 100.0	272 76.4	131 36.8	27 7.6	111 31.2	14 3.9	48 13.5	64 18.0	38 10.7	0 0.0
	要支援2	725 100.0	582 80.3	281 38.8	76 10.5	261 36.0	62 8.6	146 20.1	166 22.9	56 7.7	1 0.1
	要介護1	224 100.0	184 82.1	100 44.6	17 7.6	89 39.7	20 8.9	33 14.7	53 23.7	12 5.4	0 0.0
	要介護2	112 100.0	105 93.8	68 60.7	5 4.5	32 28.6	17 15.2	26 23.2	36 32.1	8 7.1	0 0.0

図表 4-37 要介護度別 リハビリテーションの内容（作業療法士）（複数回答）

	合計	関節可動域訓練	筋力増強訓練	シ（筋緊張緩和） ョ（ラクゼ） ン（クゼ） （）	マッサージ	サリンジパマツ	理学療法 呼吸ケア・肺	摂食・嚥下訓練	言語訓練	起居訓練・移乗動	
全体	545 100.0	442 81.1	483 88.6	323 59.3	173 31.7	29 5.3	14 2.6	1 0.2	6 1.1	170 31.2	
要介護度	要支援1	142 100.0	118 83.1	128 90.1	86 60.6	42 29.6	10 7.0	3 2.1	0 0.0	1 0.7	45 31.7
	要支援2	303 100.0	249 82.2	270 89.1	194 64.0	102 33.7	14 4.6	6 2.0	1 0.3	3 1.0	76 25.1
	要介護1	72 100.0	56 77.8	62 86.1	32 44.4	27 37.5	4 5.6	4 5.6	0 0.0	2 2.8	36 50.0
	要介護2	28 100.0	19 67.9	23 82.1	11 39.3	2 7.1	1 3.6	1 3.6	0 0.0	0 0.0	13 46.4

	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	外出訓練	チ補 ェ装 ツ具 クの	製定福 ・社 自 助 具 の 作 選	住 環 境 調 整	そ の 他	無 回 答	
全体	545 100.0	395 72.5	206 37.8	82 15.0	200 36.7	28 5.1	116 21.3	142 26.1	78 14.3	2 0.4	
要介護度	要支援1	142 100.0	102 71.8	51 35.9	14 9.9	57 40.1	5 3.5	20 14.1	32 22.5	13 9.2	0 0.0
	要支援2	303 100.0	214 70.6	103 34.0	57 18.8	105 34.7	19 6.3	77 25.4	74 24.4	54 17.8	2 0.7
	要介護1	72 100.0	56 77.8	38 52.8	9 12.5	26 36.1	2 2.8	14 19.4	28 38.9	7 9.7	0 0.0
	要介護2	28 100.0	23 82.1	14 50.0	2 7.1	12 42.9	2 7.1	5 17.9	8 28.6	4 14.3	0 0.0

図表 4-38 要介護度別 リハビリテーションの内容（言語聴覚士）（複数回答）

	合計	関節可動域訓練	筋力増強訓練	シ（筋緊張緩和） ョ（リラクゼー） ン（クゼー） ）	マッサージ	サリンジパマツ	理学療法・呼吸ケア・肺	摂食・嚥下訓練	言語訓練	起居訓練・移乗動作	
全体	64 100.0	1 1.6	2 3.1	4 6.3	2 3.1	0 0.0	7 10.9	12 18.8	55 85.9	0 0.0	
要介護度	要支援1	27 100.0	0 0.0	2 7.4	3 11.1	1 3.7	0 0.0	1 3.7	7 25.9	25 92.6	0 0.0
	要支援2	20 100.0	1 5.0	0 0.0	1 5.0	1 5.0	0 0.0	4 20.0	3 15.0	16 80.0	0 0.0
	要介護1	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 10.0	1 80.0	8 80.0	0 0.0
	要介護2	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	1 14.3	6 85.7	0 0.0

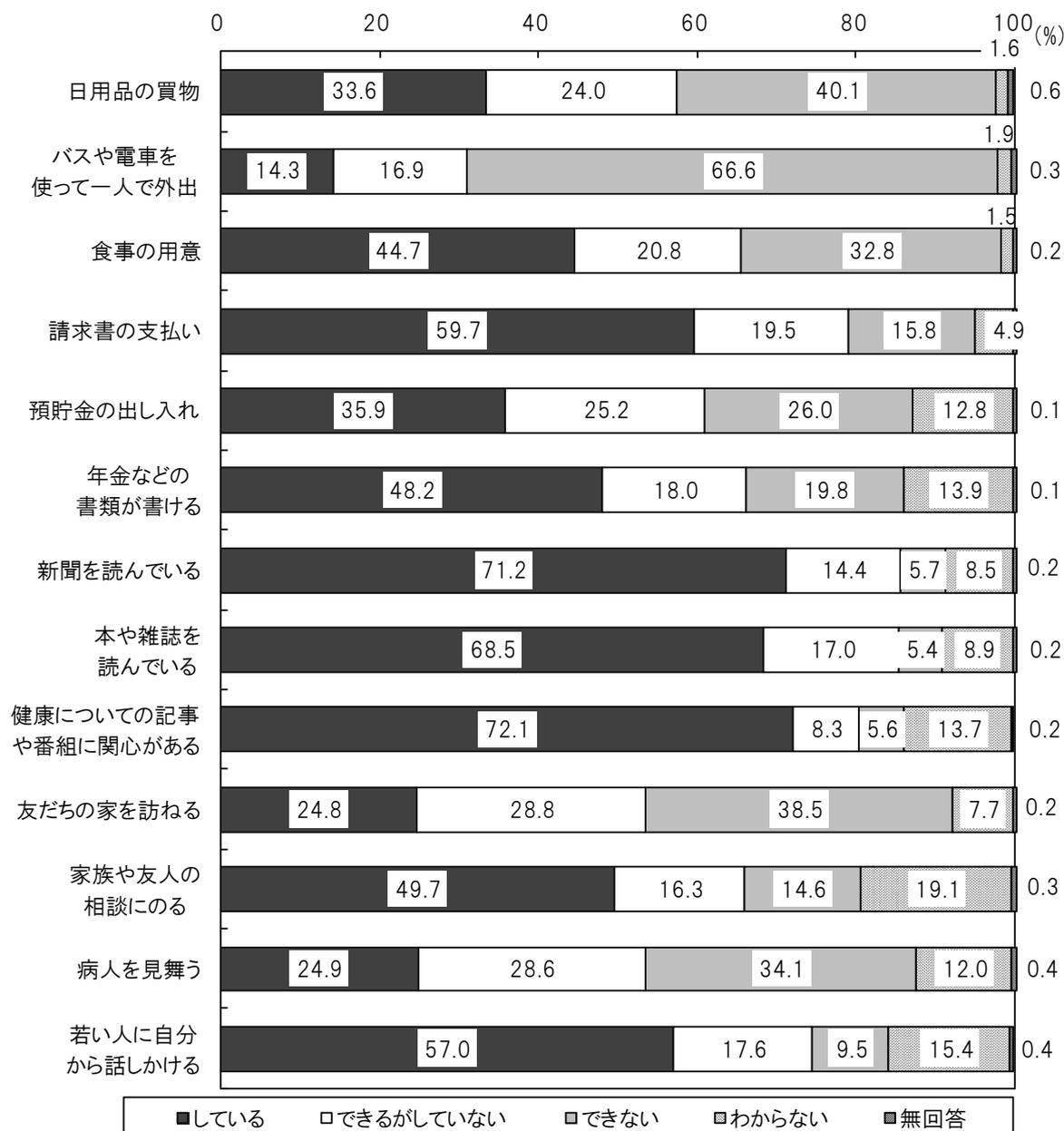
	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	外出訓練	補装具の チ ェ ツ ク	福祉用具の 製 定 ・ 社 自 助 具 の 選 作	住環境調整	その他	無回答
全体	64 100.0	0 0.0	1 1.6	1 1.6	3 4.7	0 0.0	0 0.0	1 1.6	8 12.5	4 6.3
要介護度	要支援1	27 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.7	0 0.0	0 0.0	3 11.1	0 0.0
	要支援2	20 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0	3 15.0
	要介護1	10 100.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 10.0	2 20.0	1 10.0
	要介護2	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0

4 IADLの状況

「している」の割合が高いのは、『新聞を読んでいる』（71.2%）、『本や雑誌を読んでいる』（68.5%）、『健康についての記事や番組に関心がある』（72.1%）となっている。一方、「できない」の割合が最も高いのは、『バスや電車を使って一人で外出』で66.6%、次いで、『日用品の買い物』が40.1%、『友だちの家を訪ねる』が38.5%となっている。

図表 4-39 IADLの状況

全体 n=1,792



IADL の状況を要介護度別で見ると、いずれも要介護度が上がるにつれて、「できない」の割合が高くなっている。要支援1から要介護2にかけて特に割合が高くなるものとしては、『日用品の買い物』『バスや電車を使って一人で外出』『食事の用意』『預貯金の出し入れ』『友だちの家を訪ねる』があげられる。

図表 4-4 0 要介護度別 日用品の買い物

		合計	している	できるが していない	できない	わから ない	無回答
全体		1,792 100.0	603 33.6	430 24.0	719 40.1	29 1.6	11 0.6
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	212 44.8	128 27.1	119 25.2	12 2.5	2 0.4
	要支援2	907 100.0	318 35.1	223 24.6	350 38.6	12 1.3	4 0.4
	要介護1	282 100.0	62 22.0	57 20.2	156 55.3	3 1.1	4 1.4
	要介護2	130 100.0	11 8.5	22 16.9	94 72.3	2 1.5	1 0.8

図表 4-4 1 要介護度別 バスや電車を使って一人で外出

		合計	している	できるがし ていない	できない	わから ない	無回答
全体		1,792 100.0	256 14.3	303 16.9	1,194 66.6	34 1.9	5 0.3
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	111 23.5	102 21.6	243 51.4	16 3.4	1 0.2
	要支援2	907 100.0	120 13.2	163 18.0	609 67.1	12 1.3	3 0.3
	要介護1	282 100.0	21 7.4	30 10.6	224 79.4	6 2.1	1 0.4
	要介護2	130 100.0	4 3.1	8 6.2	118 90.8	0 0.0	0 0.0

図表 4-4 2 要介護度別 食事の用意

		合計	している	できるがし ていない	できない	わから ない	無回答
全体		1,792 100.0	801 44.7	372 20.8	588 32.8	27 1.5	4 0.2
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	244 51.6	108 22.8	111 23.5	10 2.1	0 0.0
	要支援2	907 100.0	448 49.4	185 20.4	258 28.4	14 1.5	2 0.2
	要介護1	282 100.0	83 29.4	63 22.3	132 46.8	2 0.7	2 0.7
	要介護2	130 100.0	26 20.0	16 12.3	87 66.9	1 0.8	0 0.0

図表 4-4 3 要介護度別 請求書の支払い

	合計	している	できるが していない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,792 100.0	1,069 59.7	350 19.5	283 15.8	87 4.9	3 0.2	
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	316 66.8	91 19.2	45 9.5	21 4.4	0 0.0
	要支援2	907 100.0	605 66.7	153 16.9	108 11.9	39 4.3	2 0.2
	要介護1	282 100.0	106 37.6	77 27.3	82 29.1	16 5.7	1 0.4
	要介護2	130 100.0	42 32.3	29 22.3	48 36.9	11 8.5	0 0.0

図表 4-4 4 要介護度別 預貯金の出し入れ

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,792 100.0	643 35.9	451 25.2	466 26.0	230 12.8	2 0.1	
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	204 43.1	119 25.2	75 15.9	75 15.9	0 0.0
	要支援2	907 100.0	372 41.0	218 24.0	207 22.8	109 12.0	1 0.1
	要介護1	282 100.0	54 19.1	84 29.8	109 38.7	34 12.1	1 0.4
	要介護2	130 100.0	13 10.0	30 23.1	75 57.7	12 9.2	0 0.0

図表 4-4 5 要介護度別 年金などの書類が書ける

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,792 100.0	864 48.2	322 18.0	355 19.8	249 13.9	2 0.1	
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	238 50.3	87 18.4	66 14.0	82 17.3	0 0.0
	要支援2	907 100.0	494 54.5	151 16.6	142 15.7	119 13.1	1 0.1
	要介護1	282 100.0	95 33.7	61 21.6	90 31.9	35 12.4	1 0.4
	要介護2	130 100.0	37 28.5	23 17.7	57 43.8	13 10.0	0 0.0

図表 4-4 6 要介護度別 新聞を読んでいる

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,792 100.0	1,276 71.2	258 14.4	102 5.7	153 8.5	3 0.2	
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	353 74.6	51 10.8	25 5.3	44 9.3	0 0.0
	要支援2	907 100.0	672 74.1	126 13.9	32 3.5	76 8.4	1 0.1
	要介護1	282 100.0	174 61.7	56 19.9	29 10.3	22 7.8	1 0.4
	要介護2	130 100.0	77 59.2	25 19.2	16 12.3	11 8.5	1 0.8

図表 4-47 要介護度別 本や雑誌を読んでいる

	合計	している	できるが していない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,792 100.0	1,227 68.5	305 17.0	96 5.4	160 8.9	4 0.2	
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	337 71.2	63 13.3	26 5.5	47 9.9	0 0.0
	要支援2	907 100.0	649 71.6	138 15.2	33 3.6	86 9.5	1 0.1
	要介護1	282 100.0	167 59.2	70 24.8	25 8.9	17 6.0	3 1.1
	要介護2	130 100.0	74 56.9	34 26.2	12 9.2	10 7.7	0 0.0

図表 4-48 要介護度別 健康についての記事や番組に関心がある

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,792 100.0	1,292 72.1	149 8.3	101 5.6	246 13.7	4 0.2	
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	359 75.9	30 6.3	17 3.6	67 14.2	0 0.0
	要支援2	907 100.0	700 77.2	63 6.9	36 4.0	107 11.8	1 0.1
	要介護1	282 100.0	159 56.4	42 14.9	31 11.0	47 16.7	3 1.1
	要介護2	130 100.0	74 56.9	14 10.8	17 13.1	25 19.2	0 0.0

図表 4-49 要介護度別 友だちの家を訪ねる

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,792 100.0	444 24.8	516 28.8	690 38.5	138 7.7	4 0.2	
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	150 31.7	156 33.0	125 26.4	42 8.9	0 0.0
	要支援2	907 100.0	226 24.9	271 29.9	334 36.8	75 8.3	1 0.1
	要介護1	282 100.0	52 18.4	67 23.8	145 51.4	15 5.3	3 1.1
	要介護2	130 100.0	16 12.3	22 16.9	86 66.2	6 4.6	0 0.0

図表 4-50 要介護度別 家族や友人の相談にのる

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,792 100.0	890 49.7	292 16.3	261 14.6	343 19.1	6 0.3	
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	245 51.8	76 16.1	49 10.4	102 21.6	1 0.2
	要支援2	907 100.0	505 55.7	136 15.0	92 10.1	172 19.0	2 0.2
	要介護1	282 100.0	98 34.8	56 19.9	80 28.4	45 16.0	3 1.1
	要介護2	130 100.0	42 32.3	24 18.5	40 30.8	24 18.5	0 0.0

図表 4-5 1 要介護度別 病人を見舞う

		合計	している	できるが していない	できない	わからな い	無回答
全体		1,792 100.0	447 24.9	512 28.6	611 34.1	215 12.0	7 0.4
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	144 30.4	156 33.0	105 22.2	67 14.2	1 0.2
	要支援2	907 100.0	229 25.2	271 29.9	297 32.7	108 11.9	2 0.2
	要介護1	282 100.0	57 20.2	60 21.3	133 47.2	29 10.3	3 1.1
	要介護2	130 100.0	17 13.1	25 19.2	76 58.5	11 8.5	1 0.8

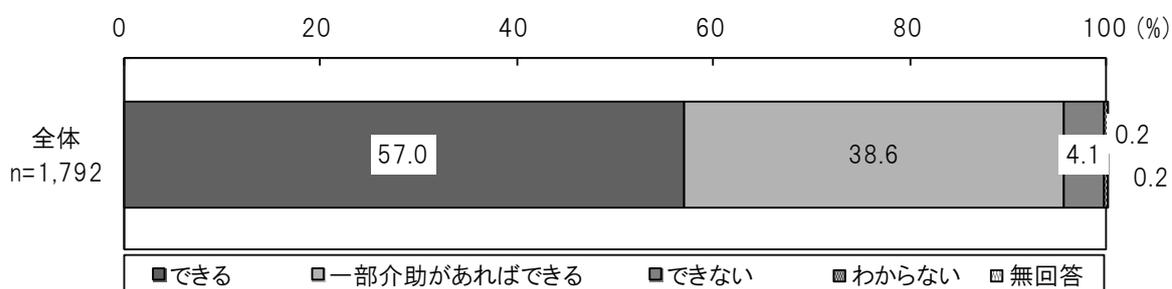
図表 4-5 2 要介護度別 若い人に自分から話しかける

		合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答
全体		1,792 100.0	1,021 57.0	316 17.6	171 9.5	276 15.4	8 0.4
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	272 57.5	88 18.6	29 6.1	83 17.5	1 0.2
	要支援2	907 100.0	541 59.6	152 16.8	72 7.9	138 15.2	4 0.4
	要介護1	282 100.0	136 48.2	53 18.8	49 17.4	41 14.5	3 1.1
	要介護2	130 100.0	72 55.4	23 17.7	21 16.2	14 10.8	0 0.0

自分で入浴ができるかについては、「できる」の割合が最も高く 57.0%、次いで、「一部介助があればできる」が 38.6%となっている。

要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「一部介助があればできる」「できない」の割合が高くなっている。「一部介助があればできる」は、要介護1・2では約 60%となる。また、「できない」の割合は、要介護2では約 20%となっている。

図表 4-5 3 自分で入浴ができるか



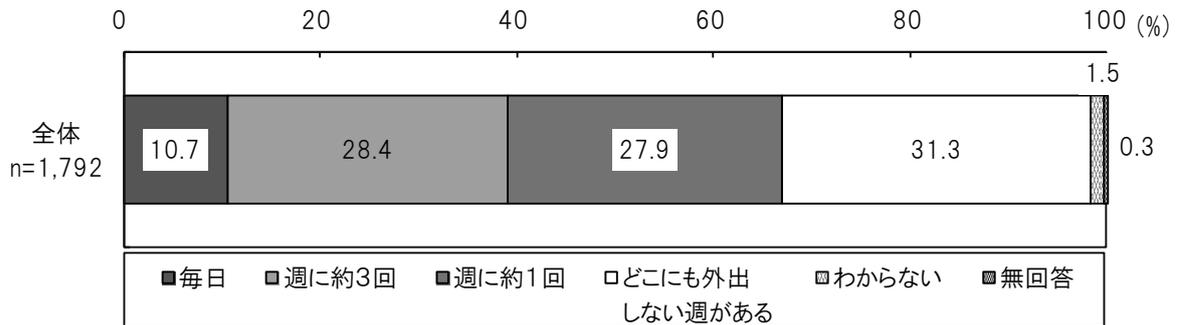
図表 4-5 4 要介護度別 自分で入浴ができるか

		合計	できる	一部介助 があれば できる	できない	わからな い	無回答
全体		1,792 100.0	1,021 57.0	691 38.6	73 4.1	3 0.2	4 0.2
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	367 77.6	101 21.4	5 1.1	0 0.0	0 0.0
	要支援2	907 100.0	533 58.8	343 37.8	28 3.1	1 0.1	2 0.2
	要介護1	282 100.0	97 34.4	167 59.2	15 5.3	2 0.7	1 0.4
	要介護2	130 100.0	24 18.5	80 61.5	25 19.2	0 0.0	1 0.8

一週間の外出頻度は、「週に約3回」が28.4%、「週に約1回」が27.9%、「どこにも外出しない週がある」が31.3%と、約3割ずつとなっている。

要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「どこにも外出しない週がある」の割合がやや高くなっている。

図表 4-5 5 一週間の外出頻度



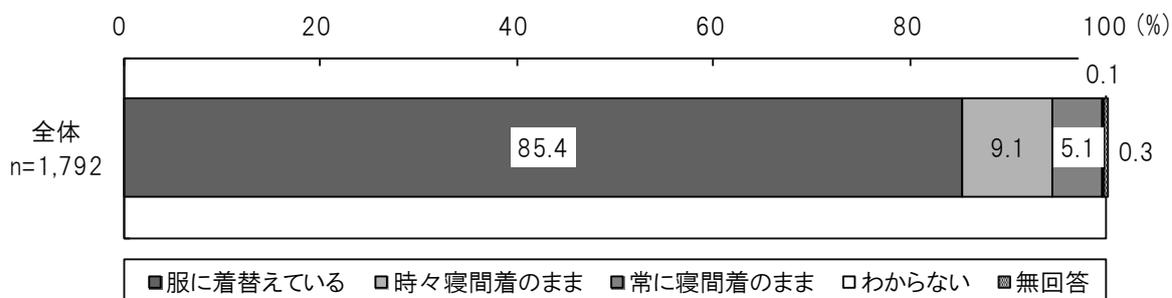
図表 4-5 6 要介護度別 一週間の外出頻度

		合計	毎日	週に約3 回	週に約1 回	どこにも外 出しない 週がある	わからな い	無回答
全体		1,792 100.0	192 10.7	509 28.4	500 27.9	560 31.3	26 1.5	5 0.3
要 介 護 度	要支援1	473 100.0	65 13.7	123 26.0	138 29.2	140 29.6	7 1.5	0 0.0
	要支援2	907 100.0	96 10.6	267 29.4	253 27.9	273 30.1	16 1.8	2 0.2
	要介護1	282 100.0	27 9.6	75 26.6	79 28.0	97 34.4	3 1.1	1 0.4
	要介護2	130 100.0	4 3.1	44 33.8	30 23.1	50 38.5	0 0.0	2 1.5

日中の服装は、「服に着替えている」の割合が最も高く 85.4%となっている。「時々寝間着のまま」は 9.1%、「常に寝間着のまま」は 5.1%となっている。

要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「時々寝間着のまま」「常に寝間着のまま」の割合がやや高くなっている。

図表 4-57 日中の服装



図表 4-58 要介護度別 日中の服装

		合計	服に着替えている	時々寝間着のまま	常に寝間着のまま	わからない	無回答
全体		1,792 100.0	1,530 85.4	163 9.1	92 5.1	2 0.1	5 0.3
要介護度	要支援1	473 100.0	428 90.5	32 6.8	11 2.3	1 0.2	1 0.2
	要支援2	907 100.0	794 87.5	69 7.6	41 4.5	1 0.1	2 0.2
	要介護1	282 100.0	218 77.3	37 13.1	26 9.2	0 0.0	1 0.4
	要介護2	130 100.0	90 69.2	25 19.2	14 10.8	0 0.0	1 0.8

(2) IADL の状況別 訪問リハを継続している理由

訪問リハを継続している理由について、IADL の状況別でみた。

日用品の買い物が『している』『できるがしていない』でも「IADL の改善が必要なため」の割合は 41.8%、41.4%、「外出や他者との交流のため」の割合は 23.9%、25.6%となっている。

バスや電車を使って一人で外出を『している』『できるがしていない』でも「IADL の改善が必要なため」は 35.5%、46.9%、「外出や他者との交流のため」の割合は 27.7%、21.1%となっている。

食事の用意が『している』『できるがしていない』でも「IADL の改善が必要なため」の割合は 44.7%、36.0%となっている。

図表 4-60 IADL の状況別 訪問リハを継続している理由（複数回答）

	合計	要 A D た め の 改 善 が 必 要	必 I 要 A な D た め の 改 善 が	が 己 必 拘 要 縮 な 予 た 防 め 法 た 法 め 習 の の 得 自	た 福 使 祉 め 用 を 定 定 着 着 さ さ せ せ る る な	減 家 の 族 た 介 め 護 の 負 た 担 た 軽	し テ た 本 が 人 ら シ な ョ い リ た ハ た を め 終 了 後 の 行 き 先 が	な 終 い 了 た 後 め の 行 き 先 が	業 他 所 に 等 が が 受 け な い れ る 事	流 外 の 出 た や め 他 者 と の 交 流	そ の 他	無 回 答	
全体	1,792 100.0	723 40.3	675 37.7	671 37.4	109 6.1	168 9.4	245 13.7	79 4.4	25 1.4	436 24.3	237 13.2	12 0.7	
日用品の 買物	している	603 100.0	160 26.5	252 41.8	236 39.1	22 3.6	29 4.8	102 16.9	33 5.5	8 1.3	144 23.9	105 17.4	2 0.3
	できるがして いない	430 100.0	174 40.5	178 41.4	160 37.2	25 5.8	30 7.0	71 16.5	21 4.9	9 2.1	110 25.6	43 10.0	3 0.7
	できない	719 100.0	369 51.3	234 32.5	266 37.0	60 8.3	104 14.5	65 9.0	23 3.2	8 1.1	175 24.3	81 11.3	6 0.8
	わからない	29 100.0	15 51.7	10 34.5	6 20.7	1 3.4	2 6.9	5 17.2	0 0.0	0 0.0	5 17.2	6 20.7	0 0.0
使っ た ス ー ヤ 人 電 車 で 外 出	している	256 100.0	60 23.4	91 35.5	100 39.1	10 3.9	8 3.1	52 20.3	18 7.0	3 1.2	71 27.7	40 15.6	0 0.0
	できるがして いない	303 100.0	94 31.0	142 46.9	126 41.6	8 2.6	16 5.3	57 18.8	10 3.3	7 2.3	64 21.1	49 16.2	1 0.3
	できない	1194 100.0	557 46.6	430 36.0	433 36.3	90 7.5	140 11.7	130 10.9	49 4.1	15 1.3	288 24.1	140 11.7	9 0.8
	わからない	34 100.0	10 29.4	9 26.5	11 32.4	1 2.9	4 11.8	6 17.6	2 5.9	0 0.0	11 32.4	7 20.6	1 2.9
食 事 の 用 意	している	801 100.0	277 34.6	358 44.7	302 37.7	45 5.6	42 5.2	124 15.5	38 4.7	11 1.4	193 24.1	115 14.4	4 0.5
	できるがして いない	372 100.0	138 37.1	134 36.0	135 36.3	20 5.4	25 6.7	58 15.6	12 3.2	6 1.6	92 24.7	55 14.8	4 1.1
	できない	588 100.0	298 50.7	170 28.9	226 38.4	43 7.3	98 16.7	58 9.9	29 4.9	8 1.4	138 23.5	62 10.5	3 0.5
	わからない	27 100.0	8 29.6	11 40.7	8 29.6	1 3.7	3 11.1	5 18.5	0 0.0	0 0.0	12 44.4	4 14.8	0 0.0

(3) リハビリが必要な心身の状態別 リハビリテーションを行っている職種

リハビリテーションを行っている職種について、リハビリが必要な心身の状態別でみた。『運動失調』は、他と比べて「理学療法士」の割合が高くなっている。『運動まひ(中枢性・末梢性)』『感覚まひ』『高次脳機能障害』は、他と比べて「作業療法士」の割合が高くなっている。また、『失語症・構音障害』『高次脳機能障害』は、他と比べて「言語聴覚士」の割合が高くなっている。

図表 4-6 1 リハビリが必要な心身の状態別 リハビリテーションを行っている職種 (複数回答)

	合計	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	いずれも行っていない	無回答	
全体	1,792 100.0	1,417 79.1	545 30.4	64 3.6	0 0.0	1 0.1	
リハビリが必要な心身の状態	運動まひ(中枢性・末梢性)	633 100.0	498 78.7	218 34.4	20 3.2	0 0.0	0 0.0
	感覚まひ	280 100.0	215 76.8	99 35.4	5 1.8	0 0.0	0 0.0
	関節の拘縮・変形	881 100.0	718 81.5	249 28.3	12 1.4	0 0.0	0 0.0
	疼痛	982 100.0	798 81.3	286 29.1	10 1.0	0 0.0	0 0.0
	筋力・筋耐久性の低下	1532 100.0	1238 80.8	471 30.7	25 1.6	0 0.0	0 0.0
	運動失調	85 100.0	75 88.2	27 31.8	6 7.1	0 0.0	0 0.0
	失語症・構音障害	87 100.0	45 51.7	21 24.1	50 57.5	0 0.0	0 0.0
	高次脳機能障害	55 100.0	37 67.3	21 38.2	13 23.6	0 0.0	0 0.0
	認知症	103 100.0	75 72.8	34 33.0	4 3.9	0 0.0	0 0.0
	その他	100 100.0	75 75.0	29 29.0	6 6.0	0 0.0	0 0.0

(4) リハビリが必要な心身の状態別 専門職によるリハビリテーションの内容

専門職によるリハビリテーションの内容について、リハビリが必要な心身の状態別でみた。

理学療法士によるリハビリテーションの内容をみると、『関節の拘縮・変形』は「関節可動域訓練」、『疼痛』は「マッサージ」、『運動失調』は「起居・移乗動作訓練」、『感覚まひ』『運動失調』『認知症』は「歩行訓練」、『高次脳機能障害』は「外出訓練」の割合が、他と比べて高い傾向がみられる。

作業療法士によるリハビリテーションの内容をみると、『関節の拘縮・変形』は「関節可動域訓練」「起居・移乗動作訓練」、『感覚まひ』は「筋緊張緩和（リラクゼーション）」「外出訓練」、『疼痛』は「マッサージ」の割合が、他と比べて高くなっている。

図表 4-6 2 リハビリが必要な心身の状態別 理学療法士によるリハビリの内容（複数回答）

	合計	練習	筋力	シ（筋	マッ	サリ	理呼	練摂	言語	作起	
		関節	増	ンラ	ッ	ン	学吸	食・	訓練	訓練	
		可	強	ク	サ	パ	ケ	嚥		居	
		動	化	ゼ	ー	マ	ア	下		移	
		域	訓	和	ジ	マ	・	訓		乗	
		訓	練	し			肺			動	
全体	1,417	1,213	1,308	860	521	68	43	8	11	519	
	100.0	85.6	92.3	60.7	36.8	4.8	3.0	0.6	0.8	36.6	
リハビリが必要な心身の状態	運動まひ(中枢性・末梢性)	498	444	439	335	154	24	5	7	213	
		100.0	89.2	88.2	67.3	30.9	4.8	1.0	1.4	42.8	
	感覚まひ	215	190	190	156	81	11	3	4	92	
		100.0	88.4	88.4	72.6	37.7	5.1	1.4	1.9	42.8	
	関節の拘縮・変形	718	691	681	481	290	43	13	5	305	
		100.0	96.2	94.8	67.0	40.4	6.0	1.8	0.7	42.5	
	疼痛	798	724	752	545	369	41	17	5	313	
		100.0	90.7	94.2	68.3	46.2	5.1	2.1	0.6	39.2	
	筋力・筋耐久性の低下	1,238	1,063	1,175	740	473	60	40	8	10	463
		100.0	85.9	94.9	59.8	38.2	4.8	3.2	0.6	0.8	37.4
	運動失調	75	59	68	45	23	1	3	3	2	44
	100.0	78.7	90.7	60.0	30.7	1.3	4.0	4.0	2.7	58.7	
失語症・構音障害	45	38	38	29	8	0	4	1	8	16	
	100.0	84.4	84.4	64.4	17.8	0.0	8.9	2.2	17.8	35.6	
高次脳機能障害	37	25	29	20	6	3	0	0	2	12	
	100.0	67.6	78.4	54.1	16.2	8.1	0.0	0.0	5.4	32.4	
認知症	75	61	69	45	29	7	2	1	0	35	
	100.0	81.3	92.0	60.0	38.7	9.3	2.7	1.3	0.0	46.7	
その他	75	57	68	46	24	4	20	1	0	22	
	100.0	76.0	90.7	61.3	32.0	5.3	26.7	1.3	0.0	29.3	
	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	外出訓練	補装具の	製定福・社 自用 助具の 作選	住環境調整	その他	無回答	
全体	1,417	1,143	580	125	493	113	253	319	114	1	
	100.0	80.7	40.9	8.8	34.8	8.0	17.9	22.5	8.0	0.1	
リハビリが必要な心身の状態	運動まひ(中枢性・末梢性)	498	417	212	50	190	79	94	50	0	
		100.0	83.7	42.6	10.0	38.2	15.9	18.9	10.0	0.0	
	感覚まひ	215	190	100	31	94	43	62	27	0	
		100.0	88.4	46.5	14.4	43.7	20.0	28.8	12.6	0.0	
	関節の拘縮・変形	718	584	320	79	224	74	152	48	0	
		100.0	81.3	44.6	11.0	31.2	10.3	21.2	6.7	0.0	
	疼痛	798	615	332	79	234	57	141	60	1	
		100.0	77.1	41.6	9.9	29.3	7.1	17.7	7.5	0.1	
	筋力・筋耐久性の低下	1,238	1,023	504	111	445	92	227	94	1	
		100.0	82.6	40.7	9.0	35.9	7.4	18.3	7.6	0.1	
	運動失調	75	71	39	4	31	3	22	4	0	
	100.0	94.7	52.0	5.3	41.3	4.0	29.3	5.3	0.0		
失語症・構音障害	45	37	18	4	19	12	12	7	0		
	100.0	82.2	40.0	8.9	42.2	26.7	26.7	15.6	0.0		
高次脳機能障害	37	30	17	9	21	7	7	4	0		
	100.0	81.1	45.9	24.3	56.8	18.9	18.9	10.8	0.0		
認知症	75	68	36	10	25	3	9	13	0		
	100.0	90.7	48.0	13.3	33.3	4.0	12.0	17.3	0.0		
その他	75	62	25	3	29	5	17	17	0		
	100.0	82.7	33.3	4.0	38.7	6.7	22.7	22.7	0.0		

図表 4-63 リハビリが必要な心身の状態別 作業療法士によるリハビリの内容（複数回答）

	合計	練習	筋力	シ（筋	マッ	サリン	理呼吸	練習	言語	作起
		関節	増	ン（緊	ッ	ン	学吸	摂食	訓練	訓練
		可	強	ク	サ	法	・	・		居
		動	化	ゼ	ー	ア	嚥			移
		域	訓	和	ジ	・	下			乗
		訓	練	！		肺	訓			動
全体	545	442	483	323	173	29	14	1	6	170
	100.0	81.1	88.6	59.3	31.7	5.3	2.6	0.2	1.1	31.2
リハビリが必要な心身の状態	運動まひ(中枢性・末梢性)	218	188	180	150	55	8	0	6	74
		100.0	86.2	82.6	68.8	25.2	3.7	0.0	2.8	33.9
	感覚まひ	99	84	79	77	25	3	0	1	30
		100.0	84.8	79.8	77.8	25.3	3.0	0.0	1.0	30.3
	関節の拘縮・変形	249	236	228	171	90	19	5	3	99
		100.0	94.8	91.6	68.7	36.1	7.6	2.0	1.2	39.8
	疼痛	286	243	262	193	122	20	5	3	89
		100.0	85.0	91.6	67.5	42.7	7.0	1.7	1.0	31.1
	筋力・筋耐久性の低下	471	386	442	281	153	28	14	5	155
		100.0	82.0	93.8	59.7	32.5	5.9	3.0	1.1	32.9
	運動失調	27	18	26	10	9	0	0	1	10
		100.0	66.7	96.3	37.0	33.3	0.0	0.0	3.7	37.0
失語症・構音障害	21	17	15	15	7	0	0	4	9	
	100.0	81.0	71.4	71.4	33.3	0.0	0.0	19.0	42.9	
高次脳機能障害	21	14	13	11	5	0	0	2	5	
	100.0	66.7	61.9	52.4	23.8	0.0	0.0	9.5	23.8	
認知症	34	23	32	14	11	3	0	0	14	
	100.0	67.6	94.1	41.2	32.4	8.8	0.0	2.9	41.2	
その他	29	24	21	16	10	1	2	0	9	
	100.0	82.8	72.4	55.2	34.5	3.4	6.9	0.0	31.0	
	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	外出訓練	補装具の	製定福・社 自用具の 作選	住環境調整	その他	無回答
全体	545	395	206	82	200	28	116	142	78	2
	100.0	72.5	37.8	15.0	36.7	5.1	21.3	26.1	14.3	0.4
リハビリが必要な心身の状態	運動まひ(中枢性・末梢性)	218	162	93	48	81	21	59	34	1
		100.0	74.3	42.7	22.0	37.2	9.6	22.9	15.6	0.5
	感覚まひ	99	76	42	26	47	14	27	12	1
		100.0	76.8	42.4	26.3	47.5	14.1	27.3	12.1	1.0
	関節の拘縮・変形	249	182	96	32	73	17	62	33	2
		100.0	73.1	38.6	12.9	29.3	6.8	24.9	13.3	0.8
	疼痛	286	204	118	40	94	14	76	40	2
		100.0	71.3	41.3	14.0	32.9	4.9	26.6	14.0	0.7
	筋力・筋耐久性の低下	471	359	182	64	175	25	106	61	1
		100.0	76.2	38.6	13.6	37.2	5.3	22.5	13.0	0.2
	運動失調	27	22	11	6	9	0	9	6	0
		100.0	81.5	40.7	22.2	33.3	0.0	33.3	22.2	0.0
失語症・構音障害	21	18	10	5	9	2	4	6	0	
	100.0	85.7	47.6	23.8	42.9	9.5	19.0	28.6	0.0	
高次脳機能障害	21	16	8	7	9	1	3	6	1	
	100.0	76.2	38.1	33.3	42.9	4.8	14.3	28.6	4.8	
認知症	34	28	13	5	10	0	6	11	0	
	100.0	82.4	38.2	14.7	29.4	0.0	17.6	32.4	0.0	
その他	29	14	8	4	10	1	8	12	0	
	100.0	48.3	27.6	13.8	34.5	3.4	27.6	41.4	0.0	

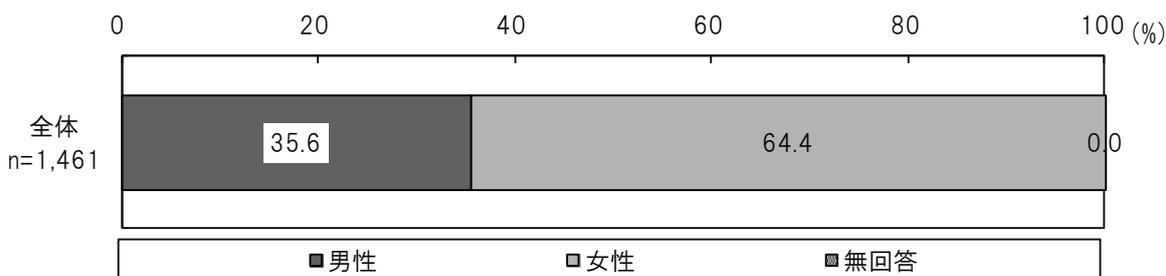
第5章 通所リハビリテーションサービス利用者調査 基本集計結果

1 利用者の基本情報

(1) 性別

「男性」が35.6%、「女性」が64.4%となっている。

図表 5-1 性別

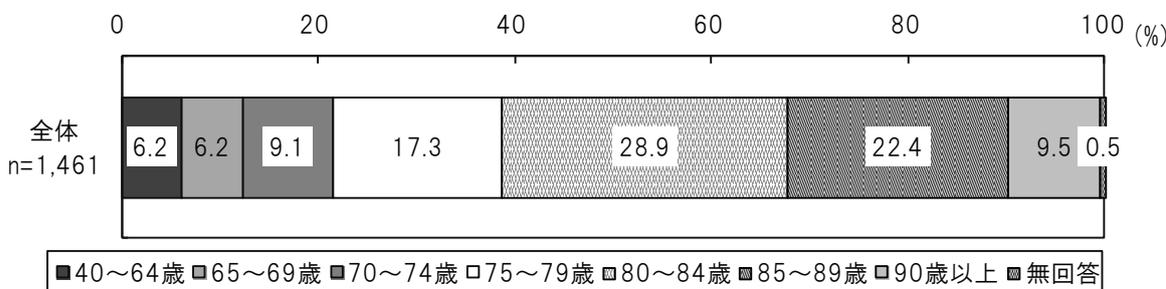


(2) 年齢

割合の高い順に、「80～84歳」(28.9%)、「85～89歳」(22.4%)、「75～79歳」(17.3%)となっており、75歳以上が約80%を占めている。一方で、「40～64歳」は、6.2%となっている。

要介護度別でみると、要支援2は、他と比べて69歳以下の割合がやや高くなっている。

図表 5-2 年齢



図表 5-3 要介護度別 年齢

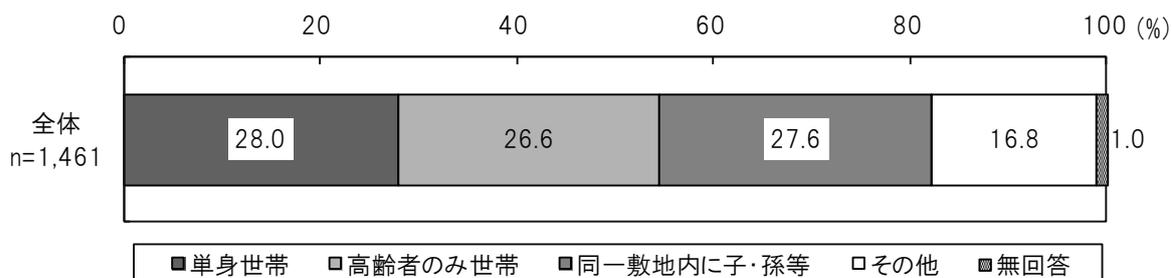
		合計	40～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	無回答
全体		1,461	90	90	133	253	422	327	139	7
		100.0	6.2	6.2	9.1	17.3	28.9	22.4	9.5	0.5
要介護度	要支援1	841	40	40	69	143	274	194	75	6
		100.0	4.8	4.8	8.2	17.0	32.6	23.1	8.9	0.7
	要支援2	505	43	42	49	92	125	110	43	1
		100.0	8.5	8.3	9.7	18.2	24.8	21.8	8.5	0.2
要介護度	要介護1	69	4	5	10	8	15	11	16	0
		100.0	5.8	7.2	14.5	11.6	21.7	15.9	23.2	0.0
要介護度	要介護2	46	3	3	5	10	8	12	5	0
		100.0	6.5	6.5	10.9	21.7	17.4	26.1	10.9	0.0

(3) 世帯構成

割合は分散しており、「単身世帯」(28.0%)、「高齢者のみ世帯」(26.6%)、「同一敷地内に子・孫等」(27.6%)となっている。

要介護度別で見ると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「高齢者のみ世帯」の割合が高くなっている。

図表 5-4 世帯構成



図表 5-5 要介護度別 世帯構成

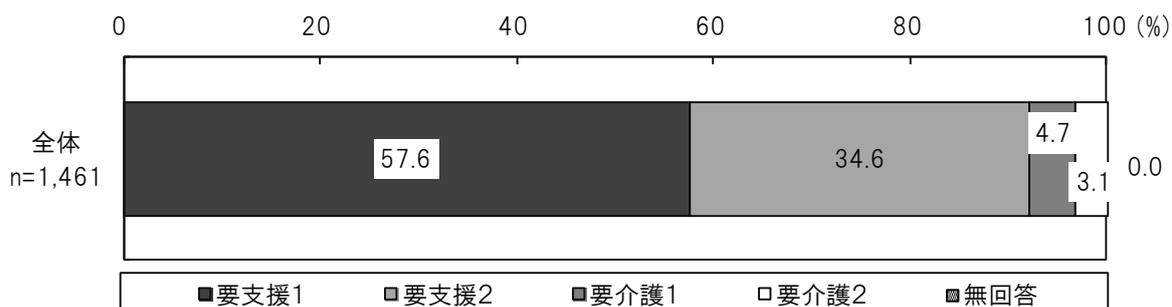
		合計	単身世帯	高齢者のみ世帯	同一敷地内に子・孫等	その他	無回答
全体		1,461	409	388	403	246	15
		100.0	28.0	26.6	27.6	16.8	1.0
要介護度	要支援1	841	252	217	225	138	9
		100.0	30.0	25.8	26.8	16.4	1.1
	要支援2	505	134	131	146	91	3
		100.0	26.5	25.9	28.9	18.0	0.6
要介護度	要介護1	69	9	25	22	12	1
		100.0	13.0	36.2	31.9	17.4	1.4
要介護度	要介護2	46	14	15	10	5	2
		100.0	30.4	32.6	21.7	10.9	4.3

※「その他」のうち、同一敷地内に子・孫等が居住している旨の記載があった回答については、「同一敷地内に子・孫等」として集計している。

(4) 要介護度

「要支援1」の割合が最も高く57.6%、次いで「要支援2」が34.6%と、あわせて要支援者が92.2%を占めている。

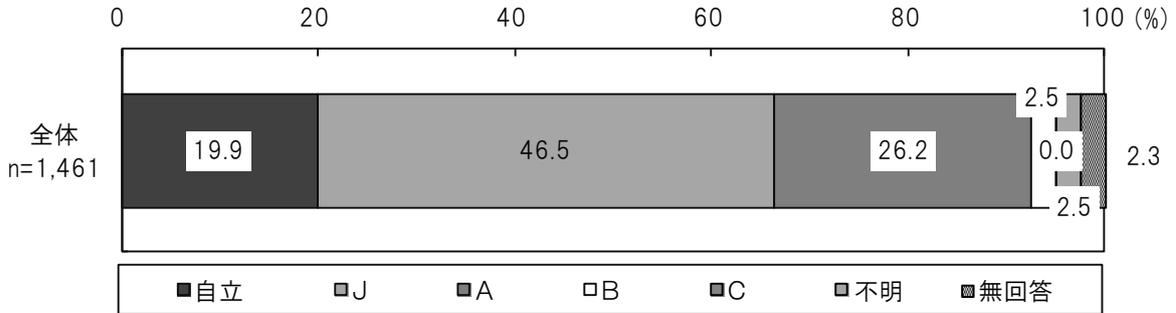
図表 5-6 要介護度



(5) 障害高齢者の日常生活自立度

「J」の割合が最も高く46.5%、次いで「A」が26.2%と、A以下が約90%を占めている。
要介護度別でみると、要支援1・2は、要介護1・2と比べて「自立」「J」の割合が高くなっている。

図表 5-7 障害高齢者の日常生活自立度



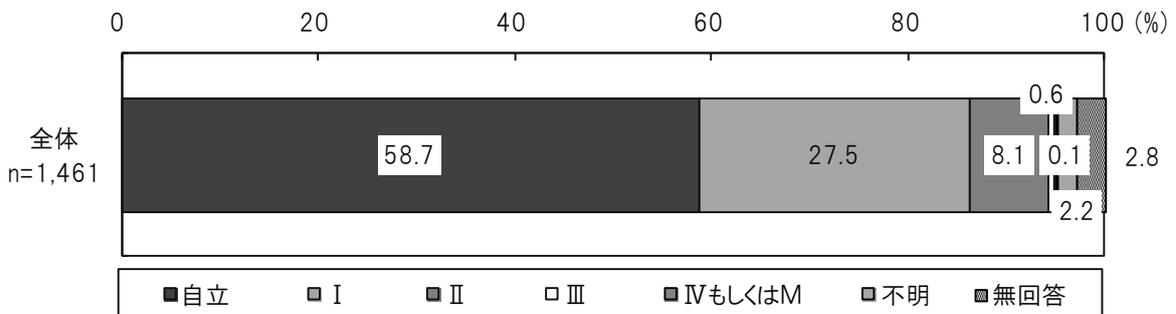
図表 5-8 要介護度別 障害高齢者の日常生活自立度

	合計	自立	J	A	B	C	不明	無回答	
全体	1,461	291	680	383	36	0	37	34	
	100.0	19.9	46.5	26.2	2.5	0.0	2.5	2.3	
要介護度	要支援1	841	206	423	167	6	0	24	15
		100.0	24.5	50.3	19.9	0.7	0.0	2.9	1.8
	要支援2	505	79	225	167	15	0	6	13
		100.0	15.6	44.6	33.1	3.0	0.0	1.2	2.6
	要介護1	69	2	23	29	6	0	6	3
	100.0	2.9	33.3	42.0	8.7	0.0	8.7	4.3	
要介護2	46	4	9	20	9	0	1	3	
	100.0	8.7	19.6	43.5	19.6	0.0	2.2	6.5	

(6) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」の割合が最も高く58.7%、次いで「I」が27.5%と、あわせて86.2%となっている。
要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「II」の割合が高くなっている。

図表 5-9 認知症高齢者の日常生活自立度



図表 5-10 要介護度別 認知症高齢者の日常生活自立度

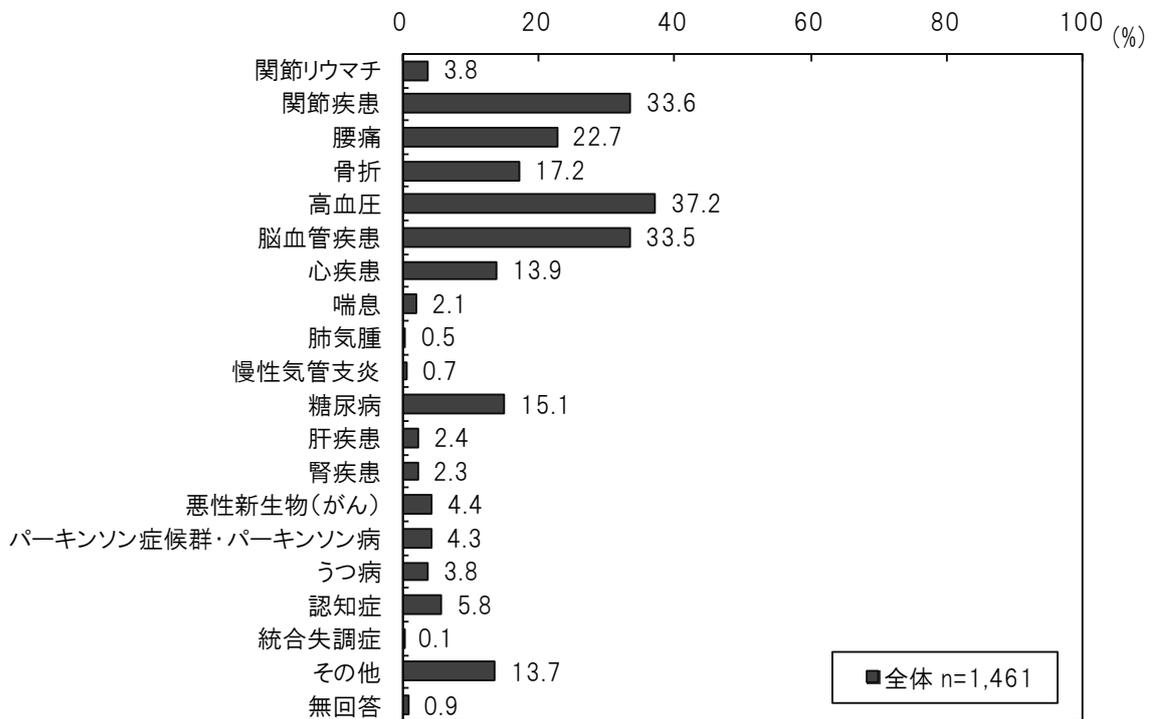
	合計	自立	I	II	III	IVもしくはM	不明	無回答
全体	1,461	858	402	118	9	1	32	41
	100.0	58.7	27.5	8.1	0.6	0.1	2.2	2.8
要介護度	要支援1	841	532	228	41	2	0	19
		100.0	63.3	27.1	4.9	0.2	0.0	2.3
	要支援2	505	291	149	41	2	0	6
		100.0	57.6	29.5	8.1	0.4	0.0	1.2
	要介護1	69	16	16	22	5	1	6
	100.0	23.2	23.2	31.9	7.2	1.4	8.7	4.3
	要介護2	46	19	9	14	0	0	1
	100.0	41.3	19.6	30.4	0.0	0.0	2.2	6.5

(7) 要支援・要介護状態の直接の原因

「高血圧」(37.2%)、「関節疾患」(33.6%)、「脳血管疾患」(33.5%)が比較的高い割合となっている。「その他」としては、骨粗鬆症、脊柱管狭窄症等の「筋骨格系および結合組織の疾患」が比較的多くみられた。

要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「脳血管疾患」「認知症」の割合が高くなっている。

図表 5-11 要支援・要介護状態の直接の原因（複数回答）



図表 5-12 要支援・要介護状態の直接の原因 その他回答

回答内容	件数
筋骨格系および結合組織の疾患	73
循環器系の疾患	29
神経系の疾患	23
内分泌,栄養および代謝疾患	16
眼および付属器の疾患	13
消化器系の疾患	7
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	6
精神および行動の障害	5
耳および乳様突起の疾患	5
呼吸器系の疾患	4
感染症および寄生虫症	3
新生物	2
先天奇形,変形および染色体異常	2
尿路性器系の疾患	1
その他	21

図表 5-13 要介護度別 要支援・要介護状態の直接の原因（複数回答）

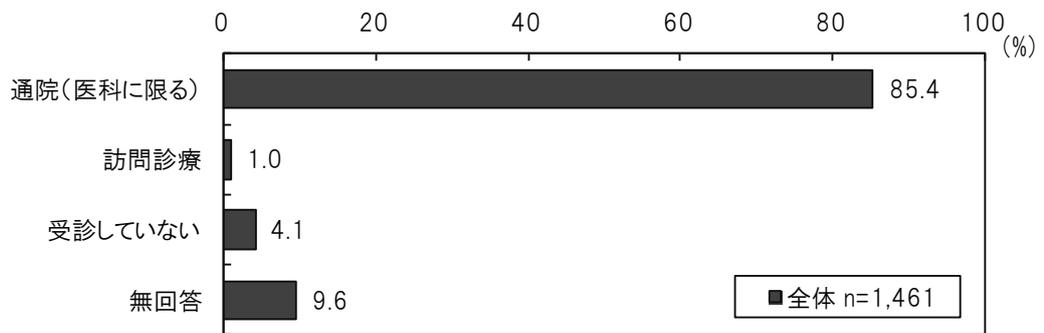
	合計	関節リウマチ	関節疾患	腰痛	骨折	高血圧	脳血管疾患	心疾患	喘息	肺気腫	慢性気管支炎	
全体	1,461 100.0	55 3.8	491 33.6	332 22.7	252 17.2	544 37.2	489 33.5	203 13.9	30 2.1	8 0.5	10 0.7	
要介護度	要支援1	841 100.0	29 3.4	311 37.0	207 24.6	137 16.3	306 36.4	236 28.1	108 12.8	21 2.5	6 0.7	7 0.8
	要支援2	505 100.0	24 4.8	154 30.5	102 20.2	99 19.6	187 37.0	199 39.4	82 16.2	7 1.4	2 0.4	3 0.6
	要介護1	69 100.0	1 1.4	13 18.8	15 21.7	7 10.1	35 50.7	33 47.8	8 11.6	1 1.4	0 0.0	0 0.0
	要介護2	46 100.0	1 2.2	13 28.3	8 17.4	9 19.6	16 34.8	21 45.7	5 10.9	1 2.2	0 0.0	0 0.0
	合計	糖尿病	肝疾患	腎疾患	悪性新生物(がん)	パーキンソン症候群・パーキンソン病	うつ病	認知症	統合失調症	その他	無回答	
全体	1,461 100.0	221 15.1	35 2.4	34 2.3	64 4.4	63 4.3	55 3.8	85 5.8	2 0.1	200 13.7	13 0.9	
要介護度	要支援1	841 100.0	113 13.4	20 2.4	13 1.5	36 4.3	28 3.3	34 4.0	40 4.8	1 0.1	119 14.1	8 1.0
	要支援2	505 100.0	92 18.2	9 1.8	16 3.2	18 3.6	23 4.6	15 3.0	15 3.0	1 0.2	70 13.9	4 0.8
	要介護1	69 100.0	11 15.9	4 5.8	1 1.4	5 7.2	8 11.6	4 5.8	23 33.3	0 0.0	4 5.8	1 1.4
	要介護2	46 100.0	5 10.9	2 4.3	4 8.7	5 10.9	4 8.7	2 4.3	7 15.2	0 0.0	7 15.2	0 0.0

(8) 受診状況

「通院（医科に限る）」の割合が最も高く 85.4%、次いで、「受診していない」が 4.1%となっている。

要介護別でみると、要介護2は、要介護1以下と比べて「通院（医科に限る）」の割合が低くなっている。

図表 5-14 受診状況（複数回答）



図表 5-15 要介護度別 受診状況（複数回答）

	合計	通院(医科に限る)	訪問診療	受診していない	無回答	
全体	1,461 100.0	1,248 85.4	15 1.0	60 4.1	140 9.6	
要介護度	要支援1	841 100.0	730 86.8	5 0.6	32 3.8	76 9.0
	要支援2	505 100.0	422 83.6	9 1.8	26 5.1	48 9.5
	要介護1	69 100.0	62 89.9	0 0.0	0 0.0	7 10.1
	要介護2	46 100.0	34 73.9	1 2.2	2 4.3	9 19.6

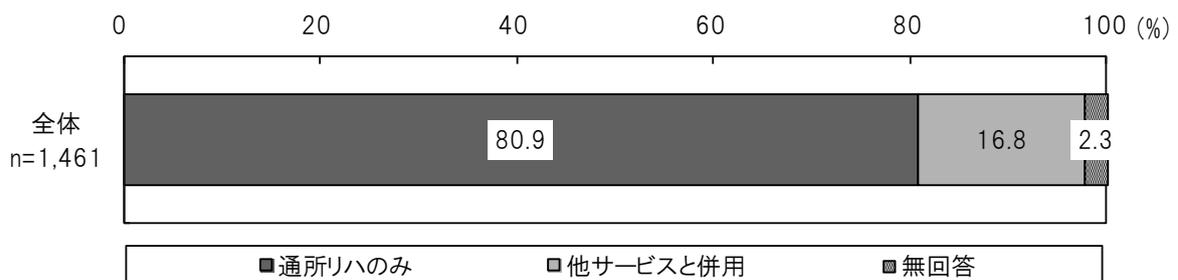
(9) ケアプランに位置付けられているサービス

併用サービスの有無については、「通所リハのみ」が 80.9%、「他サービスと併用」が 16.8%となっている。

併用サービスとしては、「訪問介護」が 11.2%となっている。

要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「(介護予防) 訪問介護」の割合が高くなる。

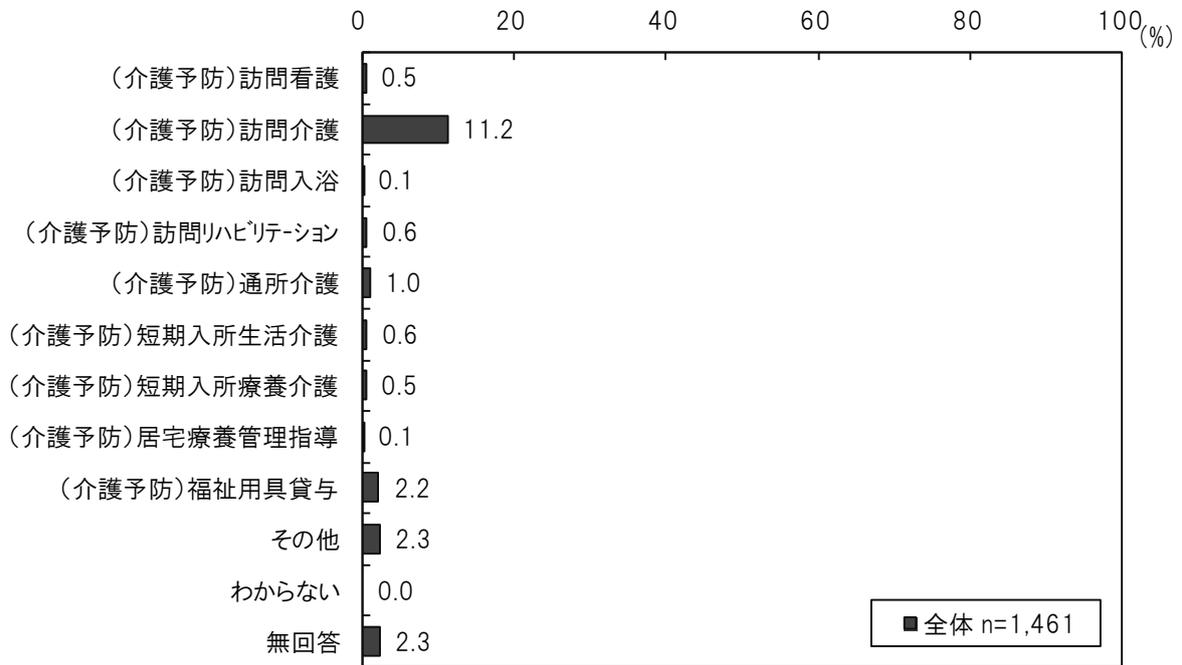
図表 5-16 併用サービスの有無



図表 5-17 要介護度別 併用サービスの有無

		合計	通所リハのみ	他サービスと併用	無回答
全体		1,461	1182	245	34
		100.0	80.9	16.8	2.3
要介護度	要支援1	841	697	121	23
		100.0	82.9	14.4	2.7
	要支援2	505	407	88	10
		100.0	80.6	17.4	2.0
要介護1		69	51	17	1
		100.0	73.9	24.6	1.4
要介護2		46	27	19	0
		100.0	58.7	41.3	0.0

図表 5-18 併用サービス（複数回答）



※「その他」のうち、(介護予防)福祉用具貸与と記載があった回答については、「(介護予防)福祉用具貸与」として集計している。

図表 5-19 要介護度別 併用サービス（複数回答）

	合計	（介護予防） 訪問看護	（介護予防） 訪問介護	（介護予防） 訪問入浴	（介護予防） 訪問リハビリ	（介護予防） 通所介護	（介護予防） 短期入所生活	（介護予防） 短期入所療養	（介護予防） 居宅療養管理 指導	
全体	1,461 100.0	8 0.5	164 11.2	2 0.1	9 0.6	14 1.0	9 0.6	8 0.5	2 0.1	
要介護度	要支援1	841 100.0	5 0.6	81 9.6	1 0.1	0 0.0	7 0.8	2 0.2	3 0.4	0 0.0
	要支援2	505 100.0	1 0.2	61 12.1	1 0.2	7 1.4	2 0.4	3 0.6	0 0.0	2 0.4
	要介護1	69 100.0	0 0.0	10 14.5	0 0.0	1 1.4	2 2.9	1 1.4	1 1.4	0 0.0
	要介護2	46 100.0	2 4.3	12 26.1	0 0.0	1 2.2	3 6.5	3 6.5	4 8.7	0 0.0

	合計	福祉用具貸与 （介護予防）	その他	わからない	無回答	
全体	1,461 100.0	32 2.2	34 2.3	0 0.0	34 2.3	
要介護度	要支援1	841 100.0	10 1.2	20 2.4	0 0.0	23 2.7
	要支援2	505 100.0	13 2.6	13 2.6	0 0.0	10 2.0
	要介護1	69 100.0	4 5.8	0 0.0	0 0.0	1 1.4
	要介護2	46 100.0	5 10.9	1 2.2	0 0.0	0 0.0

※「その他」のうち、（介護予防）福祉用具貸与と記載があった回答については、「（介護予防）福祉用具貸与」として集計している。

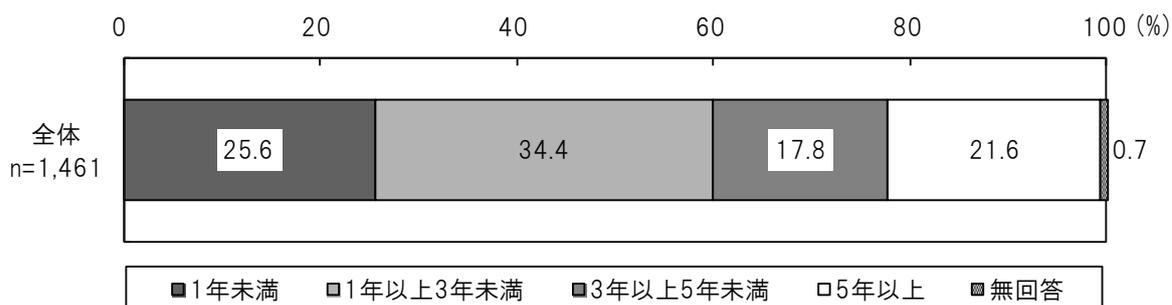
2 サービスの概況

(1) 通所リハの利用期間

「1年以上3年未満」の割合が最も高く 34.4%、次いで、「1年未満」(25.6%)、「5年以上」(21.6%)となっている。

要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「3年以上5年未満」の割合が高く、「5年以上」の割合が低くなっている。

図表 5-20 利用期間



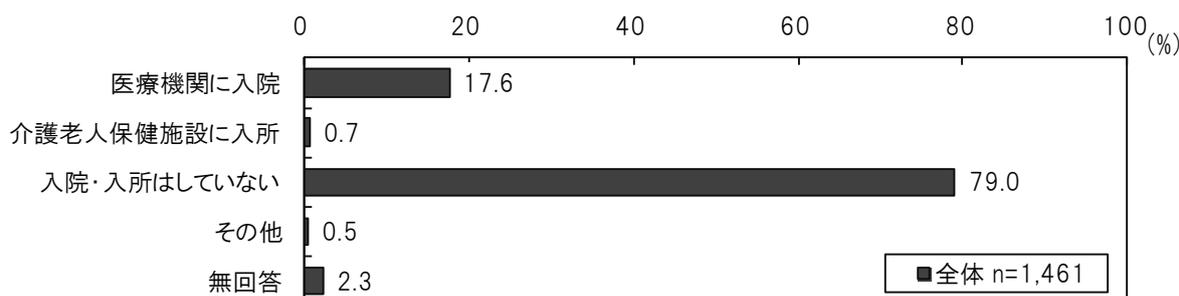
図表 5-21 要介護度別 利用期間

		合計	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体		1,461 100.0	374 25.6	502 34.4	260 17.8	315 21.6	10 0.7
要介護度	要支援1	841 100.0	230 27.3	284 33.8	140 16.6	181 21.5	6 0.7
	要支援2	505 100.0	110 21.8	182 36.0	93 18.4	117 23.2	3 0.6
	要介護1	69 100.0	21 30.4	19 27.5	16 23.2	12 17.4	1 1.4
	要介護2	46 100.0	13 28.3	17 37.0	11 23.9	5 10.9	0 0.0

(2) 過去1年間の入院等の有無

「入院・入所はしていない」の割合が最も高く 79.0%、次いで「医療機関に入院」が 17.6%となっている。要介護度別でみると、要介護2は、要介護1以下と比べて「医療機関に入院」の割合が高く、「入院・入所はしていない」の割合が低くなっている。

図表 5-22 過去1年間の入院等の有無 (複数回答)



図表 5-2 3 要介護度別 過去1年間の入院等の有無（複数回答）

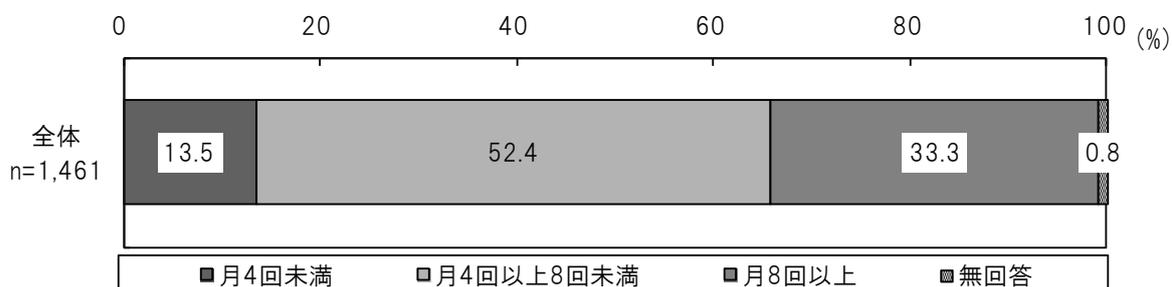
		合計	医療機関 に入院	介護老人 保健施設 に入所	入院・入 所はして いない	その他	無回答
全体		1,461 100.0	257 17.6	10 0.7	1,154 79.0	8 0.5	34 2.3
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	130 15.5	3 0.4	682 81.1	5 0.6	21 2.5
	要支援2	505 100.0	98 19.4	2 0.4	391 77.4	3 0.6	12 2.4
	要介護1	69 100.0	12 17.4	1 1.4	56 81.2	0 0.0	0 0.0
	要介護2	46 100.0	17 37.0	4 8.7	25 54.3	0 0.0	1 2.2

(3) 1か月間の利用回数

「月4回以上8回未満」（週平均1回以上2回未満）の割合が最も高く52.4%、次いで、「月8回以上」（週平均2回以上）が33.3%となっている。

要介護度別でみると、要支援1は「月4回以上8回未満」の割合が最も高くなっている。また、要支援2以上では、「月8回以上」の割合が最も高くなっている。

図表 5-2 4 1か月間の利用回数



図表 5-2 5 要介護度別 1か月間の利用回数

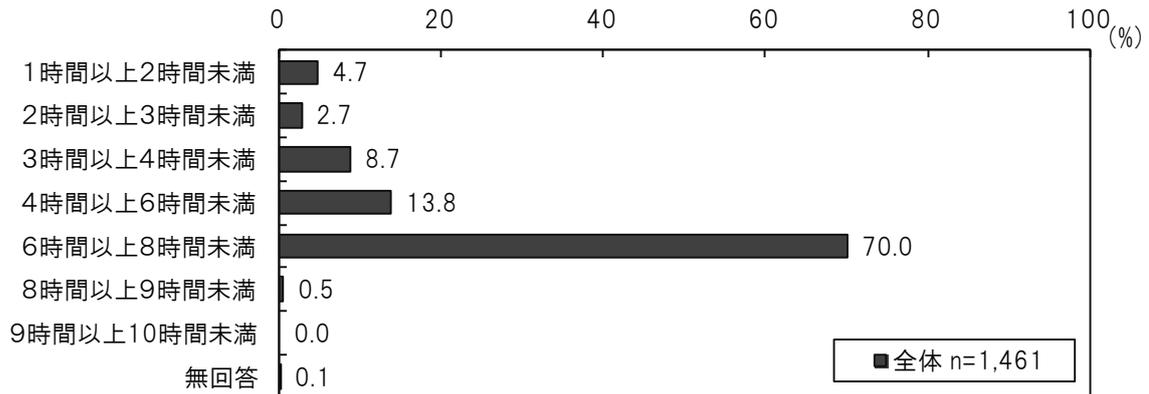
		合計	月4回未 満	月4回以 上8回未 満	月8回以 上	無回答
全体		1,461 100.0	197 13.5	766 52.4	486 33.3	12 0.8
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	135 16.1	623 74.1	81 9.6	2 0.2
	要支援2	505 100.0	50 9.9	123 24.4	324 64.2	8 1.6
	要介護1	69 100.0	8 11.6	12 17.4	49 71.0	0 0.0
	要介護2	46 100.0	4 8.7	8 17.4	32 69.6	2 4.3

(4) サービス提供時間

「6時間以上8時間未満」の割合が最も高く70.0%、次いで「4時間以上6時間未満」が13.8%となっている。

要介護度別で見ると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「3時間以上4時間未満」の割合が低く、「6時間以上8時間未満」の割合が高くなっている。

図表 5-26 サービス提供時間（複数回答）



図表 5-27 要介護度別 サービス提供時間（複数回答）

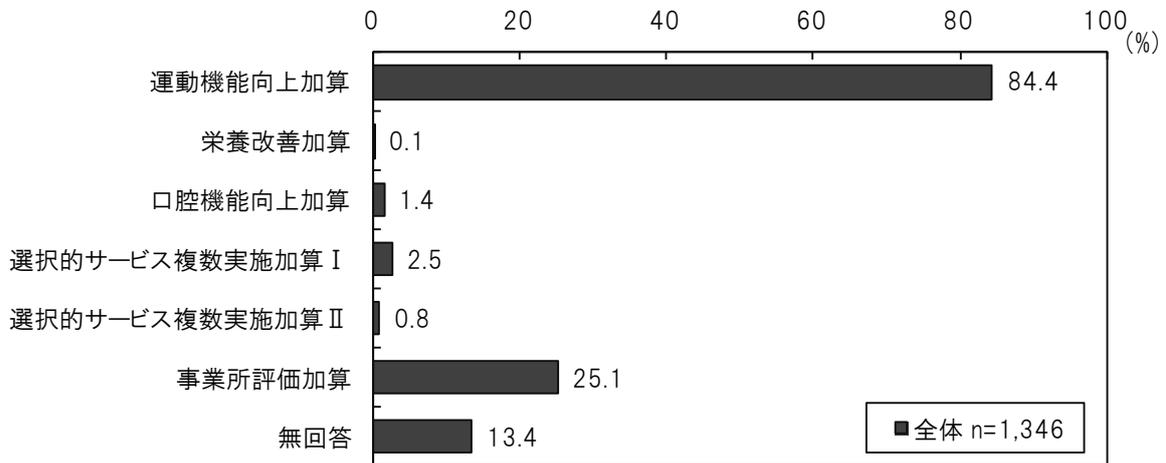
		合計	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上9時間未満	9時間以上10時間未満	無回答
全体		1,461 100.0	69 4.7	40 2.7	127 8.7	202 13.8	1,022 70.0	7 0.5	0 0.0	2 0.1
要介護度	要支援1	841 100.0	39 4.6	25 3.0	90 10.7	111 13.2	574 68.3	3 0.4	0 0.0	2 0.2
	要支援2	505 100.0	27 5.3	14 2.8	36 7.1	71 14.1	356 70.5	3 0.6	0 0.0	0 0.0
	要介護1	69 100.0	2 2.9	0 0.0	0 0.0	12 17.4	57 82.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	要介護2	46 100.0	1 2.2	1 2.2	1 2.2	8 17.4	35 76.1	1 2.2	0 0.0	0 0.0

(5) 加算の有無

予防給付の利用者について、加算の有無をきいたところ、「運動機能向上加算」の割合が最も高く84.4%、次いで、「事業所評価加算」が25.1%となっている。

要介護度別でも、大きな違いはみられない。

図表 5-28 加算の有無（予防給付）（複数回答）



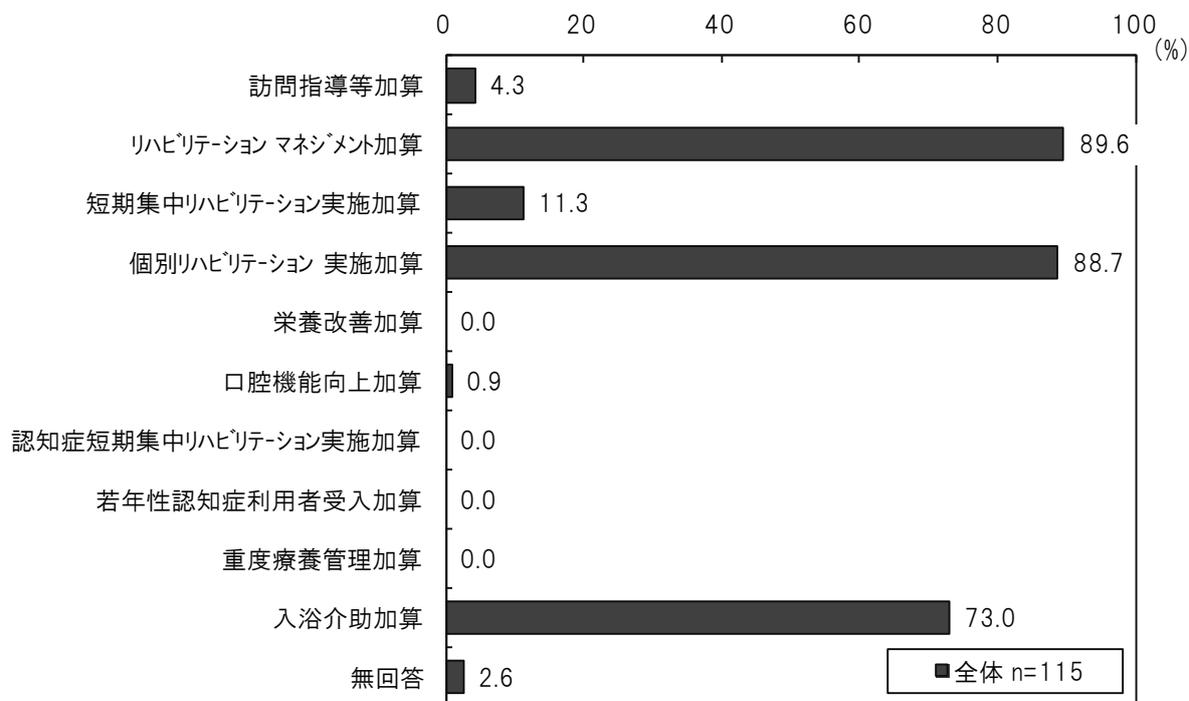
図表 5-29 要介護度別 加算の有無（予防給付）（複数回答）

	合計	運動機能向上加算	栄養改善加算	口腔機能向上加算	実 選 実 選	事 業 所 評 価 加 算	無回答		
					施 施 施 施				
					加 加 加 加				
					算 算 算 算				
					サ ー ビ ス 複 数				
					Ⅰ				
					Ⅱ				
					複 数				
					複 数				
全体	1,346	1136	1	19	34	11	338	181	
		100.0	84.4	0.1	1.4	2.5	0.8	25.1	13.4
要介護度	要支援1	841	698	1	7	16	7	214	129
		100.0	83.0	0.1	0.8	1.9	0.8	25.4	15.3
要支援2	505	438	0	12	18	4	124	52	
	100.0	86.7	0.0	2.4	3.6	0.8	24.6	10.3	

介護給付の利用者について、加算の有無をきいたところ、「リハビリテーションマネジメント加算」(89.6%)、「個別リハビリテーション実施加算」(88.7%)の割合、次いで、「入浴介助加算」(73.0%)の割合が高い。

要介護度別でみると、要介護2は、要介護1と比べて「入浴介助加算」の割合がやや高い。

図表 5-30 加算の有無（介護給付）（複数回答）



図表 5-31 要介護度別 加算の有無（介護給付）（複数回答）

要介護度	合計	訪問指導等加算	メンショント加算	リハビリテーション加算	短期集中リハビリテーション実施加算	個別リハビリテーション実施加算	栄養改善加算	口腔機能向上加算	認知症短期集中リハビリテーション実施加算	若年性認知症利用者受入加算
全体	115	5	103	13	102	0	1	0	0	0
	100.0	4.3	89.6	11.3	88.7	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
要介護1	69	3	61	7	60	0	0	0	0	0
	100.0	4.3	88.4	10.1	87.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護2	46	2	42	6	42	0	1	0	0	0
	100.0	4.3	91.3	13.0	91.3	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0

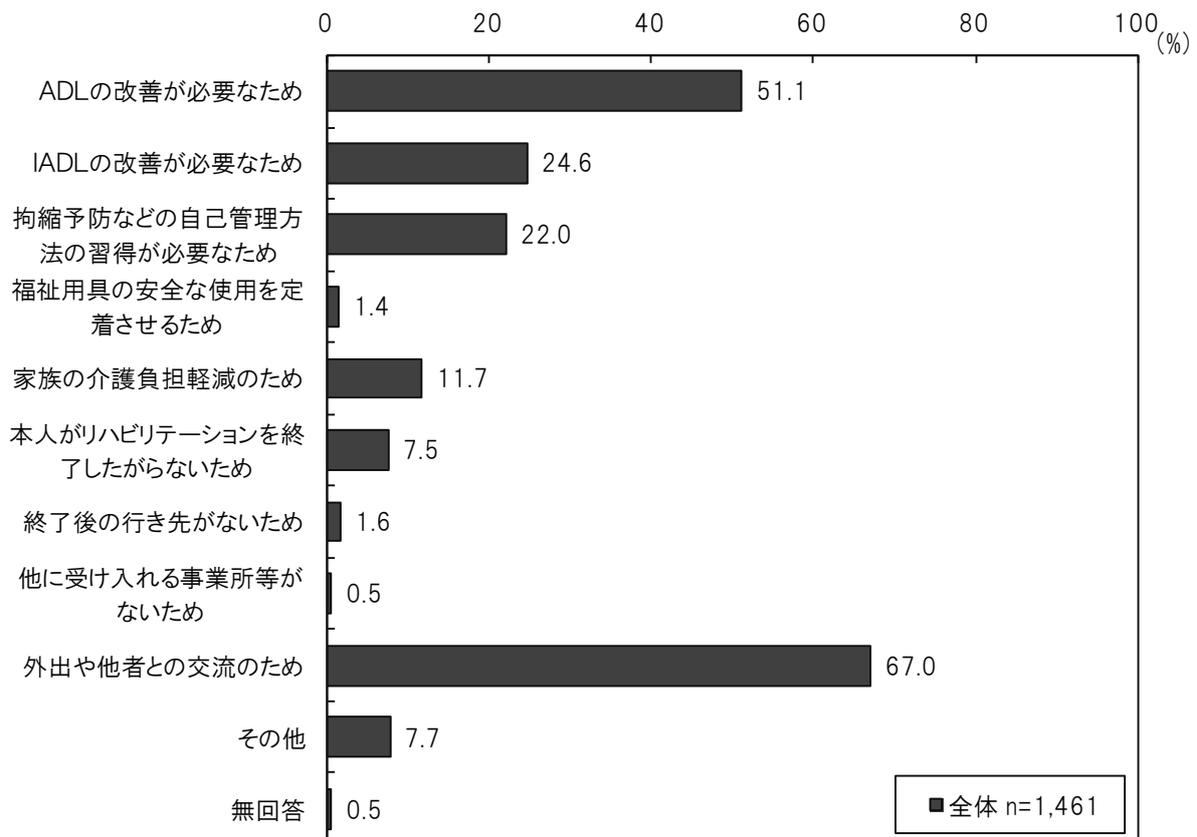
要介護度	合計	重度療養管理加算	入浴介助加算	無回答
全体	115	0	84	3
	100.0	0.0	73.0	2.6
要介護1	69	0	46	2
	100.0	0.0	66.7	2.9
要介護2	46	0	38	1
	100.0	0.0	82.6	2.2

(6) 通所リハを継続している理由

「外出や他者との交流のため」の割合が最も高く 67.0%、次いで、「ADL の改善が必要なため」が高く 51.1%となっている。

要介護度別で見ると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「ADL の改善が必要なため」「家族の介護負担軽減のため」の割合が高くなっている。また、要介護2は、要介護1以下と比べて「外出や他者との交流のため」の割合が低くなっている。

図表 5-3 2 通所リハを継続している理由（複数回答）



図表 5-33 要介護度別 通所リハを継続している理由（複数回答）

	合計	要 A D L のため の改善が必 要	必 I 要 A な D た L め の改 善が 必 要	が己拘 必管縮 要理予 な方防 た法な め の習 得自	た使福 め用祉 を用具 定着の させ安 る全な	減家 の族 たの め 介 護負 担軽	しテ本 たー人 がシが らリ ないハ いたビ ため了	な終 いた後 たの め 行 き先 が	業他 所に 等受 がけ ない た入 め れ る事	
全体	1,461 100.0	747 51.1	359 24.6	322 22.0	21 1.4	171 11.7	109 7.5	24 1.6	7 0.5	
要介護度	要支援1	841 100.0	383 45.5	199 23.7	173 20.6	10 1.2	67 8.0	70 8.3	16 1.9	6 0.7
	要支援2	505 100.0	282 55.8	133 26.3	119 23.6	10 2.0	57 11.3	35 6.9	6 1.2	1 0.2
	要介護1	69 100.0	51 73.9	13 18.8	19 27.5	0 0.0	29 42.0	1 1.4	0 0.0	0 0.0
	要介護2	46 100.0	31 67.4	14 30.4	11 23.9	1 2.2	18 39.1	3 6.5	2 4.3	0 0.0

	合計	流外 の出 ため や他 者との 交	そ の 他	無 回 答	
全体	1,461 100.0	979 67.0	112 7.7	8 0.5	
要介護度	要支援1	841 100.0	594 70.6	71 8.4	4 0.5
	要支援2	505 100.0	318 63.0	38 7.5	4 0.8
	要介護1	69 100.0	45 65.2	2 2.9	0 0.0
	要介護2	46 100.0	22 47.8	1 2.2	0 0.0

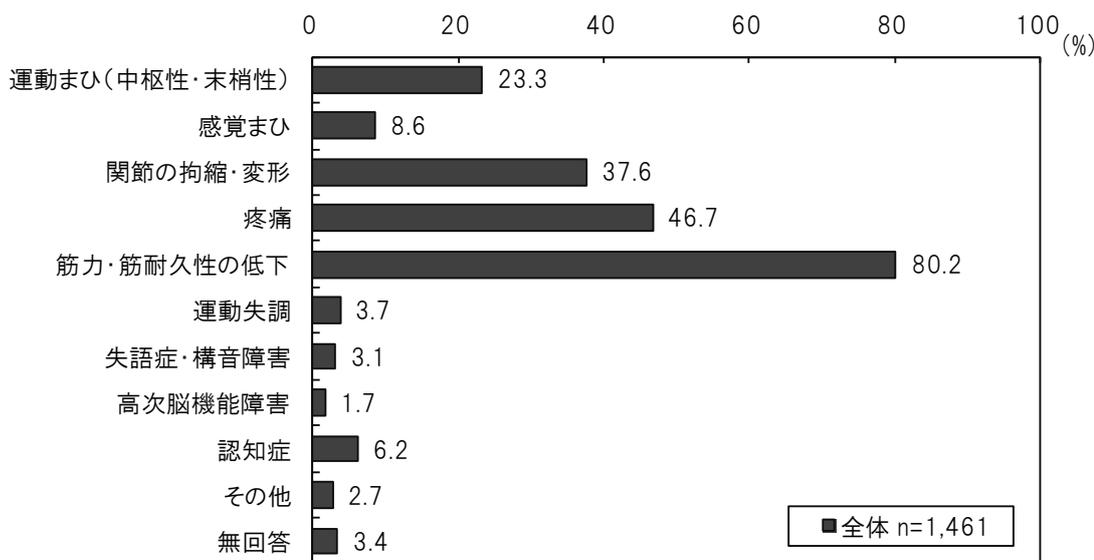
3 リハビリテーションの実施状況

(1) リハビリテーションが必要な心身の状態

「筋力・筋耐久性の低下」の割合が最も高く 80.2%、次いで、「疼痛」(46.7%)、「関節の拘縮・変形」(37.6%)となっている。

要介護度別で見ると、要支援2以上は、要支援1と比べて「運動まひ(中枢性・末梢性)」の割合が高くなっている。要支援1・2は、要介護1・2と比べて「疼痛」の割合が高く、「認知症」の割合が低くなっている。

図表 5-34 リハビリが必要な心身の状態(複数回答)



図表 5-35 要介護度別 リハビリが必要な心身の状態(複数回答)

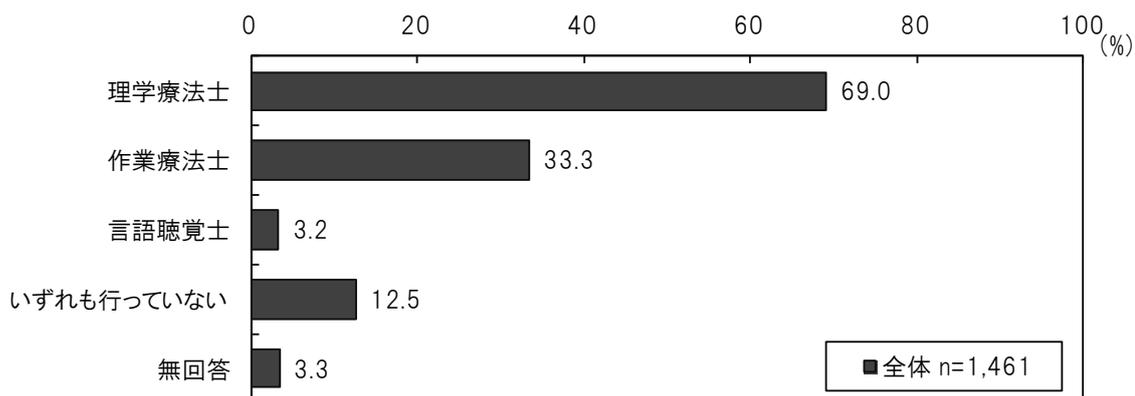
		合計	運動まひ (中枢性・ 末梢性)	感覚まひ	関節の拘 縮・変形	疼痛	筋力・筋 耐久性の 低下	運動失調	失語症・ 構音障害	高次脳機 能障害
全体		1,461 100.0	341 23.3	126 8.6	549 37.6	683 46.7	1,172 80.2	54 3.7	46 3.1	25 1.7
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	141 16.8	55 6.5	295 35.1	414 49.2	679 80.7	24 2.9	20 2.4	12 1.4
	要支援2	505 100.0	161 31.9	57 11.3	207 41.0	231 45.7	399 79.0	23 4.6	21 4.2	8 1.6
	要介護1	69 100.0	22 31.9	9 13.0	24 34.8	21 30.4	56 81.2	1 1.4	4 5.8	1 1.4
	要介護2	46 100.0	17 37.0	5 10.9	23 50.0	17 37.0	38 82.6	6 13.0	1 2.2	4 8.7
		合計	認知症	その他	無回答					
全体		1,461 100.0	90 6.2	39 2.7	49 3.4					
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	36 4.3	25 3.0	32 3.8					
	要支援2	505 100.0	27 5.3	10 2.0	14 2.8					
	要介護1	69 100.0	22 31.9	3 4.3	2 2.9					
	要介護2	46 100.0	5 10.9	1 2.2	1 2.2					

(2) 専門職によるリハビリテーションの実施状況

最も割合が高いのは「理学療法士」で69.0%、次いで「作業療法士」が33.3%となっている。

要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「作業療法士」の割合が高くなっている。また、要支援1・2は、要介護1・2と比べて「いずれも行っていない」の割合が高くなっている。

図表 5-36 専門職によるリハビリテーションの実施状況（複数回答）



図表 5-37 要介護度別 専門職によるリハビリテーションの実施状況（複数回答）

	合計	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	いずれも行っていない	無回答	
全体	1,461 100.0	1,008 69.0	486 33.3	47 3.2	182 12.5	48 3.3	
要介護度	要支援1	841 100.0	589 70.0	261 31.0	23 2.7	114 13.6	33 3.9
	要支援2	505 100.0	337 66.7	169 33.5	21 4.2	65 12.9	14 2.8
	要介護1	69 100.0	47 68.1	34 49.3	2 2.9	3 4.3	1 1.4
	要介護2	46 100.0	35 76.1	22 47.8	1 2.2	0 0.0	0 0.0

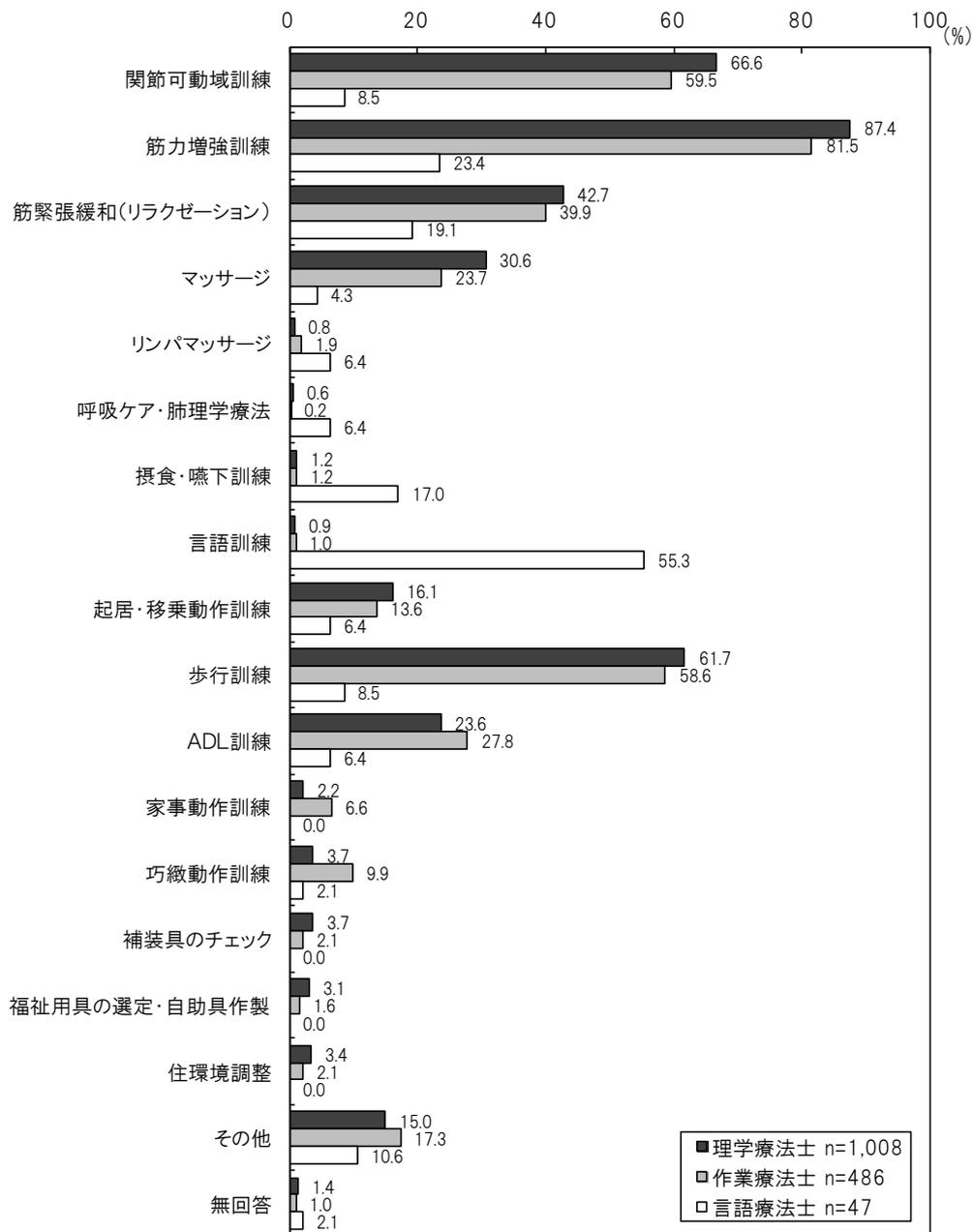
(3) 職種別のリハビリテーションの内容

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がリハビリを実施していると回答した人に、各専門職が実施しているリハビリテーションの内容をきいた。理学療法士・作業療法士いずれも、「関節可動域訓練」「筋力増強訓練」「歩行訓練」の割合が高くなっている。一方、言語聴覚士は、「言語訓練」が最も高く 55.3%となっている。

理学療法士によるリハビリテーションの内容を要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「関節可動域訓練」「歩行訓練」の割合が高くなっている。また、要介護2は、要介護1以下と比べて「起居・移乗動作訓練」「ADL訓練」の割合が高くなっている。

作業療法士によるリハビリテーションの内容を要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「関節可動域訓練」「ADL訓練」の割合が高くなっている。

図表 5-38 職種別のリハビリテーションの内容（複数回答）



図表 5-39 要介護度別 リハビリテーションの内容（理学療法士）（複数回答）

	合計	関節可動域訓練	筋力増強訓練	シ（筋緊張緩和） ョ（リラクゼーション）	マッサージ	サリンジパマツ	理学療法 呼吸ケア・肺	摂食・嚥下訓練	言語訓練	起居訓練・移乗動	
全体	1,008 100.0	671 66.6	881 87.4	430 42.7	308 30.6	8 0.8	6 0.6	12 1.2	9 0.9	162 16.1	
要介護度	要支援1	589 100.0	358 60.8	516 87.6	253 43.0	177 30.1	3 0.5	5 1.0	2 0.3	73 12.4	
	要支援2	337 100.0	243 72.1	295 87.5	138 40.9	101 30.0	4 1.2	1 0.3	5 1.5	4 1.2	62 18.4
	要介護1	47 100.0	39 83.0	37 78.7	21 44.7	19 40.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.1	10 21.3
	要介護2	35 100.0	31 88.6	33 94.3	18 51.4	11 31.4	1 2.9	0 0.0	1 2.9	2 5.7	17 48.6

	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	巧緻動作訓練	補装具の チエツク	福祉用具の 制定・自作選	住環境調整	その他	無回答	
全体	1,008 100.0	622 61.7	238 23.6	22 2.2	37 3.7	37 3.7	31 3.1	34 3.4	151 15.0	14 1.4	
要介護度	要支援1	589 100.0	340 57.7	125 21.2	17 2.9	19 3.2	14 2.4	19 3.2	24 4.1	93 15.8	9 1.5
	要支援2	337 100.0	218 64.7	86 25.5	5 1.5	15 4.5	18 5.3	10 3.0	9 2.7	53 15.7	1 0.3
	要介護1	47 100.0	36 76.6	13 27.7	0 0.0	1 2.1	3 6.4	0 0.0	0 0.0	2 4.3	2 4.3
	要介護2	35 100.0	28 80.0	14 40.0	0 0.0	2 5.7	2 5.7	2 5.7	1 2.9	3 8.6	2 5.7

図表 5-40 要介護度別 リハビリテーションの内容（作業療法士）（複数回答）

	合計	関節可動域訓練	筋力増強訓練	シ（筋緊張緩和） ョ（リラクゼー） ン（クゼー） （）	マッサージ	サリンジパマツ	理学療法・呼吸ケア・肺	練習・食事・嚥下訓練	言語訓練	起居訓練・移動	
全体	486 100.0	289 59.5	396 81.5	194 39.9	115 23.7	9 1.9	1 0.2	6 1.2	5 1.0	66 13.6	
要介護度	要支援1	261 100.0	147 56.3	222 85.1	113 43.3	61 23.4	0 0.0	2 0.8	2 0.8	28 10.7	
	要支援2	169 100.0	99 58.6	130 76.9	59 34.9	41 24.3	5 3.0	2 1.2	0 0.0	27 16.0	
	要介護1	34 100.0	27 79.4	28 82.4	13 38.2	9 26.5	4 11.8	0 0.0	1 2.9	2 5.9	4 11.8
	要介護2	22 100.0	16 72.7	16 72.7	9 40.9	4 18.2	0 0.0	0 0.0	1 4.5	1 4.5	7 31.8

	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	巧緻動作訓練	チ補装 ェ具 ツク の	製定福 ・社 ・自 助 具 の 作 選	住環境調整	その他	無回答	
全体	486 100.0	285 58.6	135 27.8	32 6.6	48 9.9	10 2.1	8 1.6	10 2.1	84 17.3	5 1.0	
要介護度	要支援1	261 100.0	149 57.1	70 26.8	20 7.7	20 7.7	2 0.8	6 2.3	10 3.8	49 18.8	1 0.4
	要支援2	169 100.0	96 56.8	45 26.6	11 6.5	22 13.0	5 3.0	2 1.2	0 0.0	26 15.4	2 1.2
	要介護1	34 100.0	27 79.4	11 32.4	1 2.9	3 8.8	2 5.9	0 0.0	0 0.0	3 8.8	0 0.0
	要介護2	22 100.0	13 59.1	9 40.9	0 0.0	3 13.6	1 4.5	0 0.0	0 0.0	6 27.3	2 9.1

図表 5-4 1 要介護度別 リハビリテーションの内容（言語聴覚士）（複数回答）

	合計	関節可動域訓練	筋力増強訓練	シ（筋緊張緩和） ョ（リラクゼー） ン（クゼー）	マッサージ	サリンジパマツ	理学療法・呼吸ケア・肺	練習・嚥下訓練	言語訓練	起居・移動訓練	
全体	47 100.0	4 8.5	11 23.4	9 19.1	2 4.3	3 6.4	3 6.4	8 17.0	26 55.3	3 6.4	
要介護度	要支援1	23 100.0	2 8.7	6 26.1	5 21.7	1 4.3	0 0.0	1 4.3	3 13.0	12 52.2	1 4.3
	要支援2	21 100.0	2 9.5	5 23.8	4 19.0	1 4.8	3 14.3	2 9.5	4 19.0	12 57.1	2 9.5
	要介護1	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	要介護2	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

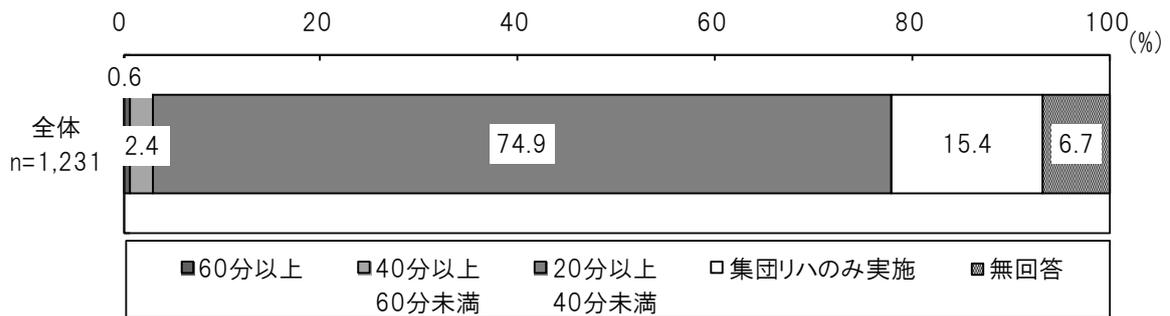
	合計	歩行訓練	A D L 訓練	家事動作訓練	巧緻動作訓練	チ補装具の ェツク	製定福 ・社 ・自 助 具 の 選	住環境調整	その他	無回答
全体	47 100.0	4 8.5	3 6.4	0 0.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 10.6	1 2.1
要介護度	要支援1	23 100.0	2 8.7	1 4.3	0 0.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	3 13.0	0 0.0
	要支援2	21 100.0	2 9.5	2 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 9.5	1 4.8
	要介護1	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	要介護2	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(4) 個別リハビリテーションの提供時間

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のいずれかがリハビリを実施していると回答した人に、専門職が行う個別リハビリテーションの1回あたりの提供時間をきいた。「20分以上40分未満」の割合が最も高く74.9%、次いで「集団リハのみ実施」が15.4%となっている。

要介護度別でみると、要介護1・2は、要支援1・2と比べて「20分以上40分未満」の割合が高くなり、「集団リハビリテーションのみ実施」の割合が低くなる。

図表 5-4 2 個別リハビリテーションの提供時間



図表 5-4 3 要介護度別 個別リハビリテーションの提供時間

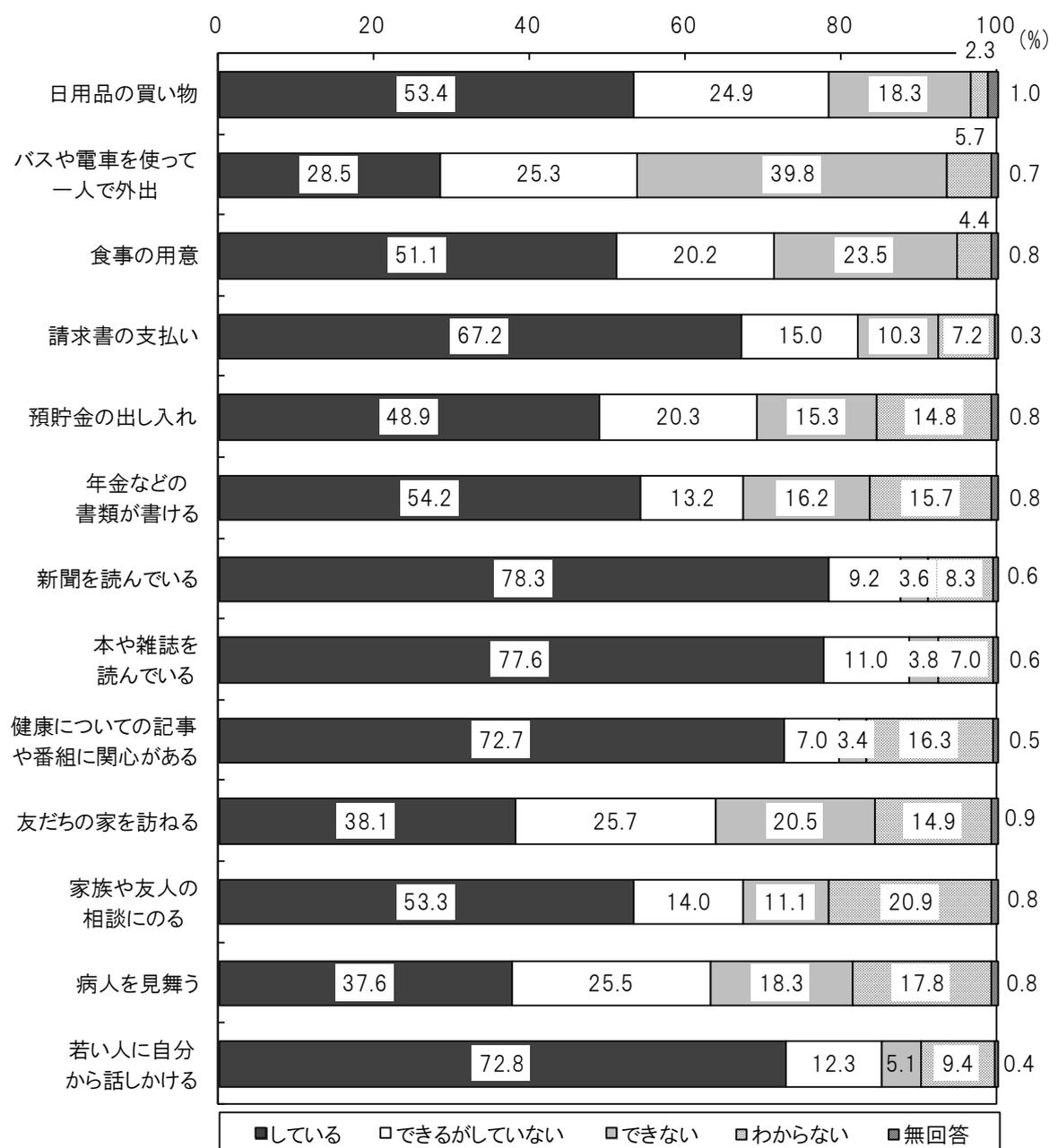
	合計	60分以上	40分以上 60分未満	20分以上 40分未満	集団リハ ビリテー ションのみ 実施	無回答	
全体	1,231 100.0	7 0.6	30 2.4	922 74.9	189 15.4	83 6.7	
要 介 護 度	要支援1	694 100.0	6 0.9	12 1.7	507 73.1	124 17.9	45 6.5
	要支援2	426 100.0	1 0.2	15 3.5	317 74.4	62 14.6	31 7.3
	要介護1	65 100.0	0 0.0	1 1.5	59 90.8	3 4.6	2 3.1
	要介護2	46 100.0	0 0.0	2 4.3	39 84.8	0 0.0	5 10.9

4 IADLの状況

「している」割合が高いのは、『新聞を読んでいる』（78.3%）、『本や雑誌を読んでいる』（77.6%）、『健康についての記事や番組に関心がある』（72.7%）、『若い人に自分から話しかける』（72.8%）となっている。一方、「できない」の割合が最も高いのは、『バスや電車を使って一人で外出』で39.8%、次いで、『食事の用意』（23.5%）、『友だちの家を訪ねる』（20.5%）となっている。

図表 5-4 4 IADL の状況

全体 n=1,461



IADL の状況を要介護度別で見ると、いずれも要介護度が上がるにつれて、「できない」の割合が高くなっている。要支援1から要介護2にかけて特に割合が高くなるものとしては、『日用品の買い物』『バスや電車を使って一人で外出』『食事の用意』『請求書の支払い』『預貯金の出し入れ』『友だちの家を訪ねる』があげられる。

図表 5-4 5 要介護度別 日用品の買い物

		合計	している	できるが していない	できない	わから ない	無回答
全体		1,461 100.0	780 53.4	364 24.9	268 18.3	34 2.3	15 1.0
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	507 60.3	203 24.1	102 12.1	16 1.9	13 1.5
	要支援2	505 100.0	248 49.1	134 26.5	111 22.0	10 2.0	2 0.4
	要介護1	69 100.0	16 23.2	14 20.3	33 47.8	6 8.7	0 0.0
	要介護2	46 100.0	9 19.6	13 28.3	22 47.8	2 4.3	0 0.0

図表 5-4 6 要介護度別 バスや電車を使って一人で外出

		合計	している	できるがし ていない	できない	わから ない	無回答
全体		1,461 100.0	417 28.5	369 25.3	581 39.8	84 5.7	10 0.7
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	286 34.0	242 28.8	254 30.2	50 5.9	9 1.1
	要支援2	505 100.0	125 24.8	109 21.6	247 48.9	23 4.6	1 0.2
	要介護1	69 100.0	3 4.3	11 15.9	46 66.7	9 13.0	0 0.0
	要介護2	46 100.0	3 6.5	7 15.2	34 73.9	2 4.3	0 0.0

図表 5-4 7 要介護度別 食事の用意

		合計	している	できるがし ていない	できない	わから ない	無回答
全体		1,461 100.0	746 51.1	295 20.2	344 23.5	65 4.4	11 0.8
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	478 56.8	168 20.0	155 18.4	32 3.8	8 1.0
	要支援2	505 100.0	248 49.1	110 21.8	124 24.6	21 4.2	2 0.4
	要介護1	69 100.0	10 14.5	11 15.9	39 56.5	9 13.0	0 0.0
	要介護2	46 100.0	10 21.7	6 13.0	26 56.5	3 6.5	1 2.2

図表 5-48 要介護度別 請求書の支払い

	合計	している	できるが していない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,461 100.0	982 67.2	219 15.0	150 10.3	105 7.2	5 0.3	
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	615 73.1	117 13.9	52 6.2	54 6.4	3 0.4
	要支援2	505 100.0	329 65.1	86 17.0	53 10.5	36 7.1	1 0.2
	要介護1	69 100.0	22 31.9	8 11.6	26 37.7	12 17.4	1 1.4
	要介護2	46 100.0	16 34.8	8 17.4	19 41.3	3 6.5	0 0.0

図表 5-49 要介護度別 預貯金の出し入れ

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,461 100.0	715 48.9	296 20.3	223 15.3	216 14.8	11 0.8	
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	458 54.5	165 19.6	83 9.9	127 15.1	8 1.0
	要支援2	505 100.0	234 46.3	112 22.2	88 17.4	68 13.5	3 0.6
	要介護1	69 100.0	13 18.8	10 14.5	29 42.0	17 24.6	0 0.0
	要介護2	46 100.0	10 21.7	9 19.6	23 50.0	4 8.7	0 0.0

図表 5-50 要介護度別 年金などの書類が書ける

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,461 100.0	792 54.2	193 13.2	236 16.2	229 15.7	11 0.8	
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	491 58.4	109 13.0	100 11.9	132 15.7	9 1.1
	要支援2	505 100.0	272 53.9	63 12.5	91 18.0	77 15.2	2 0.4
	要介護1	69 100.0	15 21.7	13 18.8	25 36.2	16 23.2	0 0.0
	要介護2	46 100.0	14 30.4	8 17.4	20 43.5	4 8.7	0 0.0

図表 5-51 要介護度別 新聞を読んでいる

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,461 100.0	1,144 78.3	135 9.2	52 3.6	121 8.3	9 0.6	
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	683 81.2	69 8.2	22 2.6	58 6.9	9 1.1
	要支援2	505 100.0	397 78.6	45 8.9	20 4.0	43 8.5	0 0.0
	要介護1	69 100.0	36 52.2	12 17.4	3 4.3	18 26.1	0 0.0
	要介護2	46 100.0	28 60.9	9 19.6	7 15.2	2 4.3	0 0.0

図表 5-5 2 要介護度別 本や雑誌を読んでいる

	合計	している	できるが していない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,461 100.0	1,134 77.6	160 11.0	56 3.8	102 7.0	9 0.6	
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	684 81.3	87 10.3	21 2.5	41 4.9	8 1.0
	要支援2	505 100.0	385 76.2	52 10.3	25 5.0	42 8.3	1 0.2
	要介護1	69 100.0	37 53.6	13 18.8	2 2.9	17 24.6	0 0.0
	要介護2	46 100.0	28 60.9	8 17.4	8 17.4	2 4.3	0 0.0

図表 5-5 3 要介護度別 健康についての記事や番組に関心がある

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,461 100.0	1,062 72.7	103 7.0	50 3.4	238 16.3	8 0.5	
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	620 73.7	60 7.1	25 3.0	129 15.3	7 0.8
	要支援2	505 100.0	386 76.4	28 5.5	15 3.0	75 14.9	1 0.2
	要介護1	69 100.0	29 42.0	7 10.1	6 8.7	27 39.1	0 0.0
	要介護2	46 100.0	27 58.7	8 17.4	4 8.7	7 15.2	0 0.0

図表 5-5 4 要介護度別 友だちの家を訪ねる

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,461 100.0	556 38.1	375 25.7	299 20.5	218 14.9	13 0.9	
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	371 44.1	229 27.2	111 13.2	122 14.5	8 1.0
	要支援2	505 100.0	168 33.3	127 25.1	129 25.5	77 15.2	4 0.8
	要介護1	69 100.0	8 11.6	12 17.4	36 52.2	13 18.8	0 0.0
	要介護2	46 100.0	9 19.6	7 15.2	23 50.0	6 13.0	1 2.2

図表 5-5 5 要介護度別 家族や友人の相談にのる

	合計	している	できるがし ていない	できない	わからな い	無回答	
全体	1,461 100.0	779 53.3	204 14.0	162 11.1	305 20.9	11 0.8	
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	485 57.7	116 13.8	55 6.5	176 20.9	9 1.1
	要支援2	505 100.0	262 51.9	74 14.7	67 13.3	100 19.8	2 0.4
	要介護1	69 100.0	16 23.2	7 10.1	25 36.2	21 30.4	0 0.0
	要介護2	46 100.0	16 34.8	7 15.2	15 32.6	8 17.4	0 0.0

図表 5-56 要介護度別 病人を見舞う

		合計	している	できるが していない	できない	わから ない	無回答
全体		1,461 100.0	550 37.6	372 25.5	268 18.3	260 17.8	11 0.8
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	354 42.1	224 26.6	100 11.9	155 18.4	8 1.0
	要支援2	505 100.0	174 34.5	128 25.3	119 23.6	81 16.0	3 0.6
	要介護1	69 100.0	13 18.8	10 14.5	29 42.0	17 24.6	0 0.0
	要介護2	46 100.0	9 19.6	10 21.7	20 43.5	7 15.2	0 0.0

図表 5-57 要介護度別 若い人に自分から話しかける

		合計	している	できるが していない	できない	わから ない	無回答
全体		1,461 100.0	1,063 72.8	179 12.3	75 5.1	138 9.4	6 0.4
要 介 護 度	要支援1	841 100.0	616 73.2	108 12.8	25 3.0	87 10.3	5 0.6
	要支援2	505 100.0	376 74.5	53 10.5	34 6.7	41 8.1	1 0.2
	要介護1	69 100.0	40 58.0	11 15.9	9 13.0	9 13.0	0 0.0
	要介護2	46 100.0	31 67.4	7 15.2	7 15.2	1 2.2	0 0.0

5 特別集計結果

(1) IADL の状況別 通所リハを継続している理由

通所リハを継続している理由について、IADL の状況別でみた。

「IADL の改善が必要なため」「外出や他者との交流のため」についてみると、日用品の買い物の状況別で大きな違いはみられない。『している』『できるがしていない』でも「IADL の改善が必要なため」の割合は 26.8%、23.4%、「外出や他者との交流のため」の割合は 68.5%、68.7%となっている。

「IADL の改善が必要なため」「外出や他者との交流のため」についてみると、バスや電車を使って一人で外出できるかの状況別で大きな違いはみられない。『している』『できるがしていない』でも「IADL の改善が必要なため」は 24.7%、26.0%、「外出や他者との交流のため」の割合は 65.5%、69.9%となっている。

食事の用意が『している』『できるがしていない』でも「IADL の改善が必要なため」の割合は 27.7%、23.7%となっている。

図表 5-5 8 IADL の状況別 通所リハを継続している理由（複数回答）

		合計	要 A な D た L の 改 善 が 必 要	必 I 要 A な D た L の 改 善 が	が 己 拘 必 管 縮 要 理 予 な 方 防 な た 法 等 た 法 等 た 法 等 た 法 等 た 法 等	た 使 福 め 用 祉 を 定 具 着 具 の さ 具 の せ さ 安 る な 全	減 家 の 族 の た 介 た 護 た 負 た 担 た 軽	し テ 本 た ー 人 が シ が ら ョ リ な ン ハ い ン を た 終 了 た 終 了	な 終 い 了 た 後 た の た の 行 た の き た の 先 た の が	業 他 所 に 受 等 が け が な い な れ 事	流 外 の た 出 た や 他 た 者 と た の 交	そ の 他	無 回 答
全体		1,461 100.0	747 51.1	359 24.6	322 22.0	21 1.4	171 11.7	109 7.5	24 1.6	7 0.5	979 67.0	112 7.7	8 0.5
日用品の買物	している	780 100.0	324 41.5	209 26.8	180 23.1	13 1.7	45 5.8	76 9.7	11 1.4	4 0.5	534 68.5	70 9.0	3 0.4
	できるがしていない	364 100.0	209 57.4	85 23.4	75 20.6	5 1.4	57 15.7	19 5.2	7 1.9	3 0.8	250 68.7	25 6.9	3 0.8
	できない	268 100.0	184 68.7	61 22.8	60 22.4	3 1.1	65 24.3	11 4.1	5 1.9	0 0.0	170 63.4	14 5.2	1 0.4
	わからない	34 100.0	25 73.5	4 11.8	4 11.8	0 0.0	2 5.9	2 5.9	0 0.0	0 0.0	19 55.9	1 2.9	0 0.0
使ったバスや電車以外	している	417 100.0	171 41.0	103 24.7	101 24.2	7 1.7	19 4.6	47 11.3	10 2.4	3 0.7	273 65.5	36 8.6	1 0.2
	できるがしていない	369 100.0	158 42.8	96 26.0	79 21.4	3 0.8	34 9.2	34 9.2	6 1.6	2 0.5	258 69.9	32 8.7	4 1.1
	できない	581 100.0	360 62.0	144 24.8	122 21.0	11 1.9	114 19.6	23 4.0	8 1.4	2 0.3	388 66.8	38 6.5	2 0.3
	わからない	84 100.0	51 60.7	16 19.0	17 20.2	0 0.0	3 3.6	5 6.0	0 0.0	0 0.0	60 71.4	6 7.1	0 0.0
食事の用意	している	746 100.0	349 46.8	207 27.7	173 23.2	12 1.6	33 4.4	51 6.8	13 1.7	5 0.7	521 69.8	62 8.3	5 0.7
	できるがしていない	295 100.0	146 49.5	70 23.7	60 20.3	6 2.0	36 12.2	28 9.5	3 1.0	2 0.7	194 65.8	23 7.8	1 0.3
	できない	344 100.0	210 61.0	67 19.5	80 23.3	3 0.9	96 27.9	23 6.7	6 1.7	0 0.0	217 63.1	24 7.0	1 0.3
	わからない	65 100.0	35 53.8	15 23.1	8 12.3	0 0.0	5 7.7	7 10.8	2 3.1	0 0.0	43 66.2	3 4.6	0 0.0

(2) リハビリが必要な心身の状態別 リハビリテーションを行っている職種

リハビリテーションを行っている職種について、リハビリが必要な心身の状態別でみた。『運動まひ(中枢性・末梢性)』『関節の拘縮・変形』『疼痛』は、他と比べて「理学療法士」の割合がやや高くなっている。『運動まひ(中枢性・末梢性)』『運動失調』『高次脳機能障害』『認知症』は、他と比べて「作業療法士」の割合が高くなっている。

また、リハビリが必要な心身の状態について何らかの回答があったものの、「いずれも行っていない」とした回答は、『感覚まひ』『筋力・筋耐久性の低下』『運動失調』『失語症・構音障害』で約1割みられた。

図表 5-59 リハビリが必要な心身の状態別 リハビリテーションを行っている職種(複数回答)

		合計	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	いずれも行っていない	無回答
全体		1,461 100.0	1,008 69.0	486 33.3	47 3.2	182 12.5	48 3.3
リハビリが必要な心身の状態	運動まひ(中枢性・末梢性)	341 100.0	253 74.2	144 42.2	12 3.5	25 7.3	5 1.5
	感覚まひ	126 100.0	89 70.6	41 32.5	0 0.0	17 13.5	4 3.2
	関節の拘縮・変形	549 100.0	410 74.7	203 37.0	8 1.5	43 7.8	11 2.0
	疼痛	683 100.0	519 76.0	234 34.3	13 1.9	61 8.9	18 2.6
	筋力・筋耐久性の低下	1172 100.0	845 72.1	400 34.1	31 2.6	117 10.0	29 2.5
	運動失調	54 100.0	36 66.7	25 46.3	0 0.0	5 9.3	0 0.0
	失語症・構音障害	46 100.0	25 54.3	11 23.9	20 43.5	5 10.9	0 0.0
	高次脳機能障害	25 100.0	14 56.0	10 40.0	5 20.0	2 8.0	1 4.0
	認知症	90 100.0	59 65.6	39 43.3	0 0.0	7 7.8	3 3.3
	その他	39 100.0	32 82.1	16 41.0	4 10.3	4 10.3	0 0.0

(3) リハビリが必要な心身の状態別 専門職によるリハビリテーションの内容

専門職によるリハビリテーションの内容について、リハビリが必要な心身の状態別でみた。

理学療法士によるリハビリテーションの内容をみると、『運動まひ（中枢性・末梢性）』『感覚まひ』『関節の拘縮・変形』『失語症・構音障害』は「関節可動域訓練」、『関節の拘縮・変形』『疼痛』は「マッサージ」、『感覚まひ』は「起居・移乗動作訓練」の割合が、他と比べて高い傾向がみられる。

作業療法士によるリハビリテーションの内容をみると、『感覚まひ』は「筋緊張緩和（リラクゼーション）」「起居・移乗動作訓練」「ADL 訓練」「家事動作訓練」「巧緻動作訓練」、『関節の拘縮・変形』『疼痛』は「マッサージ」の割合が、他と比べて高くなっている。

図表 5-60 リハビリが必要な心身の状態別 理学療法士によるリハビリの内容（複数回答）

	合計	練習 関節 可動域 訓練	筋力 増強 訓練	シ（筋 ヨ（緊 ンラ張 ク緩 ゼ和 ー	マ ッ サ ー ジ	サ リ ン ジ パ マ ッ	理呼 学吸 療ケ 法ア ・肺	練摂 食 ・嚥 下訓	言語 訓練	作起 訓居 練・ 移乗 動	
全体	1,008 100.0	671 66.6	881 87.4	430 42.7	308 30.6	8 0.8	6 0.6	12 1.2	9 0.9	162 16.1	
リ ハ ビ リ が 必 要 な 心 身 の 状 態	運動まひ(中枢 性・末梢性)	253 100.0	203 80.2	229 90.5	128 50.6	70 27.7	2 0.8	0 0.0	4 1.6	6 2.4	61 24.1
	感覚まひ	89 100.0	78 87.6	82 92.1	54 60.7	26 29.2	1 1.1	0 0.0	2 2.2	3 3.4	29 32.6
	関節の拘縮・変 形	410 100.0	347 84.6	368 89.8	207 50.5	172 42.0	4 1.0	3 0.7	3 0.7	2 0.5	94 22.9
	疼痛	519 100.0	368 70.9	456 87.9	279 53.8	216 41.6	6 1.2	1 0.2	2 0.4	1 0.2	89 17.1
	筋力・筋耐久性 の低下	845 100.0	551 65.2	748 88.5	363 43.0	265 31.4	7 0.8	5 0.6	11 1.3	9 1.1	144 17.0
	運動失調	36 100.0	25 69.4	35 97.2	15 41.7	11 30.6	0 0.0	0 0.0	1 2.8	0 0.0	9 25.0
	失語症・構音障 害	25 100.0	21 84.0	24 96.0	8 32.0	6 24.0	0 0.0	0 0.0	2 8.0	5 20.0	4 16.0
	高次脳機能障害	14 100.0	9 64.3	12 85.7	4 28.6	4 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 14.3
	認知症	59 100.0	35 59.3	49 83.1	23 39.0	16 27.1	1 1.7	1 1.7	2 3.4	2 3.4	13 22.0
	その他	32 100.0	22 68.8	26 81.3	11 34.4	6 18.8	0 0.0	2 6.3	0 0.0	0 0.0	4 12.5
		合計	歩 行 訓 練	A D L 訓 練	家 事 動 作 訓 練	巧 緻 動 作 訓 練	チ 補 装 具 の ク	製 定 福 ・社 自 助 具 の 選	住 環 境 調 整	そ の 他	無 回 答
全体	1,008 100.0	622 61.7	238 23.6	22 2.2	37 3.7	37 3.7	31 3.1	34 3.4	151 15.0	14 1.4	
リ ハ ビ リ が 必 要 な 心 身 の 状 態	運動まひ(中枢 性・末梢性)	253 100.0	173 68.4	59 23.3	8 3.2	19 7.5	25 9.9	10 4.0	13 5.1	34 13.4	1 0.4
	感覚まひ	89 100.0	64 71.9	27 30.3	2 2.2	6 6.7	9 10.1	3 3.4	6 6.7	8 9.0	0 0.0
	関節の拘縮・変 形	410 100.0	265 64.6	127 31.0	13 3.2	13 3.2	21 5.1	15 3.7	18 4.4	50 12.2	4 1.0
	疼痛	519 100.0	311 59.9	139 26.8	13 2.5	21 4.0	20 3.9	19 3.7	23 4.4	86 16.6	7 1.3
	筋力・筋耐久性 の低下	845 100.0	536 63.4	209 24.7	19 2.2	34 4.0	33 3.9	31 3.7	31 3.7	132 15.6	14 1.7
	運動失調	36 100.0	29 80.6	8 22.2	1 2.8	3 8.3	1 2.8	3 8.3	3 8.3	8 22.2	0 0.0
	失語症・構音障 害	25 100.0	21 84.0	9 36.0	2 8.0	3 12.0	2 8.0	0 0.0	2 8.0	1 4.0	0 0.0
	高次脳機能障害	14 100.0	11 78.6	3 21.4	0 0.0	1 7.1	2 14.3	1 7.1	0 0.0	1 7.1	0 0.0
	認知症	59 100.0	36 61.0	15 25.4	2 3.4	2 3.4	3 5.1	3 5.1	3 5.1	7 11.9	1 1.7
	その他	32 100.0	18 56.3	5 15.6	1 3.1	1 3.1	4 12.5	2 6.3	1 3.1	10 31.3	1 3.1

図表 5-61 リハビリが必要な心身の状態別 作業療法士によるリハビリの内容（複数回答）

	合計	練習 関節 可動域 訓練	筋力 増強 訓練	シ（筋 ヨリ緊 ンク張 ク緩 ゼ和 ー	マ ッ サ ー ジ	サ リ ン ジ パ マ ッ	理呼 学吸 療ケ 法ア ・肺	練習 食 ・嚥 下訓	言語 訓練	作起 訓居 練・ 移乗 動	
全体	486 100.0	289 59.5	396 81.5	194 39.9	115 23.7	9 1.9	1 0.2	6 1.2	5 1.0	66 13.6	
リ ハ ビ リ が 必 要 な 心 身 の 状 態	運動まひ(中枢 性・末梢性)	144 100.0	102 70.8	109 75.7	70 48.6	31 21.5	0 0.0	2 1.4	4 2.8	19 13.2	
	感覚まひ	41 100.0	29 70.7	32 78.0	27 65.9	11 26.8	1 2.4	1 2.4	3 7.3	10 24.4	
	関節の拘縮・変 形	203 100.0	145 71.4	166 81.8	92 45.3	65 32.0	7 3.4	0 0.0	3 1.5	2 1.0	38 18.7
	疼痛	234 100.0	140 59.8	199 85.0	110 47.0	78 33.3	5 2.1	0 0.0	2 0.9	1 0.4	34 14.5
	筋力・筋耐久性 の低下	400 100.0	236 59.0	334 83.5	164 41.0	97 24.3	9 2.3	1 0.3	6 1.5	4 1.0	63 15.8
	運動失調	25 100.0	15 60.0	21 84.0	11 44.0	7 28.0	0 0.0	0 0.0	2 8.0	2 8.0	5 20.0
	失語症・構音障 害	11 100.0	9 81.8	8 72.7	3 27.3	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 18.2	1 9.1
	高次脳機能障害	10 100.0	4 40.0	5 50.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0
	認知症	39 100.0	23 59.0	33 84.6	14 35.9	7 17.9	3 7.7	0 0.0	2 5.1	2 5.1	7 17.9
	その他	16 100.0	9 56.3	13 81.3	5 31.3	4 25.0	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	1 6.3
		合計	歩 行 訓 練	A D L 訓 練	家 事 動 作 訓 練	巧 緻 動 作 訓 練	チ 補 装 具 の ク	製 定 福 社 自 助 具 の 選	住 環 境 調 整	そ の 他	無 回 答
全体	486 100.0	285 58.6	135 27.8	32 6.6	48 9.9	10 2.1	8 1.6	10 2.1	84 17.3	5 1.0	
リ ハ ビ リ が 必 要 な 心 身 の 状 態	運動まひ(中枢 性・末梢性)	144 100.0	82 56.9	40 27.8	12 8.3	32 22.2	5 3.5	0 0.0	3 2.1	23 16.0	1 0.7
	感覚まひ	41 100.0	26 63.4	19 46.3	7 17.1	15 36.6	4 9.8	0 0.0	0 0.0	3 7.3	0 0.0
	関節の拘縮・変 形	203 100.0	123 60.6	77 37.9	16 7.9	21 10.3	6 3.0	5 2.5	7 3.4	24 11.8	1 0.5
	疼痛	234 100.0	134 57.3	75 32.1	17 7.3	23 9.8	7 3.0	6 2.6	7 3.0	43 18.4	1 0.4
	筋力・筋耐久性 の低下	400 100.0	251 62.8	117 29.3	27 6.8	37 9.3	7 1.8	8 2.0	10 2.5	61 15.3	5 1.3
	運動失調	25 100.0	16 64.0	8 32.0	2 8.0	6 24.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 24.0	1 4.0
	失語症・構音障 害	11 100.0	5 45.5	2 18.2	1 9.1	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	1 9.1
	高次脳機能障害	10 100.0	5 50.0	3 30.0	0 0.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0	1 10.0
	認知症	39 100.0	29 74.4	11 28.2	2 5.1	2 5.1	1 2.6	0 0.0	2 5.1	10 25.6	0 0.0
	その他	16 100.0	9 56.3	3 18.8	2 12.5	3 18.8	0 0.0	1 6.3	0 0.0	5 31.3	0 0.0

(4) リハビリテーションの実施職種別 個別リハビリテーションの提供時間

専門職が行う個別リハビリテーションの1回あたりの提供時間について、リハビリテーションの実施職種別でみたところ、大きな違いはみられず、いずれの職種でも「20分以上40分未満」の割合が最も高く7.5～8割となっている。

図表 5-6 2 リハビリテーションの実施職種別 個別リハビリテーションの提供時間

		合計	60分以上	40分以上 60分未満	20分以上 40分未満	集団リハ ビリテー ションのみ 実施	無回答
全体		1,231 100.0	7 0.6	30 2.4	922 74.9	189 15.4	83 6.7
実 施 ハ 職 ビ 種 リ	理学療法士	1008 100.0	7 0.7	24 2.4	750 74.4	153 15.2	74 7.3
	作業療法士	486 100.0	0 0.0	10 2.1	379 78.0	76 15.6	21 4.3
	言語聴覚士	47 100.0	1 2.1	2 4.3	38 80.9	5 10.6	1 2.1

(5) 専門職によるリハビリテーションの内容別 個別リハビリテーションの提供時間

専門職が行う個別リハビリテーションの1回あたりの提供時間について、専門職によるリハビリテーションの内容別でみた。理学療法士・作業療法士いずれも、リハビリテーションの内容に関わらず「20分以上40分未満」の割合が最も高くなっている。また、サンプル数の少ないものを除いてみると、理学療法士では、『筋力増強訓練』で「集団リハビリテーションのみ実施」の割合が高くなっている。作業療法士では、『筋力増強訓練』『歩行訓練』で「集団リハビリテーションのみ実施」の割合が高くなっている。

図表 5-63 理学療法士によるリハビリテーション内容別 個別リハビリテーションの提供時間

		合計	60分以上	40分以上 60分未満	20分以上 40分未満	集団リハ ビリテー ションのみ 実施	無回答
全体		1,231 100.0	7 0.6	30 2.4	922 74.9	189 15.4	83 6.7
理学療法士 による リハ 内容	関節可動域訓練	671 100.0	6 0.9	14 2.1	553 82.4	56 8.3	42 6.3
	筋力増強訓練	881 100.0	6 0.7	23 2.6	666 75.6	125 14.2	61 6.9
	筋緊張緩和(リラ クゼーション)	430 100.0	5 1.2	11 2.6	360 83.7	21 4.9	33 7.7
	マッサージ	308 100.0	3 1.0	13 4.2	262 85.1	12 3.9	18 5.8
	リンパマッサージ	8 100.0	1 12.5	0 0.0	5 62.5	2 25.0	0 0.0
	呼吸ケア・肺理学 療法	6 100.0	0 0.0	0 0.0	6 100.0	0 0.0	0 0.0
	摂食・嚥下訓練	12 100.0	0 0.0	0 0.0	7 58.3	5 41.7	0 0.0
	言語訓練	9 100.0	0 0.0	0 0.0	7 77.8	2 22.2	0 0.0
	起居・移乗動作 訓練	162 100.0	0 0.0	9 5.6	135 83.3	13 8.0	5 3.1
	歩行訓練	622 100.0	3 0.5	21 3.4	483 77.7	74 11.9	41 6.6
	ADL訓練	238 100.0	2 0.8	5 2.1	202 84.9	19 8.0	10 4.2
	家事動作訓練	22 100.0	0 0.0	0 0.0	16 72.7	6 27.3	0 0.0
	巧緻動作訓練	37 100.0	1 2.7	1 2.7	29 78.4	3 8.1	3 8.1
	補装具のチェック	37 100.0	0 0.0	1 2.7	29 78.4	7 18.9	0 0.0
	福祉用具の選 定・自助具作製	31 100.0	0 0.0	0 0.0	17 54.8	11 35.5	3 9.7
	住環境調整	34 100.0	0 0.0	1 2.9	27 79.4	6 17.6	0 0.0
	その他	151 100.0	0 0.0	0 0.0	115 76.2	27 17.9	9 6.0

図表 5-6 4 作業療法士によるリハビリテーション内容別 個別リハビリテーションの提供時間

	合計	60分以上	40分以上 60分未満	20分以上 40分未満	集団リハ ビリテー ションのみ 実施	無回答	
全体	1,231 100.0	7 0.6	30 2.4	922 74.9	189 15.4	83 6.7	
作業療法士によるリハ内容	関節可動域訓練	289 100.0	0 0.0	1 0.3	252 87.2	28 9.7	8 2.8
	筋力増強訓練	396 100.0	0 0.0	7 1.8	308 77.8	66 16.7	15 3.8
	筋緊張緩和(リラクゼーション)	194 100.0	0 0.0	1 0.5	171 88.1	9 4.6	13 6.7
	マッサージ	115 100.0	0 0.0	0 0.0	105 91.3	3 2.6	7 6.1
	リンパマッサージ	9 100.0	0 0.0	0 0.0	8 88.9	1 11.1	0 0.0
	呼吸ケア・肺理学療法	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	摂食・嚥下訓練	6 100.0	0 0.0	0 0.0	5 83.3	1 16.7	0 0.0
	言語訓練	5 100.0	0 0.0	0 0.0	4 80.0	1 20.0	0 0.0
	起居・移乗動作訓練	66 100.0	0 0.0	8 12.1	52 78.8	4 6.1	2 3.0
	歩行訓練	285 100.0	0 0.0	7 2.5	223 78.2	43 15.1	12 4.2
	ADL訓練	135 100.0	0 0.0	8 5.9	108 80.0	16 11.9	3 2.2
	家事動作訓練	32 100.0	0 0.0	3 9.4	26 81.3	2 6.3	1 3.1
	巧緻動作訓練	48 100.0	0 0.0	0 0.0	43 89.6	3 6.3	2 4.2
	補装具のチェック	10 100.0	0 0.0	0 0.0	10 100.0	0 0.0	0 0.0
	福祉用具の選定・自助具作製	8 100.0	0 0.0	0 0.0	8 100.0	0 0.0	0 0.0
	住環境調整	10 100.0	0 0.0	0 0.0	7 70.0	3 30.0	0 0.0
	その他	84 100.0	0 0.0	0 0.0	60 71.4	22 26.2	2 2.4

第6章 要支援者及び軽度要介護者の状態像に関する検証

1 属性

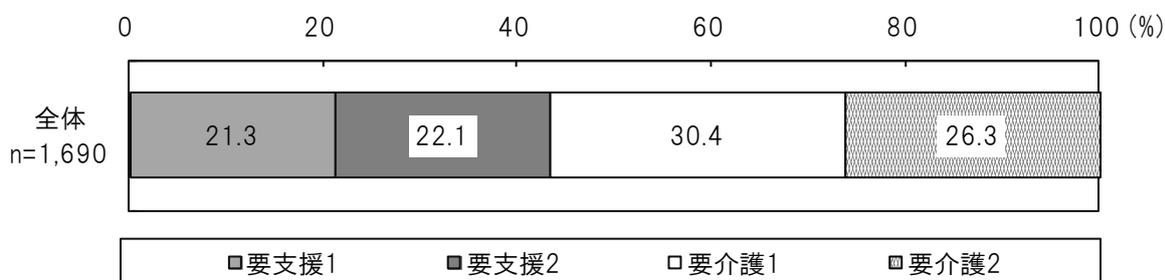
(1) 一次判定結果

今回対象としたのは、平成22年度から平成23年度に要介護認定を申請し、一次判定で要支援1から要介護2の判定結果が出ている1,690件である。

内訳は要支援1が21.3%、要支援2が22.1%、要介護1が30.4%、要介護2が26.3%となっている。

医療系サービス利用別では、訪問看護は全体よりも要支援1が少なく、要介護2が多い傾向にある。ただし、訪問看護および訪問リハのクロス集計結果についてはサンプル数が十分でないことに留意する必要がある。

図表 6-1 一次判定結果



図表 6-2 医療系サービス利用別 一次判定結果

		合計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2
全体		1,690	360	373	513	444
		100.0	21.3	22.1	30.4	26.3
医療系サービス利用	訪問看護	41	3	10	13	15
		100.0	7.3	24.4	31.7	36.6
	訪問リハ	23	4	7	7	5
		100.0	17.4	30.4	30.4	21.7
	通所リハ	207	31	50	64	62
		100.0	15.0	24.2	30.9	30.0

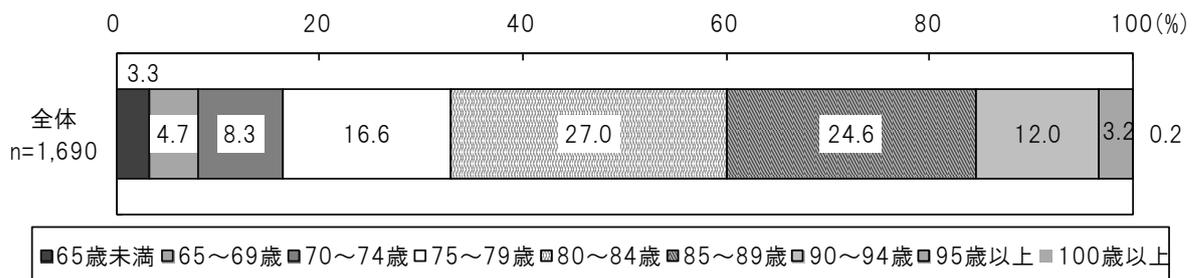
(2) 年齢

「80～84歳」(27.0%)の割合が最も高く、次いで「85～89歳」(24.6%)、「75～79歳」(16.6%)の割合が高い。75歳以上の後期高齢者が全体の8割以上を占めている。

医療系サービス利用別では、訪問看護は「65歳未満」の第2号被保険者の割合が全体と比較して高くなっている。また、訪問リハは65歳～74歳の前期高齢者の割合が全体よりも高くなっている。

一次判定結果別では、要支援1～要介護1は80～84歳の割合が最も高く、要介護2では85～89歳の割合が最も高くなっている。

図表 6-3 年齢



図表 6-4 医療系サービス利用別 年齢

		合計	65歳未満	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上
全体		1,690	56	80	141	280	457	415	203	54	4
		100.0	3.3	4.7	8.3	16.6	27.0	24.6	12.0	3.2	0.2
医療系サービス利用	訪問看護	41	6	2	4	7	8	7	6	1	0
		100.0	14.6	4.9	9.8	17.1	19.5	17.1	14.6	2.4	0.0
	訪問リハ	23	1	2	6	4	6	2	2	0	0
	100.0	4.3	8.7	26.1	17.4	26.1	8.7	8.7	0.0	0.0	
	通所リハ	207	16	11	20	44	44	42	24	6	0
	100.0	7.7	5.3	9.7	21.3	21.3	20.3	11.6	2.9	0.0	

図表 6-5 一次判定結果別 年齢

		合計	65歳未満	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上
全体		1,690	56	80	141	280	457	415	203	54	4
		100.0	3.3	4.7	8.3	16.6	27.0	24.6	12.0	3.2	0.2
一次判定結果	要支援1	360	6	13	36	72	116	86	23	8	0
		100.0	1.7	3.6	10.0	20.0	32.2	23.9	6.4	2.2	0.0
	要支援2	373	18	22	27	69	104	83	45	4	1
		100.0	4.8	5.9	7.2	18.5	27.9	22.3	12.1	1.1	0.3
	要介護1	513	16	20	35	76	140	135	67	22	2
		100.0	3.1	3.9	6.8	14.8	27.3	26.3	13.1	4.3	0.4
	要介護2	444	16	25	43	63	97	111	68	20	1
		100.0	3.6	5.6	9.7	14.2	21.8	25.0	15.3	4.5	0.2

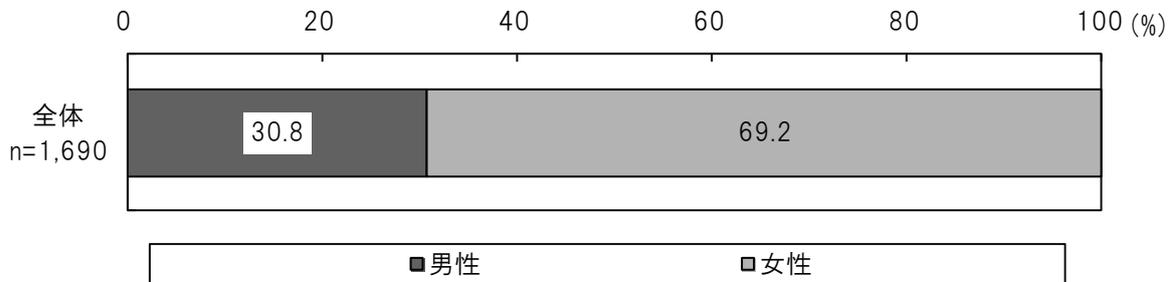
(3) 性別

「男性」が30.8%、「女性」が69.2%となっている。

医療系サービス利用別にみると、訪問看護は全体と比較して「男性」の割合が高くなっている。

一次判定結果別では、要支援は全体と比較して女性の割合がやや高く、要介護では全体と比較して男性の割合がやや高くなっている。

図表 6-6 性別



図表 6-7 医療系サービス利用別 性別

		合計	男性	女性
全体		1,690	520	1170
		100.0	30.8	69.2
医療系サービス利用	訪問看護	41	19	22
		100.0	46.3	53.7
	訪問リハ	23	9	14
	100.0	39.1	60.9	
	通所リハ	207	75	132
	100.0	36.2	63.8	

図表 6-8 一次判定結果別 性別

		合計	男	女
全体		1,690	520	1170
		100.0	30.8	69.2
一次判定結果	要支援1	360	99	261
		100.0	27.5	72.5
	要支援2	373	99	274
		100.0	26.5	73.5
	要介護1	513	170	343
	100.0	33.1	66.9	
	要介護2	444	152	292
	100.0	34.2	65.8	

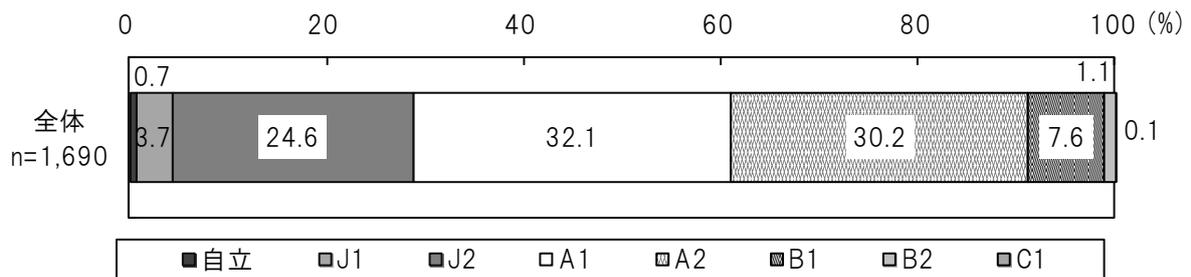
(4) 障害高齢者自立度

「自立」「J1」「J2」の割合の合計が29.0%、「A1」「A2」の割合の合計が62.3%となっている。「B1」以上も全体の8.8%存在している。

医療系サービス利用別では、全体と傾向に大きな差はない。障害高齢者自立度が「B1」以上となる割合は、訪問看護で12.2%、訪問リハで13.0%、通所リハで7.2%となっている。

一次判定結果別にみると、一次判定結果が要支援となっている者の中にも障害高齢者自立度が「B1」となっているケースがある。

図表 6-9 障害高齢者の日常生活自立度



図表 6-10 医療系サービス利用別 障害高齢者の日常生活自立度

		合計	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2
全体		1,690	11	62	415	543	510	129	18	2	0
		100.0	0.7	3.7	24.6	32.1	30.2	7.6	1.1	0.1	0.0
医療系サービス利用	訪問看護	41	2	0	10	9	15	5	0	0	0
		100.0	4.9	0.0	24.4	22.0	36.6	12.2	0.0	0.0	0.0
	訪問リハ	23	0	0	5	9	6	3	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	21.7	39.1	26.1	13.0	0.0	0.0	0.0	
	通所リハ	207	0	4	49	78	61	12	3	0	0
	100.0	0.0	1.9	23.7	37.7	29.5	5.8	1.4	0.0	0.0	

図表 6-11 一次判定結果別 障害高齢者の日常生活自立度

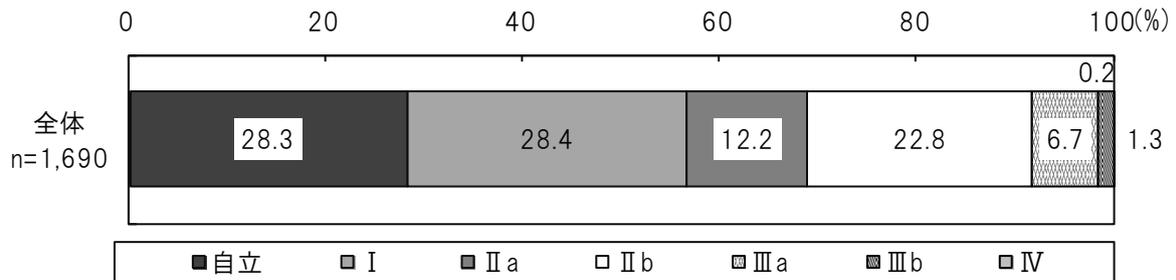
		合計	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2
全体		1,690	11	62	415	543	510	129	18	2	0
		100.0	0.7	3.7	24.6	32.1	30.2	7.6	1.1	0.1	0.0
一次判定結果	要支援1	360	5	38	164	101	51	1	0	0	0
		100.0	1.4	10.6	45.6	28.1	14.2	0.3	0.0	0.0	0.0
	要支援2	373	1	15	114	133	105	5	0	0	0
		100.0	0.3	4.0	30.6	35.7	28.2	1.3	0.0	0.0	0.0
	要介護1	513	4	8	102	180	179	38	2	0	0
		100.0	0.8	1.6	19.9	35.1	34.9	7.4	0.4	0.0	0.0
	要介護2	444	1	1	35	129	175	85	16	2	0
		100.0	0.2	0.2	7.9	29.1	39.4	19.1	3.6	0.5	0.0

(5) 認知症高齢者自立度

割合が高いのは、「I」(28.4%)、「自立」(28.3%)、「II b」(22.8%)の順となっている。「I」以下で半数以上を占め、「III a」以上は8.2%となっている。

医療系サービス利用別では、訪問リハは「I」以下の割合が全体よりも高い傾向にある。一次判定結果別でみると、要支援1～2では「I」以下の割合が全体より高く、要介護2では「III a」「III b」の割合が全体より高くなっている。

図表 6-1 2 認知症高齢者の日常生活自立度



図表 6-1 3 医療系サービス利用別 認知症高齢者の日常生活自立度

		合計	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M
全体		1,690	478	480	206	386	114	22	4	0
		100.0	28.3	28.4	12.2	22.8	6.7	1.3	0.2	0.0
医療系サービス利用	訪問看護	41	12	7	6	12	3	1	0	0
		100.0	29.3	17.1	14.6	29.3	7.3	2.4	0.0	0.0
	訪問リハ	23	7	10	3	3	0	0	0	0
	100.0	30.4	43.5	13.0	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	通所リハ	207	57	62	24	44	17	3	0	0
	100.0	27.5	30.0	11.6	21.3	8.2	1.4	0.0	0.0	

図表 6-1 4 一次判定結果別 認知症高齢者の日常生活自立度

		合計	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M
全体		1,690	478	480	206	386	114	22	4	0
		100.0	28.3	28.4	12.2	22.8	6.7	1.3	0.2	0.0
一次判定結果	要支援1	360	185	109	33	29	3	1	0	0
		100.0	51.4	30.3	9.2	8.1	0.8	0.3	0.0	0.0
	要支援2	373	181	168	12	11	1	0	0	0
		100.0	48.5	45.0	3.2	2.9	0.3	0.0	0.0	0.0
	要介護1	513	54	109	108	215	23	3	1	0
		100.0	10.5	21.2	21.1	41.9	4.5	0.6	0.2	0.0
	要介護2	444	58	94	53	131	87	18	3	0
		100.0	13.1	21.2	11.9	29.5	19.6	4.1	0.7	0.0

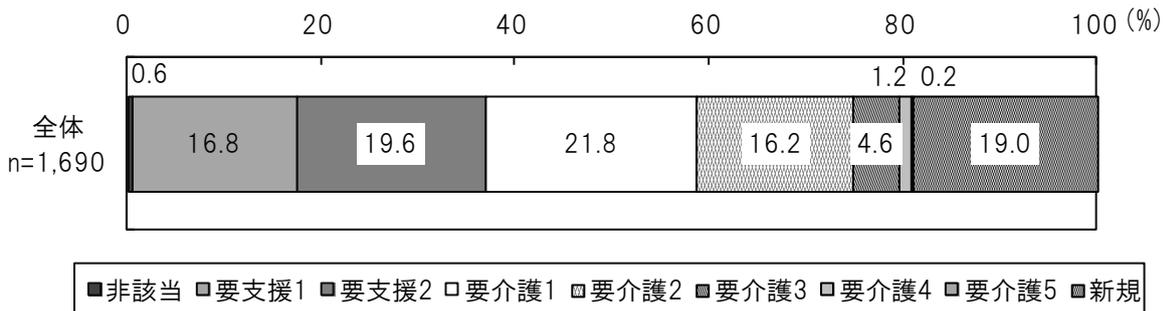
(6) 前回要介護度

前回要介護度は、多い順に「要介護1」(21.8%)、「要支援2」(19.6%)となっている。新規申請者は19.0%となっている。

医療系サービス利用別では、訪問看護、訪問リハ、通所リハともに要支援1の割合が全体よりもやや低くなっている。また、訪問看護は前回要介護度が「要介護2」以上の割合が全体と比較してやや高くなっている。

一次判定結果別では、要支援1では「新規」の割合がやや高くなっている。

図表 6-15 前回要介護度



図表 6-16 医療系サービス利用別 前回要介護度

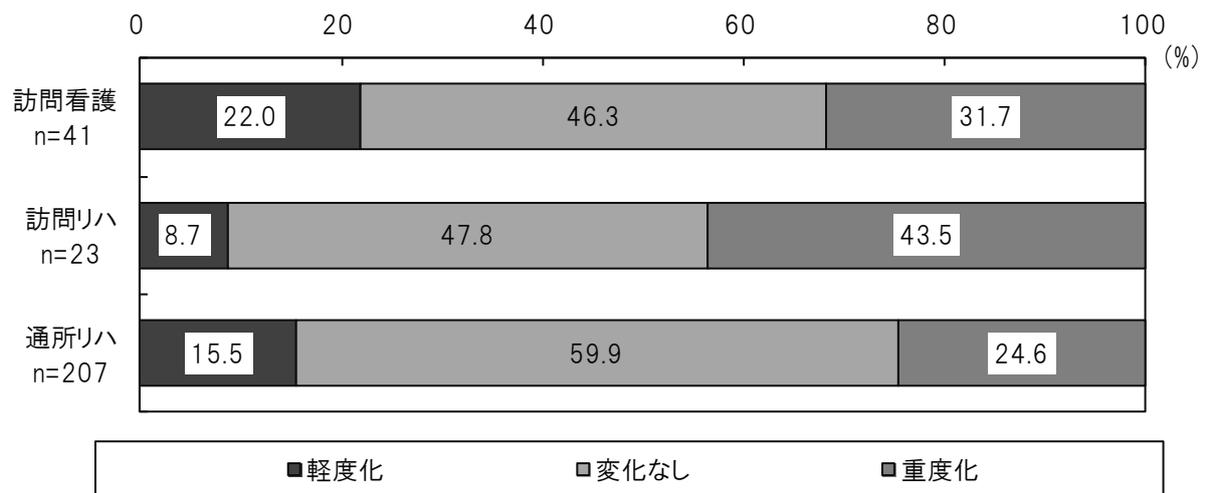
		合計	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	新規
全体		1,690	10	284	331	368	273	78	21	4	321
		100.0	0.6	16.8	19.6	21.8	16.2	4.6	1.2	0.2	19.0
医療系サービス利用	訪問看護	41	0	4	8	12	10	3	3	1	0
		100.0	0.0	9.8	19.5	29.3	24.4	7.3	7.3	2.4	0.0
	訪問リハ	23	0	2	7	4	6	2	2	0	0
		100.0	0.0	8.7	30.4	17.4	26.1	8.7	8.7	0.0	0.0
通所リハ		207	0	27	57	58	50	10	3	2	0
		100.0	0.0	13.0	27.5	28.0	24.2	4.8	1.4	1.0	0.0

図表 6-17 一次判定結果別 前回要介護度

		合計	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	新規
全体		1,690	10	284	331	368	273	78	21	4	321
		100.0	0.6	16.8	19.6	21.8	16.2	4.6	1.2	0.2	19.0
一次判定結果	要支援1	360	4	152	58	38	5	4	1	1	97
		100.0	1.1	42.2	16.1	10.6	1.4	1.1	0.3	0.3	26.9
	要支援2	373	2	68	183	40	13	3	0	0	64
		100.0	0.5	18.2	49.1	10.7	3.5	0.8	0.0	0.0	17.2
	要介護1	513	2	48	58	201	80	14	6	0	104
	100.0	0.4	9.4	11.3	39.2	15.6	2.7	1.2	0.0	20.3	
要介護2	444	2	16	32	89	175	57	14	3	56	
	100.0	0.5	3.6	7.2	20.0	39.4	12.8	3.2	0.7	12.6	

医療系サービス利用ごとに、前回要介護度と今回の一次判定結果の変化をみると、訪問看護は、「軽度化」が22.0%、「重度化」が31.7%、「変化なし」が46.3%、訪問リハは「軽度化」が8.7%、「重度化」が43.5%、「変化なし」が47.8%、通所リハは、「軽度化」が15.5%、「重度化」が24.6%、「変化なし」が59.9%だった。ただし、要支援2と要介護1の間の変化は「変化なし」としている。なお、前回の二次判定結果と今回の一次判定結果を比較していることおよびサンプル数が少ないことに留意が必要である。

図表 6-18 前回要介護度と今回一次判定結果



図表 6-19 一次判定結果別 前回要介護度（訪問看護）

	合計	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	41	0	4	8	12	10	3	3	1
	100.0	0.0	9.8	19.5	29.3	24.4	7.3	7.3	2.4
一次判定結果	要支援1	3	0	1	0	1	0	0	1
		100.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
	要支援2	10	0	1	6	2	0	1	0
		100.0	0.0	10.0	60.0	20.0	0.0	10.0	0.0
要介護1	13	0	2	1	4	5	0	1	0
		100.0	0.0	15.4	7.7	30.8	38.5	0.0	7.7
要介護2	15	0	0	1	5	5	2	2	0
		100.0	0.0	0.0	6.7	33.3	33.3	13.3	13.3

図表 6-20 一次判定結果別 前回要介護度（訪問リハ）

	合計	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	23	0	2	7	4	6	2	2	0
	100.0	0.0	8.7	30.4	17.4	26.1	8.7	8.7	0.0
一次判定結果	要支援1	4	0	1	2	0	0	1	0
		100.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	要支援2	7	0	1	4	1	0	1	0
		100.0	0.0	14.3	57.1	14.3	0.0	14.3	0.0
要介護1	7	0	0	1	2	4	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	14.3	28.6	57.1	0.0	0.0
要介護2	5	0	0	0	1	2	0	2	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	40.0

図表 6-21 一次判定結果別 前回要介護度（通所リハ）

	合計	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	207	0	27	57	58	50	10	3	2
	100.0	0.0	13.0	27.5	28.0	24.2	4.8	1.4	1.0
一次判定結果	要支援1	31	0	12	11	7	0	0	1
		100.0	0.0	38.7	35.5	22.6	0.0	0.0	3.2
	要支援2	50	0	9	32	7	2	0	0
		100.0	0.0	18.0	64.0	14.0	4.0	0.0	0.0
要介護1	64	0	4	9	32	16	3	0	0
		100.0	0.0	6.3	14.1	50.0	25.0	4.7	0.0
要介護2	62	0	2	5	12	32	7	3	1
		100.0	0.0	3.2	8.1	19.4	51.6	11.3	4.8

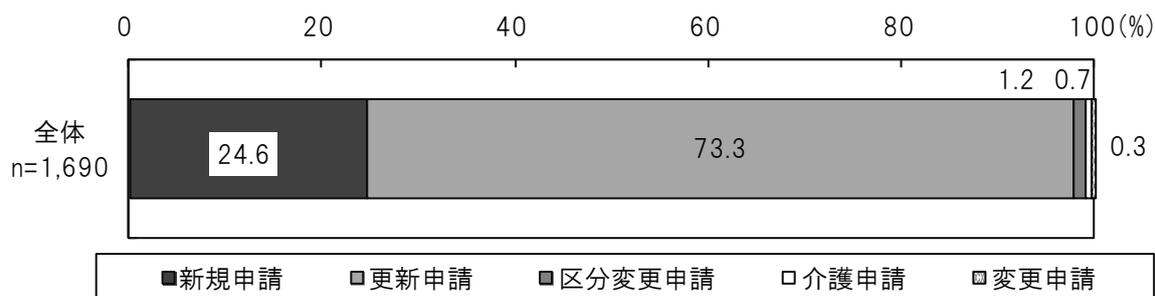
(7) 申請区分

「新規申請」が24.6%、「更新申請」が73.3%となっている。

医療系サービス利用別では、訪問看護、訪問リハ、通所リハともに更新申請が9割以上を占める。

一次判定結果別では、「新規申請」の割合が要支援1は全体よりもやや高く、要介護2は全体よりもやや低くなっている。

図表 6-22 申請区分



図表 6-23 医療系サービス利用別 申請区分

		合計	新規申請	更新申請	区分変更申請	介護申請	変更申請
全体		1,690 100.0	415 24.6	1239 73.3	20 1.2	11 0.7	5 0.3
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	1 2.4	38 92.7	1 2.4	0 0.0	1 2.4
	訪問リハ	23 100.0	0 0.0	23 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	通所リハ	207 100.0	2 1.0	198 95.7	3 1.4	2 1.0	2 1.0

図表 6-24 一次判定結果別 申請区分

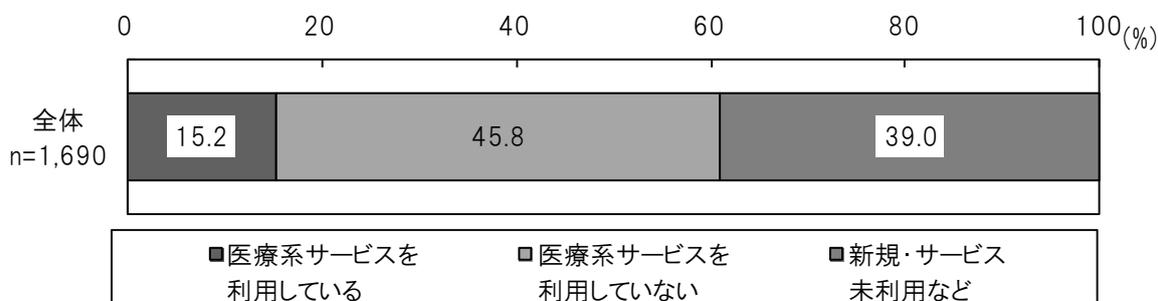
		合計	新規申請	更新申請	区分変更申請	介護申請	変更申請	職権
全体		1,690 100.0	415 24.6	1239 73.3	20 1.2	11 0.7	5 0.3	0 0.0
一次判定結果	要支援1	360 100.0	114 31.7	245 68.1	0 0.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0
	要支援2	373 100.0	87 23.3	280 75.1	2 0.5	4 1.1	0 0.0	0 0.0
	要介護1	513 100.0	136 26.5	369 71.9	6 1.2	2 0.4	0 0.0	0 0.0
	要介護2	444 100.0	78 17.6	345 77.7	12 2.7	4 0.9	5 1.1	0 0.0

(8) 現在のサービス利用状況

「医療系サービスを利用している」が 15.2%、「医療系サービスを利用していない」が 45.8%、「新規・サービス未利用など」が 39.0%となっている。

一次判定結果別では、全体と大きな差はみられない。

図表 6-25 現在のサービス利用状況（医療系サービス利用の有無）



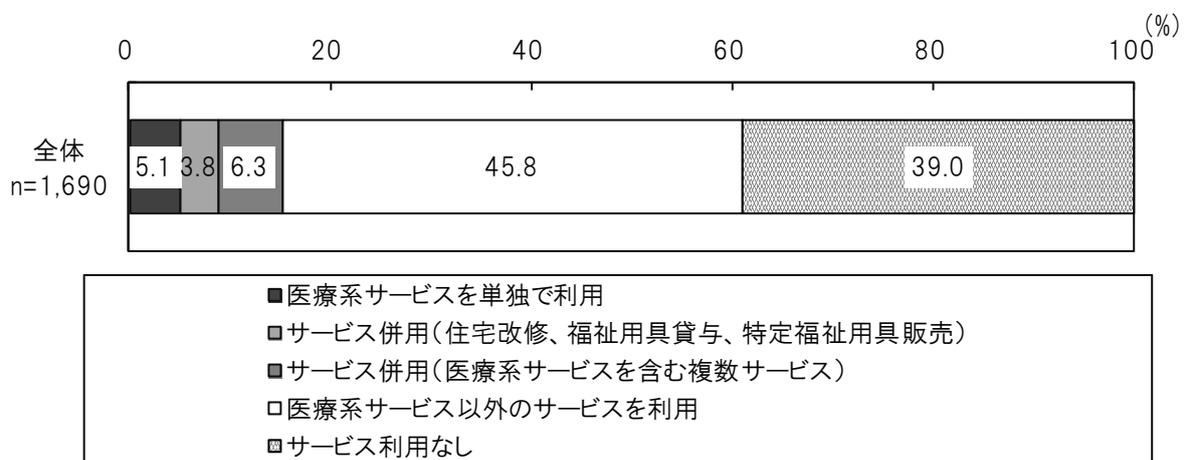
図表 6-26 一次判定結果別 現在のサービス利用状況（医療系サービス利用の有無）

		合計	医療系サービス を利用している	医療系サービス を利用していない	新規・サービス 未利用など
全体		1,690	257	774	659
		100.0	15.2	45.8	39.0
一次判定結果	要支援1	360	37	156	167
		100.0	10.3	43.3	46.4
	要支援2	373	63	179	131
		100.0	16.9	48.0	35.1
	要介護1	513	80	231	202
	100.0	15.6	45.0	39.4	
	要介護2	444	77	208	159
		100.0	17.3	46.8	35.8

医療系サービスとその他のサービスの併用状況は、「医療系サービスを単独で利用」が 5.1%、「サービス併用（住宅改修、福祉用具貸与、特定福祉用具販売）」が 3.8%、「サービス併用（医療系サービスを含む複数サービス）」が 6.3%となっている。

医療系サービス利用別にみると、訪問看護は「サービス併用（医療系サービスを含む複数サービス）」（80.5%）の割合が特に高く、次いで「医療系サービスを単独で利用」（12.2%）、「サービス併用（住宅改修、福祉用具貸与、特定福祉用具販売）」（7.3%）となっている。訪問リハは「サービス併用（医療系サービスを含む複数サービス）」（65.2%）の割合が最も高く、次いで「サービス併用（住宅改修、福祉用具貸与、特定福祉用具販売）」（30.4%）となっており、「医療系サービスを単独で利用」（4.3%）の割合は低い。通所リハは「医療系サービスを単独で利用」（38.6%）「サービス併用（医療系サービスを含む複数サービス）」（35.3%）の割合がやや高く、次いで「サービス併用（住宅改修、福祉用具貸与、特定福祉用具販売）」（26.1%）となっている。

図表 6-27 サービス併用状況



図表 6-28 医療系サービス利用別 サービス併用状況

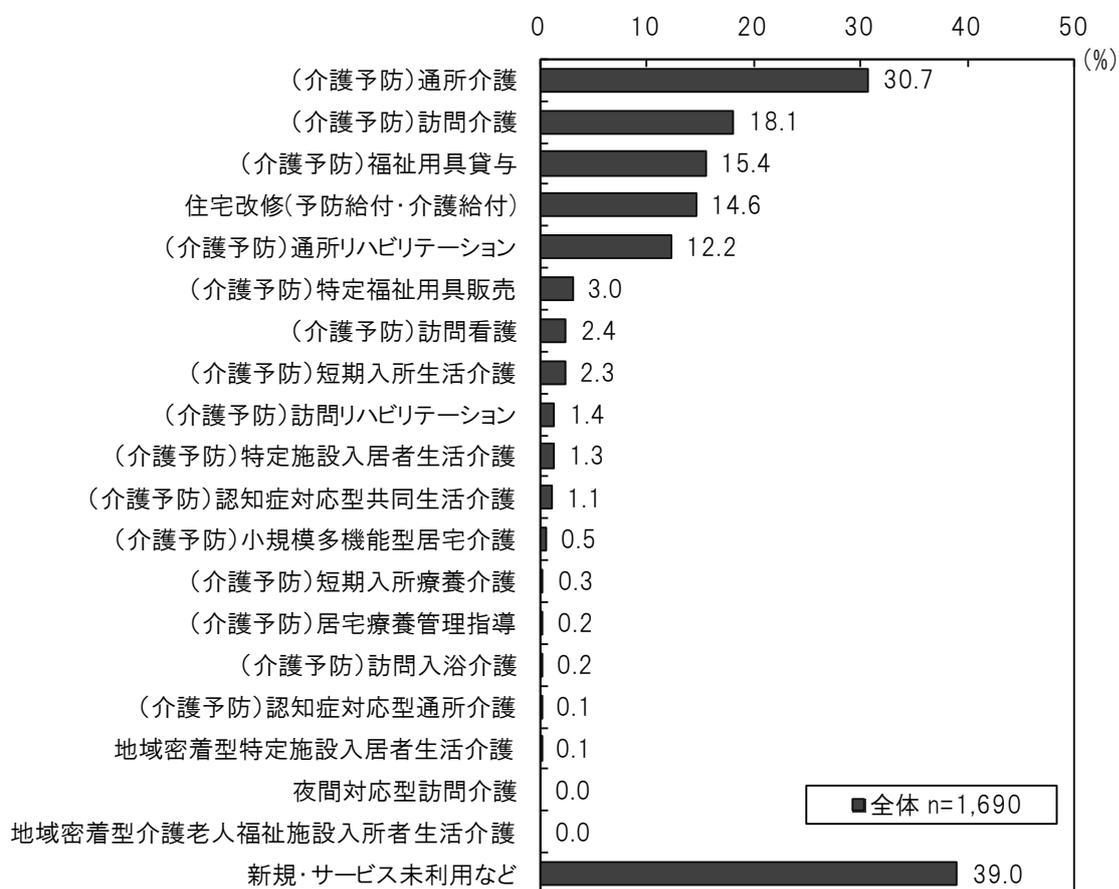
		合計	医療系サービスを単独で利用	サービス併用(住宅改修、福祉用具貸与、特定福祉用具販売)	サービス併用(医療系サービスを含む複数サービス)
医療系サービス		257 100.0	86 33.5	64 24.9	107 41.6
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	5 12.2	3 7.3	33 80.5
	訪問リハ	23 100.0	1 4.3	7 30.4	15 65.2
	通所リハ	207 100.0	80 38.6	54 26.1	73 35.3

個別のサービス利用状況をみると、「(介護予防)通所介護」(30.7%)が最も多く、次いで「(介護予防)訪問介護」(18.1%)、「(介護予防)福祉用具貸与」(15.4%)、「住宅改修(予防給付・介護給付)」(14.6%)、「(介護予防)通所リハビリテーション」(12.2%)となっている。

一次判定結果別では、全体と比較して「(介護予防)福祉用具貸与」の割合が要支援1ではやや低く、要介護2でやや高い。また、「住宅改修(予防給付・介護給付)」の割合が、要支援2は全体と比較してやや高い。

サービス利用者全体と、医療系サービス利用者进行比较した場合、「福祉用具貸与」「住宅改修」は、訪問看護、訪問リハ、通所リハともにサービス利用者全体より割合が高く、「(介護予防)通所介護」は訪問看護、訪問リハ、通所リハともにサービス利用者全体より割合が低い。その他、訪問看護は「(介護予防)訪問介護」が、訪問リハは「(介護予防)訪問介護」「(介護予防)訪問看護」「特定福祉用具販売」が、それぞれサービス利用者全体よりも割合が高い傾向にある。

図表 6-29 現在のサービス利用状況(複数回答)



図表 6-30 一次判定結果別 現在のサービス利用状況（複数回答）

		合計	(介護予防)訪問介護	(介護予防)訪問入浴介護	(介護予防)訪問看護	(介護予防)訪問リハビリテーション	(介護予防)居宅療養管理指導	(介護予防)通所介護	(介護予防)通所リハビリテーション
全体		1,690 100.0	306 18.1	3 0.2	41 2.4	23 1.4	4 0.2	518 30.7	207 12.2
一次判定結果	要支援1	360 100.0	76 21.1	0 0.0	3 0.8	4 1.1	0 0.0	86 23.9	31 8.6
		373 100.0	88 23.6	0 0.0	10 2.7	7 1.9	0 0.0	105 28.2	50 13.4
	要介護1	513 100.0	79 15.4	0 0.0	13 2.5	7 1.4	1 0.2	164 32.0	64 12.5
		444 100.0	63 14.2	3 0.7	15 3.4	5 1.1	3 0.7	163 36.7	62 14.0

		合計	(介護予防)短期入所生活介護	(介護予防)短期入所療養介護	(介護予防)特定施設入居者生活介護	(介護予防)福祉用具貸与	(介護予防)特定福祉用具販売	住宅改修(予防給付・介護給付)	夜間対応型訪問介護
全体		1,690 100.0	39 2.3	5 0.3	22 1.3	261 15.4	51 3.0	246 14.6	0 0.0
一次判定結果	要支援1	360 100.0	1 0.3	0 0.0	2 0.6	32 8.9	5 1.4	44 12.2	0 0.0
		373 100.0	0 0.0	0 0.0	3 0.8	67 18.0	12 3.2	72 19.3	0 0.0
	要介護1	513 100.0	17 3.3	2 0.4	10 1.9	63 12.3	15 2.9	65 12.7	0 0.0
		444 100.0	21 4.7	3 0.7	7 1.6	99 22.3	19 4.3	65 14.6	0 0.0

		合計	(介護予防)認知症対応型通所介護	(介護予防)小規模多機能型居宅介護	(介護予防)認知症対応型共同生活介護	地域密着型特定施設入居者生活介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	なし
全体		1,690 100.0	2 0.1	9 0.5	18 1.1	1 0.1	0 0.0	659 39.0
一次判定結果	要支援1	360 100.0	0 0.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	167 46.4
		373 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	131 35.1
	要介護1	513 100.0	2 0.4	4 0.8	8 1.6	1 0.2	0 0.0	202 39.4
		444 100.0	0 0.0	4 0.9	10 2.3	0 0.0	0 0.0	159 35.8

図表 6-31 医療系サービス利用別 現在のサービス利用状況（複数回答）

		合計	(介護予防)訪問介護	(介護予防)訪問入浴介護	(介護予防)訪問看護	(介護予防)訪問リハビリテーション	(介護予防)居宅療養管理指導	(介護予防)通所介護	(介護予防)通所リハビリテーション
全体		1,690 100.0	306 18.1	3 0.2	41 2.4	23 1.4	4 0.2	518 30.7	207 12.2
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	20 48.8	0 0.0	41 100.0	4 9.8	2 4.9	13 31.7	6 14.6
	訪問リハ	23 100.0	9 39.1	0 0.0	4 17.4	23 100.0	1 4.3	5 21.7	4 17.4
	通所リハ	207 100.0	45 21.7	0 0.0	6 2.9	4 1.9	0 0.0	23 11.1	207 100.0

		合計	(介護予防)短期入所生活介護	(介護予防)短期入所療養介護	(介護予防)特定施設入居者生活介護	(介護予防)福祉用具貸与	(介護予防)特定福祉用具販売	住宅改修(予防給付・介護給付)	夜間対応型訪問介護
全体		1,690 100.0	39 2.3	5 0.3	22 1.3	261 15.4	51 3.0	246 14.6	0 0.0
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	1 2.4	0 0.0	0 0.0	16 39.0	2 4.9	10 24.4	0 0.0
	訪問リハ	23 100.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	14 60.9	4 17.4	8 34.8	0 0.0
	通所リハ	207 100.0	6 2.9	3 1.4	0 0.0	63 30.4	9 4.3	62 30.0	0 0.0

		合計	(介護予防)認知症対応型通所介護	(介護予防)小規模多機能型居宅介護	(介護予防)認知症対応型共同生活介護	地域密着型特定施設入居者生活介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	なし
全体		1,690 100.0	2 0.1	9 0.5	18 1.1	1 0.1	0 0.0	659 39.0
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	訪問リハ	23 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	通所リハ	207 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

2 基本調査項目

新規・サービス未利用を除く介護保険サービス利用者について、医療系サービス（訪問看護、訪問リハ、通所リハ）利用の有無で分類し、基本調査項目の選択率の比較を行った。 χ 二乗検定により10%以下で有意に差があった基本調査項目は、74項目中19項目であり、残りの55項目には差がみられなかった。上半身を中心とした麻痺や拘縮、およびそれに付随する衣服の着脱や洗身などの動作、薬の内服や特別な医療などの医療関連項目などに差があらわれている。

なお、基本調査項目名の横についている*印は、*は10%、**は5%、***は1%有意であることを示し、網掛けがされているものは、その選択肢の選択率が有意に高いまたは低いことを示す。

(1) 第1群 身体機能・起居動作

「1-1 麻痺（その他）」および「1-2 拘縮（その他）」は、医療系サービスを利用している場合「ある」の選択率が高くなり、医療系サービスを利用していない場合「ない」の選択率が高くなる。また、「1-2 拘縮（肩関節）」は、医療系サービスを利用している場合、「ない」の選択率が低く、「ある」の選択率が高い。医療系サービスを利用していない場合は「ない」が多く「ある」が少なくなっている。「1-3 寝返り」は、医療系サービスを利用していない場合「できる」の選択率が高くなる。「1-10 洗身」では、医療系サービスを利用していると「一部介助」の選択率が高くなり、医療系サービスを利用していないと「介助されていない」の割合が高くなる。「1-11 つめ切り」は、医療系サービスを利用していない場合は「介助されていない」の選択率が高くなる。その他、「1-1 麻痺（右上肢）」も医療系サービスの有無で選択率に有意に差がある。

1-1 麻痺（右上肢）*

		合計	ない	ある
サ 利 医 用 療 ビ 系 ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	220 85.6	37 14.4
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	694 89.7	80 10.3

1-1 麻痺（その他）***

		合計	ない	ある
サ 利 医 用 療 ビ 系 ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	209 81.3	48 18.7
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	719 92.9	55 7.1

1-2 拘縮（肩関節）***

		合計	ない	ある
サ 利 医 用 療 ビ 系 ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	205 79.8	52 20.2
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	682 88.1	92 11.9

1-2 拘縮（その他）***

		合計	ない	ある
サ 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	201 78.2	56 21.8
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	663 85.7	111 14.3

1-3 寝返り***

		合計	できる	つかまれば可	できない
サ 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	90 35.0	143 55.6	24 9.3
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	336 43.4	400 51.7	38 4.9

1-10 洗身***

		合計	介助されていない	一部介助	全介助	行っていない
サ 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	54 21.0	173 67.3	27 10.5	3 1.2
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	259 33.5	439 56.7	69 8.9	7 0.9

1-11 つめ切り**

		合計	介助されていない	一部介助	全介助	不明
サ 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	66 25.7	67 26.1	124 48.2	0 0.0
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	266 34.4	180 23.3	328 42.4	0 0.0

(参考) 各調査項目における検定結果

			χ ² 乗値	有意水準
身体機能・起居動作	1-1	麻痺(左-上肢)	0.857	
		麻痺(右-上肢)	3.163	10%
		麻痺(左-下肢)	0.006	
		麻痺(右-下肢)	0.120	
		麻痺(その他)	28.727	1%
	1-2	拘縮(肩関節)	11.187	1%
		拘縮(股関節)	0.220	
		拘縮(膝関節)	0.133	
		拘縮(その他)	11.187	1%
	1-3	寝返り	10.157	1%
	1-4	起き上がり	0.867	
	1-5	座位保持	0.553	
	1-6	両足での立位	1.707	
1-7	歩行	4.212		
1-8	立ち上がり	1.075		
1-9	片足での立位	2.572		
1-10	洗身	14.164	1%	
1-11	つめ切り	6.675	5%	
1-12	視力	1.405		
1-13	聴力	3.628		

(2) 第2群 生活機能

「2-10 上衣の着脱」および「2-11 ズボン等の着脱」は、医療系サービスを利用している者は「一部介助」の選択率が高く、医療系サービスを利用していない者はその選択率が低い。

また、「2-12 外出頻度」について、医療系サービスを利用していると「週1回以上」の選択率が高く、「月1回以上」「月1回未満」の選択率が低い。逆に、医療系サービスを利用しないと、「週1回以上」の選択率が低く、「月1回以上」「月1回未満」の選択率が高い。

2-10 上衣の着脱***

		合計	介助されていない	見守り等	一部介助	全介助
サ リ 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257	165	21	70	1
	医療系サービスを利用していない	774	530	97	141	6
		100.0	68.5	12.5	18.2	0.8

2-11 ズボン等の着脱*

		合計	介助されていない	見守り等	一部介助	全介助
サ リ 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257	169	20	65	3
	医療系サービスを利用していない	774	524	91	146	13
		100.0	67.7	11.8	18.9	1.7

2-12 外出頻度***

		合計	週1回以上	月1回以上	月1回未満
サ リ 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257	233	18	6
	医療系サービスを利用していない	774	601	126	47
		100.0	77.6	16.3	6.1

(参考) 各調査項目における検定結果

			χ ² 乗値	有意水準
生活機能	2-1	移乗	0.695	
	2-2	移動	2.719	
	2-3	えん下	0.343	
	2-4	食事摂取	3.940	
	2-5	排尿	3.168	
	2-6	排便	1.207	
	2-7	口腔清潔	0.799	
	2-8	洗顔	1.510	
	2-9	整髪	2.550	
	2-10	上衣の着脱	11.823	1%
	2-11	ズボン等の着脱	7.162	10%
	2-12	外出頻度	21.166	1%

(3) 第3群 認知機能

医療系サービス利用している者は「3-9 外出して戻れない」が「ときどきある」が多く、医療系サービスを利用していない者は「ときどきある」が少ない。また、「3-5 自分の名前を言う」も医療系サービス利用の有無で選択率に有意に差がある結果となっている。

3-5 自分の名前をいう*

		合計	できる	できない
サ 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257	256	1
		100.0	99.6	0.4
医療系	医療系サービスを利用していない	774	774	0
		100.0	100.0	0.0

3-9 外出して戻れない*

		合計	ない	ときどきある	ある
サ 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257	253	4	0
		100.0	98.4	1.6	0.0
医療系	医療系サービスを利用していない	774	768	3	3
		100.0	99.2	0.4	0.4

(参考) 各調査項目における検定結果

			χ ² 乗値	有意水準
認知機能	3-1	意思の伝達	2.332	
	3-2	毎日の日課を理解	0.339	
	3-3	生年月日をいう	0.540	
	3-4	短期記憶	0.762	
	3-5	自分の名前をいう	3.015	10%
	3-6	今の季節を理解	1.762	
	3-7	場所の理解	0.072	
	3-8	常時の徘徊	0.993	
	3-9	外出して戻れない	4.890	10%

(4) 第4群 精神・行動障害

医療系サービスを利用している者は、「4-1 被害的」が「ある」、「4-2 作話」が「ときどきある」の選択率が低い。

4-1 被害的*

		合計	ない	ときどきある	ある
サ 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	241 93.8	10 3.9	6 2.3
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	696 89.9	31 4.0	47 6.1

4-2 作話*

		合計	ない	ときどきある	ある
サ 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	235 91.4	2 0.8	20 7.8
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	674 87.1	35 4.5	65 8.4

(参考) 各調査項目における検定結果

			χ^2 乗値	有意水準
精神・行動 障害	4-1	被害的	5.565	10%
	4-2	作話	8.040	10%
	4-3	感情が不安定	0.159	
	4-4	昼夜逆転	0.592	
	4-5	同じ話をする	0.183	
	4-6	大声を出す	2.252	
	4-7	介護に抵抗	1.348	
	4-8	落ち着きなし	2.054	
	4-9	一人で出たがる	0.665	
	4-10	収集癖	2.317	
	4-11	物や衣類を壊す	2.591	
	4-12	ひどい物忘れ	2.117	
	4-13	独り言・独り笑い	2.238	
	4-14	自分勝手に行動する	1.437	
	4-15	話がまとまらない	1.526	

(5) 第5群 社会生活への適応

医療系サービスを利用している者は「5-1 薬の内服」の「一部介助」の選択率が高く、「全介助」の選択率が低い。

5-1 薬の内服**

		合計	介助されていない	一部介助	全介助
サ 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	101 39.3	155 60.3	1 0.4
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	344 44.4	410 53.0	20 2.6

(参考) 各調査項目における検定結果

			χ ² 乗値	有意水準
社会生活 への適応	5-1	薬の内服	7.643	5%
	5-2	金銭の管理	2.364	
	5-3	日常の意思決定	4.297	
	5-4	集団への不適応	0.058	
	5-5	買い物	3.679	
	5-6	簡単な調理	4.442	

(6) 特別な医療

医療系サービスを利用している者は、「6-11 じょくそうの処置」および「6-12 カテーテル」がについて「ある」を選択する割合が高い。一方、医療系サービスを利用していない場合、「6-11 じょくそうの処置」および「6-12 カテーテル」について「ない」を選択する割合が高く、「ある」を選択する割合が低い。

6-7 特別な医療（気管切開の処置）*

		合計	ない	ある
サ ー 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	256 99.6	1 0.4
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	774 100.0	0 0.0

6-8 特別な医療（疼痛の看護）*

		合計	ない	ある
サ ー 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	256 99.6	1 0.4
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	774 100.0	0 0.0

6-11 特別な医療（じょくそうの処置）**

		合計	ない	ある
サ ー 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	254 98.8	3 1.2
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	773 99.9	1 0.1

6-12 特別な医療（カテーテル）***

		合計	ない	ある
サ ー 利 用 ビ ス	医療系サービスを利用している	257 100.0	253 98.4	4 1.6
	医療系サービスを利用していない	774 100.0	773 99.9	1 0.1

(参考) 各調査項目における検定結果

			X ² 乗値	有意水準
特別な医療	1	点滴の管理	0.641	
	2	中心静脈栄養	0.000	
	3	透析	0.458	
	4	ストーマの処置	0.665	
	5	酸素療法	2.027	
	6	レスピレーター	0.332	
	7	気管切開の処置	3.015	10%
	8	疼痛の看護	3.015	10%
	9	経管栄養	0.332	
	10	モニター測定	0.000	
	11	じょくそうの処置	5.380	5%
	12	カテーテル	8.143	1%

3 主治医意見書（診断名）

一次判定結果が要支援1から要介護2となった1,690人の診断名5,058件について、国際疾病分類（ICD10）の大分類および中間分類に準じて分類を行った。

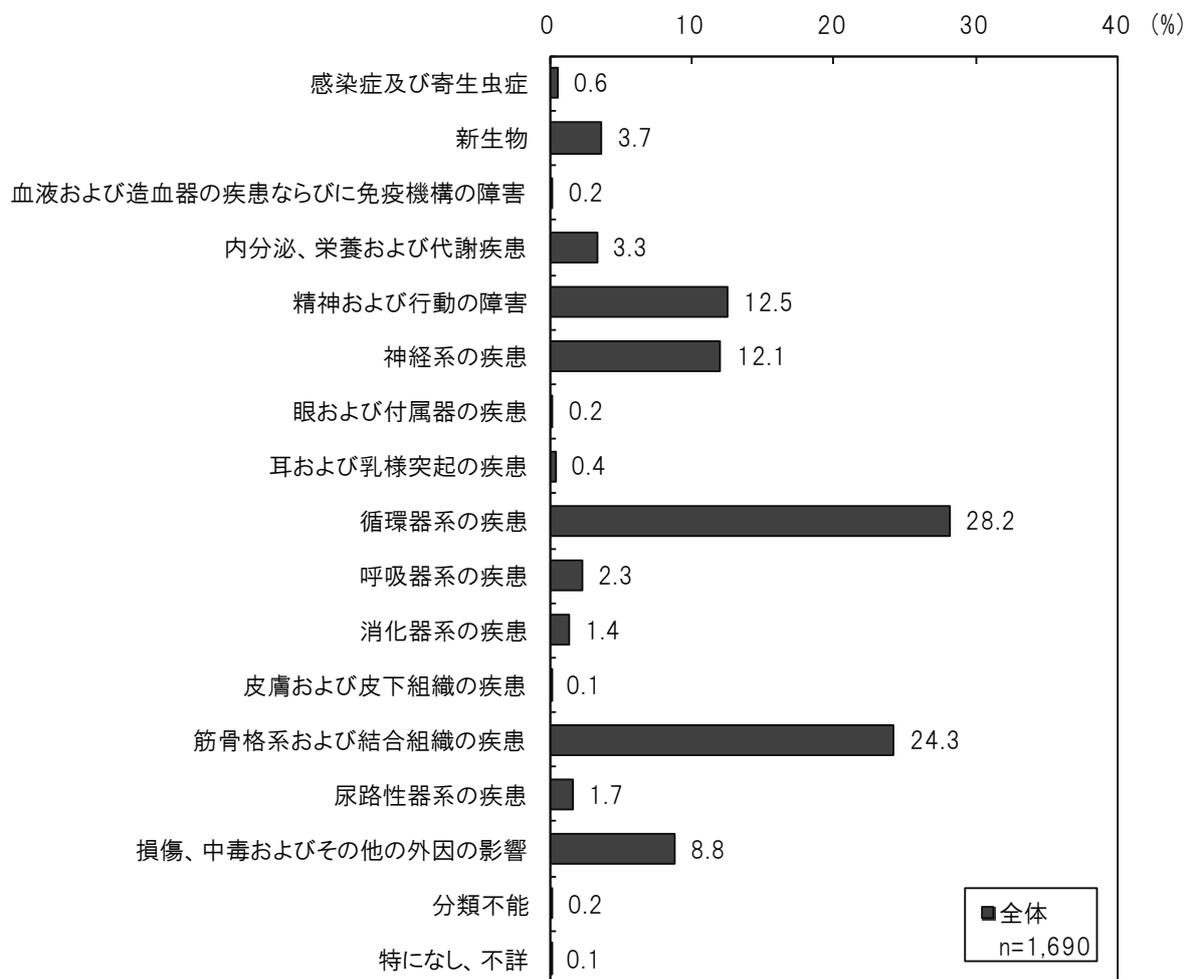
（1）主訴

「循環器系の疾患」（28.2%）および「筋骨格系および結合組織の疾患」（24.3%）の割合が高く、次いで「精神および行動の障害」（12.5%）、「神経系の疾患」（12.1%）となっている。

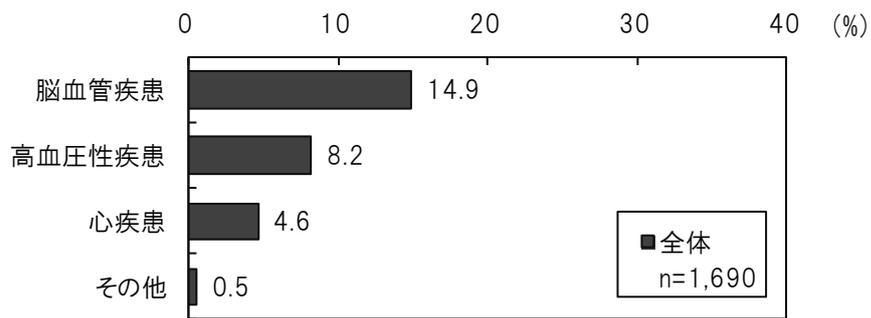
割合の高い項目を細かくみると、「循環器系の疾患」では「脳血管疾患」（14.9%）が最も多く、次いで「高血圧性疾患」（8.2%）、「心疾患」（4.6%）となっている。「筋骨格系および結合組織の疾患」では、「関節障害」（10.7%）が最も多く、次いで「脊柱障害」（8.8%）となっている。

「精神および行動の障害」では脳血管性認知症等の「症状性を含む器質性精神障害」（10.2%）が多く、「神経系の疾患」ではアルツハイマー型認知症などを含む「神経系のその他の変性疾患」（8.8%）が多い。パーキンソン病などを含む「錐体外路障害および異常運動」の割合は1.7%となっている。「損傷、中毒およびその他の外因の影響」はその多くが「骨折」、「新生物」はその多くが「悪性新生物（がん）」、「内分泌、栄養および代謝疾患」はその多くが「糖尿病」となっている。

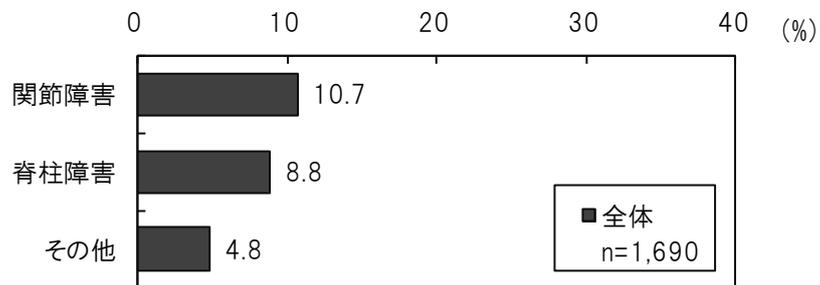
図表 6-3 2 診断名（主訴）



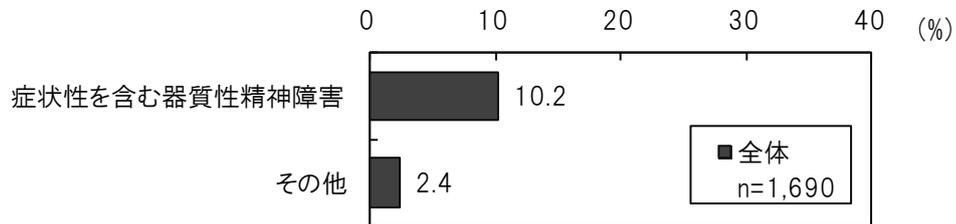
図表 6-33 診断名（主訴）：循環器系の疾患



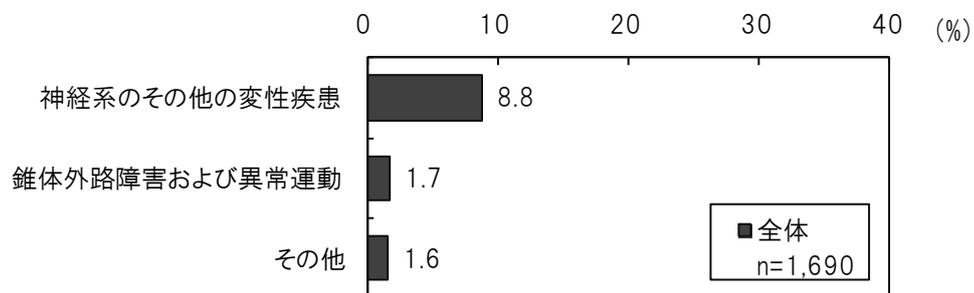
図表 6-34 診断名（主訴）：筋骨格系および結合組織の疾患



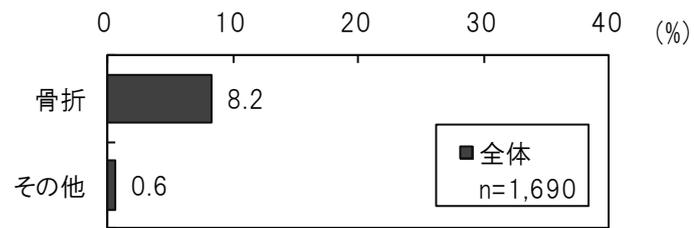
図表 6-35 診断名（主訴）：精神および行動の障害



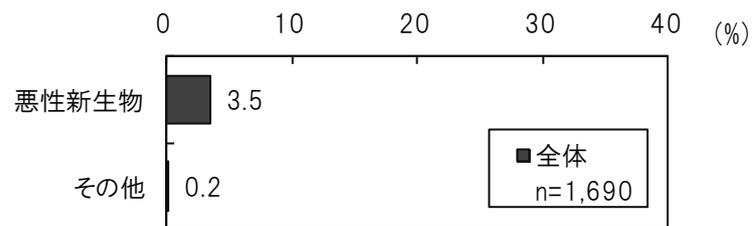
図表 6-36 診断名（主訴）：神経系の疾患



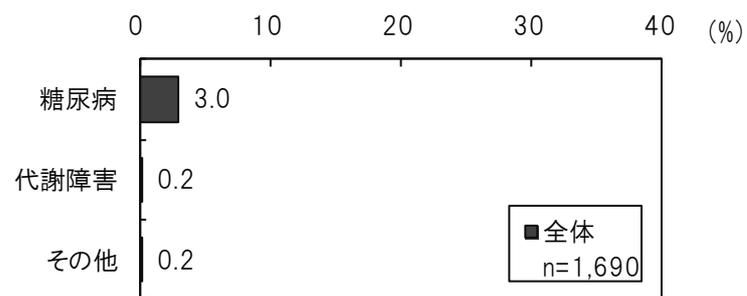
図表 6-37 診断名（主訴）：損傷、中毒およびその他の外因の影響



図表 6-38 診断名（主訴）：新生物



図表 6-39 診断名（主訴）：内分泌、栄養および代謝疾患



医療系サービス利用別にみると、訪問看護は「神経系の疾患（神経系のその他の変性疾患）」、訪問リハは「新生物（悪性新生物）」「循環器系の疾患（脳血管性疾患）」、通所リハは「循環器系の疾患（脳血管性疾患）」の割合が全体よりもやや高くなっている。

一次判定結果別にみると、要支援1～2では「筋骨格系および結合組織の疾患（関節障害）」や「筋骨格系および結合組織の疾患（脊柱障害）」の割合が全体よりもやや高く、要介護1～2では「神経系の疾患（神経系のその他の変性疾患）」の割合が全体よりやや高い。また、要介護2では「循環器系の疾患（脳血管性疾患）」の割合が全体よりも高くなっている。

図表 6-40 医療系サービス利用別 診断名（主訴）

		合計	感染症及び寄生虫症	新生物（悪性新生物）	新生物（その他）	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	内分泌、栄養および代謝疾患（糖尿病）	内分泌、栄養および代謝疾患（代謝障害）	内分泌、栄養および代謝疾患（その他）
全体		1,690 100.0	10 0.6	59 3.5	3 0.2	4 0.2	50 3.0	3 0.2	3 0.2
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	0 0.0	1 2.4	0 0.0	0 0.0	4 9.8	0 0.0	0 0.0
	訪問リハ	23 100.0	0 0.0	2 8.7	0 0.0	0 0.0	1 4.3	0 0.0	1 4.3
	通所リハ	207 100.0	4 1.9	4 1.9	0 0.0	0 0.0	6 2.9	0 0.0	0 0.0

		合計	精神および行動の障害（症状性を含む器質性精神障害）	精神および行動の障害（その他）	神経系の疾患（錐体外路障害および異常行動）	神経系の疾患（神経系のその他の変性疾患）	神経系の疾患（その他）	眼および付属器の疾患	耳および乳様突起の疾患
全体		1,690 100.0	172 10.2	40 2.4	29 1.7	148 8.8	27 1.6	4 0.2	7 0.4
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	3 7.3	1 2.4	1 2.4	5 12.2	2 4.9	0 0.0	0 0.0
	訪問リハ	23 100.0	1 4.3	1 4.3	0 0.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	通所リハ	207 100.0	14 6.8	3 1.4	4 1.9	19 9.2	3 1.4	0 0.0	1 0.5

		合計	循環器系の疾患 (高血圧性疾患)	循環器系の疾患 (脳血管性疾患)	循環器系の疾患 (心疾患)	循環器系の疾患 (その他)	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	皮膚および皮下組織の疾患
全体		1,690 100.0	138 8.2	251 14.9	78 4.6	9 0.5	39 2.3	24 1.4	1 0.1
医療系サービス	訪問看護	41 100.0	3 7.3	7 17.1	2 4.9	1 2.4	1 2.4	0 0.0	1 2.4
	訪問リハ	23 100.0	0 0.0	6 26.1	1 4.3	1 4.3	1 4.3	1 4.3	0 0.0
	通所リハ	207 100.0	12 5.8	53 25.6	7 3.4	0 0.0	1 0.5	2 1.0	0 0.0

		合計	筋骨格系および結合組織の疾患(関節障害)	筋骨格系および結合組織の疾患(脊柱障害)	筋骨格系および結合組織の疾患(その他)	尿路性器系の疾患	損傷、中毒およびその他の外因の影響(骨折)	損傷、中毒およびその他の外因の影響(その他)	分類不能	特になし・不詳
全体		1,690 100.0	180 10.7	149 8.8	81 4.8	28 1.7	139 8.2	10 0.6	3 0.2	1 0.1
医療系サービス	訪問看護	41 100.0	3 7.3	2 4.9	1 2.4	0 0.0	3 7.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	訪問リハ	23 100.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 21.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	通所リハ	207 100.0	29 14.0	19 9.2	6 2.9	1 0.5	19 9.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0

図表 6-4 1 一次判定結果別 診断名（主訴）

	合計	感染症及び寄生虫症	新生物（悪性新生物）	新生物（その他）	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	内分泌、栄養および代謝疾患（糖尿病）	内分泌、栄養および代謝疾患（代謝障害）	内分泌、栄養および代謝疾患（その他）	
全体	1,690 100.0	10 0.6	59 3.5	3 0.2	4 0.2	50 3.0	3 0.2	3 0.2	
一次判定結果	要支援1	360 100.0	3 0.8	13 3.6	1 0.3	0 0.0	10 2.8	1 0.3	1 0.3
	要支援2	373 100.0	3 0.8	12 3.2	1 0.3	1 0.3	13 3.5	1 0.3	2 0.5
	要介護1	513 100.0	2 0.4	18 3.5	1 0.2	1 0.2	19 3.7	1 0.2	0 0.0
	要介護2	444 100.0	2 0.5	16 3.6	0 0.0	2 0.5	8 1.8	0 0.0	0 0.0

	合計	精神および行動の障害（症状性を含む器質性精神障害）	精神および行動の障害（その他）	神経系の疾患（錐体外路障害および異常行動）	神経系の疾患（神経系のその他の変性疾患）	神経系の疾患（その他）	眼および付属器の疾患	耳および乳様突起の疾患	
全体	1,690 100.0	172 10.2	40 2.4	29 1.7	148 8.8	27 1.6	4 0.2	7 0.4	
一次判定結果	要支援1	360 100.0	22 6.1	7 1.9	9 2.5	20 5.6	6 1.7	1 0.3	2 0.6
	要支援2	373 100.0	6 1.6	6 1.6	5 1.3	2 0.5	11 2.9	0 0.0	2 0.5
	要介護1	513 100.0	77 15.0	13 2.5	4 0.8	79 15.4	4 0.8	2 0.4	2 0.4
	要介護2	444 100.0	67 15.1	14 3.2	11 2.5	47 10.6	6 1.4	1 0.2	1 0.2

	合計	循環器系の疾患 (高血圧性疾患)	循環器系の疾患 (脳血管性疾患)	循環器系の疾患 (心疾患)	循環器系の疾患 (その他)	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	皮膚および皮下組織の疾患	
全体	1,690 100.0	138 8.2	251 14.9	78 4.6	9 0.5	39 2.3	24 1.4	1 0.1	
一次判定結果	要支援1	360 100.0	42 11.7	31 8.6	27 7.5	2 0.6	8 2.2	3 0.8	0 0.0
	要支援2	373 100.0	31 8.3	49 13.1	19 5.1	1 0.3	11 2.9	6 1.6	0 0.0
	要介護1	513 100.0	43 8.4	65 12.7	21 4.1	3 0.6	12 2.3	12 2.3	0 0.0
	要介護2	444 100.0	22 5.0	106 23.9	11 2.5	3 0.7	8 1.8	3 0.7	1 0.2

	合計	筋骨格系および結合組織の疾患(関節障害)	筋骨格系および結合組織の疾患(脊柱障害)	筋骨格系および結合組織の疾患(その他)	尿路性器系の疾患	損傷、中毒およびその他の外因の影響(骨折)	損傷、中毒およびその他の外因の影響(その他)	分類不能	特になし・不詳	
全体	1,690 100.0	180 10.7	149 8.8	81 4.8	28 1.7	139 8.2	10 0.6	3 0.2	1 0.1	
一次判定結果	要支援1	360 100.0	68 18.9	41 11.4	12 3.3	4 1.1	25 6.9	0 0.0	1 0.3	0 0.0
	要支援2	373 100.0	58 15.5	48 12.9	31 8.3	8 2.1	43 11.5	3 0.8	0 0.0	0 0.0
	要介護1	513 100.0	29 5.7	34 6.6	21 4.1	8 1.6	38 7.4	3 0.6	1 0.2	0 0.0
	要介護2	444 100.0	25 5.6	26 5.9	17 3.8	8 1.8	33 7.4	4 0.9	1 0.2	1 0.2

(2) 発症年月日

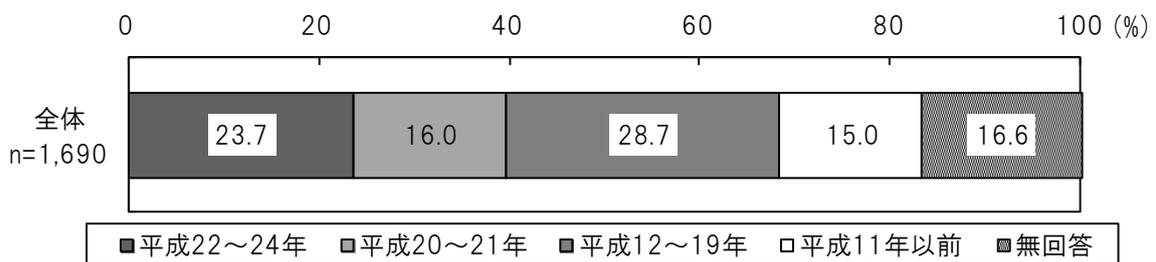
診断名のうち、主訴の発症年月日について集計を行った。なお、月日については記載のないケースが多いため、年のみで分類を行っている。

主訴を発症した年は、「平成12～19年」(28.7%)が最も多く、次いで「平成22～24年」(23.7%)、「平成20～21年」(16.0%)、「平成11年以前」(15.0%)となっている。

医療系サービス利用別では、訪問看護は「平成22～24年」の割合が低く、通所リハでは「平成12～19年」の割合が高くなっている。一次判定結果別では全体と大きな差は見られない。

診断名(主訴)別では、「神経系の疾患」では「平成20～21年」の割合が全体よりやや高く、「損傷、中毒およびその他の外因の影響」では、「平成22～24年」の割合が全体より高い。

図表 6-4 2 発症年月日(主訴)



図表 6-4 3 医療系サービス利用別 発症年月日(主訴)

		合計	平成22～24年	平成20～21年	平成12～19年	平成11年以前	不明
全体		1,690 100.0	401 23.7	271 16.0	485 28.7	253 15.0	280 16.6
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	4 9.8	9 22.0	15 36.6	4 9.8	9 22.0
	訪問リハ	23 100.0	8 34.8	6 26.1	7 30.4	1 4.3	1 4.3
	通所リハ	207 100.0	35 16.9	37 17.9	83 40.1	30 14.5	22 10.6

図表 6-4 4 一次判定結果別 発症年月日(主訴)

		合計	平成22～24年	平成20～21年	平成12～19年	平成11年以前	不明
全体		1,690 100.0	401 23.7	271 16.0	485 28.7	253 15.0	280 16.6
一次判定結果	要支援1	360 100.0	76 21.1	55 15.3	112 31.1	51 14.2	66 18.3
	要支援2	373 100.0	89 23.9	51 13.7	103 27.6	67 18.0	63 16.9
	要介護1	513 100.0	131 25.5	102 19.9	128 25.0	69 13.5	83 16.2
	要介護2	444 100.0	105 23.6	63 14.2	142 32.0	66 14.9	68 15.3

図表 6-45 診断名（主訴）別 発症年月日（主訴）

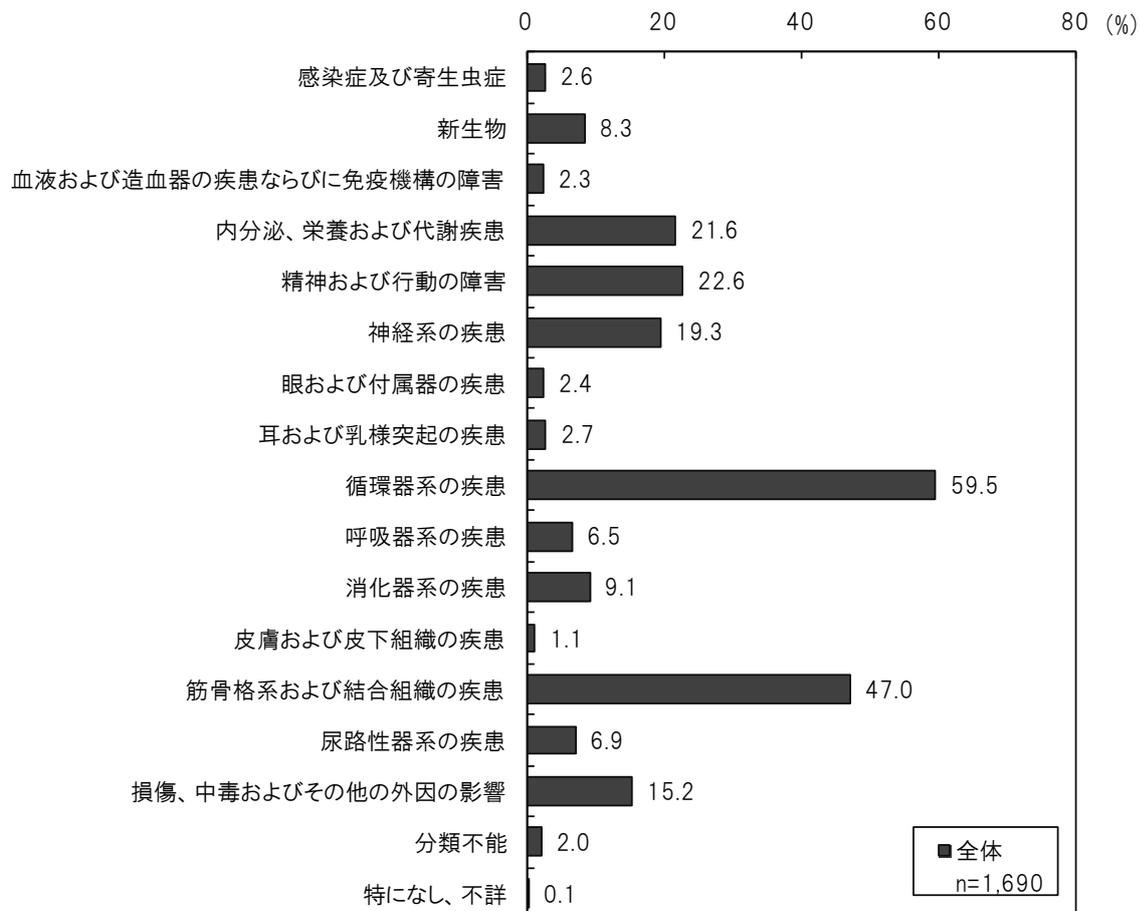
	合計	平成22～ 24年	平成20～ 21年	平成12～ 19年	平成11年 以前	無回答	
全体	1,690 100.0	401 23.7	271 16.0	485 28.7	253 15.0	280 16.6	
診断名（主訴）	感染症及び寄生虫症	10 100.0	3 30.0	1 10.0	3 30.0	2 20.0	1 10.0
	新生物	62 100.0	23 37.1	16 25.8	12 19.4	7 11.3	4 6.5
	血液および造血器の疾患なら びに免疫機構の障害	4 100.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	内分泌、栄養および代謝疾患	56 100.0	3 5.4	4 7.1	14 25.0	18 32.1	17 30.4
	精神および行動の障害	212 100.0	60 28.3	33 15.6	49 23.1	16 7.5	54 25.5
	神経系の疾患	204 100.0	48 23.5	55 27.0	60 29.4	19 9.3	22 10.8
	眼および付属器の疾患	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	1 25.0
	耳および乳様突起の疾患	7 100.0	2 28.6	1 14.3	3 42.9	0 0.0	1 14.3
	循環器系の疾患	476 100.0	79 16.6	70 14.7	167 35.1	97 20.4	63 13.2
	呼吸器系の疾患	39 100.0	4 10.3	6 15.4	10 25.6	7 17.9	12 30.8
	消化器系の疾患	24 100.0	11 45.8	3 12.5	5 20.8	4 16.7	1 4.2
	皮膚および皮下組織の疾患	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	筋骨格系および結合組織の疾 患	410 100.0	62 15.1	58 14.1	124 30.2	70 17.1	96 23.4
	尿路性器系の疾患	28 100.0	9 32.1	2 7.1	10 35.7	4 14.3	3 10.7
	損傷、中毒およびその他の外因 の影響	149 100.0	94 63.1	18 12.1	28 18.8	6 4.0	3 2.0
	分類不能	3 100.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	特になし、不詳	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

(3) 診断名（全て）

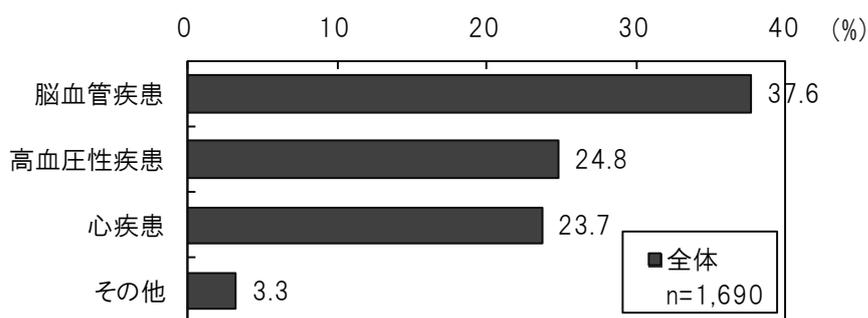
主治医意見書には、診断名の記載が最も少ないケースで1件、最も多いケースで14件あり、平均記載数は3.0件となっている。主治医意見書に記載された診断名5,058件全てについて集計を行ったところ、「循環器系の疾患」の割合が59.5%で最も多く、次いで「筋骨格系および結合組織の疾患」(47.0%)、「精神および行動の障害」(22.6%)、「内分泌、栄養および代謝疾患」(21.6%)となっている。なお、1人に同じ分類に属する診断名が複数記載されている場合は、1件として集計している。

割合の高い項目を細かくみると、「循環器系の疾患」では「脳血管疾患」(37.6%)が最も多く、次いで「高血圧性疾患」(24.8%)、「心疾患」(23.7%)となっている。「筋骨格系および結合組織の疾患」では、「関節障害」(27.5%)が最も多く、次いで「脊柱障害」(27.3%)となっている。「精神および行動の障害」では脳血管性認知症等の「症状性を含む器質性精神障害」(17.9%)が多く、「神経系の疾患」ではアルツハイマー型認知症などを含む「神経系のその他の変性疾患」(11.1%)が多くなっている。「損傷、中毒およびその他の外因の影響」はその多くが「骨折」、「新生物」はその多くが「悪性新生物(がん)」、「内分泌、栄養および代謝疾患」はその多くが「糖尿病」および高脂血症などの「代謝障害」となっている。

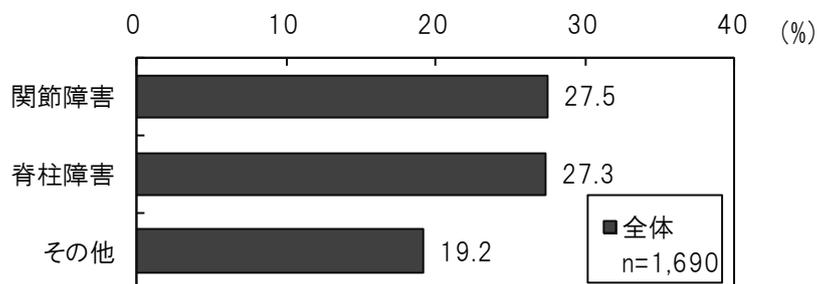
図表 6-4 6 診断名（複数回答）



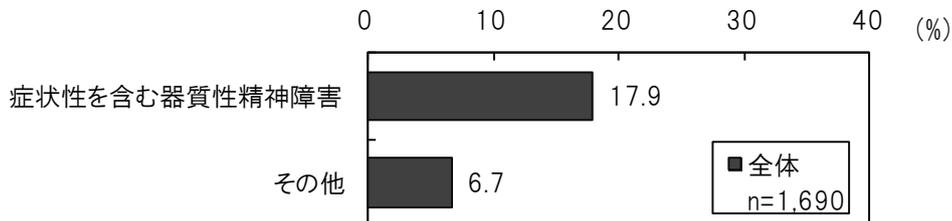
図表 6-47 診断名（複数回答）：循環器系の疾患



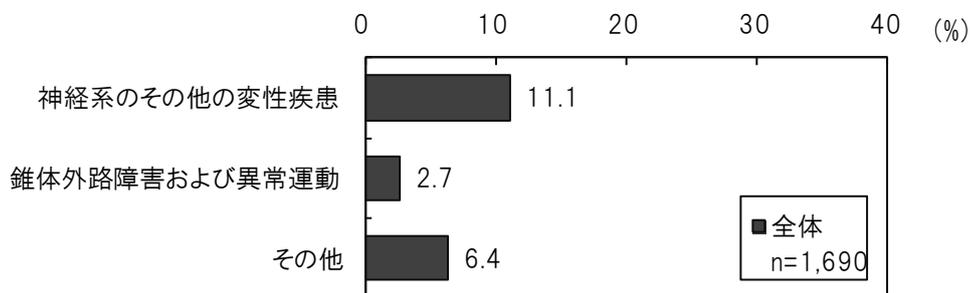
図表 6-48 診断名（複数回答）：筋骨格系および結合組織の疾患



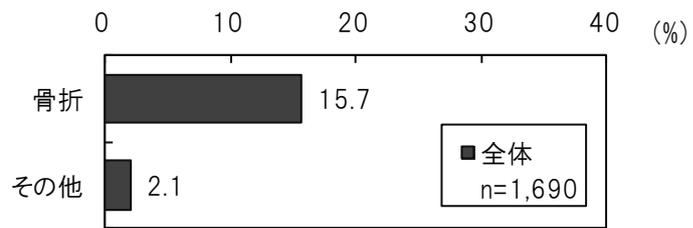
図表 6-49 診断名（複数回答）：精神および行動の障害



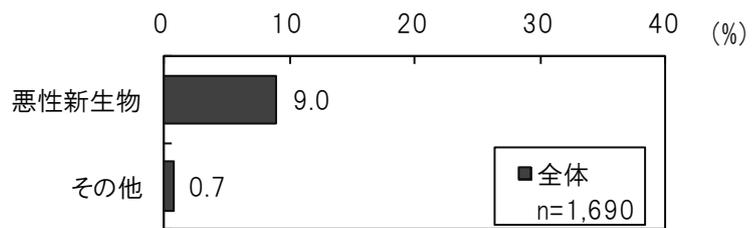
図表 6-50 診断名（複数回答）：神経系の疾患



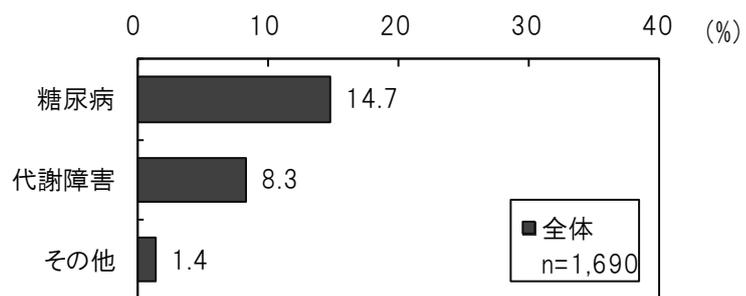
図表 6-5 1 診断名（複数回答）：損傷、中毒およびその他の外因の影響



図表 6-5 2 診断名（複数回答）：新生物



図表 6-5 3 診断名（複数回答）：内分泌、栄養および代謝疾患



医療系サービス利用別にみると、訪問看護は「内分泌、栄養および代謝疾患（糖尿病）」の割合が全体よりも高く、訪問リハおよび通所リハでは「循環器系の疾患（脳血管疾患）」の割合が全体よりも高くなっている。

一次判定結果別では、要支援1・2では「筋骨格系および結合組織の疾患（関節障害）」の割合が全体よりも高く、要支援2では「筋骨格系および結合組織の疾患（脊柱障害）」の割合も高い。要介護1・2では「精神および行動の障害（症状性を含む器質性精神障害）」の割合が全体よりも高く、要介護1では「神経系の疾患（神経系のその他の変性疾患）」の割合も全体より高くなっている。

図表 6-5 4 医療系サービス利用別 診断名（複数回答）

		合計	感染症及び寄生虫症	新生物（悪性新生物）	新生物（その他）	血液および造血管の疾患ならびに免疫機構の障害	内分泌、栄養および代謝疾患（糖尿病）	内分泌、栄養および代謝疾患（代謝障害）	内分泌、栄養および代謝疾患（その他）
全体		1,690 100.0	44 2.6	128 7.6	12 0.7	39 2.3	235 13.9	140 8.3	24 1.4
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	0 0.0	8 19.5	0 0.0	2 4.9	11 26.8	3 7.3	0 0.0
	訪問リハ	23 100.0	0 0.0	3 13.0	0 0.0	0 0.0	3 13.0	3 13.0	1 4.3
	通所リハ	207 100.0	7 3.4	10 4.8	1 0.5	3 1.4	32 15.5	16 7.7	4 1.9

		合計	精神および行動の障害（症状性を含む器質性精神障害）	精神および行動の障害（その他）	神経系の疾患（錐体外路障害および異常行動）	神経系の疾患（神経系のその他の変性疾患）	神経系の疾患（その他）	眼および付属器の疾患	耳および乳様突起の疾患
全体		1,690 100.0	299 17.7	106 6.3	45 2.7	188 11.1	103 6.1	40 2.4	45 2.7
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	5 12.2	2 4.9	1 2.4	5 12.2	5 12.2	0 0.0	0 0.0
	訪問リハ	23 100.0	1 4.3	1 4.3	0 0.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	通所リハ	207 100.0	32 15.5	9 4.3	6 2.9	25 12.1	13 6.3	4 1.9	3 1.4

		合計	循環器系の疾患 (高血圧性疾患)	循環器系の疾患 (脳血管性疾患)	循環器系の疾患 (心疾患)	循環器系の疾患 (その他)	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	皮膚および皮下組織の疾患
全体		1,690 100.0	636 37.6	383 22.7	313 18.5	52 3.1	110 6.5	153 9.1	18 1.1
医療系サービス	訪問看護	41 100.0	18 43.9	12 29.3	8 19.5	2 4.9	6 14.6	1 2.4	2 4.9
	訪問リハ	23 100.0	8 34.8	10 43.5	4 17.4	2 8.7	3 13.0	3 13.0	1 4.3
	通所リハ	207 100.0	79 38.2	74 35.7	38 18.4	6 2.9	14 6.8	14 6.8	3 1.4

		合計	筋骨格系および結合組織の疾患(関節障害)	筋骨格系および結合組織の疾患(脊柱障害)	筋骨格系および結合組織の疾患(その他)	尿路性器系の疾患	損傷、中毒およびその他の外因の影響(骨折)	損傷、中毒およびその他の外因の影響(その他)	分類不能	特になし・不詳
全体		1,690 100.0	417 24.7	401 23.7	306 18.1	117 6.9	231 13.7	32 1.9	34 2.0	2 0.1
医療系サービス	訪問看護	41 100.0	8 19.5	6 14.6	4 9.8	7 17.1	7 17.1	0 0.0	2 4.9	0 0.0
	訪問リハ	23 100.0	9 39.1	2 8.7	2 8.7	0 0.0	6 26.1	1 4.3	1 4.3	0 0.0
	通所リハ	207 100.0	57 27.5	49 23.7	33 15.9	19 9.2	28 13.5	5 2.4	5 2.4	0 0.0

図表 6-55 一次判定結果別 診断名（複数回答）

		合計	感染症及び寄生虫症	新生物（悪性新生物）	新生物（その他）	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	内分泌、栄養および代謝疾患（糖尿病）	内分泌、栄養および代謝疾患（代謝障害）	内分泌、栄養および代謝疾患（その他）
全体		1,690 100.0	44 2.6	128 7.6	12 0.7	39 2.3	235 13.9	140 8.3	24 1.4
一次判定結果	要支援1	360 100.0	9 2.5	29 8.1	2 0.6	6 1.7	49 13.6	35 9.7	6 1.7
	要支援2	373 100.0	13 3.5	24 6.4	5 1.3	6 1.6	50 13.4	37 9.9	8 2.1
	要介護1	513 100.0	13 2.5	39 7.6	4 0.8	23 4.5	76 14.8	43 8.4	5 1.0
	要介護2	444 100.0	9 2.0	36 8.1	1 0.2	4 0.9	60 13.5	25 5.6	5 1.1

		合計	精神および行動の障害（症状性を含む器質性精神障害）	精神および行動の障害（その他）	神経系の疾患（錐体外路障害および異常行動）	神経系の疾患（神経系のその他の変性疾患）	神経系の疾患（その他）	眼および付属器の疾患	耳および乳様突起の疾患
全体		1,690 100.0	299 17.7	106 6.3	45 2.7	188 11.1	103 6.1	40 2.4	45 2.7
一次判定結果	要支援1	360 100.0	37 10.3	19 5.3	12 3.3	23 6.4	28 7.8	9 2.5	12 3.3
	要支援2	373 100.0	14 3.8	15 4.0	6 1.6	3 0.8	22 5.9	10 2.7	13 3.5
	要介護1	513 100.0	137 26.7	35 6.8	9 1.8	102 19.9	25 4.9	10 1.9	12 2.3
	要介護2	444 100.0	111 25.0	37 8.3	18 4.1	60 13.5	28 6.3	11 2.5	8 1.8

		合計	循環器系の疾患 (高血圧性疾患)	循環器系の疾患 (脳血管性疾患)	循環器系の疾患 (心疾患)	循環器系の疾患 (その他)	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	皮膚および皮下組織の疾患
全体		1,690 100.0	636 37.6	383 22.7	313 18.5	52 3.1	110 6.5	153 9.1	18 1.1
一次判定結果	要支援1	360 100.0	151 41.9	59 16.4	65 18.1	8 2.2	19 5.3	36 10.0	2 0.6
	要支援2	373 100.0	137 36.7	71 19.0	65 17.4	14 3.8	28 7.5	26 7.0	1 0.3
	要介護1	513 100.0	194 37.8	102 19.9	102 19.9	17 3.3	36 7.0	61 11.9	6 1.2
	要介護2	444 100.0	154 34.7	151 34.0	81 18.2	13 2.9	27 6.1	30 6.8	9 2.0

		合計	筋骨格系および結合組織の疾患(関節障害)	筋骨格系および結合組織の疾患(脊柱障害)	筋骨格系および結合組織の疾患(その他)	尿路性器系の疾患	損傷、中毒およびその他の外因の影響(骨折)	損傷、中毒およびその他の外因の影響(その他)	分類不能	特になし・不詳
全体		1,690 100.0	417 24.7	401 23.7	306 18.1	117 6.9	231 13.7	32 1.9	34 2.0	2 0.1
一次判定結果	要支援1	360 100.0	115 31.9	94 26.1	60 16.7	20 5.6	45 12.5	3 0.8	6 1.7	0 0.0
	要支援2	373 100.0	129 34.6	123 33.0	93 24.9	23 6.2	61 16.4	7 1.9	6 1.6	0 0.0
	要介護1	513 100.0	85 16.6	100 19.5	79 15.4	43 8.4	61 11.9	13 2.5	13 2.5	1 0.2
	要介護2	444 100.0	88 19.8	84 18.9	74 16.7	31 7.0	64 14.4	9 2.0	9 2.0	1 0.2

図表 6-56 診断名（主訴）別 診断名（複数回答）

		合計	感染症及び寄生虫症	新生物（悪性新生物）	新生物（その他）	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	内分泌、栄養および代謝疾患（糖尿病）	内分泌、栄養および代謝疾患（代謝障害）	内分泌、栄養および代謝疾患（その他）
全体		1,690 100.0	44 2.6	128 7.6	12 0.7	39 2.3	235 13.9	140 8.3	24 1.4
診断名	感染症及び寄生虫症	10 100.0	10 100.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0
	新生物								
	悪性新生物	59 100.0	2 3.4	59 100.0	0 0.0	1 1.7	2 3.4	2 3.4	2 3.4
	その他	3 100.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	内分泌、栄養および代謝疾患								
	糖尿病	50 100.0	2 4.0	3 6.0	0 0.0	0 0.0	50 100.0	10 20.0	0 0.0
	代謝障害	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0
	その他	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0
	精神および行動の障害								
	症状性を含む器質性精神障害	172 100.0	3 1.7	8 4.7	0 0.0	5 2.9	25 14.5	9 5.2	3 1.7
	その他	40 100.0	0 0.0	3 7.5	0 0.0	0 0.0	2 5.0	2 5.0	0 0.0
	神経系の疾患								
	錐体外路障害および異常行動	29 100.0	1 3.4	2 6.9	0 0.0	0 0.0	1 3.4	2 6.9	2 6.9
	神経系のその他の変性疾患	148 100.0	4 2.7	7 4.7	0 0.0	3 2.0	16 10.8	13 8.8	3 2.0
	その他	27 100.0	2 7.4	1 3.7	1 3.7	1 3.7	7 25.9	3 11.1	1 3.7
	眼および付属器の疾患	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
	耳および乳様突起の疾患	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0
	循環器系の疾患								
	高血圧性疾患	138 100.0	4 2.9	8 5.8	0 0.0	4 2.9	16 11.6	23 16.7	2 1.4
	脳血管性疾患	251 100.0	4 1.6	13 5.2	2 0.8	1 0.4	45 17.9	26 10.4	1 0.4
	心疾患	78 100.0	1 1.3	4 5.1	1 1.3	5 6.4	5 6.4	7 9.0	1 1.3
	その他	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 22.2	0 0.0	1 11.1
	呼吸器系の疾患	39 100.0	0 0.0	1 2.6	0 0.0	0 0.0	6 15.4	2 5.1	0 0.0
	消化器系の疾患	24 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 8.3	2 8.3	2 8.3	0 0.0
	皮膚および皮下組織の疾患	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	筋骨格系および結合組織の疾患								
関節障害	180 100.0	2 1.1	2 1.1	1 0.6	1 0.6	16 8.9	10 5.6	1 0.6	
脊柱障害	149 100.0	3 2.0	6 4.0	0 0.0	3 2.0	12 8.1	14 9.4	2 1.3	
その他	81 100.0	2 2.5	3 3.7	2 2.5	4 4.9	8 9.9	8 9.9	2 2.5	
尿路器系の疾患	28 100.0	1 3.6	2 7.1	0 0.0	1 3.6	5 17.9	0 0.0	0 0.0	
損傷、中毒およびその他の外因の影響									
骨折	139 100.0	3 2.2	6 4.3	1 0.7	2 1.4	10 7.2	2 1.4	0 0.0	
その他	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	
分類不能	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
特になし・不詳	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

	合計	精神および行動の障害(症状性を含む器質性精神障害)	精神および行動の障害(その他)	神経系の疾患(錐体外路障害および異常行動)	神経系の疾患(神経系のその他の変性疾患)	神経系の疾患(その他)	眼および付属器の疾患	耳および乳様突起の疾患	
全体	1,690 100.0	299 17.7	106 6.3	45 2.7	188 11.1	103 6.1	40 2.4	45 2.7	
診断名	感染症及び寄生虫症	10 100.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	新生物	悪性新生物	59 100.0	5 8.5	1 1.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.7
		その他	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	4 100.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	
	内分泌、栄養および代謝疾患	糖尿病	50 100.0	8 16.0	2 4.0	0 0.0	5 10.0	3 6.0	4 8.0
		代謝障害	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		その他	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 33.3
	精神および行動の障害	症状性を含む器質性精神障害	172 100.0	172 100.0	12 7.0	5 2.9	1 0.6	5 2.9	3 1.7
		その他	40 100.0	5 12.5	40 100.0	4 10.0	3 7.5	3 7.5	1 2.5
	神経系の疾患	錐体外路障害および異常行動	29 100.0	1 3.4	1 3.4	29 100.0	1 3.4	2 6.9	0 0.0
		神経系のその他の変性疾患	148 100.0	1 0.7	8 5.4	0 0.0	148 100.0	3 2.0	1 0.7
		その他	27 100.0	0 0.0	1 3.7	0 0.0	1 3.7	27 100.0	0 0.0
	眼および付属器の疾患	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	4 100.0	
	耳および乳様突起の疾患	7 100.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	
	循環器系の疾患	高血圧性疾患	138 100.0	13 9.4	7 5.1	0 0.0	7 5.1	5 3.6	3 2.2
		脳血管性疾患	251 100.0	33 13.1	8 3.2	4 1.6	4 1.6	20 8.0	7 2.8
		心疾患	78 100.0	5 6.4	3 3.8	0 0.0	1 1.3	3 3.8	1 1.3
		その他	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0
	呼吸器系の疾患	39 100.0	1 2.6	0 0.0	0 0.0	3 7.7	0 0.0	0 0.0	
	消化器系の疾患	24 100.0	3 12.5	0 0.0	0 0.0	1 4.2	0 0.0	1 4.2	
	皮膚および皮下組織の疾患	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	筋骨格系および結合組織の疾患	関節障害	180 100.0	9 5.0	5 2.8	0 0.0	3 1.7	8 4.4	2 1.1
		脊柱障害	149 100.0	12 8.1	5 3.4	0 0.0	4 2.7	9 6.0	1 0.7
		その他	81 100.0	9 11.1	3 3.7	0 0.0	2 2.5	4 4.9	2 2.5
	尿路器系の疾患	28 100.0	2 7.1	1 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.6	
	損傷、中毒およびその他の外因の影響	骨折	139 100.0	15 10.8	6 4.3	3 2.2	4 2.9	4 2.9	6 4.3
		その他	10 100.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0
	分類不能	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	特になし・不詳	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

		合計	循環器系の疾患 (高血圧性疾患)	循環器系の疾患 (脳血管性疾患)	循環器系の疾患 (心疾患)	循環器系の疾患 (その他)	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	皮膚および皮下組織の疾患
全体		1,690 100.0	636 37.6	383 22.7	313 18.5	52 3.1	110 6.5	153 9.1	18 1.1
診断名	感染症及び寄生虫症	10 100.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0
	新生物								
	悪性新生物	59 100.0	10 16.9	6 10.2	8 13.6	0 0.0	3 5.1	5 8.5	0 0.0
	その他	3 100.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
	内分泌、栄養および代謝疾患								
	糖尿病	50 100.0	22 44.0	5 10.0	10 20.0	5 10.0	1 2.0	5 10.0	0 0.0
	代謝障害	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	その他	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神および行動の障害								
	症状性を含む器質性精神障害	172 100.0	62 36.0	22 12.8	24 14.0	4 2.3	9 5.2	17 9.9	0 0.0
	その他	40 100.0	10 25.0	2 5.0	5 12.5	2 5.0	0 0.0	3 7.5	0 0.0
	神経系の疾患								
	錐体外路障害および異常行動	29 100.0	7 24.1	2 6.9	3 10.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4
	神経系のその他の変性疾患	148 100.0	64 43.2	16 10.8	18 12.2	6 4.1	5 3.4	9 6.1	1 0.7
	その他	27 100.0	6 22.2	3 11.1	1 3.7	0 0.0	1 3.7	1 3.7	1 3.7
	眼および付属器の疾患	4 100.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	耳および乳様突起の疾患	7 100.0	4 57.1	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0
	循環器系の疾患								
	高血圧性疾患	138 100.0	138 100.0	19 13.8	22 15.9	2 1.4	9 6.5	26 18.8	1 0.7
	脳血管性疾患	251 100.0	98 39.0	251 100.0	50 19.9	2 0.8	6 2.4	13 5.2	4 1.6
	心疾患	78 100.0	36 46.2	5 6.4	78 100.0	3 3.8	6 7.7	6 7.7	1 1.3
	その他	9 100.0	3 33.3	2 22.2	0 0.0	9 100.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0
	呼吸器系の疾患	39 100.0	8 20.5	3 7.7	12 30.8	1 2.6	39 100.0	6 15.4	0 0.0
	消化器系の疾患	24 100.0	6 25.0	2 8.3	4 16.7	1 4.2	0 0.0	24 100.0	1 4.2
	皮膚および皮下組織の疾患	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	筋骨格系および結合組織の疾患								
関節障害	180 100.0	45 25.0	9 5.0	23 12.8	3 1.7	9 5.0	8 4.4	1 0.6	
脊柱障害	149 100.0	42 28.2	10 6.7	21 14.1	7 4.7	6 4.0	14 9.4	2 1.3	
その他	81 100.0	26 32.1	7 8.6	11 13.6	1 1.2	4 4.9	10 12.3	1 1.2	
尿路器系の疾患	28 100.0	7 25.0	4 14.3	7 25.0	0 0.0	0 0.0	1 3.6	1 3.6	
損傷、中毒およびその他の外因の影響									
骨折	139 100.0	29 20.9	10 7.2	15 10.8	4 2.9	6 4.3	4 2.9	1 0.7	
その他	10 100.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	
分類不能	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
特になし・不詳	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

		合計	筋骨格系 および結 合組織の 疾患(関 節障害)	筋骨格系 および結 合組織の 疾患(脊 柱障害)	筋骨格系 および結 合組織の 疾患(そ の他)	尿路性器 系の疾患	損傷、中 毒および その他の 外因の影 響(骨折)	損傷、中 毒および その他の 外因の影 響(その 他)	分類不能	特になし・ 不詳
全体		1,690 100.0	417 24.7	401 23.7	306 18.1	117 6.9	231 13.7	32 1.9	34 2.0	2 0.1
感染症及び寄生虫症		10 100.0	2 20.0	4 40.0	3 30.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
新生物	悪性新生物	59 100.0	2 3.4	5 8.5	2 3.4	4 6.8	2 3.4	1 1.7	1 1.7	0 0.0
	その他	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
血液および造血器の疾患なら びに免疫機構の障害		4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
内分泌、栄 養および代 謝疾患	糖尿病	50 100.0	6 12.0	5 10.0	7 14.0	6 12.0	6 12.0	1 2.0	1 2.0	0 0.0
	代謝障害	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	その他	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
精神および 行動の障害	症状性を含む器質 性精神障害	172 100.0	26 15.1	28 16.3	23 13.4	6 3.5	8 4.7	2 1.2	0 0.0	0 0.0
	その他	40 100.0	3 7.5	4 10.0	2 5.0	1 2.5	1 2.5	2 5.0	0 0.0	0 0.0
神経系の疾 患	錐体外路障害およ び異常行動	29 100.0	2 6.9	4 13.8	1 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	神経系のその他の 変性疾患	148 100.0	18 12.2	18 12.2	9 6.1	4 2.7	4 2.7	0 0.0	5 3.4	1 0.7
	その他	27 100.0	3 11.1	7 25.9	2 7.4	1 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
眼および付属器の疾患		4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
耳および乳様突起の疾患		7 100.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0
診断名 循環器系 の疾患	高血圧性疾患	138 100.0	28 20.3	28 20.3	27 19.6	7 5.1	9 6.5	3 2.2	6 4.3	0 0.0
	脳血管性疾患	251 100.0	33 13.1	29 11.6	21 8.4	20 8.0	12 4.8	4 1.6	5 2.0	0 0.0
	心疾患	78 100.0	10 12.8	9 11.5	11 14.1	9 11.5	2 2.6	0 0.0	1 1.3	0 0.0
	その他	9 100.0	1 11.1	1 11.1	2 22.2	1 11.1	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
呼吸器系の疾患		39 100.0	2 5.1	3 7.7	5 12.8	5 12.8	7 17.9	1 2.6	0 0.0	0 0.0
消化器系の疾患		24 100.0	1 4.2	1 4.2	2 8.3	1 4.2	1 4.2	1 4.2	1 4.2	0 0.0
皮膚および皮下組織の疾患		1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
筋骨格系 および結合 組織の疾患	関節障害	180 100.0	180 100.0	51 28.3	33 18.3	8 4.4	13 7.2	2 1.1	0 0.0	0 0.0
	脊柱障害	149 100.0	44 29.5	149 100.0	42 28.2	5 3.4	13 8.7	0 0.0	3 2.0	0 0.0
	その他	81 100.0	27 33.3	24 29.6	81 100.0	3 3.7	11 13.6	0 0.0	3 3.7	0 0.0
尿路性器系の疾患		28 100.0	1 3.6	4 14.3	5 17.9	28 100.0	1 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
損傷、中毒 およびその 他の外因の 影響	骨折	139 100.0	24 17.3	21 15.1	26 18.7	4 2.9	139 100.0	4 2.9	3 2.2	0 0.0
	その他	10 100.0	0 0.0	3 30.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	10 100.0	1 10.0	0 0.0
分類不能		3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0
特になし・不詳		1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

4 主治医意見書（その他の項目）

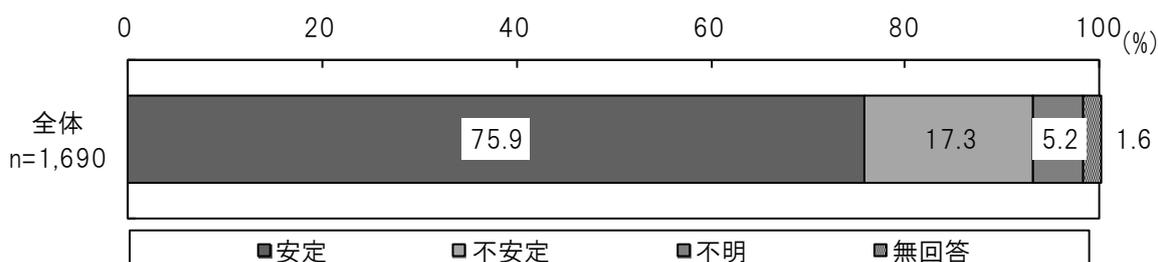
（1）症状としての安定性

「安定」が75.9%、「不安定」が17.3%、「不明」が5.2%となっている。

医療系サービス利用別では、訪問看護は「不安定」の割合が全体よりもやや高くなっている。また、一次判定結果別では全体と違いはみられない。

診断名（主訴）別では、「新生物」や「呼吸器系の疾患」は、「不安定」の割合が全体よりも高くなっている。診断名別では、新生物の「不安定」の割合が全体よりも高くなっている。

図表 6-57 症状としての安定性



図表 6-58 医療系サービス利用別 症状としての安定性

		合計	安定	不安定	不明	無回答
全体		1,690	1283	292	88	27
		100.0	75.9	17.3	5.2	1.6
医療系サービス利用	訪問看護	41	28	11	2	0
		100.0	68.3	26.8	4.9	0.0
	訪問リハ	23	18	5	0	0
	100.0	78.3	21.7	0.0	0.0	
	通所リハ	207	166	31	7	3
		100.0	80.2	15.0	3.4	1.4

図表 6-59 一次判定結果別 症状としての安定性

		合計	安定	不安定	不明	無回答
全体		1,690	1283	292	88	27
		100.0	75.9	17.3	5.2	1.6
一次判定結果	要支援1	360	283	52	18	7
		100.0	78.6	14.4	5.0	1.9
	要支援2	373	290	59	21	3
		100.0	77.7	15.8	5.6	0.8
	要介護1	513	382	94	28	9
		100.0	74.5	18.3	5.5	1.8
	要介護2	444	328	87	21	8
		100.0	73.9	19.6	4.7	1.8

図表 6-60 診断名（主訴）別 症状としての安定性

	合計	安定	不安定	不明	無回答	
全体	1,690 100.0	1283 75.9	292 17.3	88 5.2	27 1.6	
診断名（主訴）	感染症及び寄生虫症	10 100.0	6 60.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0
	新生物	62 100.0	35 56.5	26 41.9	1 1.6	0 0.0
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	4 100.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
	内分泌、栄養および代謝疾患	56 100.0	47 83.9	6 10.7	2 3.6	1 1.8
	精神および行動の障害	212 100.0	153 72.2	40 18.9	16 7.5	3 1.4
	神経系の疾患	204 100.0	144 70.6	42 20.6	14 6.9	4 2.0
	眼および付属器の疾患	4 100.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
	耳および乳様突起の疾患	7 100.0	5 71.4	1 14.3	1 14.3	0 0.0
	循環器系の疾患	476 100.0	399 83.8	49 10.3	17 3.6	11 2.3
	呼吸器系の疾患	39 100.0	25 64.1	13 33.3	1 2.6	0 0.0
	消化器系の疾患	24 100.0	19 79.2	3 12.5	2 8.3	0 0.0
	皮膚および皮下組織の疾患	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	筋骨格系および結合組織の疾患	410 100.0	315 76.8	66 16.1	25 6.1	4 1.0
	尿路性器系の疾患	28 100.0	18 64.3	8 28.6	1 3.6	1 3.6
	損傷、中毒およびその他の外因の影響	149 100.0	109 73.2	31 20.8	6 4.0	3 2.0
	分類不能	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0
	特になし、不詳	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0

図表 6-6 1 診断名別 症状としての安定性

	合計	安定	不安定	不明	無回答	
全体	1,690 100.0	1283 75.9	292 17.3	88 5.2	27 1.6	
診断名	感染症及び寄生虫症	44 100.0	35 79.5	7 15.9	2 4.5	0 0.0
	新生物	140 100.0	84 60.0	47 33.6	8 5.7	1 0.7
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	39 100.0	29 74.4	5 12.8	3 7.7	2 5.1
	内分泌、栄養および代謝疾患	365 100.0	276 75.6	60 16.4	22 6.0	7 1.9
	精神および行動の障害	382 100.0	271 70.9	79 20.7	26 6.8	6 1.6
	神経系の疾患	327 100.0	239 73.1	60 18.3	20 6.1	8 2.4
	眼および付属器の疾患	40 100.0	30 75.0	10 25.0	0 0.0	0 0.0
	耳および乳様突起の疾患	45 100.0	36 80.0	6 13.3	2 4.4	1 2.2
	循環器系の疾患	1005 100.0	800 79.6	138 13.7	48 4.8	19 1.9
	呼吸器系の疾患	110 100.0	75 68.2	27 24.5	5 4.5	3 2.7
	消化器系の疾患	153 100.0	114 74.5	28 18.3	9 5.9	2 1.3
	皮膚および皮下組織の疾患	18 100.0	16 88.9	2 11.1	0 0.0	0 0.0
	筋骨格系および結合組織の疾患	794 100.0	603 75.9	140 17.6	38 4.8	13 1.6
	尿路性器系の疾患	117 100.0	87 74.4	23 19.7	6 5.1	1 0.9
	損傷、中毒およびその他の外因の影響	257 100.0	185 72.0	57 22.2	10 3.9	5 1.9
	分類不能	34 100.0	26 76.5	7 20.6	1 2.9	0 0.0
	特になし、不詳	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0

(2) 特別な医療

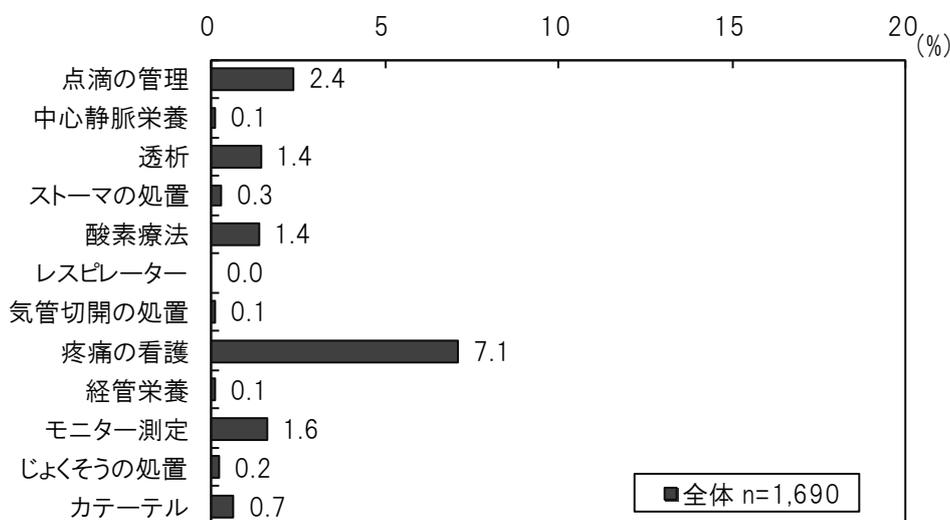
「疼痛の看護」(7.1%)が最も多く、次いで「点滴の管理」(2.4%)、「モニター測定」(1.6%)、「透析」(1.4%)「酸素療法」(1.4%)となっている。

医療系サービス利用別、一次判定結果別では、全体と大きな差は見られない。

診断名(主訴)別にみると、「尿路性器系の疾患」では「透析」、「呼吸器系の疾患」では「酸素療法」の割合が、それぞれ全体よりも高くなっている。

診断名別にみると、「尿路性器系の疾患」では「透析」、「呼吸器系の疾患」では「酸素療法」、「血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害」では「モニター測定」、「皮膚および皮下組織の疾患」では「じょくそうの処置」の割合が、それぞれ全体よりも高くなっている。また、

図表 6-6 2 特別な医療(複数回答)



図表 6-6 3 医療系サービス利用別 特別な医療(複数回答)

		合計	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	ストーマの処置	酸素療法	レスピレーター	気管切開の処置
全体		1,690	40	2	24	5	23	0	2
		100.0	2.4	0.1	1.4	0.3	1.4	0.0	0.1
医療系サービス利用	訪問看護	41	0	0	1	1	1	0	1
		100.0	0.0	0.0	2.4	2.4	2.4	0.0	2.4
	訪問リハ	23	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	通所リハ	207	2	0	3	0	2	0	1
	100.0	1.0	0.0	1.4	0.0	1.0	0.0	0.5	
		合計	疼痛の看護	経管栄養	モニター測定	じょくそうの処置	カテーテル	なし	
全体		1,690	120	2	27	4	11	1467	
		100.0	7.1	0.1	1.6	0.2	0.7	86.8	
医療系サービス利用	訪問看護	41	3	0	1	1	2	33	
		100.0	7.3	0.0	2.4	2.4	4.9	80.5	
	訪問リハ	23	2	0	0	0	0	21	
	100.0	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	91.3		
	通所リハ	207	15	0	1	2	1	182	
	100.0	7.2	0.0	0.5	1.0	0.5	87.9		

図表 6-6 4 一次判定結果別 特別な医療（複数回答）

		合計	点滴の管 理	中心静脈 栄養	透析	ストーマ の処置	酸素療法	レスピ レーター	気管切開 の処置
全体		1,690	40	2	24	5	23	0	2
		100.0	2.4	0.1	1.4	0.3	1.4	0.0	0.1
一 次 判 定 結 果	要支援1	360	5	0	1	0	3	0	0
		100.0	1.4	0.0	0.3	0.0	0.8	0.0	0.0
	要支援2	373	5	0	8	0	5	0	0
		100.0	1.3	0.0	2.1	0.0	1.3	0.0	0.0
	要介護1	513	21	0	6	1	7	0	2
		100.0	4.1	0.0	1.2	0.2	1.4	0.0	0.4
	要介護2	444	9	2	9	4	8	0	0
		100.0	2.0	0.5	2.0	0.9	1.8	0.0	0.0

		合計	疼痛の看 護	経管栄養	モニター 測定	じょくそう の処置	カテーテ ル	無回答
全体		1,690	120	2	27	4	11	1467
		100.0	7.1	0.1	1.6	0.2	0.7	86.8
一 次 判 定 結 果	要支援1	360	37	0	0	0	0	0
		100.0	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	要支援2	373	31	1	3	0	0	312
		100.0	8.3	0.3	0.8	0.0	0.0	86.7
	要介護1	513	21	0	3	0	0	323
		100.0	4.1	0.0	0.8	0.0	0.0	86.6
	要介護2	444	31	1	16	1	7	451
		100.0	7.0	0.2	3.1	0.2	1.4	87.9

図表 6-65 診断名（主訴）別 特別な医療（複数回答）

	合計	点滴の管理	中心静脈 栄養	透析	ストーマ の処置	酸素療法	レスピ レーター	気管切開 の処置	
全体	1,690 100.0	40 2.4	2 0.1	24 1.4	5 0.3	23 1.4	0 0.0	2 0.1	
診断名（主訴）	感染症及び寄生虫症	10 100.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	新生物	62 100.0	8 12.9	1 1.6	0 0.0	1 1.6	1 1.6	0 0.0	
	血液および造血器の疾患ならび に免疫機構の障害	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	
	内分泌、栄養および代謝疾患	56 100.0	2 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	精神および行動の障害	212 100.0	1 0.5	0 0.0	1 0.5	1 0.5	0 0.0	0 0.0	
	神経系の疾患	204 100.0	1 0.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0	
	眼および付属器の疾患	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	耳および乳様突起の疾患	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	循環器系の疾患	476 100.0	11 2.3	0 0.0	3 0.6	1 0.2	5 1.1	0 0.0	1 0.2
	呼吸器系の疾患	39 100.0	3 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 25.6	0 0.0	0 0.0
	消化器系の疾患	24 100.0	3 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.2	0 0.0	0 0.0
	皮膚および皮下組織の疾患	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	筋骨格系および結合組織の疾患	410 100.0	6 1.5	0 0.0	1 0.2	0 0.0	2 0.5	0 0.0	0 0.0
	尿路性器系の疾患	28 100.0	1 3.6	0 0.0	18 64.3	1 3.6	1 3.6	0 0.0	0 0.0
	損傷、中毒およびその他の外因 の影響	149 100.0	3 2.0	1 0.7	1 0.7	1 0.7	1 0.7	0 0.0	1 0.7
	分類不能	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	特になし、不詳	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

	合計	疼痛の看護	経管栄養	モニター測定	じょくそうの処置	カテーテル	無回答	
全体	1,690	120	2	27	4	11	1467	
	100.0	7.1	0.1	1.6	0.2	0.7	86.8	
診断名（主訴）	感染症及び寄生虫症	10	1	0	2	0	1	6
		100.0	10.0	0.0	20.0	0.0	10.0	60.0
	新生物	62	7	0	6	0	2	44
		100.0	11.3	0.0	9.7	0.0	3.2	71.0
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	4	0	0	1	0	0	3
		100.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0
	内分泌、栄養および代謝疾患	56	2	0	0	0	0	52
		100.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	92.9
	精神および行動の障害	212	7	0	2	0	2	199
		100.0	3.3	0.0	0.9	0.0	0.9	93.9
	神経系の疾患	204	4	2	2	0	1	194
		100.0	2.0	1.0	1.0	0.0	0.5	95.1
	眼および付属器の疾患	4	0	0	0	0	0	4
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	耳および乳様突起の疾患	7	0	0	0	0	0	7
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	循環器系の疾患	476	15	0	3	2	1	440
		100.0	3.2	0.0	0.6	0.4	0.2	92.4
	呼吸器系の疾患	39	0	0	5	0	1	25
		100.0	0.0	0.0	12.8	0.0	2.6	64.1
消化器系の疾患	24	0	0	3	0	1	20	
	100.0	0.0	0.0	12.5	0.0	4.2	83.3	
皮膚および皮下組織の疾患	1	0	0	0	1	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
筋骨格系および結合組織の疾患	410	64	0	2	0	0	338	
	100.0	15.6	0.0	0.5	0.0	0.0	82.4	
尿路性器系の疾患	28	1	0	0	0	2	7	
	100.0	3.6	0.0	0.0	0.0	7.1	25.0	
損傷、中毒およびその他の外因の影響	149	19	0	1	1	0	124	
	100.0	12.8	0.0	0.7	0.7	0.0	83.2	
分類不能	3	0	0	0	0	0	3	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
特になし、不詳	1	0	0	0	0	0	1	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

図表 6-66 診断名別 特別な医療（複数回答）

	合計	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	ストーマの処置	酸素療法	レスピレーター	気管切開の処置
全体	1,690 100.0	40 2.4	2 0.1	24 1.4	5 0.3	23 1.4	0 0.0	2 0.1
診断名	感染症及び寄生虫症	44 100.0	2 4.5	0 0.0	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	新生物	140 100.0	10 7.1	2 1.4	1 0.7	5 3.6	3 2.1	0 0.0
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	39 100.0	2 5.1	0 0.0	1 2.6	0 0.0	2 5.1	0 0.0
	内分泌、栄養および代謝疾患	365 100.0	6 1.6	0 0.0	5 1.4	0 0.0	4 1.1	0 0.0
	精神および行動の障害	382 100.0	7 1.8	0 0.0	2 0.5	2 0.5	3 0.8	0 0.0
	神経系の疾患	327 100.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.3	0 0.0
	眼および付属器の疾患	40 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.5	0 0.0
	耳および乳様突起の疾患	45 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	循環器系の疾患	1005 100.0	23 2.3	1 0.1	14 1.4	2 0.2	15 1.5	0 0.0
	呼吸器系の疾患	110 100.0	6 5.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	16 14.5	0 0.0
	消化器系の疾患	153 100.0	6 3.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 2.0	0 0.0
	皮膚および皮下組織の疾患	18 100.0	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	筋骨格系および結合組織の疾患	794 100.0	13 1.6	0 0.0	7 0.9	1 0.1	9 1.1	0 0.0
	尿路性器系の疾患	117 100.0	4 3.4	0 0.0	23 19.7	1 0.9	4 3.4	0 0.0
	損傷、中毒およびその他の外因の影響	257 100.0	7 2.7	1 0.4	1 0.4	1 0.4	2 0.8	0 0.0
	分類不能	34 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	特になし、不詳	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

	合計	疼痛の看護	経管栄養	モニター測定	じょくそうの処置	カテーテル	無回答	
全体	1,690	120	2	27	4	11	1467	
	100.0	7.1	0.1	1.6	0.2	0.7	86.8	
診断名	感染症及び寄生虫症	44	3	0	2	0	1	36
		100.0	6.8	0.0	4.5	0.0	2.3	81.8
	新生物	140	11	1	7	0	2	109
		100.0	7.9	0.7	5.0	0.0	1.4	77.9
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	39	3	0	5	0	0	29
		100.0	7.7	0.0	12.8	0.0	0.0	74.4
	内分泌、栄養および代謝疾患	365	19	1	5	0	5	326
		100.0	5.2	0.3	1.4	0.0	1.4	89.3
	精神および行動の障害	382	16	0	5	1	5	348
		100.0	4.2	0.0	1.3	0.3	1.3	91.1
	神経系の疾患	327	15	2	4	1	1	303
		100.0	4.6	0.6	1.2	0.3	0.3	92.7
	眼および付属器の疾患	40	3	0	2	0	0	36
		100.0	7.5	0.0	5.0	0.0	0.0	90.0
	耳および乳様突起の疾患	45	5	0	1	0	0	40
		100.0	11.1	0.0	2.2	0.0	0.0	88.9
	循環器系の疾患	1005	40	2	13	4	6	901
		100.0	4.0	0.2	1.3	0.4	0.6	89.7
	呼吸器系の疾患	110	8	0	7	1	1	79
		100.0	7.3	0.0	6.4	0.9	0.9	71.8
消化器系の疾患	153	10	0	3	0	3	132	
	100.0	6.5	0.0	2.0	0.0	2.0	86.3	
皮膚および皮下組織の疾患	18	2	0	1	3	0	12	
	100.0	11.1	0.0	5.6	16.7	0.0	66.7	
筋骨格系および結合組織の疾患	794	97	0	9	2	3	667	
	100.0	12.2	0.0	1.1	0.3	0.4	84.0	
尿路性器系の疾患	117	5	0	0	1	5	78	
	100.0	4.3	0.0	0.0	0.9	4.3	66.7	
損傷、中毒およびその他の外因の影響	257	27	0	2	1	1	220	
	100.0	10.5	0.0	0.8	0.4	0.4	85.6	
分類不能	34	5	0	0	0	0	29	
	100.0	14.7	0.0	0.0	0.0	0.0	85.3	
特になし、不詳	2	0	0	0	0	0	2	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

(3) 認知症の中核症状

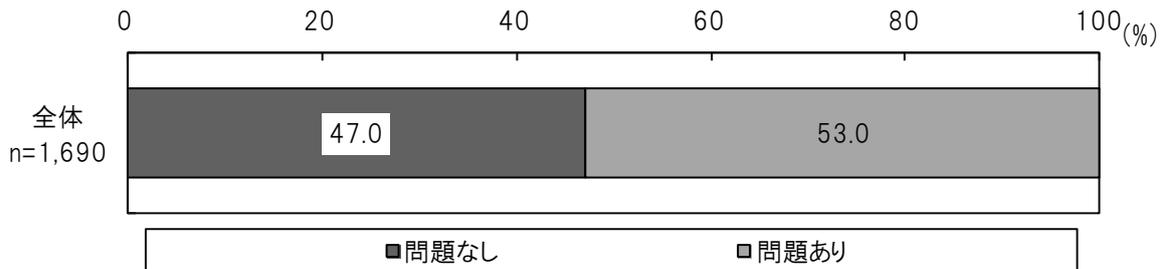
① 短期記憶

「問題なし」が47.0%、「問題あり」が53.0%となっている。

医療系サービス利用別では、訪問リハは全体と比較して「問題なし」の割合が高くなっている。

一次判定結果別では、要支援1～2では全体と比較して「問題なし」の割合が高く、要介護1～2では全体よりも「問題あり」の割合が高い傾向にある。

図表 6-67 短期記憶



図表 6-68 医療系サービス利用別 短期記憶

		合計	問題なし	問題あり
全体		1,690	795	895
		100.0	47.0	53.0
医療系サービス利用	訪問看護	41	17	24
		100.0	41.5	58.5
	訪問リハ	23	17	6
	100.0	73.9	26.1	
	通所リハ	207	103	104
	100.0	49.8	50.2	

図表 6-69 一次判定結果別 短期記憶

		合計	問題なし	問題あり
全体		1,690	795	895
		100.0	47.0	53.0
一次判定結果	要支援1	360	218	142
		100.0	60.6	39.4
	要支援2	373	257	116
		100.0	68.9	31.1
	要介護1	513	158	355
	100.0	30.8	69.2	
	要介護2	444	162	282
	100.0	36.5	63.5	

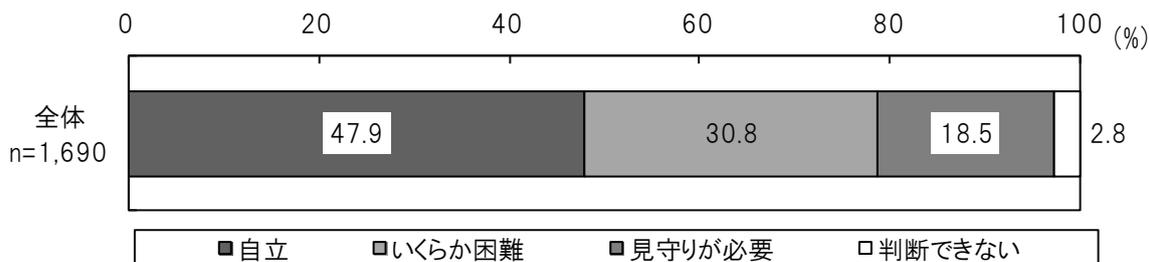
② 日常の意思決定を行うための認知能力

「自立」(47.9%)が最も多く、次いで「いづらか困難」(30.8%)、「見守りが必要」(18.5%)となっている。

医療系サービス利用別では、訪問リハは全体と比較して「自立」の割合が高くなっている。

一次判定結果では、要支援1～2では全体よりも「自立」の割合が高く、要介護1～2では全体よりも「自立」の割合が低くなっている。

図表 6-70 日常の意思決定を行うための認知能力



図表 6-71 医療系サービス利用別 日常の意思決定を行うための認知能力

		合計	自立	いづらか困難	見守りが必要	判断できない
全体		1,690	810	520	312	48
		100.0	47.9	30.8	18.5	2.8
医療系サービス利用	訪問看護	41	20	13	5	3
		100.0	48.8	31.7	12.2	7.3
	訪問リハ	23	16	5	2	0
	100.0	69.6	21.7	8.7	0.0	
	通所リハ	207	100	67	32	8
	100.0	48.3	32.4	15.5	3.9	

図表 6-72 一次判定結果別 日常の意思決定を行うための認知能力

		合計	自立	いづらか困難	見守りが必要	判断できない
全体		1,690	810	520	312	48
		100.0	47.9	30.8	18.5	2.8
一次判定結果	要支援1	360	228	94	35	3
		100.0	63.3	26.1	9.7	0.8
	要支援2	373	279	82	12	0
		100.0	74.8	22.0	3.2	0.0
	要介護1	513	154	205	131	23
		100.0	30.0	40.0	25.5	4.5
	要介護2	444	149	139	134	22
	100.0	33.6	31.3	30.2	5.0	

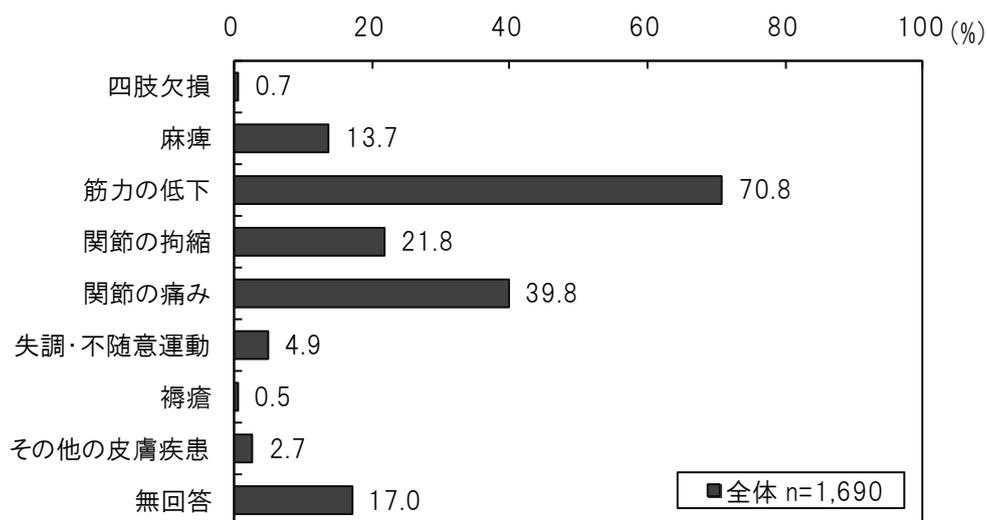
(4) 身体の状態

「筋力の低下」(70.8%) が最も多く、次いで「関節の痛み」(39.8%)、「関節の拘縮」(21.8%) となっている。

医療系サービス利用別では、訪問リハは全体と比較して「麻痺」や「関節の拘縮」が高い傾向にある。

一次判定結果別にみると、要介護2では「麻痺」の割合が全体と比較して高くなっている。

図表 6-73 身体の状態（複数回答）



図表 6-74 医療系サービス利用別 身体の状態（複数回答）

		合計	四肢欠損	麻痺	筋力の低下	関節の拘縮	関節の痛み	失調・不随意運動	褥瘡	その他の皮膚疾患
全体		1,690	11	232	1196	368	672	83	8	0
		100.0	0.7	13.7	70.8	21.8	39.8	4.9	0.5	0.0
医療系サービス利用	訪問看護	41	2	9	28	10	18	2	1	0
		100.0	4.9	22.0	68.3	24.4	43.9	4.9	2.4	0.0
	訪問リハ	23	2	6	18	8	11	2	1	0
	100.0	8.7	26.1	78.3	34.8	47.8	8.7	4.3	0.0	
	通所リハ	207	1	48	155	59	95	13	1	0
	100.0	0.5	23.2	74.9	28.5	45.9	6.3	0.5	0.0	

図表 6-75 一次判定結果別 身体の状態（複数回答）

	合計	四肢欠損	麻痺	筋力の低下	関節の拘縮	関節の痛み	失調・不随意運動	褥瘡	その他の皮膚疾患	
全体	1,690	11	232	1196	368	672	83	8	0	
	100.0	0.7	13.7	70.8	21.8	39.8	4.9	0.5	0.0	
一次判定結果	要支援1	360	1	24	250	70	145	22	1	0
		100.0	0.3	6.7	69.4	19.4	40.3	6.1	0.3	0.0
	要支援2	373	3	48	276	111	195	18	0	0
		100.0	0.8	12.9	74.0	29.8	52.3	4.8	0.0	0.0
	要介護1	513	3	61	336	77	167	18	2	0
		100.0	0.6	11.9	65.5	15.0	32.6	3.5	0.4	0.0
	要介護2	444	4	99	334	110	165	25	5	0
		100.0	0.9	22.3	75.2	24.8	37.2	5.6	1.1	0.0

(5) 現在あるかまたは今後発生の可能性の高い状態

「転倒・骨折」(81.2%)、「移動能力の低下」(69.2%)が多くなっている。次いで、「意欲低下」(34.3%)、「閉じこもり」(29.9%)、「尿失禁」(27.3%)、「心肺機能の低下」(25.5%)が多くなっている。

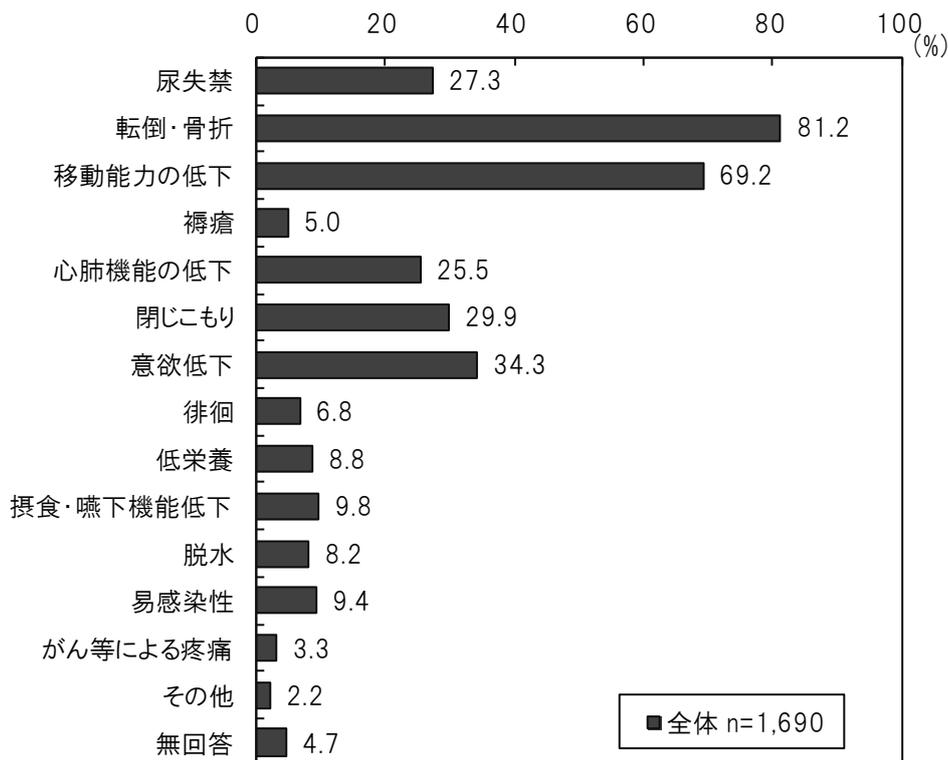
医療系サービス利用別では、訪問リハは全体よりも「転倒・骨折」「移動能力の低下」「心肺機能の低下」の割合が高く、通所リハは全体よりも「閉じこもり」の割合がやや高くなっている。

一次判定結果別では、要介護1、要介護2で「尿失禁」「閉じこもり」「意欲低下」の割合が全体よりもやや高くなっている。

診断名(主訴)別では、新生物では「がん等による疼痛」、精神および行動の障害および神経系の疾患では「尿失禁」「閉じこもり」「意欲低下」「徘徊」、損傷、中毒およびその他の外因の影響では「転倒、骨折」「移動能力の低下」の割合が全体よりも高くなっている。

診断名別にみると、診断名に関わらず「転倒・骨折」や「移動能力の低下」は高い割合となっている。そのほか、新生物では「がん等による疼痛」、精神および行動の障害および神経系の疾患では「尿失禁」「閉じこもり」「意欲低下」「徘徊」、呼吸器系の疾患で「心肺機能の低下」「易感染性」、損傷、中毒およびその他の外因の影響では「転倒、骨折」「移動能力の低下」の割合が全体よりも高くなっている。

図表 6-76 現在あるかまたは今後発生の可能性の高い状態(複数回答)



図表 6-77 医療系サービス利用別 現在あるかまたは今後発生の可能性の高い状態（複数回答）

		合計	尿失禁	転倒・骨折	移動能力の低下	褥瘡	心肺機能の低下	閉じこもり	意欲低下	徘徊
全体		1,690 100.0	462 27.3	1372 81.2	1169 69.2	84 5.0	431 25.5	505 29.9	579 34.3	115 6.8
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	11 26.8	32 78.0	28 68.3	3 7.3	10 24.4	9 22.0	11 26.8	4 9.8
	訪問リハ	23 100.0	5 21.7	23 100.0	19 82.6	1 4.3	8 34.8	5 21.7	5 21.7	0 0.0
	通所リハ	207 100.0	57 27.5	181 87.4	143 69.1	11 5.3	52 25.1	72 34.8	77 37.2	13 6.3

		合計	低栄養	摂食・嚥下機能低下	脱水	易感染性	がん等による疼痛	その他	無回答
全体		1,690 100.0	148 8.8	165 9.8	139 8.2	159 9.4	55 3.3	38 2.2	80 4.7
医療系サービス利用	訪問看護	41 100.0	2 4.9	5 12.2	4 9.8	5 12.2	4 9.8	3 7.3	2 4.9
	訪問リハ	23 100.0	0 0.0	1 4.3	0 0.0	3 13.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	通所リハ	207 100.0	14 6.8	17 8.2	15 7.2	20 9.7	4 1.9	4 1.9	3 1.4

図表 6-78 一次判定結果別 現在あるかまたは今後発生の可能性の高い状態（複数回答）

		合計	尿失禁	転倒・骨折	移動能力の低下	褥瘡	心肺機能の低下	閉じこもり	意欲低下	徘徊
全体		1,690 100.0	462 27.3	1372 81.2	1169 69.2	84 5.0	431 25.5	505 29.9	579 34.3	115 6.8
一次判定結果	要支援1	360 100.0	74 20.6	280 77.8	242 67.2	10 2.8	87 24.2	83 23.1	110 30.6	13 3.6
	要支援2	373 100.0	50 13.4	321 86.1	273 73.2	12 3.2	85 22.8	95 25.5	96 25.7	3 0.8
	要介護1	513 100.0	174 33.9	392 76.4	320 62.4	26 5.1	147 28.7	180 35.1	199 38.8	60 11.7
	要介護2	444 100.0	164 36.9	379 85.4	334 75.2	36 8.1	112 25.2	147 33.1	174 39.2	39 8.8

		合計	低栄養	摂食・嚥下機能低下	脱水	易感染性	がん等による疼痛	その他	無回答
全体		1,690 100.0	148 8.8	165 9.8	139 8.2	159 9.4	55 3.3	38 2.2	80 4.7
一次判定結果	要支援1	360 100.0	25 6.9	24 6.7	26 7.2	30 8.3	17 4.7	12 3.3	26 7.2
	要支援2	373 100.0	24 6.4	21 5.6	22 5.9	29 7.8	10 2.7	4 1.1	19 5.1
	要介護1	513 100.0	51 9.9	55 10.7	45 8.8	51 9.9	16 3.1	14 2.7	23 4.5
	要介護2	444 100.0	48 10.8	65 14.6	46 10.4	49 11.0	12 2.7	8 1.8	12 2.7

図表 6-79 診断名（主訴）別 現在あるかまたは今後発生の可能性の高い状態（複数回答）

	合計	尿失禁	転倒・骨折	移動能力の低下	褥瘡	心肺機能の低下	閉じこもり	意欲低下	
全体	1,690 100.0	462 27.3	1372 81.2	1169 69.2	84 5.0	431 25.5	505 29.9	579 34.3	
診断名（主訴）	感染症及び寄生虫症	10 100.0	3 30.0	10 100.0	9 90.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0
	新生物	62 100.0	15 24.2	46 74.2	41 66.1	5 8.1	19 30.6	6 9.7	14 22.6
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	4 100.0	0 0.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0
	内分泌、栄養および代謝疾患	56 100.0	11 19.6	43 76.8	38 67.9	1 1.8	17 30.4	17 30.4	22 39.3
	精神および行動の障害	212 100.0	95 44.8	157 74.1	132 62.3	12 5.7	45 21.2	103 48.6	110 51.9
	神経系の疾患	204 100.0	78 38.2	141 69.1	119 58.3	10 4.9	40 19.6	87 42.6	103 50.5
	眼および付属器の疾患	4 100.0	0 0.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	耳および乳様突起の疾患	7 100.0	1 14.3	5 71.4	5 71.4	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0
	循環器系の疾患	476 100.0	126 26.5	391 82.1	319 67.0	22 4.6	144 30.3	123 25.8	141 29.6
	呼吸器系の疾患	39 100.0	8 20.5	29 74.4	27 69.2	2 5.1	32 82.1	11 28.2	11 28.2
	消化器系の疾患	24 100.0	7 29.2	18 75.0	14 58.3	2 8.3	3 12.5	7 29.2	7 29.2
	皮膚および皮下組織の疾患	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	筋骨格系および結合組織の疾患	410 100.0	83 20.2	364 88.8	310 75.6	18 4.4	91 22.2	97 23.7	103 25.1
	尿路性器系の疾患	28 100.0	4 14.3	24 85.7	21 75.0	3 10.7	10 35.7	3 10.7	7 25.0
	損傷、中毒およびその他の外因の影響	149 100.0	28 18.8	138 92.6	126 84.6	5 3.4	25 16.8	45 30.2	55 36.9
	分類不能	3 100.0	3 100.0	1 33.3	3 100.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	2 66.7
	特になし、不詳	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0

	合計	徘徊	低栄養	摂食・嚥下機能低下	脱水	易感染性	がん等による疼痛	その他
全体	1,690	115	148	165	139	159	55	38
	100.0	6.8	8.8	9.8	8.2	9.4	3.3	2.2
診断名（主訴）	感染症及び寄生虫症	10	0	2	1	0	3	0
		100.0	0.0	20.0	10.0	0.0	30.0	0.0
	新生物	62	3	16	12	12	12	29
		100.0	4.8	25.8	19.4	19.4	19.4	46.8
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	4	0	1	0	0	1	0
		100.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	内分泌、栄養および代謝疾患	56	3	4	4	6	9	0
		100.0	5.4	7.1	7.1	10.7	16.1	0.0
	精神および行動の障害	212	35	26	36	26	19	2
		100.0	16.5	12.3	17.0	12.3	9.0	0.9
	神経系の疾患	204	43	19	28	20	16	1
		100.0	21.1	9.3	13.7	9.8	7.8	0.5
	眼および付属器の疾患	4	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	耳および乳様突起の疾患	7	0	0	1	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
	循環器系の疾患	476	19	23	43	32	35	5
	100.0	4.0	4.8	9.0	6.7	7.4	1.1	
呼吸器系の疾患	39	1	10	7	9	14	0	
	100.0	2.6	25.6	17.9	23.1	35.9	0.0	
消化器系の疾患	24	0	3	0	1	2	0	
	100.0	0.0	12.5	0.0	4.2	8.3	0.0	
皮膚および皮下組織の疾患	1	0	0	1	0	1	0	
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	
筋骨格系および結合組織の疾患	410	6	35	23	26	35	15	
	100.0	1.5	8.5	5.6	6.3	8.5	3.7	
尿路性器系の疾患	28	1	4	2	4	5	1	
	100.0	3.6	14.3	7.1	14.3	17.9	3.6	
損傷、中毒およびその他の外因の影響	149	4	5	7	3	7	2	
	100.0	2.7	3.4	4.7	2.0	4.7	1.3	
分類不能	3	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
特になし、不詳	1	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

図表 6-80 診断名別 現在あるかまたは今後発生の可能性の高い状態（複数回答）

	合計	尿失禁	転倒・骨折	移動能力の低下	褥瘡	心肺機能の低下	閉じこもり	意欲低下	
全体	1,690 100.0	462 27.3	1372 81.2	1169 69.2	84 5.0	431 25.5	505 29.9	579 34.3	
診断名	感染症及び寄生虫症	44 100.0	12 27.3	40 90.9	33 75.0	3 6.8	10 22.7	14 31.8	13 29.5
	新生物	140 100.0	30 21.4	107 76.4	96 68.6	10 7.1	45 32.1	28 20.0	43 30.7
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	39 100.0	15 38.5	33 84.6	22 56.4	2 5.1	13 33.3	10 25.6	12 30.8
	内分泌、栄養および代謝疾患	365 100.0	105 28.8	296 81.1	245 67.1	13 3.6	111 30.4	110 30.1	119 32.6
	精神および行動の障害	382 100.0	162 42.4	300 78.5	260 68.1	16 4.2	88 23.0	170 44.5	187 49.0
	神経系の疾患	327 100.0	130 39.8	249 76.1	221 67.6	20 6.1	87 26.6	135 41.3	160 48.9
	眼および付属器の疾患	40 100.0	10 25.0	34 85.0	31 77.5	2 5.0	12 30.0	14 35.0	16 40.0
	耳および乳様突起の疾患	45 100.0	15 33.3	37 82.2	33 73.3	1 2.2	12 26.7	11 24.4	11 24.4
	循環器系の疾患	1005 100.0	296 29.5	819 81.5	667 66.4	53 5.3	314 31.2	304 30.2	346 34.4
	呼吸器系の疾患	110 100.0	19 17.3	81 73.6	74 67.3	5 4.5	63 57.3	27 24.5	33 30.0
	消化器系の疾患	153 100.0	48 31.4	127 83.0	100 65.4	5 3.3	42 27.5	39 25.5	50 32.7
	皮膚および皮下組織の疾患	18 100.0	7 38.9	17 94.4	12 66.7	5 27.8	4 22.2	6 33.3	9 50.0
	筋骨格系および結合組織の疾患	794 100.0	197 24.8	699 88.0	604 76.1	36 4.5	208 26.2	216 27.2	234 29.5
	尿路性器系の疾患	117 100.0	34 29.1	96 82.1	79 67.5	11 9.4	40 34.2	28 23.9	42 35.9
	損傷、中毒およびその他の外因の影響	257 100.0	61 23.7	238 92.6	215 83.7	12 4.7	58 22.6	80 31.1	98 38.1
	分類不能	34 100.0	11 32.4	27 79.4	24 70.6	4 11.8	7 20.6	13 38.2	16 47.1
	特になし、不詳	2 100.0	0 0.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0

	合計	徘徊	低栄養	摂食・嚥下機能低下	脱水	易感染性	がん等による疼痛	その他	
全体	1,690	115	148	165	139	159	55	38	
	100.0	6.8	8.8	9.8	8.2	9.4	3.3	2.2	
診断名	感染症及び寄生虫症	44	3	5	4	4	2	1	
		100.0	6.8	11.4	9.1	9.1	4.5	2.3	
	新生物	140	13	28	22	21	26	43	6
		100.0	9.3	20.0	15.7	15.0	18.6	30.7	4.3
	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	39	2	3	6	5	7	0	2
		100.0	5.1	7.7	15.4	12.8	17.9	0.0	5.1
	内分泌、栄養および代謝疾患	365	33	28	41	30	50	9	10
		100.0	9.0	7.7	11.2	8.2	13.7	2.5	2.7
	精神および行動の障害	382	53	41	51	41	44	8	12
		100.0	13.9	10.7	13.4	10.7	11.5	2.1	3.1
	神経系の疾患	327	55	32	47	33	30	4	14
		100.0	16.8	9.8	14.4	10.1	9.2	1.2	4.3
	眼および付属器の疾患	40	0	6	3	3	4	3	2
		100.0	0.0	15.0	7.5	7.5	10.0	7.5	5.0
	耳および乳様突起の疾患	45	5	4	4	2	0	4	4
		100.0	11.1	8.9	8.9	4.4	0.0	8.9	8.9
	循環器系の疾患	1005	66	73	95	84	91	27	25
		100.0	6.6	7.3	9.5	8.4	9.1	2.7	2.5
呼吸器系の疾患	110	7	17	12	15	30	3	2	
	100.0	6.4	15.5	10.9	13.6	27.3	2.7	1.8	
消化器系の疾患	153	10	16	10	14	22	3	6	
	100.0	6.5	10.5	6.5	9.2	14.4	2.0	3.9	
皮膚および皮下組織の疾患	18	0	2	2	4	2	0	1	
	100.0	0.0	11.1	11.1	22.2	11.1	0.0	5.6	
筋骨格系および結合組織の疾患	794	22	68	60	58	65	22	12	
	100.0	2.8	8.6	7.6	7.3	8.2	2.8	1.5	
尿路性器系の疾患	117	5	16	13	15	20	3	1	
	100.0	4.3	13.7	11.1	12.8	17.1	2.6	0.9	
損傷、中毒およびその他の外因の影響	257	8	21	20	15	15	6	4	
	100.0	3.1	8.2	7.8	5.8	5.8	2.3	1.6	
分類不能	34	3	2	1	2	1	1	1	
	100.0	8.8	5.9	2.9	5.9	2.9	2.9	2.9	
特になし、不詳	2	0	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(6) 特記すべき事項

一次判定結果が要支援1～2のうち、特記すべき事項の記載で申請者の状態を表しているものを例示する。

- ◇ 加齢による多関節痛や、糖尿病による神経障害からくるシビレや灼熱感を訴える。PMR による筋肉痛も困っている。糖尿病のコントロールも不十分。水頭症に伴う認知症が悪化している。(要支援2/糖尿病)
- ◇ 両側股関節骨頭壊死のため歩行困難。極度の頸椎症で、頸椎が前屈し真直ぐ前を向けない。(要支援2/高血圧)
- ◇ 左前腕骨折後、左手の障害が続き、腰椎圧迫骨折により腰痛も続いている。移動能力の低下あり自宅内を移動時に家族の介助が必要。排泄前後に家族の介助が必要(座位立位が出来ない)。移動できないので食事は自室で右手のスプーンのみで摂食しているが家族の介助が必要。衣服の着脱でボタンがはめられない。(要支援2/腰椎圧迫骨折)
- ◇ 脳梗塞(脳塞栓)に伴う、言語障害、右片麻痺を後遺されています。麻痺は重度で、失語もあるため、意思の疎通のやや難があります。(要支援2/脳梗塞)
- ◇ 関節リウマチによる全身関節変形著しく、とくに手の変形強いため、ADL 障害強い。最近になり障害強く、摂食など SI も不十分。(要支援2/関節リウマチ)
- ◇ 初老期アルツハイマー病である。近頃記憶障害や見当識障害が目立ち、火の不始末や歩行者信号を理解できないなどの症状も認めている。物盗られ妄想や近隣への被害妄想から警察沙汰になる等社会生活上の障害も著しい。また、糖尿病でインスリン治療中であるが、自己注射の方法がわからなくなるといった生活能力の低下もみられる。(要支援1/初老期における認知症)
- ◇ 線維筋痛症、腰部脊椎管狭窄症、両変形性膝関節症に起因する全身の疼痛は、日によって程度を代え継続している。疼痛が著明な時はトリガーポイント注射を行っているが、痛みは常に続いており、うつ状態を悪化させている。加えて、腹壁ヘルニア術後から、ときどき急激な腹部の膨満と強い腹痛がある。様々なトリガーで状態が悪化する為、家人は常に細心の注意を払って状態を観察し、細心の注意を払って対応している。T 字杖歩行は不安定で、片足立ちは困難。状態が悪いと歩行しようとしなくなる。(要支援2/うつ病)
- ◇ 両膝関節の拘縮(特に右)と痛みのため立位保持は困難な状態で、屋内での移動も這って移動されている。そのため段差の解消や手すりの設置等の家屋整備が必要。(要支援2/両側変形性膝関節症)
- ◇ 重症筋無力症の高度全身型の状態であり、体力的に無理をしたり、風邪などの感染症を契機に症状の増悪があり、場合により呼吸筋障害、呼吸不全に陥る可能性もある。(要支援2/重症筋無力症)
- ◇ 左側上顎洞癌に対し、入院下に放射線化学療法施行。経口内服にて抗ガン剤を投与しており、腫瘍増大の可能性は大いに考えられる。増大した場合、腫瘍の口腔内への浸潤の可能性あり、摂食嚥下機能の低下も考えられる。また、癌による疼痛出現する可能性もある。高齢ということもあり、長期の入院、臥床により四肢筋力の低下等症状出現。(要支援1/左側上顎洞癌)
- ◇ 急速にパーキンソン病による動作緩慢、脊柱の前傾が進行している。ADL 低下が著しい。日によって病状に変動あり、介助なしに歩行できない時もある。骨が脆く骨折しやすいため、注意深い見守りが必要である。(要支援1/パーキンソン病)

第7章 総括

1 医療系サービス事業者の状況

職員体制、利用者総数、新規利用者数・終了者数は次の通りである。なお、分析に関連が深い図表については、第2章から再掲や加工などを行っている。

アンケート調査の送付先について、訪問看護・訪問リハは、介護予防の当該サービスの利用者が3人以上みられるすべての事業所と、利用者が2人以上から抽出した事業所を対象としている。通所リハについては、介護予防サービスの利用者が10人以上みられる事業所から抽出して送付している。いずれにしても、介護予防サービスの利用者数が各サービス内で相対的に少ない事業者が除外されていることに留意する必要がある。

(1) 職員体制

- ・専門職数の中央値（常勤換算）をみると、訪問看護は5.8人で、訪問リハは2.0人、通所リハは1.9人である。また、訪問看護は「6人以上」が4割を超える一方、訪問リハ、通所リハは1割を下回っている。対象とする定義にやや違いがあるものの訪問看護で専門職が多く配置されていることが確認できる。

図表 7-1 1事業所あたりの専門職数（常勤換算）

	訪問看護 (常勤・非常勤)	訪問リハ (常勤)	通所リハ (常勤)
平均値	7.0人	3.0人	2.2人
中央値	5.8人	2.0人	1.9人

訪問看護は、保健師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、介護職員の合計
訪問リハ、通所リハは、理学療法士、作業療法士、言語療法士の合計

図表 7-2 1事業所あたりの専門職数（常勤換算）

	2人未満	2人以上 4人未満	4人以上 6人未満	6人以上	無回答
訪問看護	1.7%	17.6%	26.5%	43.5%	10.7%
訪問リハ	38.9%	25.3%	12.9%	7.9%	15.0%
通所リハ	38.2%	25.2%	9.3%	2.7%	24.6%

訪問看護は、保健師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、介護職員の合計
訪問リハ、通所リハは、理学療法士、作業療法士、言語療法士の合計

(2) 利用者総数

- 要支援1～要介護5までの利用者総数の中央値をみると、訪問看護は59人、訪問リハは42人、通所リハは87人である。要支援1・2に限ると、利用者総数の中央値は、訪問看護で5人、訪問リハで5人とどまる一方、通所リハは21人となっている。

図表 7-3 1事業者あたりの利用者総数

	訪問看護		訪問リハ		通所リハ	
	要支援1 ～要介護5	要支援 1・2	要支援1 ～要介護5	要支援 1・2	要支援1 ～要介護5	要支援 1・2
平均値	68.5人	8.2人	53.4人	7.5人	97.5人	26.6人
中央値	59人	5人	42人	5人	87人	21人

(3) 新規利用者・終了者

- 新規利用者率（新規利用者数÷利用者総数）は、訪問看護が5.7%、訪問リハが6.4%、通所リハが3.3%である。終了者率は訪問看護が2.5%、訪問リハが4.2%、通所リハが1.2%で、新規利用率を下回り、重度化している可能性がある。

図表 7-4 新規利用者・終了者数（要支援1・2）

	訪問看護	訪問リハ	通所リハ
利用者総数	2,818人	2,843人	7,636人
新規利用者数	162人	181人	254人
新規利用者率	5.7%	6.4%	3.3%
終了者数	71人	120人	92人
終了者率	2.5%	4.2%	1.2%

図表 7-5 1事業所あたりの新規利用者・終了者数（要支援1・2）

		訪問看護	訪問リハ	通所リハ	
総 数	利用者	平均値	8.2人	7.5人	26.6人
		中央値	5人	5人	21人
用 者	新規利	平均値	0.5人	0.5人	0.9人
		中央値	0人	0人	0人
者	終了者	平均値	0.2人	0.3人	0.3人
		中央値	0人	0人	0人

2 医療系サービスの利用者の特徴

要支援者等（要支援1～要介護2）で、医療系サービス（（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）通所リハビリテーション）を利用している人の状況や特徴は以下の通りである。

なお、関連が深い図表については、3～5章・資料編から再掲や加工などを行っている。通所リハは、訪問看護、訪問リハと比べて、要支援1の割合が高く、要介護1・2の割合が低いため、要支援2の利用者を中心に比較した。

（1）サービス利用者の属性

- ・後期高齢者の割合を要支援2の利用者でみると、訪問看護が8割弱、訪問リハで7割弱、通所リハで7割強となっている。なお、訪問リハで40～64歳が12.5%と他と比べて高く、特定疾患の人が一定数いることが確認できる。

図表 7-6 サービス別 利用者の年齢（要支援2）

	40～64歳	65～74歳	75～84歳	85歳以上	無回答
訪問看護	5.9%	16.5%	43.9%	33.2%	0.6%
訪問リハ	12.5%	21.4%	42.2%	23.9%	0.0%
通所リハ	8.5%	18.0%	43.0%	30.3%	0.2%

- ・世帯構成（要支援2）は、3サービスともに「単身世帯」と「高齢者のみ世帯」の合計が5割を超え、特に訪問看護で「単身世帯」が約4割と高くなっている。

図表 7-7 サービス別 世帯構成（要支援2）

	単身世帯	高齢者のみ世帯	子・孫と同一敷地内同居	その他	無回答
訪問看護	39.2%	25.9%	21.2%	11.1%	2.7%
訪問リハ	25.9%	26.5%	32.3%	14.1%	1.2%
通所リハ	26.5%	25.9%	28.9%	18.0%	0.6%

- ・障害高齢者の日常生活自立度（要支援2）について、日常生活でほぼ自立しており独力で外出する「自立」「J」の合計が5割程度となっている。日中もベッド上での生活が主体となる「B」以上は、3サービスともに1割を下回っており、要支援1では数%である。一方、要介護度があがると「B」以上の割合は高まり、要介護2では3サービスともに約2割となっている。

図表 7-8 サービス別 障害高齢者の日常生活自立度（要支援2）

	自立	J	A	B	C	不明	無回答
訪問看護	13.5%	37.4%	36.9%	6.0%	0.3%	1.4%	4.6%
訪問リハ	11.2%	35.2%	45.3%	4.3%	0.1%	2.0%	1.9%
通所リハ	15.6%	44.6%	33.1%	3.0%	0.0%	1.2%	2.6%

- ・認知症高齢者の日常生活自立度（要支援2）について、日常生活が家庭内及び社会的にほぼ自立している「自立」「I」の合計は、訪問リハと通所リハで9割弱となるなど大半を占めている。3サービスを比較すると、訪問看護で「II」以上の割合が1割を超え、他のサービスと比べて高くなっている。なお、要介護1以上になると「II」の割合が高まり、訪問看護の要介護2では約3割となっている。

図表 7-9 サービス別 認知症高齢者の日常生活自立度（要支援2）

	自立	I	II	III	IVもしくはM	不明	無回答
訪問看護	46.4%	34.6%	12.0%	1.4%	0.0%	1.4%	4.2%
訪問リハ	67.0%	22.1%	6.5%	0.2%	0.0%	1.8%	2.4%
通所リハ	57.6%	29.5%	8.1%	0.4%	0.0%	1.2%	3.2%

- ・要支援・要介護状態の直接の原因（要支援2）については、循環器系の疾患、筋骨格系・結合組織の疾患や損傷が多い。
- ・訪問看護は、「高血圧」「心疾患」「脳血管疾患」など循環器系が上位となっている。また、「糖尿病」「悪性新生物（がん）」「認知症」「その他」をあげる人も一定数みられ、訪問リハ・通所リハと比べて、原因が多様な傾向がみられる。

図表 7-10 サービス別 要支援・要介護状態の直接の原因（要支援2）

	訪問看護	訪問リハ	通所リハ
第1位	高血圧（28.4%）	関節疾患（35.5%）	脳血管疾患（39.4%）
第2位	心疾患（21.4%）	脳血管疾患（34.2%）	高血圧（37.0%）
第3位	脳血管疾患（18.5%）	腰痛（26.5%）	関節疾患（30.5%）
第4位	糖尿病（18.4%）	骨折（21.1%）	腰痛（20.2%）
第5位	関節疾患（17.0%）	高血圧（20.8%）	骨折（19.6%）
（参考）	その他（27.2%）	その他（17.1%）	その他（13.9%）

- ・受診について、訪問診療を利用している人（要支援2）は、訪問看護と訪問リハで約1割、通所リハは2%を下回っている。ただし、訪問看護と訪問リハでは、要介護度があがると、その割合は高まり、要介護2では約2割となっている。
- ・要支援・要介護状態の直接の原因別に訪問看護利用者についてみると、特定の傷病で、訪問診療が不可欠になっているというような状況はみられず、傷病にかかわらず個々の状況に応じて訪問診療が行われている傾向が読み取れる。こうした中、「喘息」や「肺気腫」など呼吸器系の疾患、「骨折」や「認知症」では他と比べて訪問診療を利用する割合がやや高くなっている。

図表 7-1 1 要支援・要介護状態の直接の原因別 訪問診療の利用者(要支援1～要介護2、訪問看護)

関節リウマチ	関節疾患	腰痛	骨折	高血圧	脳血管疾患	心疾患
12.7%	14.5%	16.3%	18.3%	16.1%	9.5%	14.6%

喘息	肺気腫	慢性気管支炎	糖尿病	肝疾患	腎疾患	悪性新生物(がん)
25.8%	19.5%	12.5%	6.6%	9.8%	12.6%	4.2%

パーキンソン症候群・パーキンソン病	うつ病	認知症	統合失調症	その他
9.3%	6.1%	19.1%	0.0%	9.5%

- ・ケアプランに位置付けられているサービス（要支援2）について、単一サービスのみの利用者は、訪問看護と訪問リハで4割台、通所リハで約8割となっている。

図表 7-1 2 サービス別 ケアプランに位置付けられているサービス（要支援2）

	単一サービス利用	他サービスと併用	無回答
訪問看護	40.3%	58.9%	0.8%
訪問リハ	46.1%	53.6%	0.3%
通所リハ	80.6%	17.4%	2.0%

(2) サービスの利用状況

- ・ 該当サービスの利用期間（要支援2）について、3サービスともに「5年以上」の長期利用者が一定数存在することが確認できる。通所リハでは2割を超え、3サービスの中で最も高い。
- ・ 要支援・要介護状態の直接の原因別（要支援1～要介護2）にみると、慢性気管支炎、脳血管疾患、関節疾患で該当サービスの利用期間がやや長く、肝疾患、パーキンソン病、認知症で利用期間がやや短い傾向がみられる。ただし、原因間で割合が大幅に異なっているわけではなく、傷病名で一律でなく個別的な要因が利用期間に影響を与えていることがうかがわれる。

図表 7-13 サービス別 該当サービスの利用期間（要支援2）

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	無回答
訪問看護	34.2%	34.4%	16.5%	13.8%	1.1%
訪問リハ	37.7%	39.1%	14.6%	8.0%	0.6%
通所リハ	21.8%	36.0%	18.4%	23.2%	0.6%

図表 7-14 要支援・要介護状態の直接の原因別 サービスの利用期間（要支援1～要介護2）

	5年以上			1年未満		
	訪問看護	訪問リハ	通所リハ	訪問看護	訪問リハ	通所リハ
関節リウマチ	18.2%	7.8%	27.3%	30.9%	41.6%	34.5%
関節疾患	15.0%	8.7%	26.1%	28.2%	37.8%	23.4%
腰痛	15.8%	6.4%	25.9%	30.1%	39.3%	20.8%
骨折	9.5%	6.1%	16.3%	34.9%	41.9%	28.6%
高血圧	17.5%	6.8%	19.7%	31.8%	36.5%	26.8%
脳血管疾患	18.4%	11.6%	24.9%	32.3%	34.0%	22.5%
心疾患	14.6%	5.8%	19.7%	32.4%	42.8%	28.1%
喘息	16.7%	8.8%	20.0%	33.3%	38.2%	33.3%
肺気腫	11.5%	3.7%	*	40.7%	55.6%	*
慢性気管支炎	22.5%	5.6%	30.0%	27.5%	44.4%	10.0%
糖尿病	14.7%	8.4%	18.6%	31.8%	33.8%	28.1%
肝疾患	9.8%	0.0%	14.3%	39.0%	55.6%	42.9%
腎疾患	10.3%	0.0%	14.7%	39.1%	42.4%	26.5%
悪性新生物 (がん)	13.6%	7.0%	21.9%	40.3%	33.3%	26.6%
パーキンソン 症候群・パー キンソン病	2.3%	6.6%	9.5%	48.8%	43.4%	31.7%
うつ病	13.2%	7.0%	25.5%	28.1%	39.4%	29.1%
認知症	8.7%	3.9%	14.1%	44.3%	55.8%	40.0%
統合失調症	16.7%	*	*	33.3%	*	*
その他	13.3%	6.6%	19.0%	32.3%	42.5%	30.0%

利用者数が10人を下回る原因は*を記載している。

- ・訪問看護利用者の病状について、「不安定」との回答は要支援1・2で約2割、要介護1・2では約3割となっている。
- ・要支援・要介護状態の直接の原因別（要支援1～要介護2）にみると、病状不安定の割合は「肺気腫」「腎疾患」「悪性新生物（がん）」などで割合がやや高いが、概ねどの傷病でも2～3割台で、個別的な要因が影響を与えていることがうかがわれる。

図表 7-15 要支援・要介護状態の直接の原因別 病状不安定の割合(要支援1～要介護2、訪問看護)

関節リウマチ	関節疾患	腰痛	骨折	高血圧	脳血管疾患	心疾患
27.3%	22.7%	20.6%	15.9%	24.2%	17.1%	25.7%

喘息	肺気腫	慢性気管支炎	糖尿病	肝疾患	腎疾患	悪性新生物(がん)
30.3%	32.7%	25.0%	29.4%	26.8%	39.1%	32.5%

パーキンソン症候群・パーキンソン病	うつ病	認知症	統合失調症	その他
23.3%	30.7%	29.0%	29.2%	25.6%

- ・過去1年間の入院等の有無についてみると、過去1年間に「医療機関に入院」している利用者の割合は、要支援1でも2割前後となっている。要介護度が上がるにつれて、その割合は上昇する傾向がみられる。

図表 7-16 サービス別 過去1年間の医療機関への入院の有無

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2
訪問看護	21.4%	26.0%	32.4%	33.0%
訪問リハ	27.3%	28.1%	33.0%	31.5%
通所リハ	15.5%	19.4%	17.4%	37.0%

- ・継続理由（要支援2）について、訪問看護では「医療機関との連絡調整が必要なため」や「その他」の回答が多く、「自力での通院が難しいため」（11.0％）は約1割にとどまっている。「その他」については「医療行為が必要」「認知症ではないが服薬管理が必要」「リハビリが必要」「状態観察・管理、悪化予防」「精神的な支援」などがあがっている。
- ・訪問リハと通所リハを要支援2で比較すると、訪問リハは「IADLの改善が必要なため」「拘縮予防など自己管理方法の習得が必要なため」、通所リハは「外出や他者との交流のため」「ADLの改善が必要なため」の割合が高くなっている。
- ・ただし、訪問リハと通所リハでは「日常品の買い物」「バスや電車を使って一人で外出」「食事の用意」を「している」（要支援1～要介護2）人に対して、「ADLの改善が必要なため」「IADLの改善が必要なため」「外出や他者との交流のため」が継続理由となっているケースが多くみられる。

図表 7-17 サービス別 主な継続理由（要支援2）

	訪問看護	訪問リハ	通所リハ
第1位	医療機関との連絡調整が必要なため(31.1%)	IADLの改善が必要なため(40.6%)	外出や他者との交流のため(63.0%)
第2位	病状不安定(23.7%)	拘縮予防などの自己管理方法の習得が必要なため(39.4%)	ADLの改善が必要なため(55.8%)
第3位	定期的な検査測定が必要なため(22.3%)	ADLの改善が必要なため(39.0%)	IADLの改善が必要なため(26.3%)
第4位	医療機器等を管理するため(12.4%)	外出や他者との交流のため(21.6%)	拘縮予防などの自己管理方法の習得が必要なため(23.6%)
第5位	利用者自身が他の事業所を利用したがないため(11.7%)	本人がリハビリテーションを終了したがないため(14.7%)	家族の介護負担軽減のため(11.3%)
(参考)	その他(35.1%)	その他(13.3%)	その他(7.5%)

図表 7-18 IADLの状況別 主な継続理由の割合（要支援1～要介護2）

	訪問リハ			通所リハ		
	ADLの改善が必要なため	IADLの改善が必要なため	外出や他者との交流のため	ADLの改善が必要なため	IADLの改善が必要なため	外出や他者との交流のため
日常品の買い物「している」	26.5%	41.8%	23.9%	41.5%	26.8%	68.5%
バスや電車を使って一人で外出「している」	23.4%	35.5%	27.7%	41.0%	24.7%	65.5%
食事の用意「している」	34.6%	44.7%	24.1%	46.8%	27.7%	69.8%

- ・看護サービスの提供状況について（要支援1～要介護2）、「療養上の世話」が約5割、「管理や医療処置を行う医療機器」が約2割、「医療処置の実施」が約7割となっている。
- ・療養上の世話について要支援2をみると、「入浴・シャワー浴介助」「清拭・足浴・手浴・洗髪」など清潔保持に関することがあがっており、「食事の援助」「排泄の援助」などは少ない。医療機器については、「在宅酸素（酸素供給装置）」と「人工膀胱・肛門」がみられ、その他の項目の回答はわずかである。実施した医療処置については、「モニター測定（血圧、心拍、酸素飽和度等）」「服薬管理・点眼等の実施」などがほとんどで、直接的な医療処置が行われている人は限られている。

図表 7-19 看護サービスの提供状況（管理や医療処置を行う医療機器、要支援2）

・在宅酸素（酸素供給装置）	（ 8.7%）
・人工膀胱・肛門	（ 6.8%）
・留置カテーテル	（ 2.0%）

2%以上の回答があった項目

図表 7-20 看護サービスの提供状況（実施した医療措置、要支援2）

・モニター測定（血圧、心拍、酸素飽和度等）	（47.8%）
・服薬管理・点眼等の実施	（38.9%）
・褥瘡以外の創傷部の処置	（ 6.1%）
・浣腸・摘便	（ 3.2%）
・注射の実施	（ 2.3%）

2%以上の回答があった項目

- ・リハビリが必要な心身の状態について（要支援1～要介護2）、「筋力・筋耐久性の低下」「疼痛」「関節の拘縮・変形」「運動まひ」の回答が多い。
- ・専門職によるリハビリについて、訪問看護は「看護師」「理学療法士」、通所リハ・訪問リハは「理学療法士」「作業療法士」の回答が多い。「言語聴覚士」による実施は3サービスともに数%にとどまっている。訪問看護（要支援2）においても約6割の人でリハビリテーションを行っている。

図表 7-21 サービス別 専門職によるリハビリの実施状況（要支援2）

	行っている	行っていない	無回答
訪問看護	62.7%	21.2%	16.1%
訪問リハ	100.0%	0.0%	0.0%
通所リハ	84.3%	12.9%	2.8%

- ・専門職によるリハビリテーションの内容をみると、理学療法士と作業療法士は「関節可動域訓練」「筋力増強訓練」「歩行訓練」などの回答が多く内容が類似している。

図表 7-22 サービス別 リハビリテーションの内容（訪問看護、要支援2）

	看護師	理学療法士	作業療法士
第1位	筋力増強訓練（53.5%）	筋力増強訓練（86.1%）	筋力増強訓練（75.5%）
第2位	関節可動域訓練（47.1%）	関節可動域訓練（79.4%）	関節可動域訓練（75.5%）
第3位	マッサージ（43.1%）	歩行訓練（60.3%）	歩行訓練（66.0%）
第4位	歩行訓練（33.2%）	筋緊張緩和（59.8%）	筋緊張緩和（52.8%）
第5位	筋緊張緩和（27.4%）	起居移乗動作訓練（34.5%）	起居移乗動作訓練（37.7%） マッサージ（37.7%）

母数は、該当専門職によってリハビリテーションが行われている利用者

図表 7-23 サービス別 リハビリテーションの内容（訪問リハ、要支援2）

	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
第1位	筋力増強訓練（91.7%）	筋力増強訓練（89.1%）	言語訓練（80.0%）
第2位	関節可動域訓練（85.7%）	関節可動域訓練（82.2%）	呼吸ケア・肺理学療法 （20.0%）
第3位	歩行訓練（80.3%）	歩行訓練（70.6%）	摂食・嚥下訓練（15.0%）
第4位	筋緊張緩和（62.6%）	筋緊張緩和（64.0%）	—
第5位	A D L 訓練（38.8%）	外出訓練（34.7%）	—

母数は、該当専門職によってリハビリテーションが行われている利用者

言語聴覚士は10%以上の内容は3項目のみ

図表 7-24 サービス別 リハビリテーションの内容（通所リハ、要支援2）

	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士
第1位	筋力増強訓練（87.5%）	筋力増強訓練（76.9%）	言語訓練（57.1%）
第2位	関節可動域訓練（72.1%）	関節可動域訓練（58.6%）	筋力増強訓練（23.8%）
第3位	歩行訓練（64.7%）	歩行訓練（56.8%）	摂食・嚥下訓練（19.0%）
第4位	筋緊張緩和（40.9%）	筋緊張緩和（34.9%）	筋緊張緩和（19.0%）
第5位	マッサージ（30.0%）	A D L 訓練（26.6%）	リンパマッサージ（14.3%）

母数は、該当専門職によってリハビリテーションが行われている利用者

言語聴覚士は10%以上の内容は3項目のみ

(3) IADLの状況

- ・要支援2では『バスや電車を使って一人で外出』について「できる人」（している+できるがしていない）が訪問看護で4割強、訪問リハで3割強、通所リハで5割弱、『病人を見舞う』で「できる人」が訪問看護・訪問リハで5割強、通所リハで約6割と、IADLについて、大きな問題を抱えていない人がかなり存在することがうかがえる。一方で、要支援2でも『日用品の買物』について「できない」が訪問看護で約3分の1、訪問リハで約4割、通所リハで約2割、『年金などの書類が書ける』が「できない」が3サービスともに2割弱となるなど、人によりIADLが大きく異なる状況がうかがわれる。要支援・要介護状態の直接の原因別（要支援1～要介護2）でみると、認知症で「できない」の割合が高い。また、『バスや電車を使って一人で外出』については、慢性気管支炎などの呼吸器系や骨折で「できない」の割合がやや高い。

図表 7-25 サービス別 IADLの状況（バスや電車を使って一人で外出、要支援2）

	している	できるがしていない	できない	わからない	無回答
訪問看護	28.2%	14.8%	54.0%	2.4%	0.6%
訪問リハ	13.2%	18.0%	67.1%	1.3%	0.3%
通所リハ	24.8%	21.6%	48.9%	4.6%	0.2%

図表 7-26 サービス別 IADLの状況（病人を見舞う、要支援2）

	している	できるがしていない	できない	わからない	無回答
訪問看護	23.3%	29.0%	32.9%	14.5%	0.3%
訪問リハ	25.2%	29.9%	32.7%	11.9%	0.2%
通所リハ	34.5%	25.3%	23.6%	16.0%	0.6%

図表 7-27 サービス別 IADLの状況（日用品の買物、要支援2）

	している	できるがしていない	できない	わからない	無回答
訪問看護	42.6%	19.9%	34.7%	1.8%	1.0%
訪問リハ	35.1%	24.6%	38.6%	1.3%	0.4%
通所リハ	49.1%	26.5%	22.0%	2.0%	0.4%

図表 7-28 サービス別 IADLの状況（年金などの書類が書ける、要支援2）

	している	できるがしていない	できない	わからない	無回答
訪問看護	53.2%	17.1%	17.2%	12.2%	0.3%
訪問リハ	54.5%	16.6%	15.7%	13.1%	0.1%
通所リハ	53.9%	12.5%	18.0%	15.2%	0.4%

図表 7-29 要支援・要介護状態の直接の原因別 IADL の状況（要支援1～要介護2）

	バスや電車を使って一人で外出（できない）			年金などの書類が書ける（できない）		
	訪問看護	訪問リハ	通所リハ	訪問看護	訪問リハ	通所リハ
関節リウマチ	63.6%	67.5%	40.0%	27.3%	18.2%	9.1%
関節疾患	58.2%	67.4%	39.1%	20.5%	16.9%	11.0%
腰痛	56.9%	69.5%	43.4%	20.6%	18.7%	15.7%
骨折	68.3%	73.7%	43.3%	24.6%	21.2%	13.9%
高血圧	56.5%	67.0%	42.1%	22.0%	20.5%	16.7%
脳血管疾患	58.2%	62.6%	38.0%	25.9%	21.8%	18.8%
心疾患	54.8%	77.9%	47.3%	23.3%	22.6%	19.2%
喘息	51.5%	61.8%	53.3%	21.2%	17.6%	13.3%
肺気腫	63.7%	81.5%	*	15.0%	11.1%	*
慢性気管支炎	70.0%	77.8%	30.0%	25.0%	44.4%	10.0%
糖尿病	51.0%	64.9%	43.4%	25.2%	25.3%	14.9%
肝疾患	51.2%	44.4%	42.9%	14.6%	5.6%	14.3%
腎疾患	58.6%	77.3%	41.2%	24.1%	16.7%	17.6%
悪性新生物（がん）	44.0%	66.7%	34.4%	18.8%	21.1%	14.1%
パーキンソン症候群・パーキンソン病	51.2%	72.1%	50.8%	25.6%	16.2%	12.7%
うつ病	51.8%	70.4%	38.2%	25.4%	32.4%	16.4%
認知症	64.5%	87.0%	65.9%	48.1%	63.6%	51.8%
統合失調症	29.2%	*	*	37.5%	*	*
その他	56.2%	70.3%	40.5%	20.5%	18.3%	14.0%

利用者数が10人を下回る原因は*を記載している。

3 要支援者及び軽度要介護の状態に関する検証

2 でみた要支援者及び軽度要介護者の心身の状態像について、要介護認定情報で判別等ができるかを検証する。

- ・ 要支援・要介護状態の直接の原因について、要介護認定情報では主治医意見書の傷病に関する意見で把握できる。ただし、診断名の記載は自由記載になっており、特に体系的な整理に基づいた記載が求められていないことから、1,690 人の対象者に 1,386 種類の診断名が記載されるなど、非常に多様である。また、類似した診断名でも日常生活自立度、要介護度などが異なっており、診断名のみで状態を把握することは難しい。
- ・ 医療系サービス別にみると、訪問看護では「悪性新生物」「内分泌、栄養および代謝疾患（糖尿病）」が他と比べて多く、訪問リハでは「循環器系の疾患（脳血管性疾患）」「筋骨格系および結合組織の疾患（関節障害）」「損傷、中毒およびその他の外因の影響（骨折）」の割合が他と比べて高い傾向などはアンケート調査と同様である。
- ・ 障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度は要介護認定情報で把握ができる。要支援者 1・2 では日常生活でほぼ自立している人が多い中、一部ではあるが重篤な状態の人もみられる。認知症については、基本調査項目、心身の状態に関する意見で詳細に把握できるが、認知症は要介護 1 以上の人が多いことから、要支援 1・2 の医療系サービスでは該当者が限られる。
- ・ アンケート調査における訪問看護による管理や医療処置を行う医療機器、要介護認定情報における特別な医療の項目をみると、双方で肺気腫・慢性気管支炎など呼吸系の疾患に対する「酸素療法」、悪性新生物や骨折・関節疾患に対する「疼痛の看護・管理」が行われていることが確認できた。アンケート調査では悪性新生物に対する「人工膀胱・人工肛門」の管理・医療処置、要介護認定情報においては腎不全など尿路性器系の疾患に対する「透析」などが行われている傾向がみられた。
- ・ 症状としての安定性について「不安定」の回答率は、アンケート調査、要介護認定情報ともに、診断名というより、個別の状況の影響が大きいものとみられる。
- ・ 医療系サービスの利用者は、利用していない人と比べて、第 1 群では肩関節の拘縮（有無）、その他の麻痺・拘縮（有無）、洗身（介助の方法）、つめ切り（介助の方法）、第 2 群では上衣の着脱（介助の方法）、第 5 群では薬の内服（介助の方法）で、特徴がみられる。
- ・ 次の情報については、アンケート調査で把握できたが、要介護認定情報においては把握が難しい。

※入院、訪問診療、世帯の状況は概況調査の自由記述に委ねられている。

※医療系サービスの必要な理由、サービスの利用期間、リハビリテーションの状況など、看護やリハビリに関する内容は項目がない。ただし、リハビリテーションが必要な心身の状況については、身体の状態などからある程度類推できるが、筋骨格系や皮膚疾患関連に項目が限定されているため、例えば呼吸器系の疾患などへのリハビリは、特記すべき事項など、自由記載部分に委ねられている。

※IADLについて、基本調査の 5 群で金銭の管理、買い物、簡単な調理など一部があるが、介助の方法の項目であり、能力や状態は十分に把握できない。

平成24年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

要支援者・要介護者のIADL等に関する状態像と
サービス利用内容に関する調査研究事業
報告書

平成25（2013）年3月

発行 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
住所 〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2
電話 03-6733-1021
FAX 03-6733-1028